

金武青木

— 金武西地区基盤整備促進事業関係調査報告 —

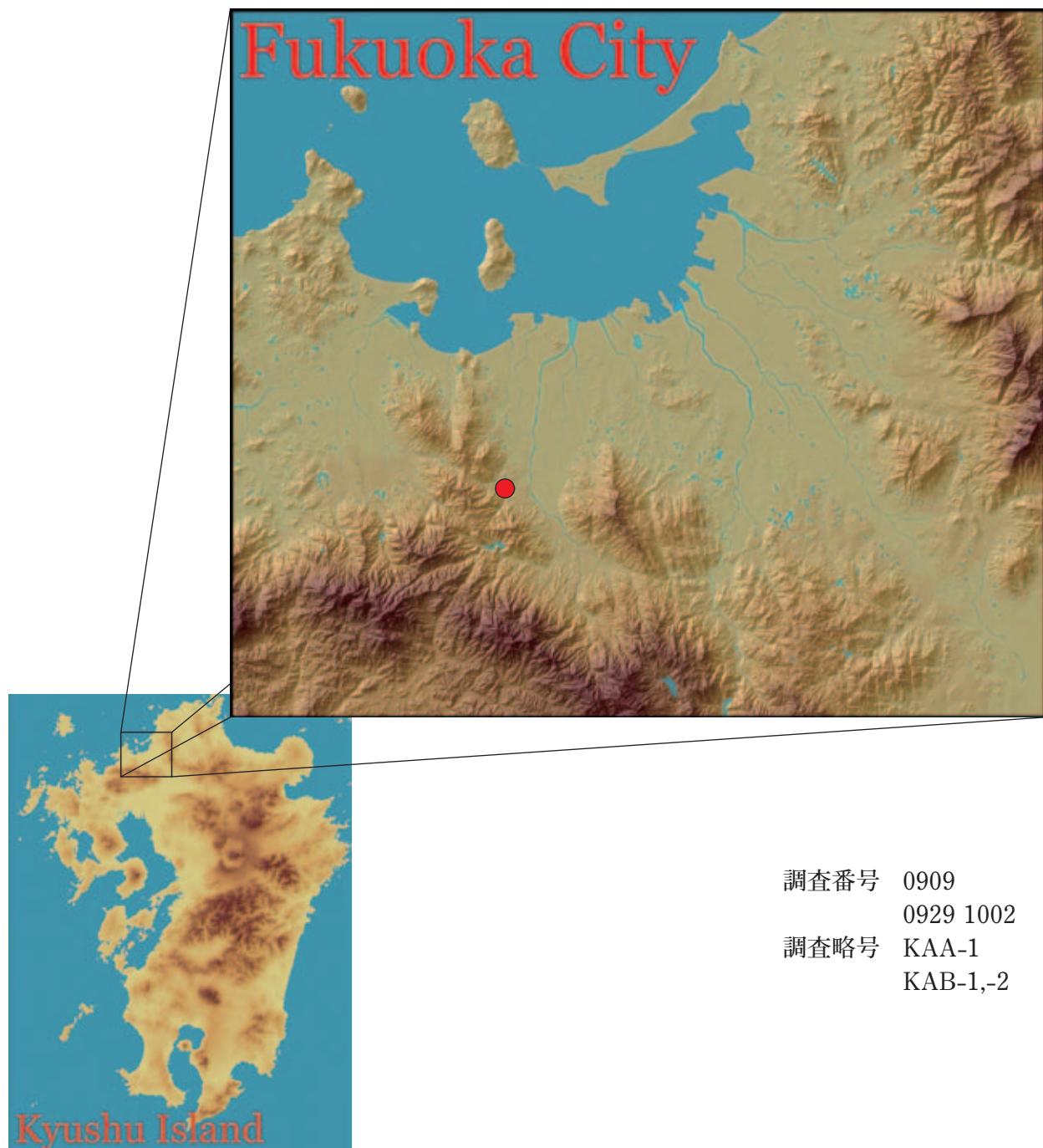
金武青木A遺跡 第1次調査

金武青木B遺跡 第1・2次調査

2012

福岡市教育委員会

Kanatake Aoki
金 武 青 木



2012

福岡市教育委員会

金武青木 A 遺跡 B 区全景



金武青木 A 遺跡出土木簡 1：原寸大



□ □ 別六
□ □ 怡士城擬大領
□ □ 〔令力〕
□ □ 專當其事
□ □ 案
□ □ 主
□ □ 力
□ □ 解
□ □ 力
□ □

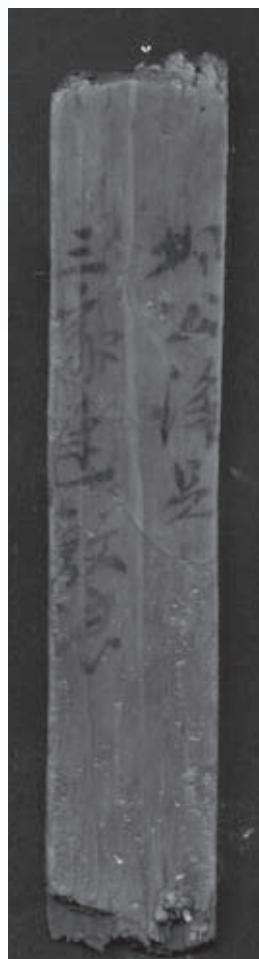


W001

金武青木 A 遺跡出土木簡 2：原寸大



W002



三□
公家
連淨
敷足
浪

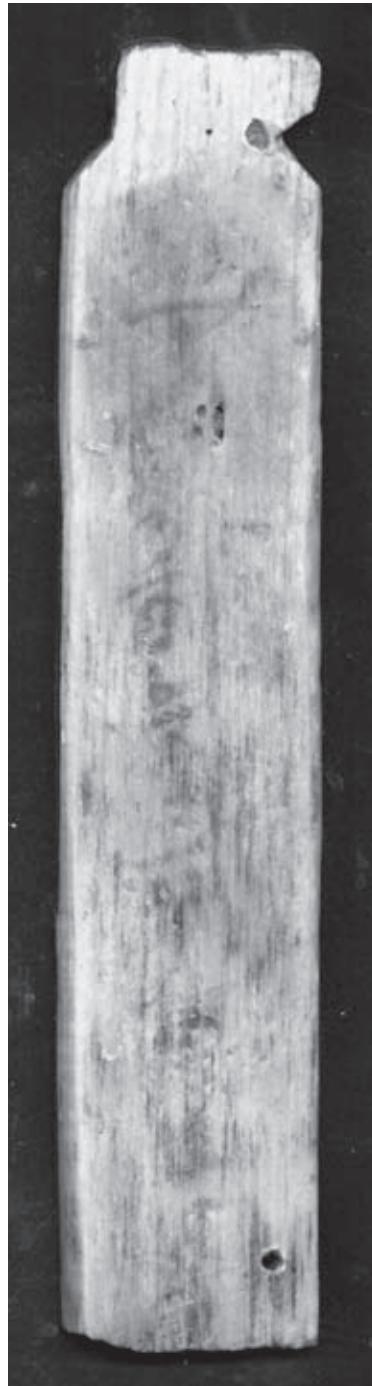


志麻
郡



W003

金武青木 A 遺跡出土木簡 3：原寸大



「
物カ
マ_{〔家カ〕}
□
□
三斗」

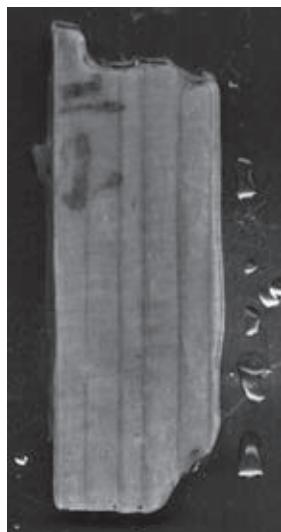
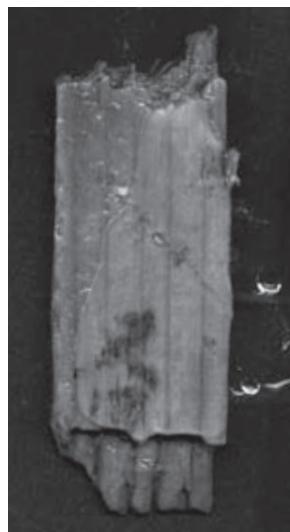
○
部
月七日
○

W004



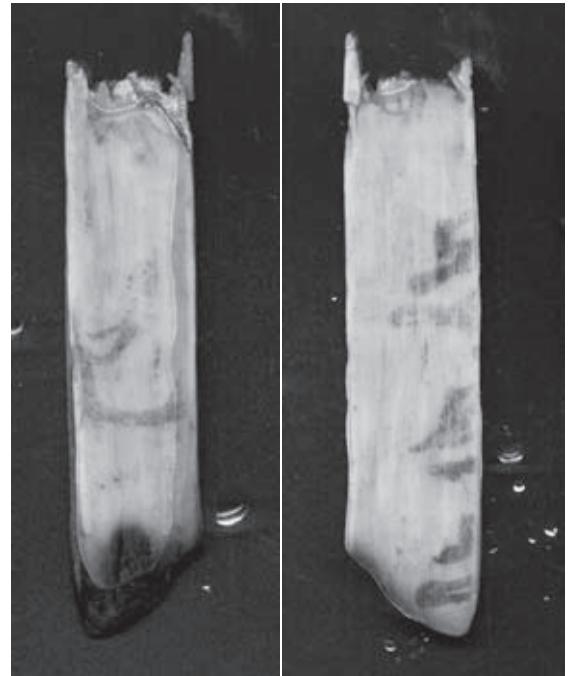
W005

金武青木 A 遺跡出土木簡 4：原寸大



又□
二小

〔足
足
足
カ〕



W006



〔延
歷
十
年
四
九〕

W009



W007

金武青木 A 遺跡出土木簡 5 : 原寸大



W008

序

福岡市は、豊かな自然環境と地理的条件に恵まれ、古くから大陸の先進文化を受け入れる窓口として栄えてきました。市内には、最古の稻作の村である板付遺跡、古代の迎賓館である鴻臚館、貿易都市博多などをはじめとする貴重な文化財が残されています。福岡市教育委員会では、開発工事に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録による保存を行ない、その保護に努めています。

本書で報告する金武地区周辺では、これまでに弥生時代から中世にかけての集落跡などが調査されており、当時の生活用具である土器や石器など多くの遺物が出土しています。

今回報告する金武西地区基盤整備事業に伴う調査では、さらに古代の木簡が発掘され、この地域の歴史を解明する上でたいへん貴重な文字資料の発見となりました。

本書の刊行が、市民の皆様の埋蔵文化財に対するご理解を深める一助となりますとともに、学術研究の分野でも役立つもの信じております。

最後になりましたが、遺跡の発掘調査に際し、ご理解と多大なご協力をいただいた地元住民の方々をはじめ、事業関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成24年3月16日

福岡市教育委員会

教育長 酒井 龍彦

例 言

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が2009・2010（平成21・22）年度に福岡市西区金武地内において金武西地区基盤整備促進事業に伴い行った埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- (2) 発掘調査は福岡市教育委員会が行い、調査担当者は加藤隆也である。
- (3) 遺構実測は上野道郎、宮原邦江、加藤が行い、個別遺構の写真撮影は加藤が行った。空中写真撮影と空中写真測量業務は、(有)空中写真企画と写測エンジニアリング株に委託した。
- (4) 出土遺物の実測は西堂将夫、加藤が行い、写真撮影は加藤、製図は加集和子が行った。本書の執筆、編集は加藤が行ない、縄文時代遺物の項は山崎純男が執筆・製図を行った。
- (5) 今回の調査・報告に係る座標は、基盤整備促進事業に伴い設置された基準点（世界測地系）を使用しており、図中に使用した方位は国土座標の座標北である。真北から $0^{\circ} 19'$ 西偏している。
- (6) 出土木製品の樹種同定など自然科学分析調査は、パリノ・サーヴェイ株式会社が行った。GIS画像は宗 達郎氏のデータを使用している。出土木簡の釈読においては、九州大学坂上康俊氏をはじめ木簡研究会の各位にご指導をいただいた。
- (7) 遺構の呼称は略号化し、竪穴住居—SC、掘立柱建物—SB、土坑—SK、溝—SD、柱穴—SP、炉跡—SRとした。
- (8) 今回の調査に伴う出土資料および記録類は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、利用に供する予定である。

遺 跡 名	金武青木A 金武青木B	事前審査番号	19-1-37
調 査 番 号	0909 0929 1002	調 査 略 号	KAA-1 KAB-1 KAB-2
地 番	福岡市西区金武地内	分布地図番号	94 (金武)
申 請 地 面 積	7.1ha(工事対象面積)	調 査 面 積	6,146 m ²
調 査 期 間	平成 21 年 6 月 1 日～平成 22 年 7 月 16 日		

本文目次

第Ⅰ章 はじめに		
1. 調査に至る経緯	1	
2. 調査の組織	1	
第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境	2	
第Ⅲ章 調査の記録	5	
1. 金武青木A遺跡第1次調査		
1 調査の概要	5	
2 遺構と遺物（A区）	5	
3 遺構と遺物（B区）	9	
2. 金武青木B遺跡第1次・第2次調査		
1 調査の概要	61	
2 遺構と遺物	61	
3 繩文時代遺物	65	
3. まとめ	83	
第Ⅳ章 出土遺物の科学分析		
1. 金武青木遺跡出土木製品の樹種	パリノ・サーヴェイ株式会社	87
2. 金武青木遺跡の自然科学分析調査	パリノ・サーヴェイ株式会社	96

挿図目次

Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	3
Fig. 2 金武青木遺跡位置図 (1/6,000)	4
Fig. 3 調査地点位置配置図 (1/2,000)	折り込み
Fig. 4 金武青木 A 遺跡 A 区 遺構配置図 (1/200)	6
Fig. 5 SB-01, SK-01 遺構実測図 (1/60, 1/40)、出土遺物実測図 (1/3)	7
Fig. 6 A 区出土遺物実測図 (1/3, 1/1)	8
Fig. 7 金武青木 A 遺跡 B 区 遺構配置図 (1/300)	折り込み
Fig. 8 竪穴住居(SC)-01 遺構実測図 (1/40)	11
Fig. 9 掘立柱建物(SB)-01 遺構実測図 (1/80)	12
Fig. 10 SB-02, 03 遺構実測図 (1/60)	13
Fig. 11 SB-04, 05, 06 遺構実測図 (1/60)	14
Fig. 12 SB-07, 08, 09 遺構実測図 (1/80)	15
Fig. 13 掘立柱建物(SB)出土遺物実測図 (1/3)	16
Fig. 14 土坑(SK)-01, 02、炉跡(SR)断面実測図 (1/40)	18
Fig. 15 柱穴(SP)、土坑(SK)出土遺物実測図 (1/3)	19
Fig. 16 溝井状遺構実測図 (1/80)、出土遺物実測図 (1/3)	20
Fig. 17, 18 北谷部出土遺物実測図 (1/3)	23, 24

Fig.19, 20 北谷部溜まり出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	25, 26
Fig.21 南谷部ベルト土層断面図 (1/80)	27
Fig.22~24 南谷部出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	28~30
Fig.25~30 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/1, 1/3, 1/4)	31~36
Fig.31 南谷部(北側)下層, 最下層出土遺物実測図 (1/3)	37
Fig.32~34 南谷部(北側)最下層出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	38~40
Fig.35 南谷部ベルト、南谷部ベルト黒色土出土遺物実測図 (1/3)	41
Fig.36 南谷部ベルト黒色土出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	42
Fig.37~42 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	43~48
Fig.43 南谷部(南側)、谷内出土遺物実測図 (1/3)	49
Fig.44~52 谷内出土木製品実測図 (1/3, 1/4)	51~59
Fig.53 その他のB区出土遺物 (1/3)	60
Fig.54 金武青木B遺跡遺構配置図 (1/400)	62
Fig.55 土層断面遺物実測図 (1/80)	63
Fig.56 金武青木B遺跡出土遺構 (1/60)・遺物実測図 (1/3)	64
Fig.57 金武青木B遺跡出土縄文遺物実測図 (1/3)	65
Fig.58 元岡遺跡第20次調査S X 001出土木製品実測図 (1/3)	84
Fig.59 推定主要幹線道	86
 金武青木A遺跡出土遺物観察表	66~81
金武青木B遺跡出土遺物観察表	81
金武青木A遺跡出土木製品観察表	82

図版目次

卷頭図版	金武青木A遺跡B区全景	金武青木A遺跡出土木簡1
	金武青木A遺跡出土木簡2	金武青木A遺跡出土木簡3
	金武青木A遺跡出土木簡4	金武青木A遺跡出土木簡5

PL. 1~PL.22 調査写真

PL.23~PL.56 出土遺物写真

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査に至る経緯

平成19年7月23日、農林水産局農林部より金武西地区の農業基盤整備促進事業対象地7.1haにおける埋蔵文化財の事前審査についての依頼が提出された。申請地には、周知の埋蔵文化財包蔵地である金武青木A、B遺跡、黒塚古墳群C群が含まれていた。このことから、平成20年3月10日から26日にかけて一部対象地を除き試掘調査を行い、柱穴や土坑などの遺構を確認した。協議の結果、工事により影響を受ける遺跡範囲を対象に記録保存することとなり、金武青木A、B遺跡の一部に関して発掘調査を行った。

発掘調査は平成21年6月1日に金武青木A遺跡A区より開始し、木簡が出土したB区、そして金武青木B遺跡の一部を平成21年度に調査を行なった。翌平成22年4月当初から、残る金武青木B遺跡の調査対象範囲を第2次調査とし、発掘作業を行い、7月16日に調査対象範囲の発掘調査をすべて終了した。初年度調査の金武青木A遺跡B区では、多くの木製品とともに木簡が出土し、この貴重な文字資料とそれらが出土した遺跡を多くの人たちに見ていただくことを目的に、12月11日(金)に報道発表を行ない、13日(日)には現地にて遺跡説明会を開催した。小雨が降り足元の悪い中、地元住民の方々をはじめ多くの見学者にお集まりいただいた。

2. 調査の組織

調査の体制は以下のとおりである。

調査主体 福岡市教育委員会

調査時	教育長	山田 裕嗣
	文化財部埋蔵文化財第2課 課長	田中 壽夫
	埋蔵文化財課第2課 調査第1係長	杉山 富雄
	調査庶務	埋蔵文化財第1課管理係
事前協議	埋蔵文化財第1課 事前審査係長	吉留 秀敏
	事前審査係	星野 恵美
調査担当	埋蔵文化財第2課 調査第1係	加藤 隆也
整理時	教育長	酒井 龍彦
	文化財部埋蔵文化財第2課 課長	田中 壽夫
	埋蔵文化財課第2課 調査第2係長	菅波 正人
	調査庶務	埋蔵文化財第1課管理係

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

金武青木遺跡の位置する早良平野は、福岡市の南西部に広がり、東西6 km、奥行き8 kmの扇状地形を呈している。その中央部を室見川が北流して博多湾に至る。平野の東側には、油山から派生し野芥、飯倉に延びる低平な丘陵が連なり、西側は西山、飯盛山、叶岳、長垂に至る小山塊により糸島平野と隔てられている。この山塊の西側斜面を室見川の支流となる複数の小河川が小規模の谷地を多数形成しながら平野に向かって流れ、扇状地を樹枝状に侵食し、さらに広大な扇状地を形成している。室見川はこうした支流の水を集め、山塊裾部を浸食し、幾段かの段丘面を形成している。このような侵食谷と複合扇状地、そして段丘面という多様な地形が、人々の狩猟、採集、生産など生活の基盤を支える要因となり、後の更なる発展へと繋がっていったと考えられる。

早良平野の旧石器、縄文早期の遺跡は山麓部に点在しており、羽根戸原遺跡、吉武遺跡群などでナイフ形石器、細石器が確認されている。また、金武周辺の浦江遺跡、乙石遺跡、都地泉水遺跡などでも旧石器時代遺物が出土している。前期以降には洪積地の微高地上にまで生活圏が広がり、室見川対岸の四箇遺跡、重留遺跡、田村遺跡などでは規模の大きな集落が見られ、飯盛山麓でも吉武遺跡、浦江遺跡、城田遺跡で、貯蔵穴、ドングリピットや狩猟用の落とし穴などの遺構が確認されるようになる。晩期になると遺跡数は急増し、ほぼ平野全体に活動域が拡大する。重留遺跡、東入部遺跡、田村遺跡などで住居址、貯蔵穴、埋甕などが調査され、四箇遺跡、田村遺跡では大陸系磨製石器、木製農具未製品、矢板列などが見つかっている。

弥生時代になると遺跡は海岸部にまでひろがり、有田遺跡には300×200 mの大規模な環濠集落が出現する。そしてこの頃から、博多湾周辺が「港湾都市」としての地理的優位性をより發揮しはじめる。前期後半からは、内陸平野部にも集落が展開し始める。吉武遺跡群内では、高木遺跡の玉、青銅武器、鏡を有する首長墓、大石遺跡では、副葬遺物の内容から階層差が見出せる墓地などが発見されている。これらを形成した集団を核に、都地遺跡、東入部遺跡、浦江遺跡、黒塔甕棺遺跡、長峰遺跡などでは甕棺墓群が形成され各小地域のまとまりが明らかになりつつある。また、昨年には平野最奥部に位置する岸田遺跡から金属製武器類を副葬する甕棺墓地が発見された。可耕地が少ない扇状地最深部では、他地域との交流、交易など交通拠点を掌握する集団の存在が示唆され、その発見された意義は大きい。

古墳時代には沖積地の水田開発が飛躍的に進み、その生産基盤を背景に平野部や丘陵地帯に、前方後円墳や多くの群集墳が造営されるようになる。前期には後漢鏡、三角縁鏡などを副葬する墳丘墓が海岸部を中心に小地域単位で分布し、その後は平野部に存する墳長70 mの拝塚古墳、吉武の帆立貝形樋渡古墳や方墳の古墳群、そして定型化した前方後円墳の梅林古墳などが築造されている。後期以降には、早良平野を巡る丘陵上に羽根戸古墳群や金武古墳群など700基を越える群集墳が形成される。その内、金武古墳群吉武L群、金武4号墳からは新羅土器が出土し、群集墳への鉄滓供献例が著しく見られる。このことから、早良平野の発展には半島系移住者の存在が大きく関与しており、先進技術である鉄生産が生業の大きな基盤となっていたことがうかがえる。

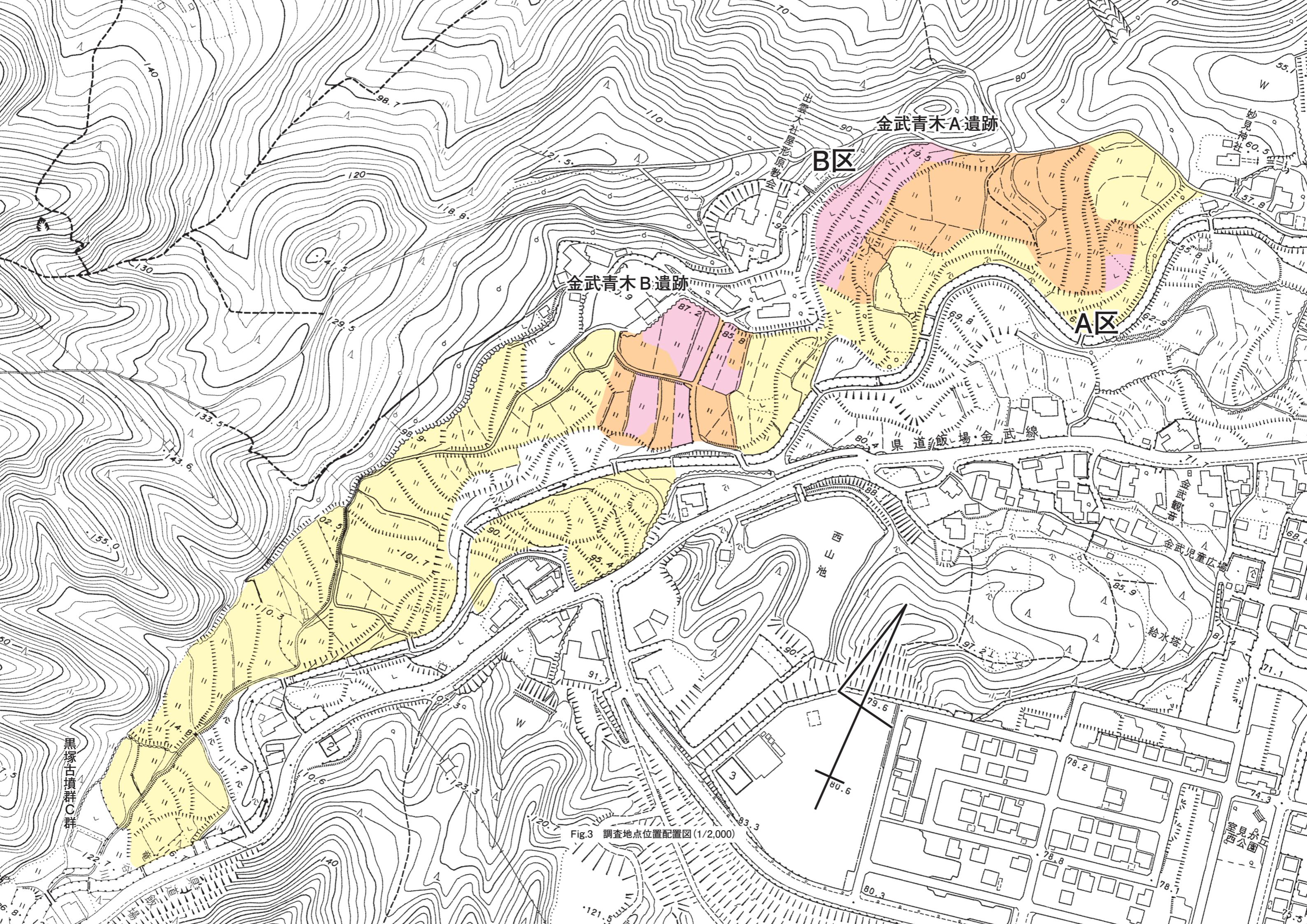
7世紀～律令期にかけては、海岸部では有田遺跡を中心に大型掘立柱建物が検出され、第189次調査では大型建物が整然と配置された正殿跡が確認されており、早良郡衙と考えられている。古代官道も、西の糸島平野から広石の峠を越え、有田を通って鴻臚館へ至るルートである。金武周辺地域では、古墳時代以降も引き続き鉄生産が続けられており、半島系遺物の出土に加え、都地遺跡の官衙的配置の建物、城田遺跡の大型建物群や硯、銅鏡等の特殊な遺物の出土から、郡衙に準ずる施設の存在が明らかになりつつある。



Fig. 1 周辺遺跡分布図(1/25,000)



Fig.2 金武青木遺跡位置図(1/6,000)



第Ⅲ章 調査の記録

1. 金武青木A遺跡第1次調査

1 調査の概要

平成19年7月23日に、農林水産局農林部より当該地7.1haにおける埋蔵文化財の事前審査についての依頼が提出された。申請地には、周知の埋蔵文化財包蔵地である金武青木A・B遺跡、黒塚古墳群C群が含まれていた。このことから平成20年3月10日から26日にかけて一部を除き試掘調査を行い、柱穴などの遺構を確認した。金武青木A遺跡の発掘調査は、造成工事の切り盛り計画高と遺構面の遺存高の関係で、調査区を東側のA区と西側のB区の二つに分けて行なうことになった。

A区は、工事対象域の東端に位置しており、地山は黄褐色砂質土に巨大な礫を含む土である。調査を行なった面積は402m²であり、地山が一段落ちた東側では遺構が確認されなかった。調査区西側においても遺構の残存は全体的に悪く、後世の水田面造成時に地山が削平されたものと考えられる。

平成21年6月1日よりA区の表土剥ぎ作業から着手した。

その後B区の調査に移り、12月13日に遺跡説明会を開催し、12月25日に終了した。

今回検出された遺構は、竪穴住居1軒、掘立柱建物4棟以上、溜井状遺構、炭焼窯、鍛冶炉、旧河道を利用した池状の遺構で、主にB区の山塊東南側斜面裾部に主体がある。掘立柱建物には、両面に庇を持つ大型の建物が見られる。主な遺物は池状を呈する谷内堆積層から出土し、多くの土器や木器と共に木簡が投げ込まれた状態で出土した。

2 遺構と遺物（A区）

掘立柱建物（SB）

この調査区では、30穴以上のピット状の遺構を検出し、8穴から遺物が出土している。この内、建物としての可能性を含めて復元できたのは以下の1軒のみである。

SB-01 (Fig.5、PL.3)

調査区南側、中央部にて検出された。確認された柱穴は4穴のみで、現地形が一段落ちる調査区北東側に展開すると考えられる。方位をN-43°-E（座標北）にとり、柱間は2.5~2.6mである。柱穴の平面プランは略円形であり、長軸約80~100cm、遺存する深さは約25~35cmである。SP-008の底面には、直径約15cmの柱を立てた痕跡と思われる凹みが残る。SP-006からは、土師器壊と土師器甕口縁片が出土しており、SP-008には、土師器小破片が出土している。建物の建造時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。

土坑（SK）

今回の調査では、遺構検出作業において一定の範囲で地山と異なるプランが確認された部分を土坑と呼称して掘削をおこなった。その中には不定型を呈し、人為的な遺構とは考えられない、ある時期の地表面の窪みのような性格のものも含まれた。この項では、炭化物が出土した焼土坑1基を取り上げる。

SK-01 (Fig.5、PL.1)

調査区南側やや西寄りにて検出した焼土坑である。遺構の平面形は、長軸1.3×短軸1.1mの楕円形

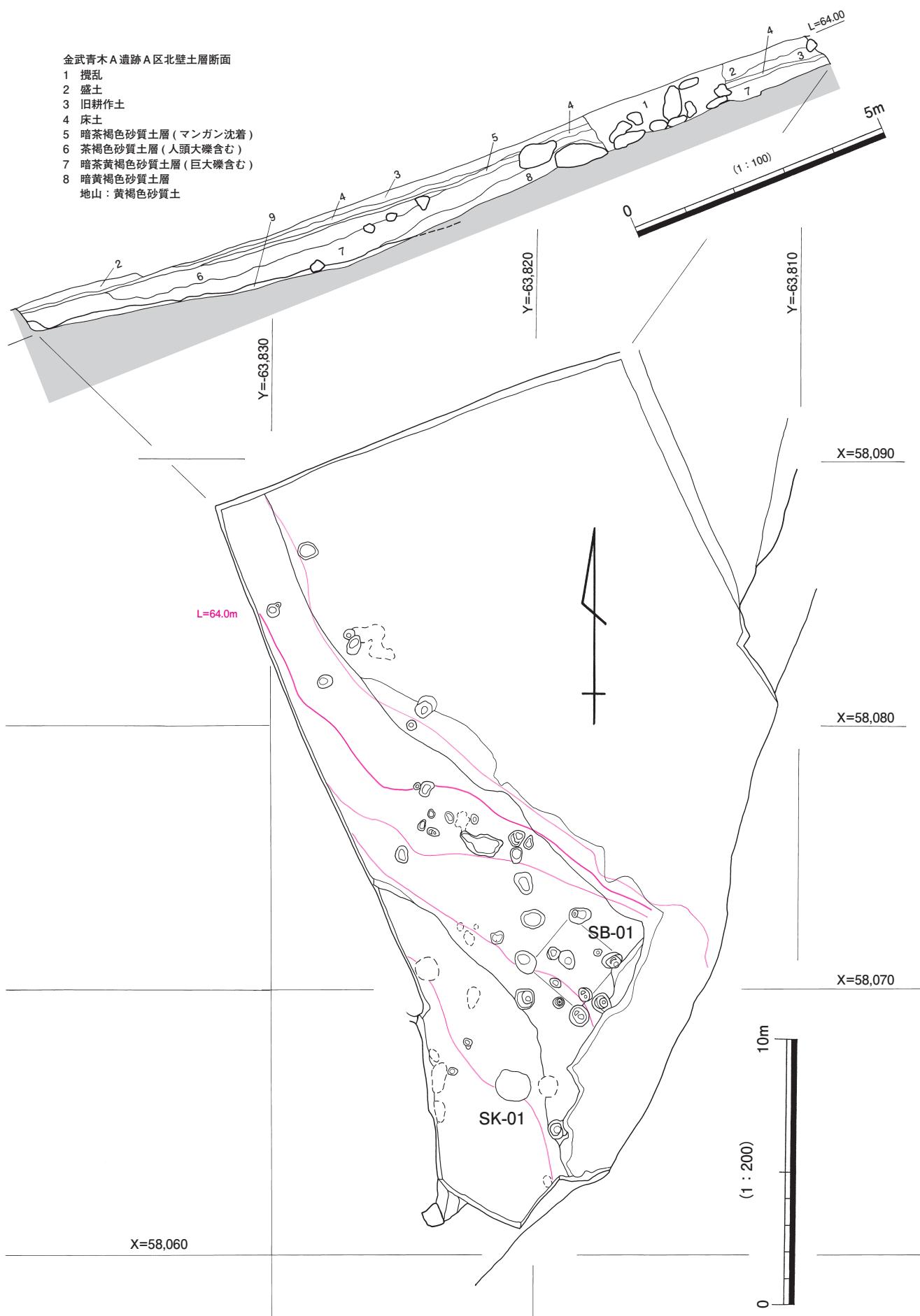


Fig.4 金武青木A遺跡A区遺構配置図(1/200)

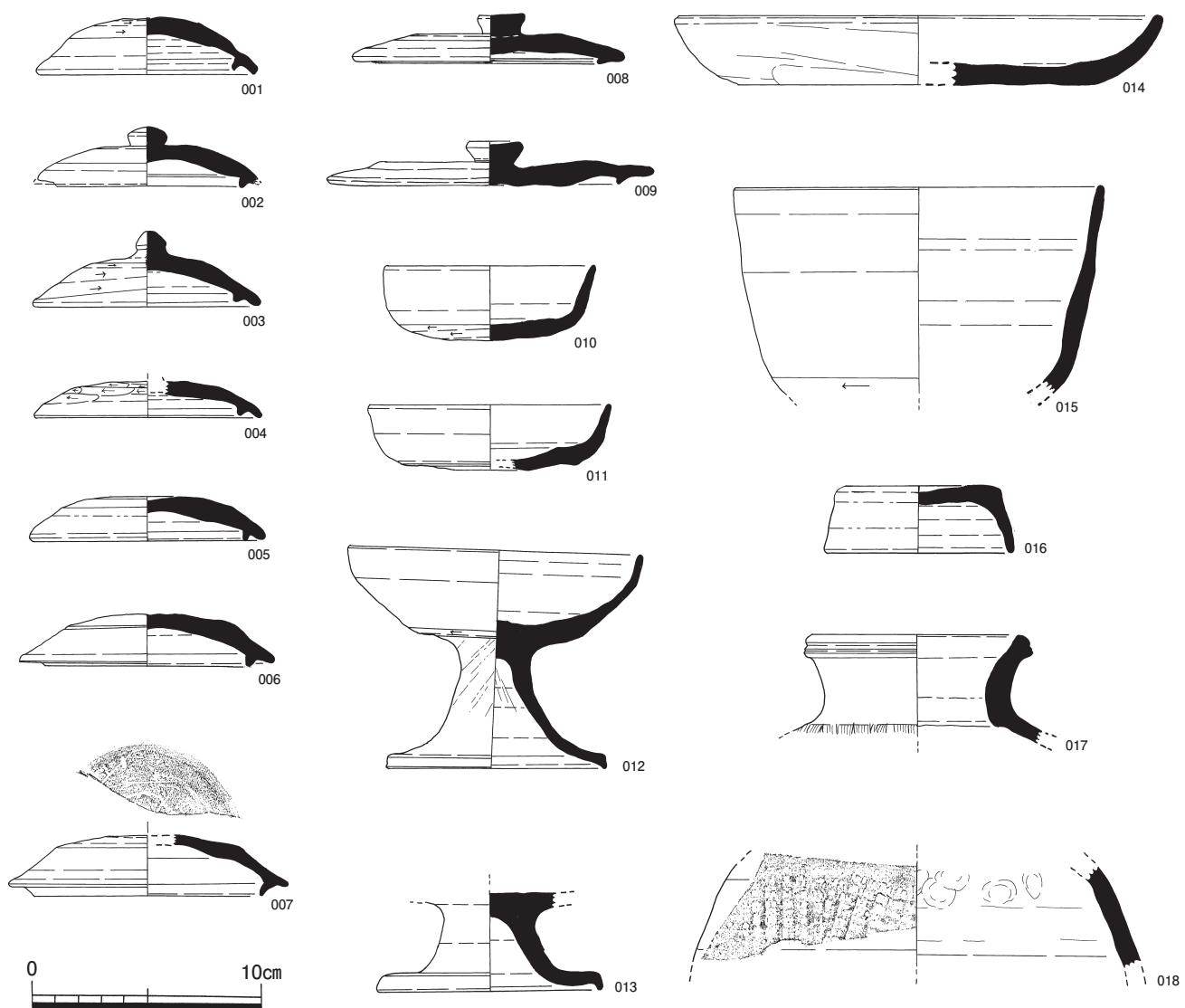
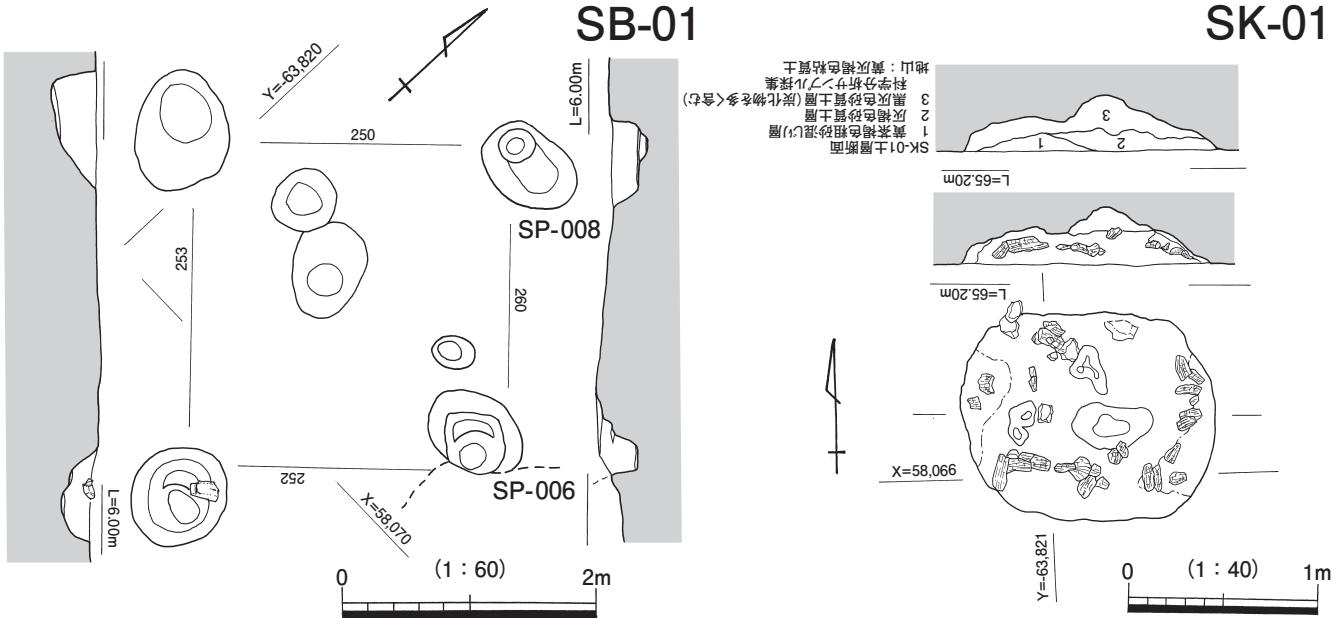


Fig.5 SB-01,SK-01遺構実測図(1/60,1/40)、出土遺物実測図(1/3)

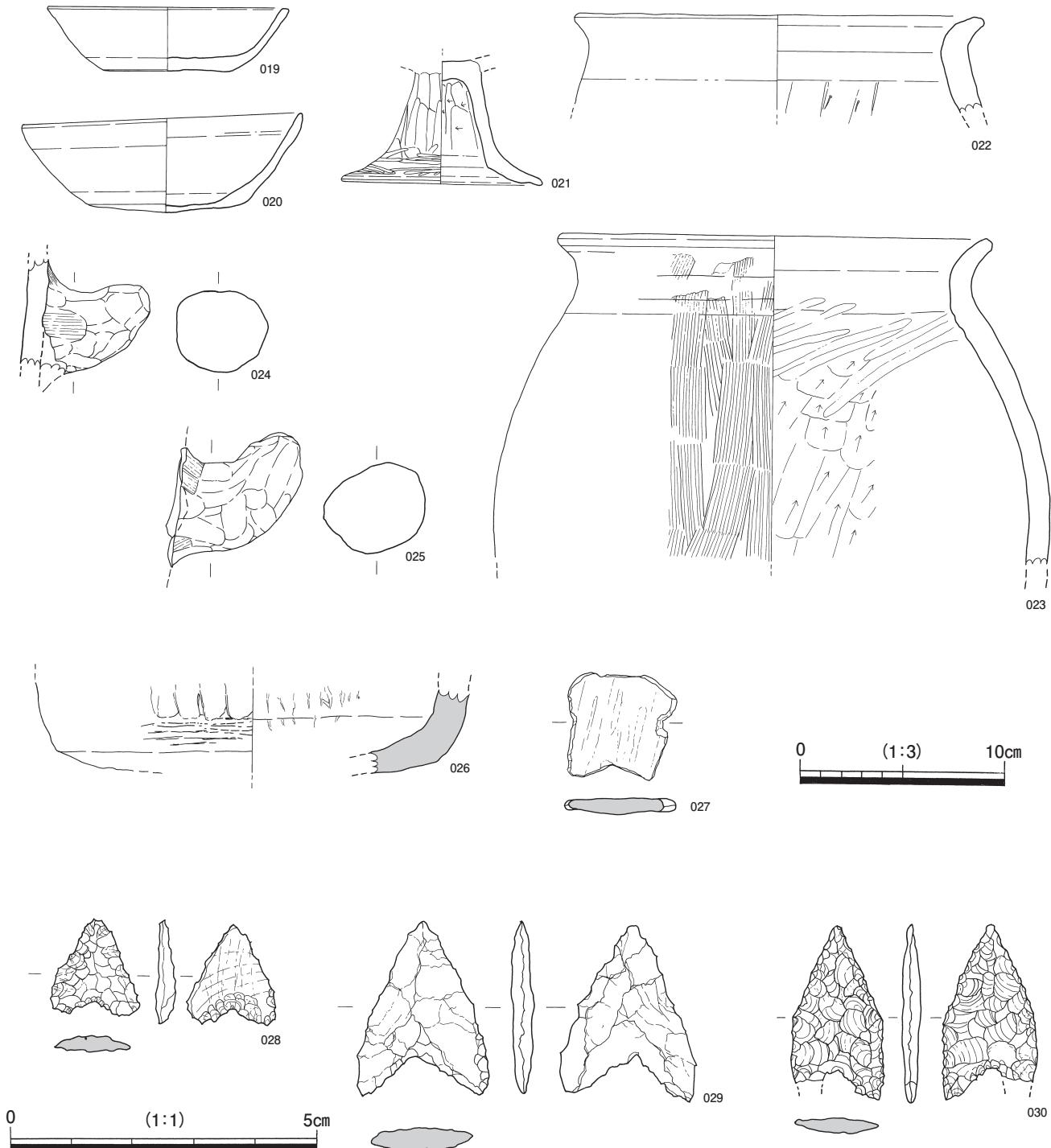


Fig.6 A区出土遺物実測図(1/3、1/1)

を呈する。残存深さは約20cm、底面は船底形で、中央部に深さ10cmのピット状の凹みがみられる。遺構底面には炭化材がみられることから、炭焼窯と考えられる。今回、炭化材の樹種同定を行い、常緑広葉樹のスダジイであることが明らかとなっている（111頁参照）。出土遺物は小破片の土師器他、小片のため図化し得なかった須恵器の壺蓋片が出土している。遺構の埋没時期は、出土遺物から8～9世紀初頭ごろと考えられる。

遺物包含層出土遺物

調査区東側の地山が一段落ちる部分には、厚さ10～30cmに堆積する遺物包含層がみられ、幾つかの遺物が出土している。検出された遺構数は少なく、またその出土遺物量も限られ、A区出土遺物の

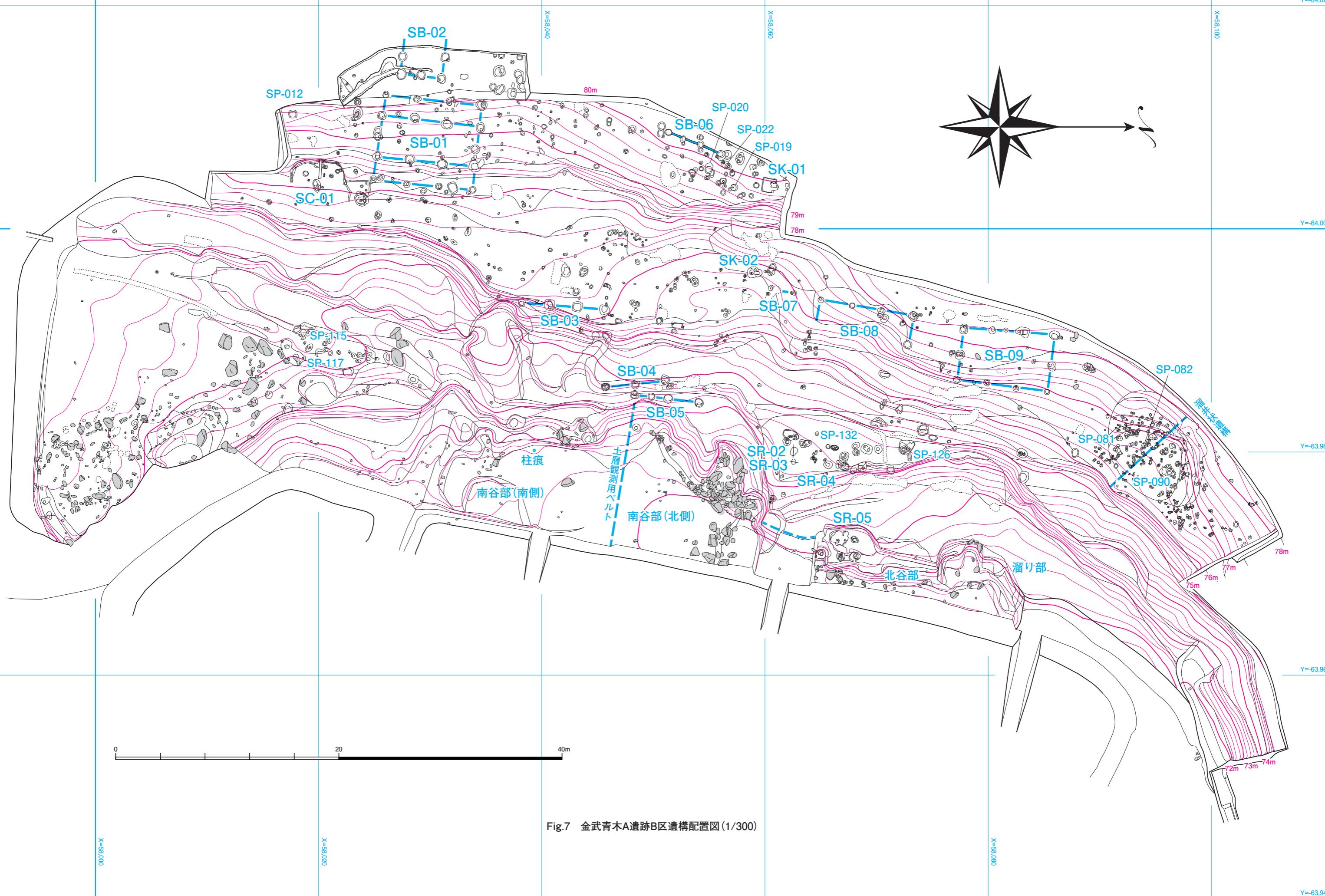


Fig.7 金武青木A遺跡B区遺構配置図(1/300)

大半は遺物包含層のものが占める。

出土遺物(Fig.5,6、PL.23,24) 001～009は須恵器坏蓋である。口径は9.6～14.1cmまであり、つまみのあるもの、無いもの、宝珠形のもの、ボタン状を呈するものがある。010,011は須恵器無高台坏である。口径は9.2,10.5cmとやや小型で、体部の立ち上がりは直線的である。012,013は須恵器高坏である。坏部は坏と同様に深い。014は須恵器皿、015は須恵器鉢、016は須恵器壺蓋、017,018は須恵器瓶、019,020は土師器の坏、復元口径は各11.8,13.6cm、021は脚径9.8cmの土師器高坏、022,023は復元口径20.0,21.2cmの甕、024,025は土師器甕または甕の把手。026は滑石製鍋、027は打ち欠きによる石錘、028,029,030は打製石鏃で、重さは各0.49,1.73,1.17gである。縄文時代遺物を含んでいるが、堆積の時代を示す最も新しい遺物群は7世紀代のものである。

3 遺構と遺物（B区）

竪穴住居（SC）

竪穴住居と考えられる遺構は、1基のみである。

SC-01 (Fig.8、PL.5)

調査区南側、西寄りにて検出された。確認された柱穴は2穴のみで、東側に展開すると考えられる。方位はN-6°-E（座標北）にとり柱間は芯々で約2.3mである。柱穴の平面プランは隅丸方形と考えられ、辺長約4.9m、遺存する床面までの深さは約46cmである。柱穴の直径は40～50cmで、その深さは30～40cmである。出土遺物では、宝珠つまみの付く須恵器小形坏蓋の破片が出土しており、山裾斜面の開発初期段階である7世紀後半から末ごろの竪穴住居と考えられる。多くとも数基からなる散漫な配置の建物の1棟と思われ、斜面の傾斜も著しいことから、恒常的な集落形態を構成していたとは考え難く、暫時的な使用を想像させる。

掘立柱建物（SB）

今回の調査では、250穴以上のピット状の遺構を検出し、約160穴を越えるピットから遺物が出土している。この内、建物として復元できたのは可能性を含めて以下の9軒である。

SB-01 (Fig.9、PL.5～9)

調査区南側、西端にて検出された。当初確認された柱穴は16穴で、調査区西側に展開すると考えられる。後に調査区の拡張を行い残り2穴を確認し、両側に庇が付く2間×3間の建物であることを確認した。その建物方位をN-8°-E（座標北）にとり、柱間は芯々で長軸側2.8～3.0m、短軸側1.7～2.1mである。柱穴の平面プランは略円形で、直径50～80cm、遺存する深さは35～80cmである。柱痕跡のあるものも見られ直径約20cmの柱が復元される。建物の東西方向の柱穴列の掘削底面レベルが谷側に向けて低くなっており、そのことから建物建設時も地盤は傾斜しており、大規模な造成などは行なわれず、約8度の傾斜地に建てられていたと考えられる。この仮定が正しければ、掛け造り風建物となり、谷側から建物を見た場合、水平な床と地面との間に約1mの柱が露出することになり、一見すれば高床の建物に見えたことになる。

出土遺物(Fig.13,PL.24) SP-001からは、器種不明の土師器片が出土。SP-002からは須恵器坏蓋031と土師器の甕小破片が出土。SP-003からは小破片であるため図化し得ないが、土師器坏口縁片が出土している。SP-004からは土師器の無高台坏、SP-005からは土師器甕、SP-006からも土師器甕の小破片が出土している。SP-008からは須恵器坏蓋片

032。SP-009の柱痕跡からは土師器の小破片が出土している。SP-013からは復元口径10.6cmの須恵器坏片033と土師器坏片が出土。SP-014の掘方では土師器坏片、土師器坏蓋片がみられる。SP-048からは土師器甕の小破片、SP-153からは器種不明の土師器小破片が出土している。SP-154からは復元口径16.2cmの須恵器坏蓋片034が出土している。柱穴の掘削時期は、出土遺物から8世紀代と考えられる。

SB-02 (Fig.10、PL.9)

調査区南側西端、SB-01の柱穴確認のためにあけた拡張区にて検出された。柱穴は5穴のみの確認で建物は調査区西側に展開すると考えられる。その方位をN-81°-W（座標北）にとる2間×3間の建物で、その設計方位はSB-01に直行配置させたものと考えられる。柱間は約1.5～2.0mである。柱穴の平面プランには略方形と楕円形を呈するものがあり、短軸約75～80cm、残存深さは30～75cmである。現在は、後世の造成工事により山の斜面を近く感じるが、当時はやや開けた緩斜面であったようである。 出土遺物 図化できる遺物は出土していないが、SP-155からは立ち上がりが直線的な須恵器坏口縁片、SP-156からは古墳時代終末期の高坏脚、SP-157からは土師器坏片などの小破片が出土している。柱穴の掘削時期は、須恵器坏口縁片から8世紀代と考えられる。

SB-03 (Fig.10、PL.10)

調査区のほぼ中央部にて検出された。方位をN-2°-E（座標北）にとる2間×3間分の建物である。確認された柱穴は平面プランが楕円形と略方形を呈する5穴のみで、南側に展開する可能性もある。柱間は芯々で2.4～2.6mである。平面プランは短軸60～80cmであり、遺存する深さは50～125cmである。段造成の端に位置しているが、東側斜面が急であることと、柱掘方の掘削レベルが深いことから、SB-01同様斜面に建てられたと考えられる。出土遺物(Fig.13、PL.24) SP-053からは、小破片で図化し得ないが須恵器甕体部片、土師器甕口縁片が出土している。SP-054からは土師器甕破片036,037が、SP-055からは須恵器の復元口径10.0cmの小形坏蓋破片035が、またそれ以外に、土師器坏口縁片が出土している。柱穴の掘削時期は、須恵器坏蓋片から8世紀代と考えられる。

SB-04 (Fig.11、PL.10)

調査区中央部東寄りにて確認された。方位をN-6°-W（座標北）にとる3穴のみ確認した建物柱列である。東の谷側へ展開すると考えられ、増水時は柱が水に浸かる掛造りの建物であった可能性を有している。柱間は芯々で2.6～2.8mである。柱穴の平面プランは略円形を呈しており、その規模は直径70～80cm、残存する深さは30～65cmである。 出土遺物(Fig.13、PL.24) SP-057から復元底部径21.2cmの土師器高坏脚部038が出土している。SP-058からは小片のため図化し得ないが黒色土器と思われる極小破片が出土しており、柱穴の掘削時期は8世紀後半以降と考えられる。

SB-05 (Fig.11、PL.10)

調査区中央部東寄りにて検出され、SB-04と重複しており、同じ掛造り建物の建替と考えられる。方位をN-11°-E（座標北）にとる建物の柱列である。柱穴は4穴が列をなすが柱間から2間分3穴が同一建物柱と考えられる。柱間は2.8～3.0mであり、柱穴の平面プランは略円形を呈しており直径65～80cm、残存する深さは約50～90cmである。 出土遺物(Fig.13、PL.24) SP-056から時期は不明だが土師器小片が出土している。遺構の時期は不明であるが、SB-04との柱穴規模の類似性と配置関

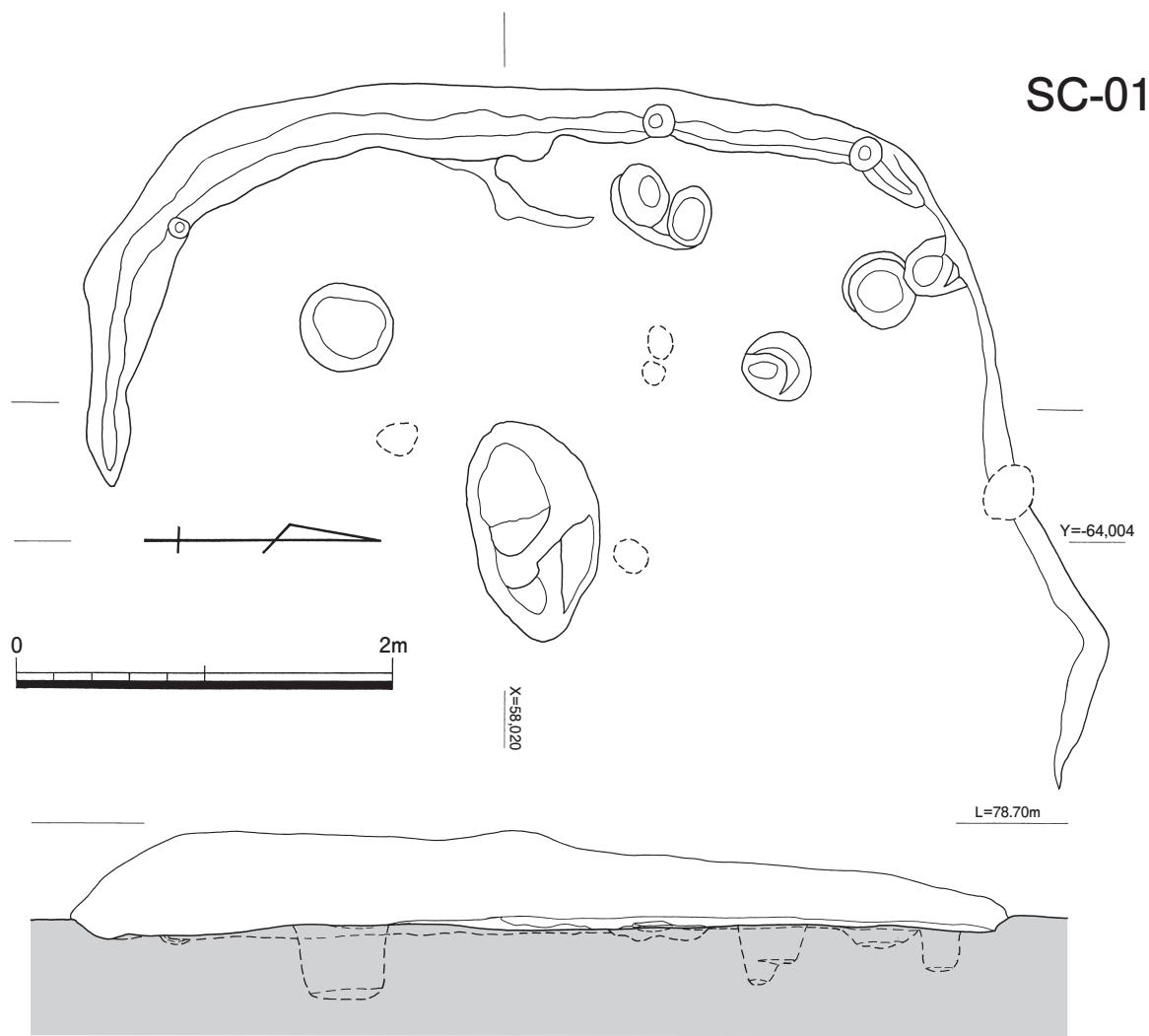


Fig.8 穫穴住居(SC)-01遺構実測図(1/40)

係から同一建物の建替えとも考えられる。

SB-06 (Fig.11、PL.11)

調査区中央部西端にて検出され、建物主体は調査区西側にあると考えられる。方位をN-23°-E（座標北）にとる4穴3間分の建物柱列である。柱間は約1.5~2.0mであり、柱穴の平面プランは略円形を呈し、直径50~80cm、残存する深さは30~55cmである。出土遺物(Fig.13、PL.24) SP-021の柱穴痕跡からは、口径13.5cmの土師器坏039、復元口径15.4cmの須恵器皿042や須恵器甕の体部破片が出土している。柱掘方からは、復元口径13.2cmの須恵器皿040、復元口径17.4cmの041が出土している。SP-031からは、須恵器の坏蓋、坏口縁小破片が出土している。SP-032からは器種不明の土師器片がみられる。SP-033からは、須恵器坏蓋と土師器の坏ないしは皿の底部片が出土している。建物の時期は、この柱穴の組合せが正しいかどうかは不明だが、SP-021の出土遺物より8世紀後半ごろが考えられる。

SB-07 (Fig.12)

調査区中央部やや北側にて検出され、建物主体は調査区東側に展開すると考えられる。SB-08、SB-09と柱列を同じくする2間×3間の規模を有する建物群の1軒と考える。方位をN-10°-E（座

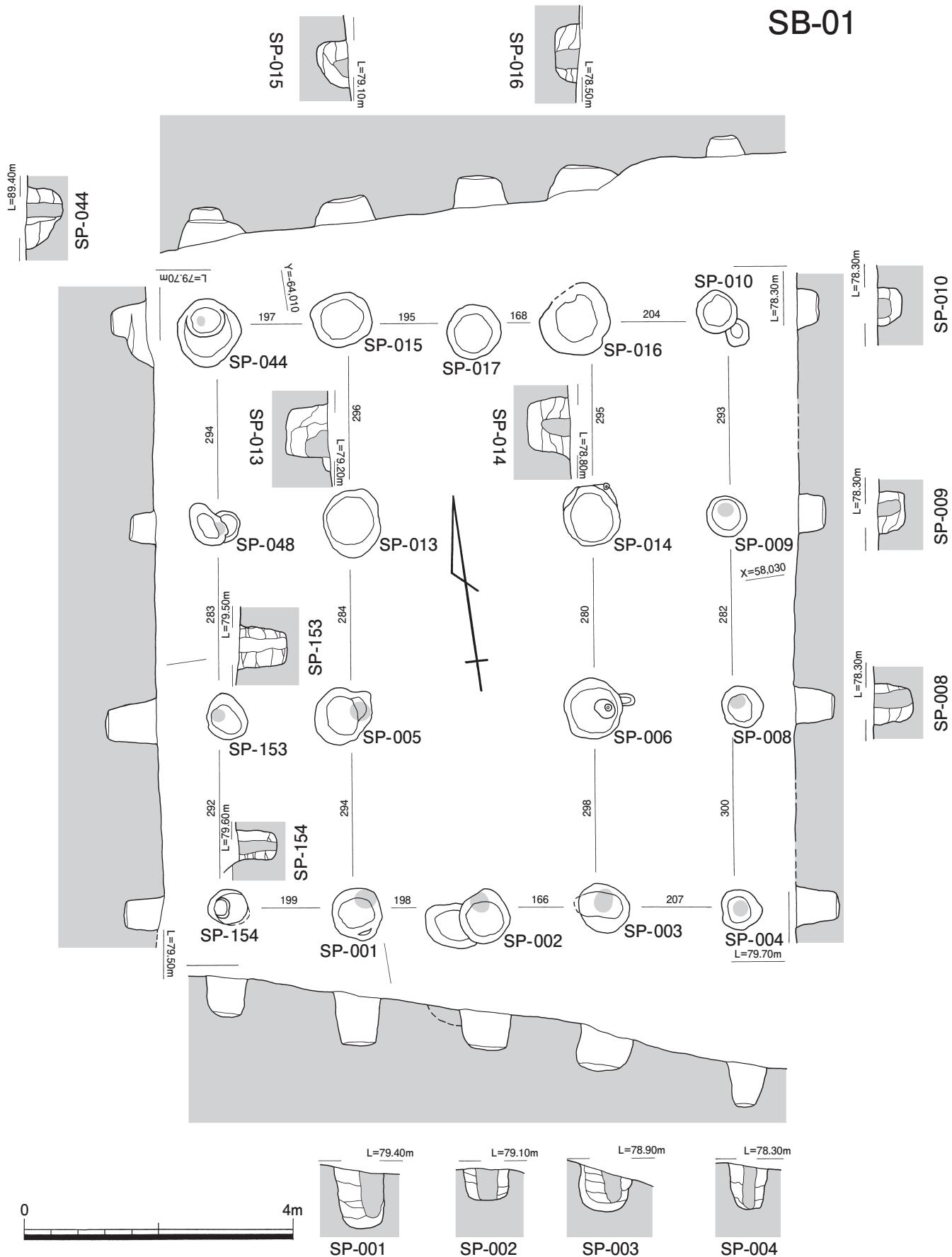
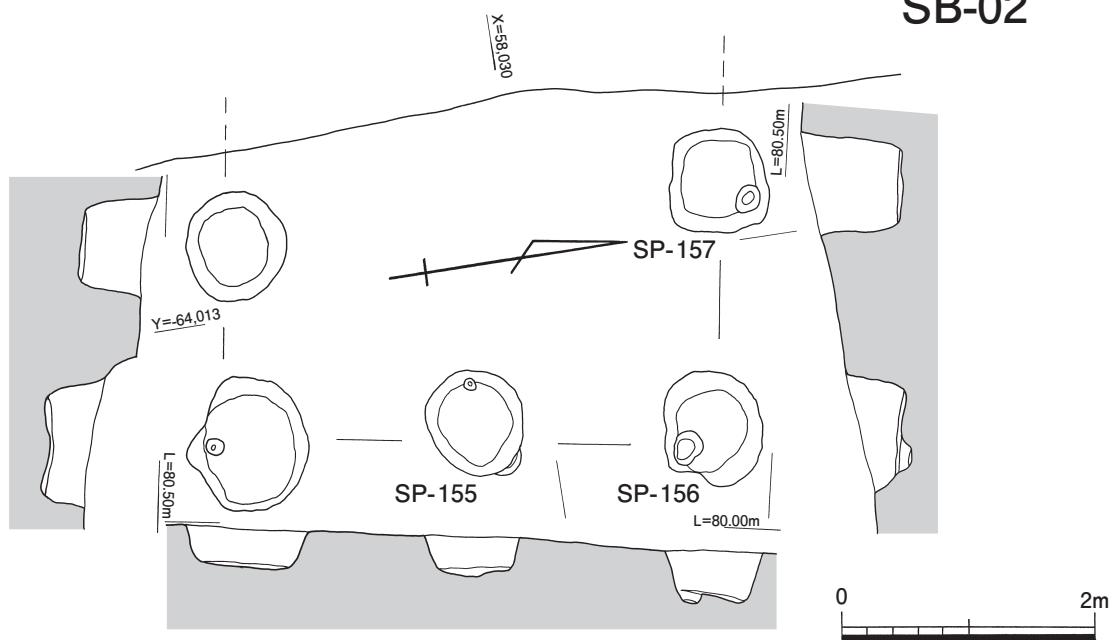


Fig.9 掘立柱建物(SB)-01遺構実測図(1/80)

SB-02



SB-03

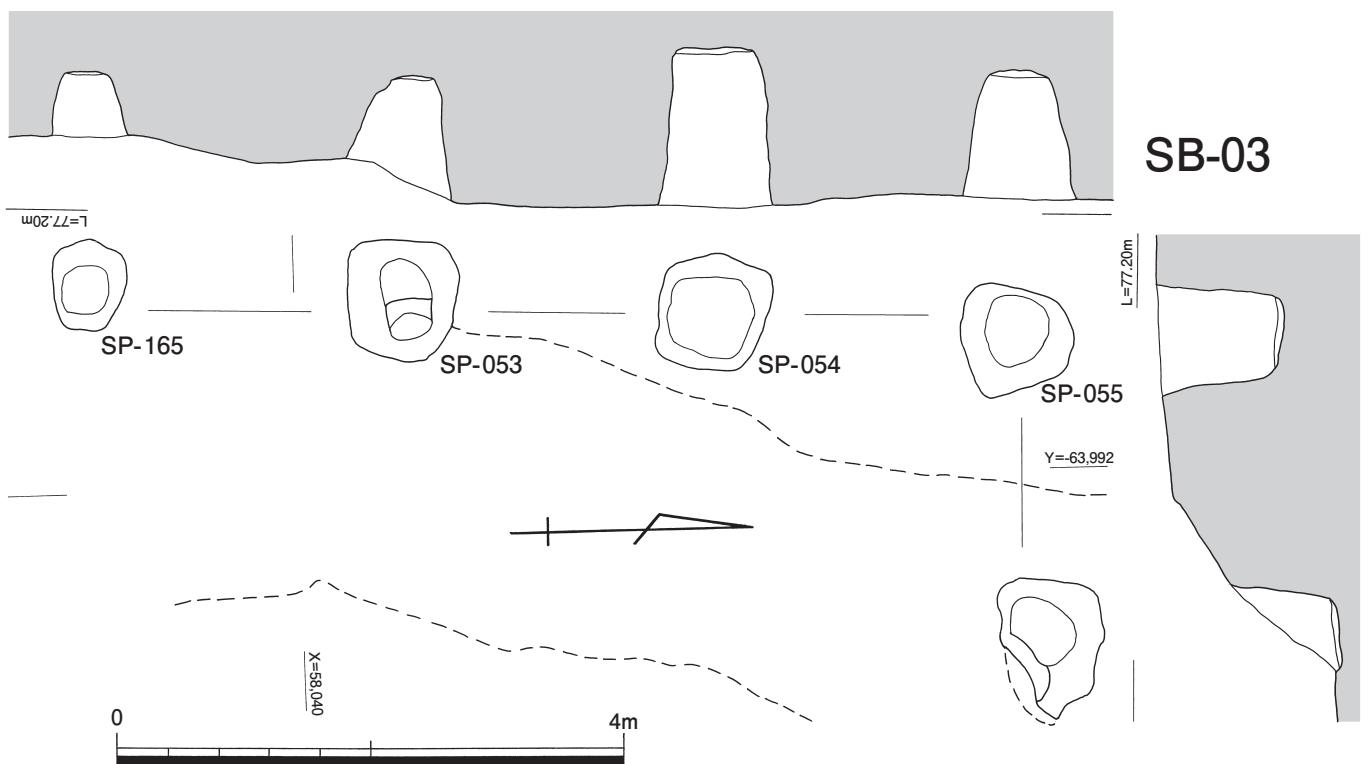


Fig.10 SB-02,03遺構実測図(1/60)

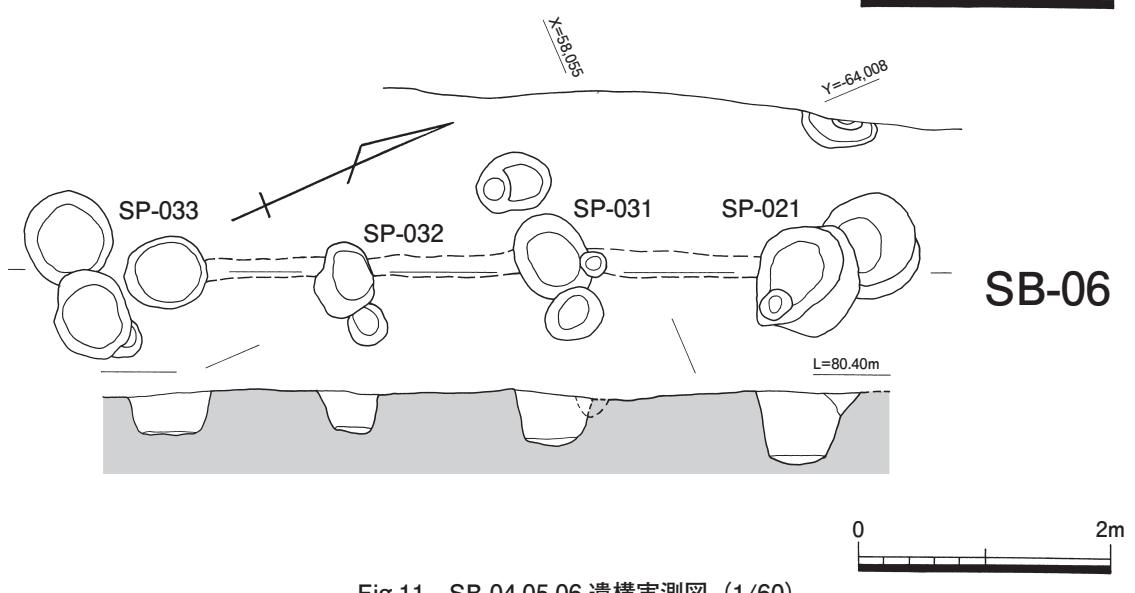
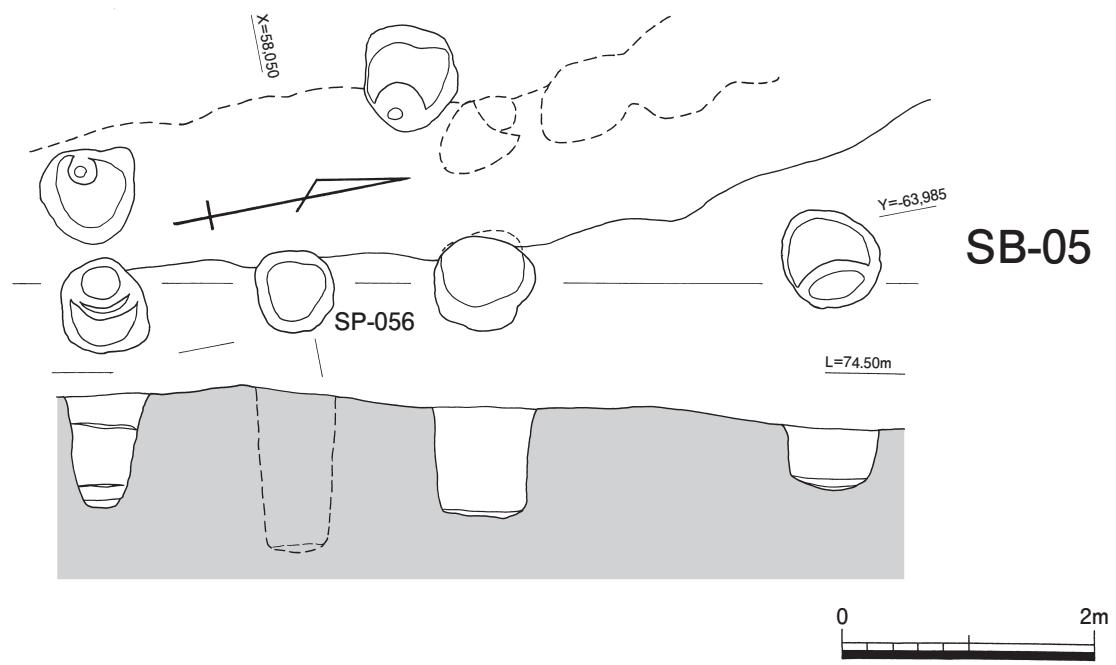
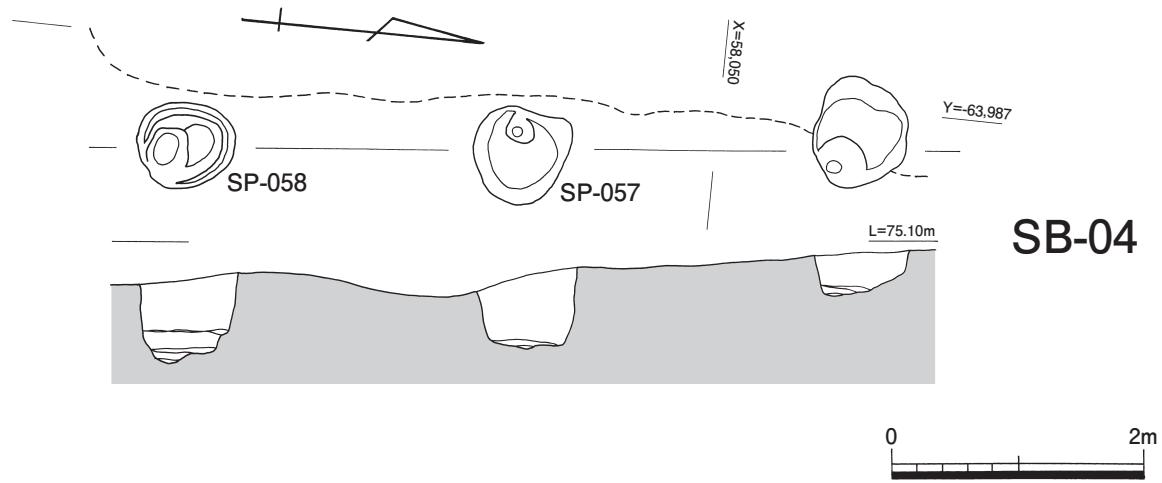


Fig.11 SB-04,05,06 遺構実測図 (1/60)

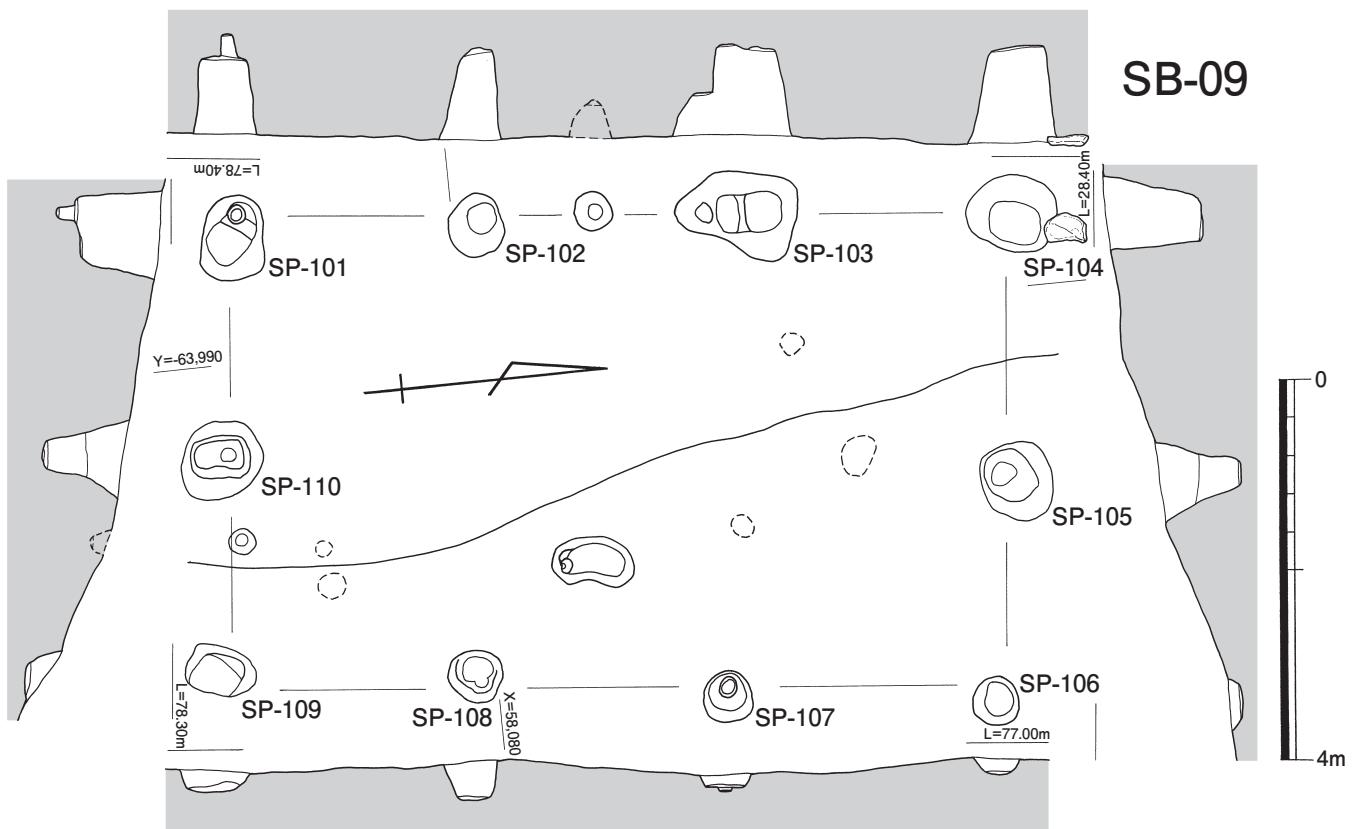
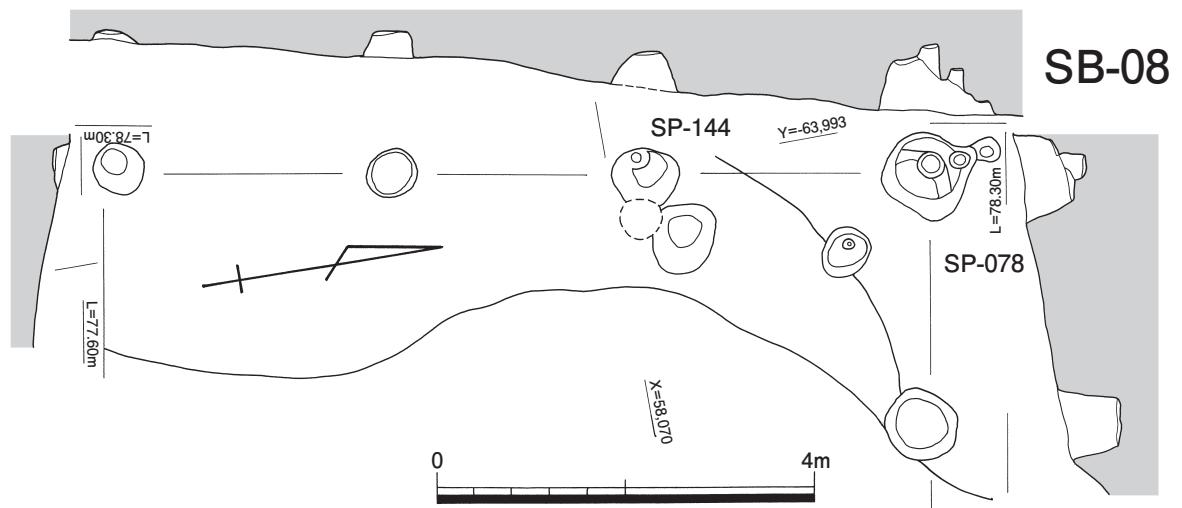
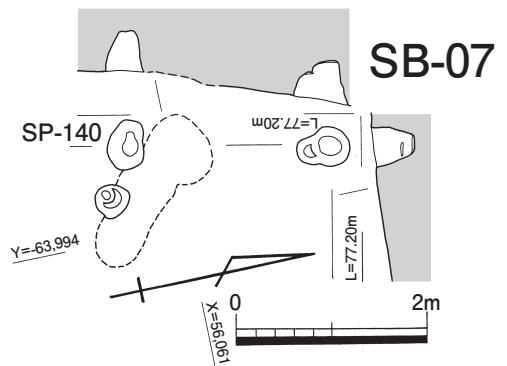


Fig.12 SB-07,08,09 遺構実測図 (1/80)

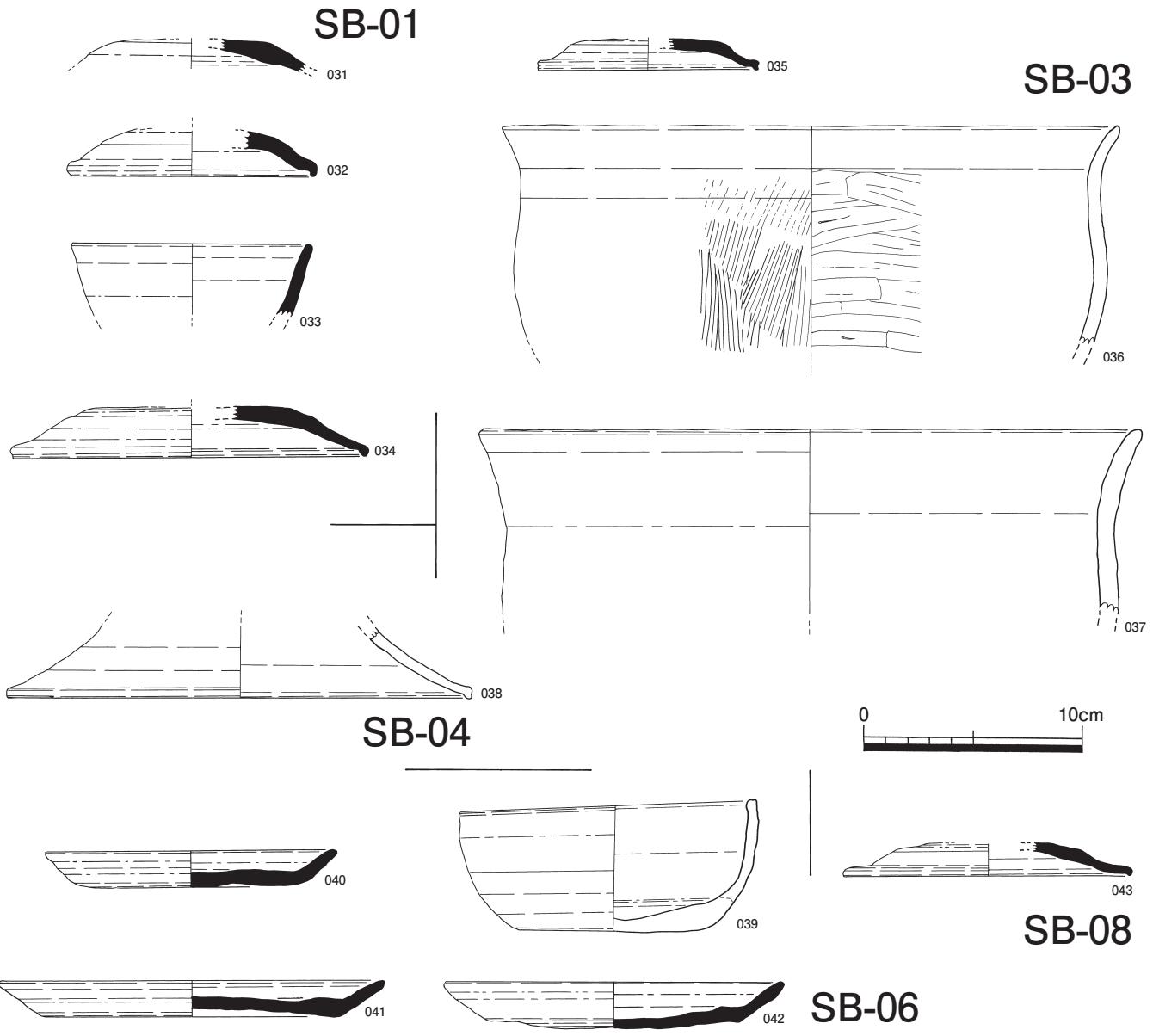


Fig.13 掘立柱建物(SB)出土遺物実測図 (1/3)

標北) による 2 穴 1 間分の建物柱列である。柱間は約 2.1 m であり、柱穴の平面プランは略円形を呈し、直径約 40 cm、残存する深さは約 40 cm である。出土遺物は、出土していない。

SB-08 (Fig.12、PL.11)

調査区北寄りにて検出され、SB-07, SB-09 と柱列を同じくする建物群の 1 軒と考える。方位を N-10°-E (座標北) による 2 間 × 3 間建物の 5 穴 4 間分と考えられる。柱間は 2.7~3.0 m である。柱穴の平面プランは略円形を呈しており、直径 50~75 cm、残存深さは 10~70 cm である。出土遺物 (Fig.13、PL.24) SP-076 からは、小破片のため図化し得ないが、土師器壺口縁片が出土している。SP-078 からは、復元口径 12.8 cm の須恵器壺蓋 043 と、それ以外に土師器甕片が出土している。遺構の掘削時期は、須恵器壺蓋から 8 世紀中ごろ以降と考えられる。

SB-09 (Fig.12、PL.11)

調査区北側にて検出され、SB-07, SB-08 と柱列を同じくする建物群の 1 軒と考える。方位を

N-6°-E（座標北）にとる2間×3間の建物である。柱間は2.3～2.8mであり、柱穴の平面プランは略円形であり直径50～80cm、残存深さは15～110cmである。山側の残存が良好な柱列では掘削深が100cm前後あり、本来は全ての柱穴が同様の規模であったと考えられる。また、東西柱列の底面レベルが東の谷側に下がっていることから、当時の地形も緩やかに傾斜していたことを示唆している。各柱穴からは図化し得る遺物は出土していないが、SP-102からは土師器壺の小片が、SP-104からは土師器甕片が出土している。

柱穴（SP）

上述したように約160穴以上のピット状遺構から遺物の出土がみられたが、その多くが小破片である。SP-012、019や020など方形の掘方をもち、遺構壁も直線的に立ち上がり、明らかに建物の柱穴であるものも含まれるが、調査区の制限や後世の削平の関係で、その規模や性格が特定できないものもある。また、比較的多くの遺物が出土するピット状遺構もいくつかみられた。出土遺物(Fig.15、PL.24,25) 044はSP-012から出土した底径6.9cmの須恵器高台付壺。045～047はSP-022出土の遺物である。045は口径17.0cmの土師器壺、046は口径26.4cmの土師器高壺壺部、047も復元口径16.5cmの土師器高壺壺部である。048はSP-045出土の復元口径17.6cmの須恵器皿。049はSP-081出土の復元口径14.8cmの須恵器壺蓋。050はSP-082出土の復元口径13.3cmの須恵器無高台壺である。051,052はSP-090出土の須恵器高台付壺と無高台壺である。053～056はSP-115から出土した。053は復元口径15.0cmの須恵器壺蓋。054も復元口径15.8cmの須恵器壺蓋。055は復元口径16.0cmの須恵器皿。056は復元口径14.0cmの須恵器円面硯の破片である。057,058はSP-117出土の遺物である。057は復元口径14.6cmの須恵器壺蓋。058は復元口径13.6cmの須恵器無高台壺である。059はSP-126出土の復元口径19.4cmの須恵器皿である。060はSP-132出土の復元口径12.8cmの須恵器高台付壺である。図化し得なかったが他の多くのピット状遺構から須恵器片、土師器片など8～9世紀にかけての遺物がみられた。

土坑（SK）

今回の調査では、遺構検出作業において一定の範囲で地山と異なる土壤が確認された部分を土坑と呼称して掘削をおこなった。よってその中には決して人為的ではない、ある時期の地表面の窪みのような性格のものも含まれる。この項では2基の土坑状遺構を取り上げる。

SK-01 (Fig.14、PL.12,13)

調査区中央部、西端にて検出され、平面形は一辺約120cmの略方形を呈する。主軸方位をN-10°-E（座標北）にとり、北辺中央部に張り出しをもつ。残存する深さは約25cmであり、床面上には炭化物が堆積していた。金武周辺の調査でみられる所謂、焼土坑である。今回は、炭化物層内より、木炭の状況が明らかなものをサンプルとして取上げ、樹種同定、放射性炭素年代測定を実施した。その結果樹種は常緑広葉樹のスダジイであり、8世紀前半という年代が得られた（110頁参照）。出土遺物 (Fig.15、PL.25) 061は口径18.4cmの土師器壺蓋、062は復元口径18.2cmの須恵器皿である。それ以外には、須恵器壺蓋、土師器の高壺、壺、甕片などがみられる。出土遺物は8世紀中ごろから後半のもので、遺構掘削から埋没までの時間の経過や炭材に枯れ枝を使用した可能性等も考えられる。

SK-02 (Fig.14)

調査区中央部、やや西寄りにて確認された平面略円形を呈する土坑である。長軸約130、短軸約

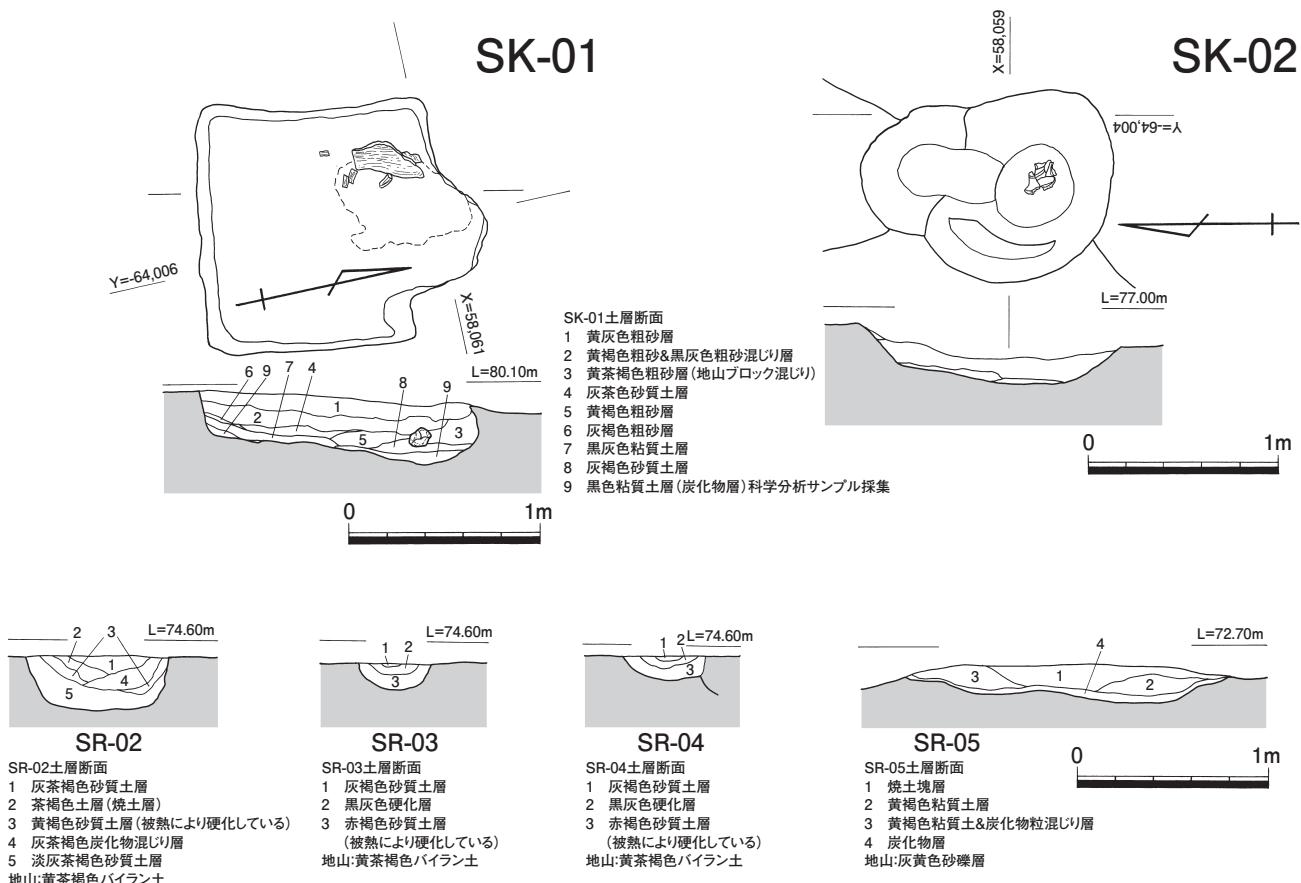


Fig.14 土坑(SK)-01,02、炉跡(SR)断面実測図 (1/40)

100cmの規模をもつ。遺構の底面は緩やかな舟底形であり、残存する深さは約20cmである。出土遺物(Fig.15、PL.25) 063は土師器香炉の蓋と思われ、天井部に円形孔があけられ、連続すると考えられる草花文が焼成前に刻まれている。064は復元口径23.7cmの土師器坏蓋である。065は口径21.4cmの土師器鉢である。それ以外には、須恵器中甕、土師器無高台坏、土師器甕片などがみられる。遺構の埋没時期は出土遺物から、8世紀後半から9世紀はじめごろと考えられる。

鍛冶炉跡 (SR)

調査地内では、被熱により遺構周辺が赤色化した炉跡と考えられる遺構が、谷への落ち際近くにて検出された。SR-01として掘削を行なっていた調査区南側の大型遺構は、掘削調査時に現代遺物が出土したことから攪乱と判明し、欠番となっている。

SR-02 (Fig.14、PL.14)

調査区やや北寄りにて検出し、東側30cmにはSR-03が存在し、両者は近接した位置にある。遺構の平面形は略円方形を成すと考えられる。長軸約80、短軸約55cmの規模をもち、掘削深は約20cmである。炉下の地山は、被熱により赤色化している。埋土には焼土、鉄滓、炭が混じっていた。

SR-03 (Fig.14、PL.14)

調査区やや北寄りにて検出し、西側30cmにはSR-02が存在し、両者は近接した位置にある。遺構の平面形は不定形を呈する炉跡である。長軸約50、短軸40cmの規模をもつ。埋土には焼土、炭化物が混じっており、炉下の地山は、被熱により赤色化している。

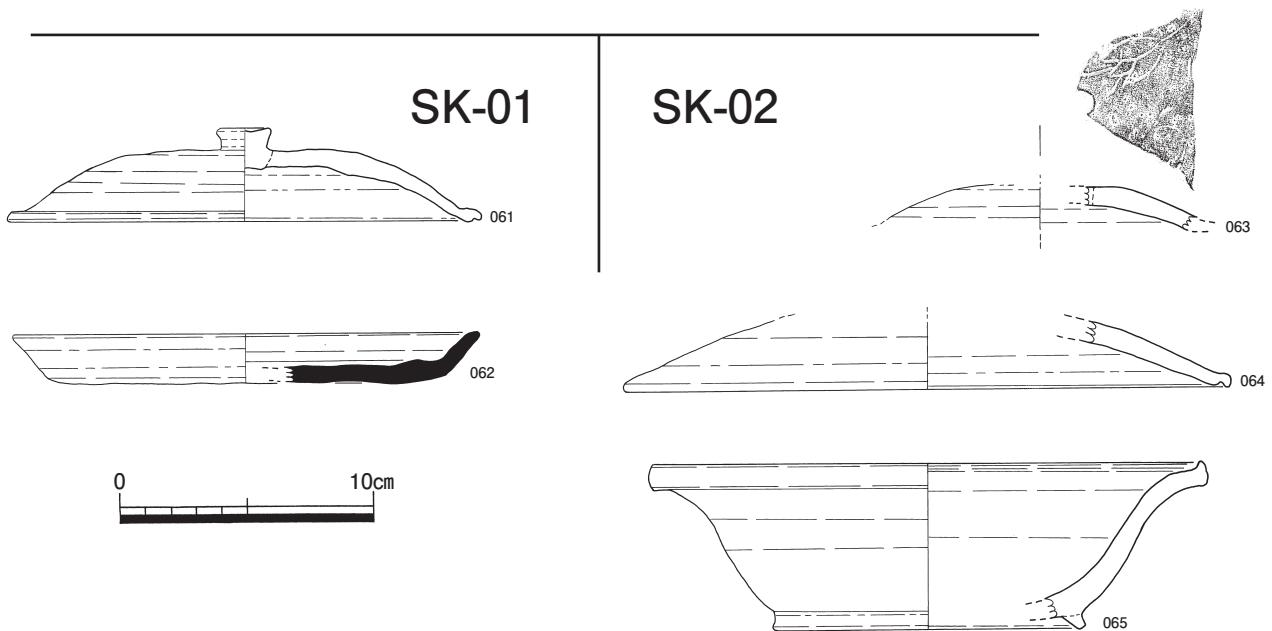
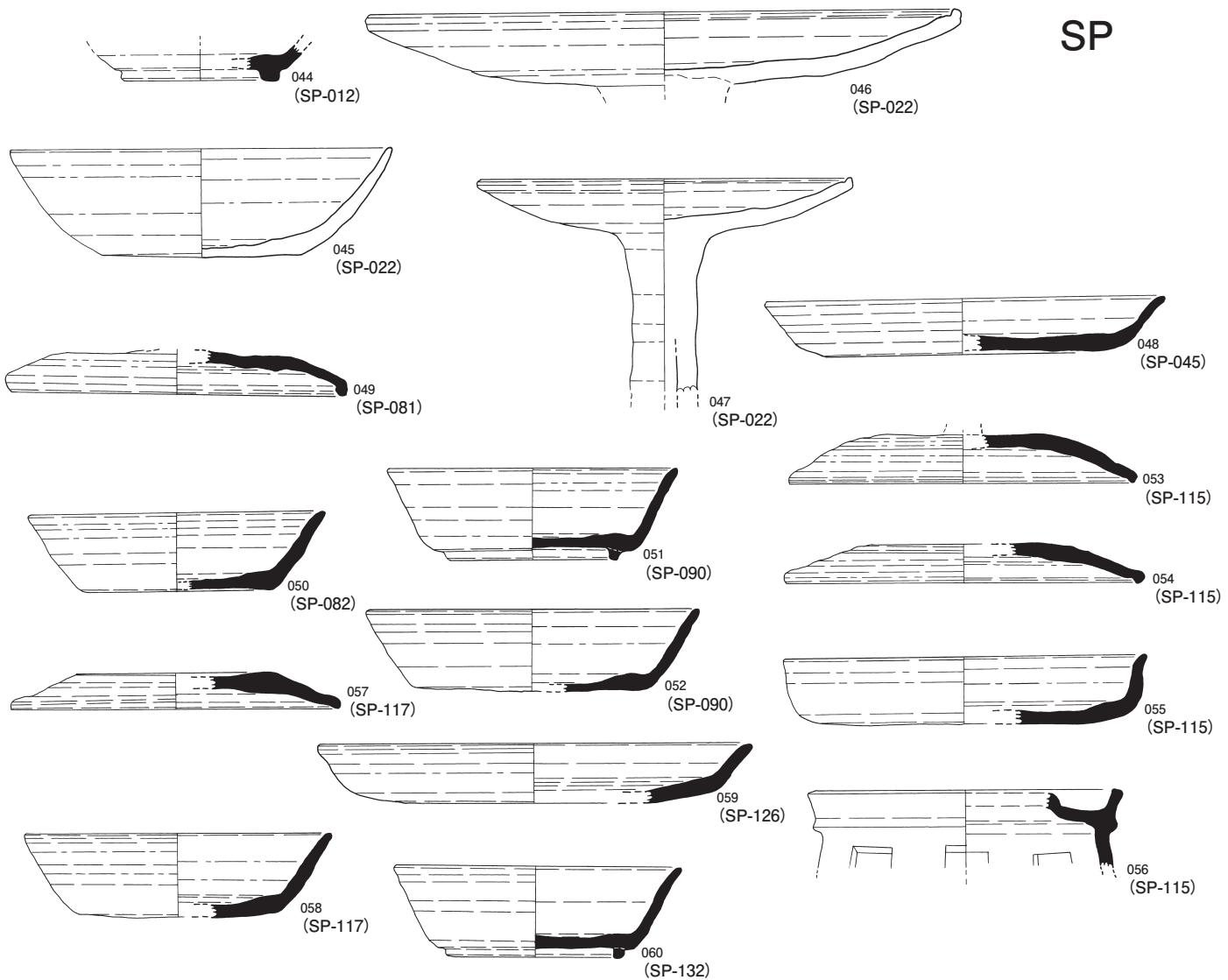


Fig.15 柱穴(SP)、土坑(SK)出土遺物実測図 (1/3)

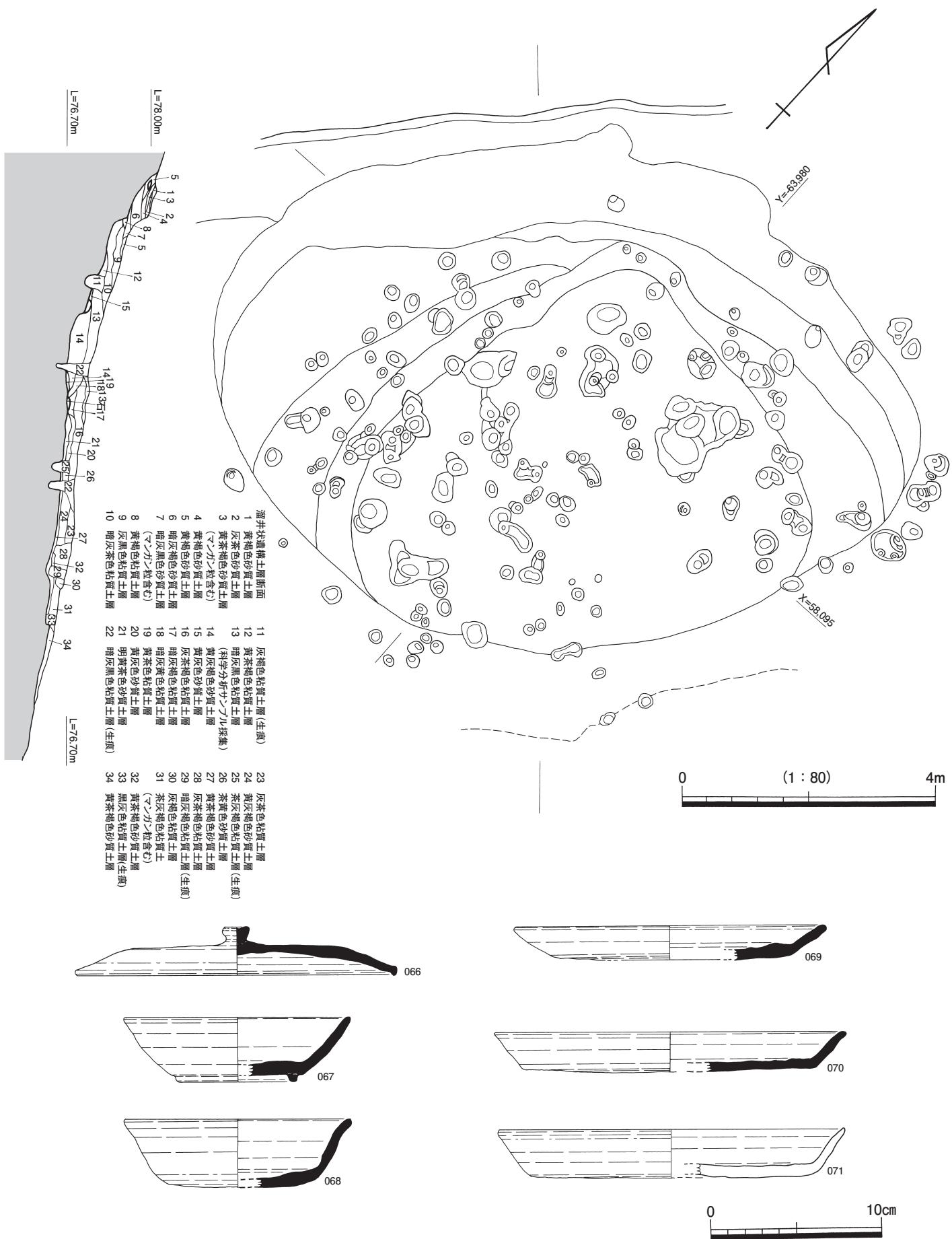


Fig.16 潜井状遺構実測図 (1/80)、出土遺物実測図 (1/3)

SR-04 (Fig.14、PL.15)

調査区やや北寄りにて検出し、南側3.5mにはSR-02、03が存在し、やや近接した位置関係にある。遺構の平面形は略円方形を成すと考えられる。長軸約40、短軸約35cmの規模をもち、掘削深は約5cmである。炉下の地山は、被熱により赤色化している。埋土には焼土、炭化物が混じっていた。

SR-05 (Fig.14、PL.15)

調査区やや北寄りにて検出し、西側5.5mにはSR-04が位置している。遺構の平面形は不定形で、長軸約160、短軸約120cmの規模をもち、残存深は約15cmである。埋土には焼土、鉄滓、炭化物が混じっていた。遺構下の地山に、被熱による赤色化がみられないことから、廃滓坑と考えられる。

溜井状遺構 (Fig.16、PL.13)

調査区北端にて、1基の溜井状遺構が確認された。遺構の平面形は長楕円形を呈しており、長軸約11m、短軸約7mの範囲をもち、残存する深さは約40cmである。底面には、生痕と思われるピット状の凹みが多数みられる。埋土は、黒色粘質土が主体となって堆積していた。今回、この黒色粘質土の植物珪酸体分析を行なった。分析の結果、珪藻化石の主体は水生珪藻と水域にも陸域にも生息する陸生珪藻B群であった。このことから、黒色土は遺構内に水が存在した時期に堆積したことを表している。ただ、水は有機汚濁の進んだ富栄養な水質で、時に水が干上がって好気的環境になったこともあることが示唆された。つまり、山の斜面に窪みをつくり、降雨時には山からの水を集めて水を溜めようとしており、排水施設が確認されていないため積極的な排水が行なわれたかどうかは不明であるが、時には干上がっていった施設である。周辺の環境は、花粉化石分析の結果からタケ亜科やヨシ属、ウシクサ属などのイネ科植物が生育しており、樹木では硬質で知られるイスノキ属の樹木が生育していたようである（111頁参照）。出土遺物(Fig.16、PL.25) 066は復元口径20.4cmの須恵器壺蓋である。067は復元口径13.0cmの須恵器高台付壺、068は復元口径12.8cmの須恵器無高台壺、069は復元口径17.8cmの須恵器皿、070も復元口径20.1cmの須恵器皿、071は復元口径19.8cmの土師器皿である。遺構の開口、埋没時期は出土遺物から8世紀後半から9世紀初頭の建物群の時期とほぼ同時期と考えられる。

谷部調査 (Fig.7、PL.15~17)

調査区は山裾に沿って全体的に湾曲しており、南東側に傾斜している。その斜面下位に黒色粘質土が水成堆積する谷状地形があり、この層から木簡を含む木製品と多くの土器が出土した。この谷状地形の形成は、竜谷川の開析であることは疑いないことであるが、標高75mを測るこの地では竜谷川の水流速度が速く、黒色粘質土が堆積する環境であったことから、建物が存在していた時期の流路は南側に離れていたと考えられる。谷内の調査は、まず掘削土搬出用の作業路を谷のほぼ中央部に設定したことから、この作業路を挟んで北側を「北谷部」、南側を「南谷部」と呼称した。北谷部には、一定の範囲をもって山側に食い込む部分があり、北谷部（溜まり）として遺物の取り上げをおこなった。また、南谷部には谷堆積土層観察用ベルトを設定したことから、南谷部を更に二分しベルトの北側を南谷部（北側）、ベルトの南側を南谷部（南側）と呼称して掘削作業を進めた。そして観察用ベルト撤去時には「南谷部ベルト」の名称で遺物の取り上げをおこなった。

北谷部(Fig.7) 谷の作業路より北側部分

出土遺物(Fig.17,18、PL.26,27) 072～081は須恵器の蓋である。072は、つまみの付かない復元口径10.8cm、器高1.1cmの小形のものである。073は復元口径13.3cm、つまみ径2.4cmである。074は口径14.1cmで、つまみは剥落している。075は復元口径14.7cm、つまみ径2.3cmである。076は口径14.2cm、つまみ径2.5cmである。077は口径15.2cm、つまみ高は1.0cmと高い。078は復元口径15.4cm、つまみ径2.2cmである。079は口径15.2cm、つまみ高は1.2cmで宝珠形を残す。080は復元口径17.2cm、つまみ径1.8cmである。081は復元口径17.4cm、つまみ径2.0cmである。082～092は須恵器の高台付坏である。082は復元底径6.0cmの小坏であり、高台は外反する。083も復元口径9.9cmと小型であり、高台は断面形四角のものを貼り付ける。084も復元口径10.6cmと小型のもので、断面形四角の高台を貼り付ける。085は復元口径12.6cmで、体部はやや丸みをもって立ち上がる。086は復元口径13.4cm、高台は外反し内端部で接地する。087は復元口径13.3cm、高台は外反し内端部で接地する。088は復元口径13.2cm、高台は外反する。089は復元口径15.3cm、高台は外反し内端部で接地する。090は復元口径16.4cm、断面形四角の高台を貼り付ける。091は口径17.5cm、焼き歪みが著しく、断面形四角の高台が浮く。092は復元底径9.2cm、外反する高台を貼り付け、外底部に「中」の字を墨書している。093,094は須恵器高坏である。093は復元坏径20.2cm、復元脚部径12.5cmの短い脚が付く。094は復元坏径20.8cm、復元脚径13.6cmの脚が付く。095は口径18.6cmの須恵器皿である。096は口径19.1cmの須恵器鉢である。底部はやや丸みをもっている。097は器種不明の土師器である。器面に「女」の焼成前線刻がみられる。098は復元口径9.7cmの小坏である。099は復元口径14.4cmの土師器坏である。内面底にロクロによる回転痕跡がみられる。100は復元口径14.8cmの土師器坏である。101は復元口径17.4cmの土師器坏である。内外面にロクロによる丁寧なケズリがみられる。102は復元口径25.0cmの土師器大皿である。断面形四角の高台を貼り付ける。103は復元口径22.1cmの土師器甕である。胴部の最大径は22.7cmで口縁径より大きい。104は復元口径35.6cmの土師器甕である。口縁は外側に大きく広がる。105は焼塩壺である。復元口径12.0、器高6.6cmである。106～108は土錘である。106は長さ3.8、最大径1.65cm、重さ8.72gである。107は長さ4.83、最大径1.71cm、重さ13.31gである。108は長さ4.9、最大径1.85cm、重さ11.81gである。

北谷部(溜まり)(Fig.7) 谷の作業路より北側部分で、山側に拡がる溜まり状部分

出土遺物(Fig.19,20、PL.27,28) 109～112は須恵器坏蓋である。109は口径13.6cm、110は復元口径13.9cm、111は復元口径14.8cm、112は口径15.5cmである。113～119は須恵器高台付坏である。113は復元口径11.0、底径7.0cmの小型坏である。114は復元口径11.6cmの坏である。高台は外反し、内端部が接地する。115は復元口径12.2cm、焼き歪みが著しく、断面形四角の高台が浮く。116は復元口径12.5cm、体部は外反しながら立ち上がる。117は復元口径13.6cm、断面形四角の高台を貼り付け、体部は丸みをもって立ち上がる。118は口径13.4cm、断面形四角の高台を貼り付け、焼成時の歪みが著しい。119は口径14.6cm、断面形四角の高台を貼り付ける。120～123は須恵器の坏、皿である。120は復元口径15.4cmの坏である。121は復元口径16.0cmの坏である。122は復元口径16.6cmの皿である。123は復元口径20.6cmの皿である。124は須恵器の長颈壺である。復元口径16.2、高台径16.0、器高36.0cmである。頸部上位に2本の沈線を巡らせている。125は復元口径24.6cmの須恵器広口鉢である。底部は深く平らで口縁部は底部から直線的に上外方にのび、端部は平たい。体部上位に沈線を1本巡らせている。整理段階で南谷部北側最下層出土の349と接合し、北谷部溜まりとの同時性がうかがえる。126,127は須恵器の小甕である。126は復元口径20.6、127の口径は22.8cmである。

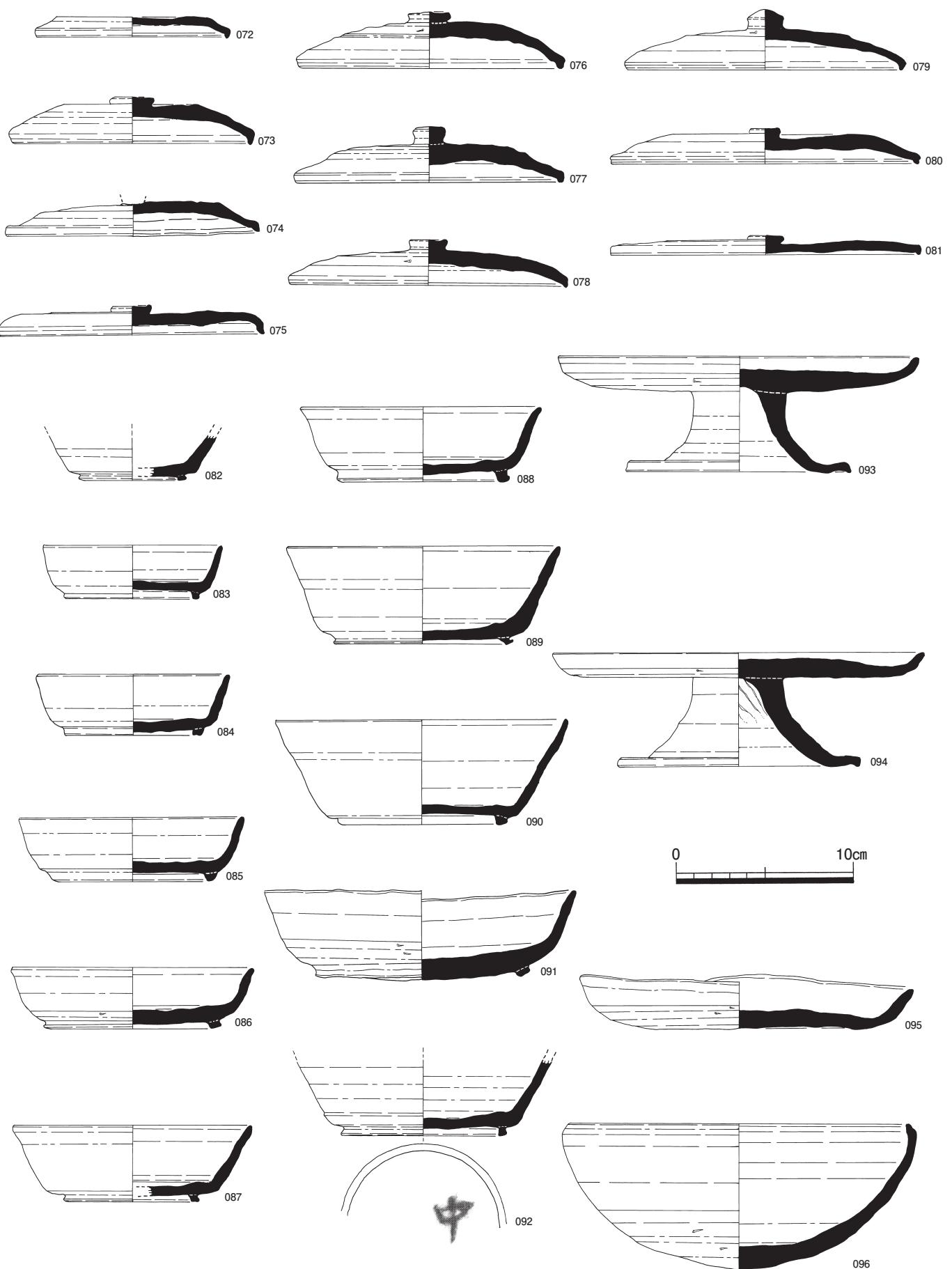


Fig.17 北谷部出土遺物実測図 (1/3)

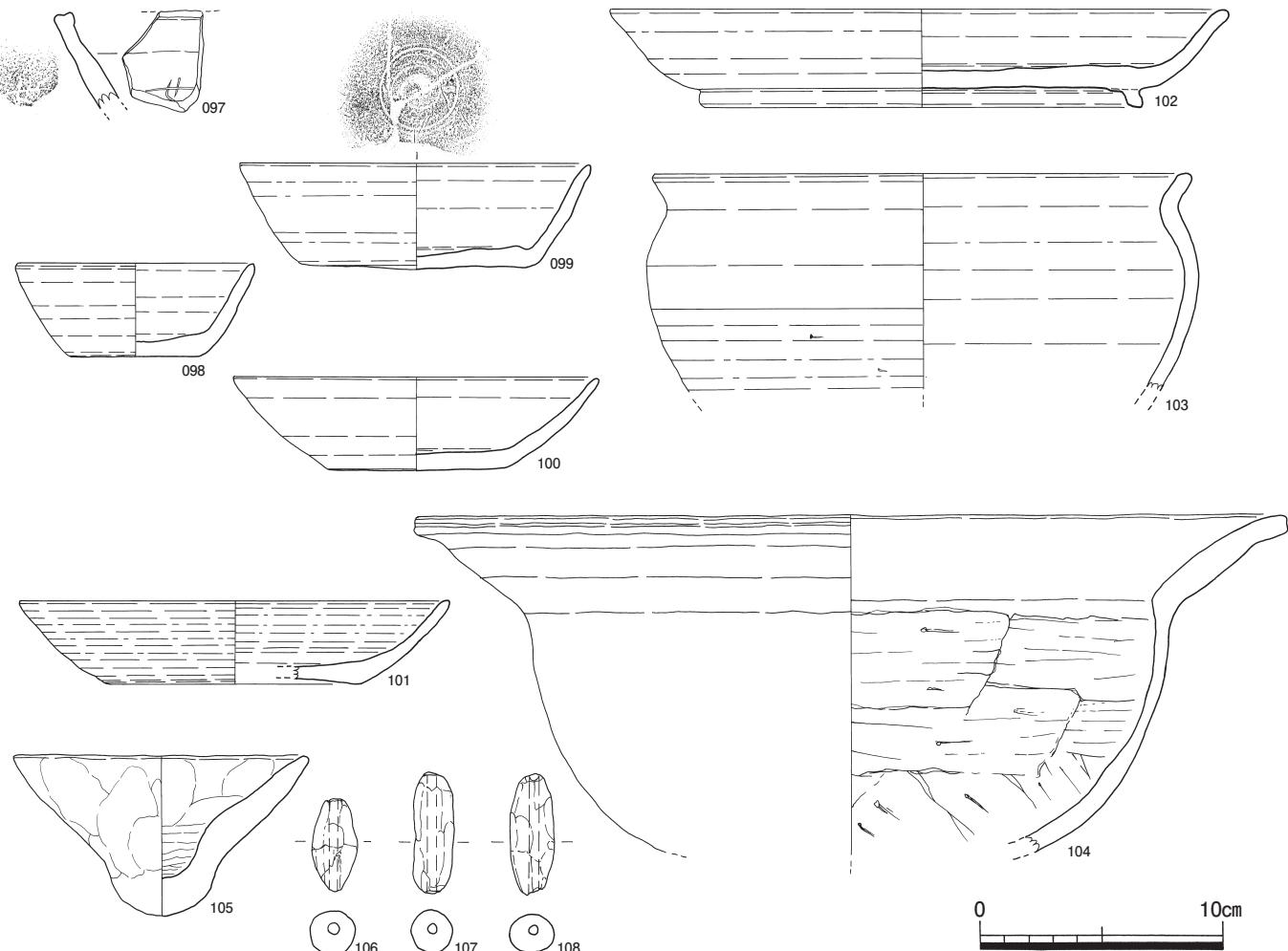


Fig.18 北谷部出土遺物実測図 (1/3)

128は土師器の壊蓋である。復元口径17.8、径3.2cmのつまみを貼り付ける。129は底径13.7cmの土師器高台付壊である。断面形四角の高台を底部やや内側に貼り付ける。130,131は土師器高壊である。130は復元口径24.6cmで、やや膨らんだ低い脚が付く。131は復元口径25.6cmの壊部をもち、外反する低い脚が付く。132～135は羽口である。132は残存長7.6cm、基部幅6.55cmで先端部は溶融してガラス質を呈する。133は残存長10.4cm、基部幅7.7cmで先端部は溶融している。134は鞴羽口の基部であり、基部幅7.4cmである。135も同様に羽口基部であり、残存長13.0cm、基部幅7.8cmである。

南谷部(Fig.7) 谷の作業路より南側の部分

南谷部のほぼ中央部に設定した谷内堆積土観察用ベルトであるが、谷内の堆積状況は一律ではなく、黒色粘質土の堆積は全面にみられるものの、その堆積状況は各地点で異なっている。また、土層断面図からも明らかであるが、後の竜谷川の流れによって当時の堆積土が大きく削り取られている。

出土遺物(Fig.22～24、PL.28～31) 136～145は須恵器壊蓋である。138,139,144の内面には墨痕があり、硯として転用されたことを示している。139の天井部には判読不明の墨書がみられる。145の天井部にも、墨書がみられる。146～149は須恵器の高台付壊である。147の外面高台内側には墨痕がみられ硯に転用されている。150,151は須恵器の壊で、150の内外面の一部には墨痕がみられる。152,153は須恵器皿である。152の内面には墨痕がみられる。154は復元口径23.4cmの須恵器大皿。155は須恵器壺蓋。156は須恵器短頸壺である。157,158は須恵器甕である。159は土師器小型壊であ

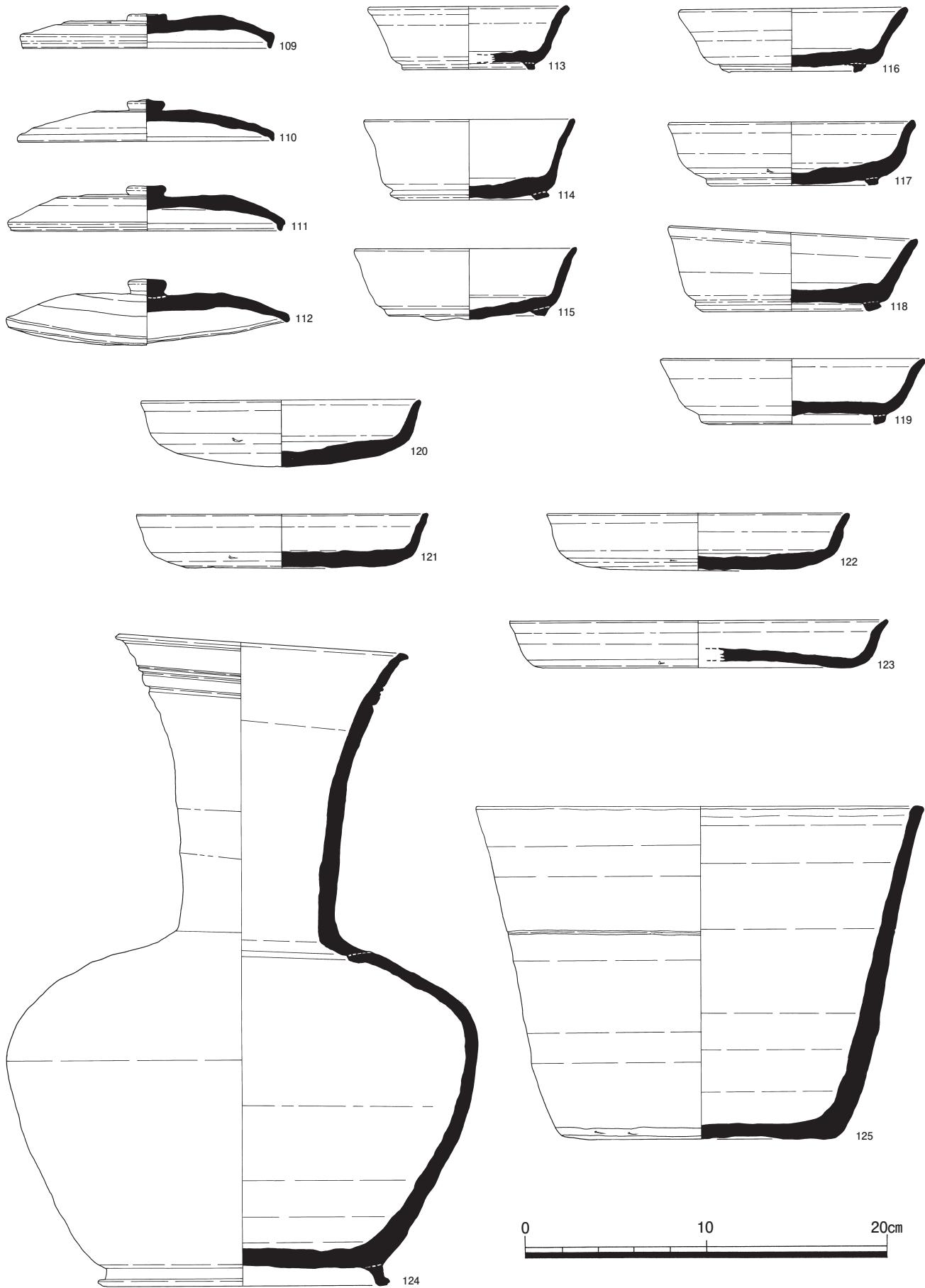


Fig.19 北谷部溜まり出土遺物実測図 (1/3)

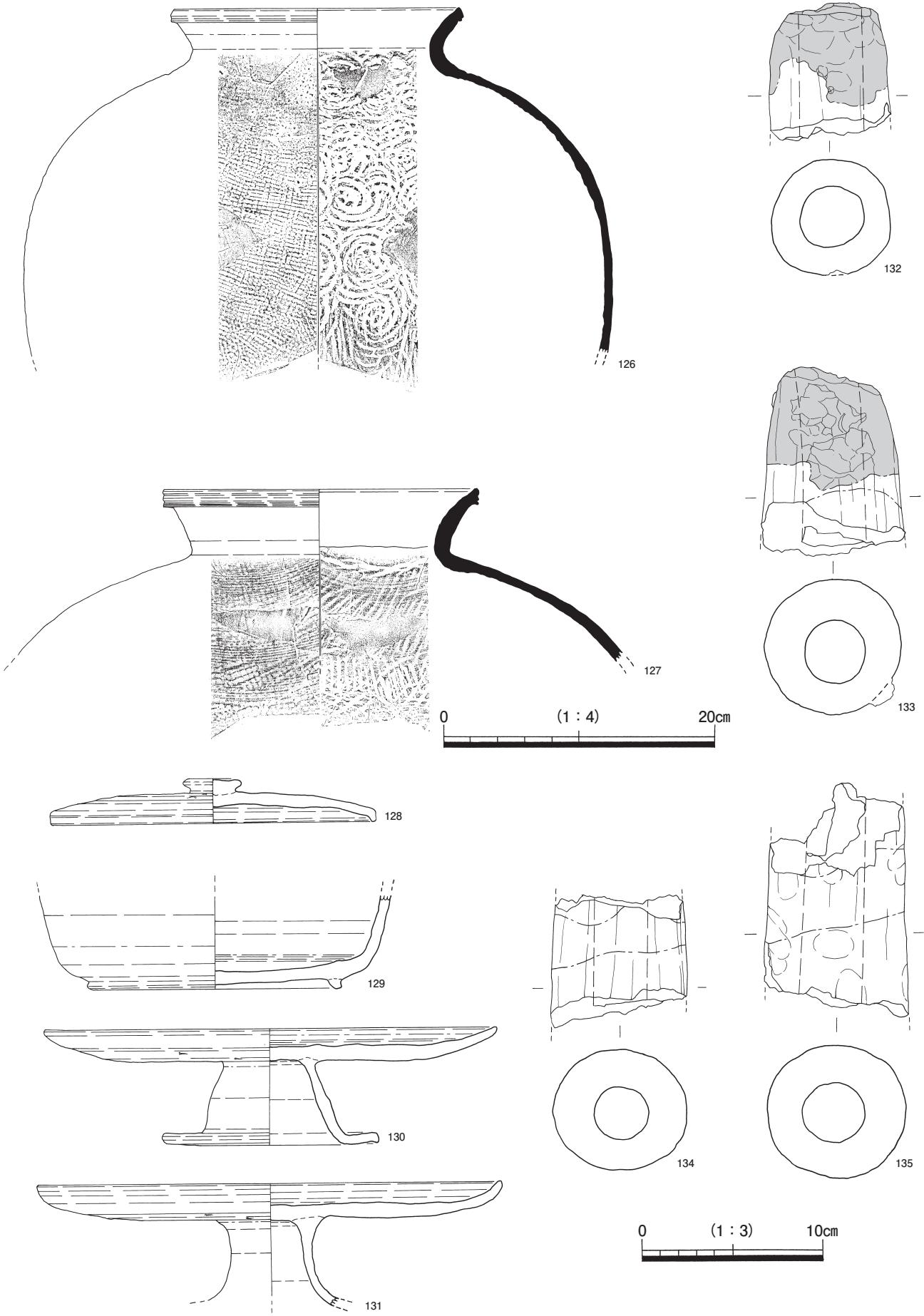


Fig.20 北谷部溜まり出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

る。器壁外面はヘラミガキで調整されている。160は復元口径17.8cmの土師器大型壺である。断面形四角の高台を貼り付ける。161,162は土師器小壺である。復元口径は各8.5、9.2cmである。163～171は土師器壺である。172は口径20.0cmの大型壺である。内外面はヘラミガキ調整されている。173～175は土師器皿である。176は土師器の燭台か。177は円筒形の焼塩壺である。178～182は円錐形を呈する焼塩壺である。内面に布を使用しないタイプである。183は土製の紡錘車である。184,185は土師器の甕である。186～198は土製錘である。

南谷部(北側) (Fig.7) 南谷部内で、土層観察用ベルトより北側部分 (遺構検出作業、断割り含む)

出土遺物(Fig.25～30、PL31～36) 199～213は須恵器壺蓋である。199は天井部に「成」の墨書がみられる。200は内面に墨痕がみられ、硯に転用されていたと考えられる。201は天井部と内面に墨痕がみられる。202は天井部の低い蓋で、天井部に「志豆女」の墨書がみられる。210のつまみの頂部に「上」の墨書がみられる。211の内面に墨痕がみられる。212の天井部に墨書がみられる。

「志」の字か。213の外面上には小さな○が墨書されている。214～226は須恵器高台付壺である。220は高台内外面に判読不能であるが墨書がみられる。225は高台内外面に墨書の一部がみられる。227は口径22.6cmの須恵器大皿である。228～242は須恵器壺身である。復元底径8.0cmの229外底部には判読不能の字が墨書されている。230の外底部には「正月」の墨書がある。234の外底部には「□刀自」の墨書がある。241の外底部には判読できないが字と考えられる墨書がみられる。243の須恵器高壺には脚部に「赤」の墨書がみられる。244～258は須恵器の皿である。247は器内に墨痕がみられ、外底部には「井」の一字が墨書されている。259,260,261は壊ないしは皿の外底部と考えられる破片である。それぞれに判読はできないが、墨書がみられる。262は復元脚径11.0cmの円面硯の破片である。263,264は須恵器壺である。265は須恵器甕である。266,267は土師器蓋である。268は皿または蓋である。内外面をヘラミガキで器面調整している。269～276は土師器壺である。273は瓦質に焼成された土器で、内面はヘラミガキで丁寧に器面調整され、炭素を吸着させている。277～280は土師器皿である。281は復元口径22.3cmの土師器大皿である。外面はヘラミガキによる器面調整が行なわれている。282は土師器高壺部である。283は土師器鉄鉢である。底部は尖底を呈する。284は土師器甕である。285～293は焼塩壺である。286,292の内面には布目が一部みられる。294,295は

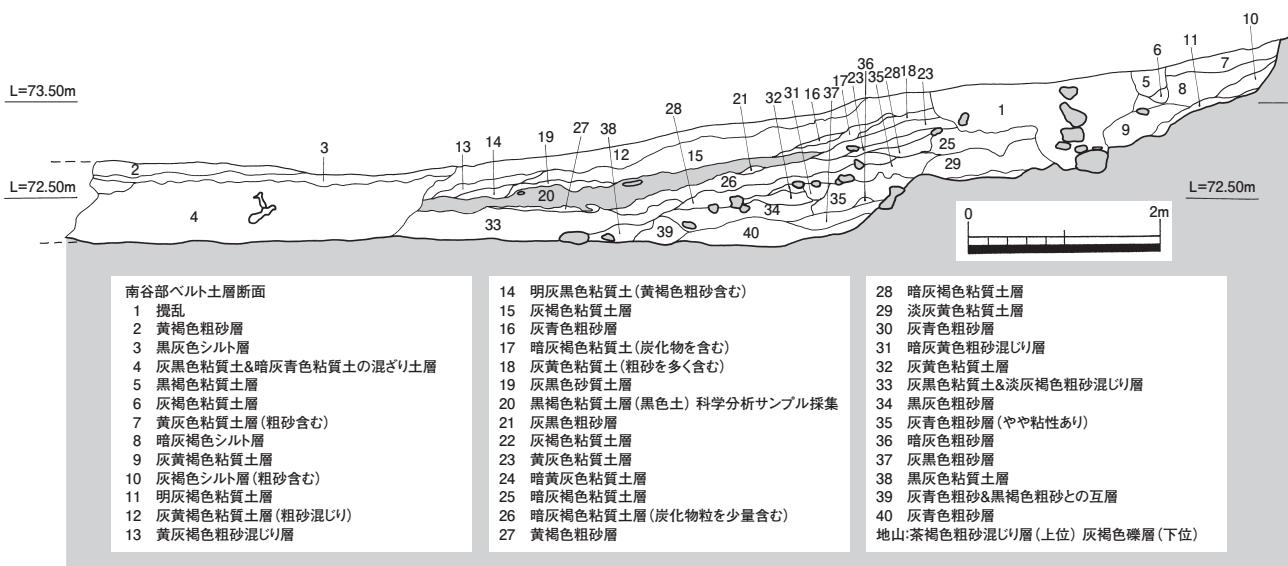


Fig.21 南谷部ベルト土層断面図 (1/80)

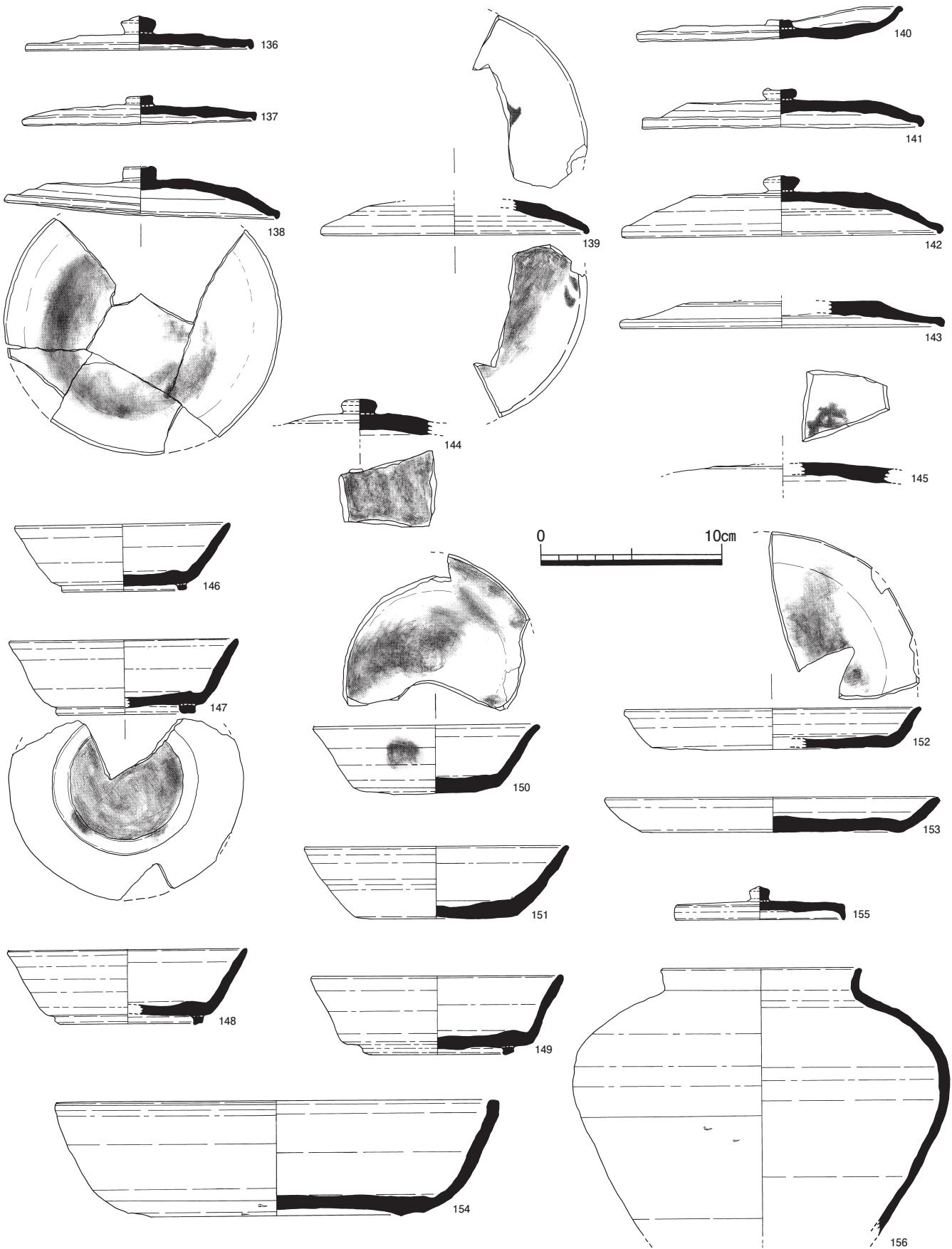


Fig.22 南谷部出土遺物実測図 (1/3)

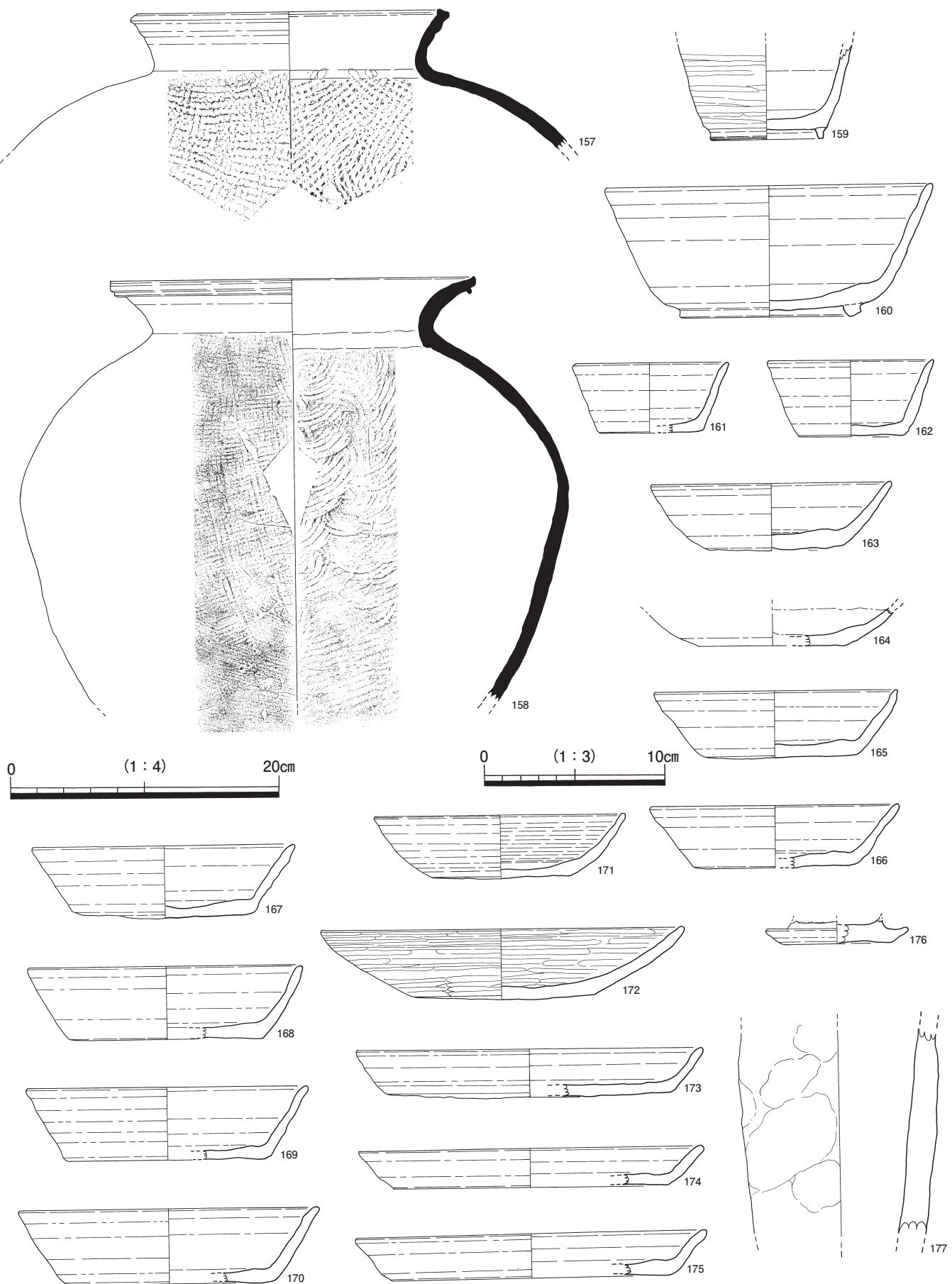


Fig.23 南谷部出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

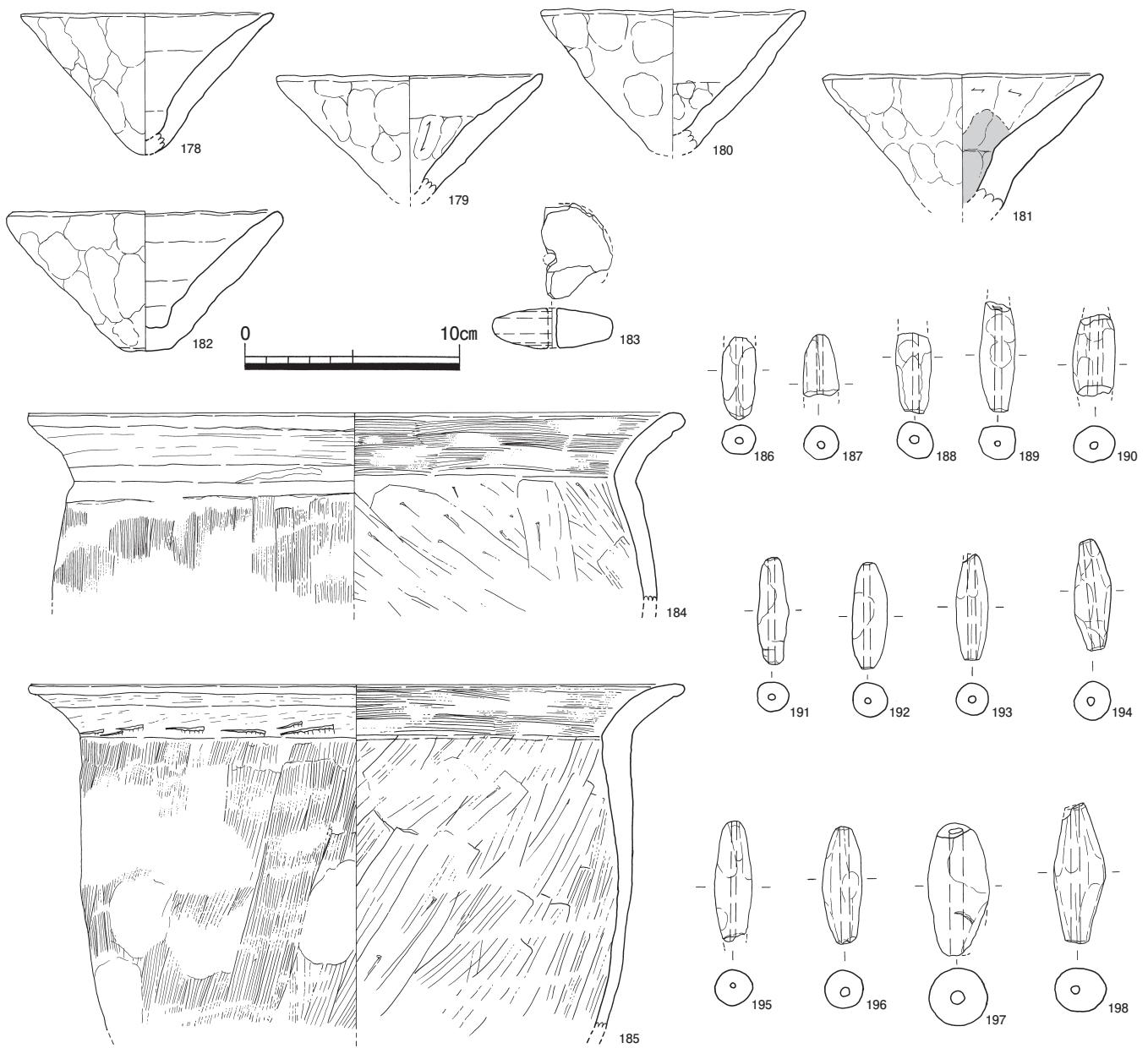


Fig.24 南谷部出土遺物実測図 (1/3)

円筒形の焼塩壺である。内面には布目の圧痕がみられる。296は土錘である。297~300は羽口である。先端が遺存するものは被熱によりガラス質に変質している。301,302は移動式カマドである。303~305は石器である。303は63.3gの軽石である。304は砥石であり、使用面は3面である。305は2.6 g の打製石鏃で縄文時代遺物である。

南谷部(北側)下層 (Fig.7) 南谷部内の土層観察用ベルトより北側で、黒色土相当層の部分

出土遺物(Fig.31、PL.36,37) 306~308は須恵器の壊蓋である。306はかえりの付く小型のもので、天井部にヘラ記号がみられる。308の天井部に「志豆女」の墨書がみられる。309~312は須恵器の高台付壊ないしは壊である。310の口縁部内側には墨痕がみられる。311の外底部には「上」の字が墨書されている。313,314は須恵器の無高台壊である。313の内面には煤の付着があり、灯明皿として使用されたと考えられる。314外底部には「成」の字が墨書されている。315は土師器壊であり、内面見込みに焼成前針書きによる線刻がみられる。316は土師器壊である。317は須恵器皿であ

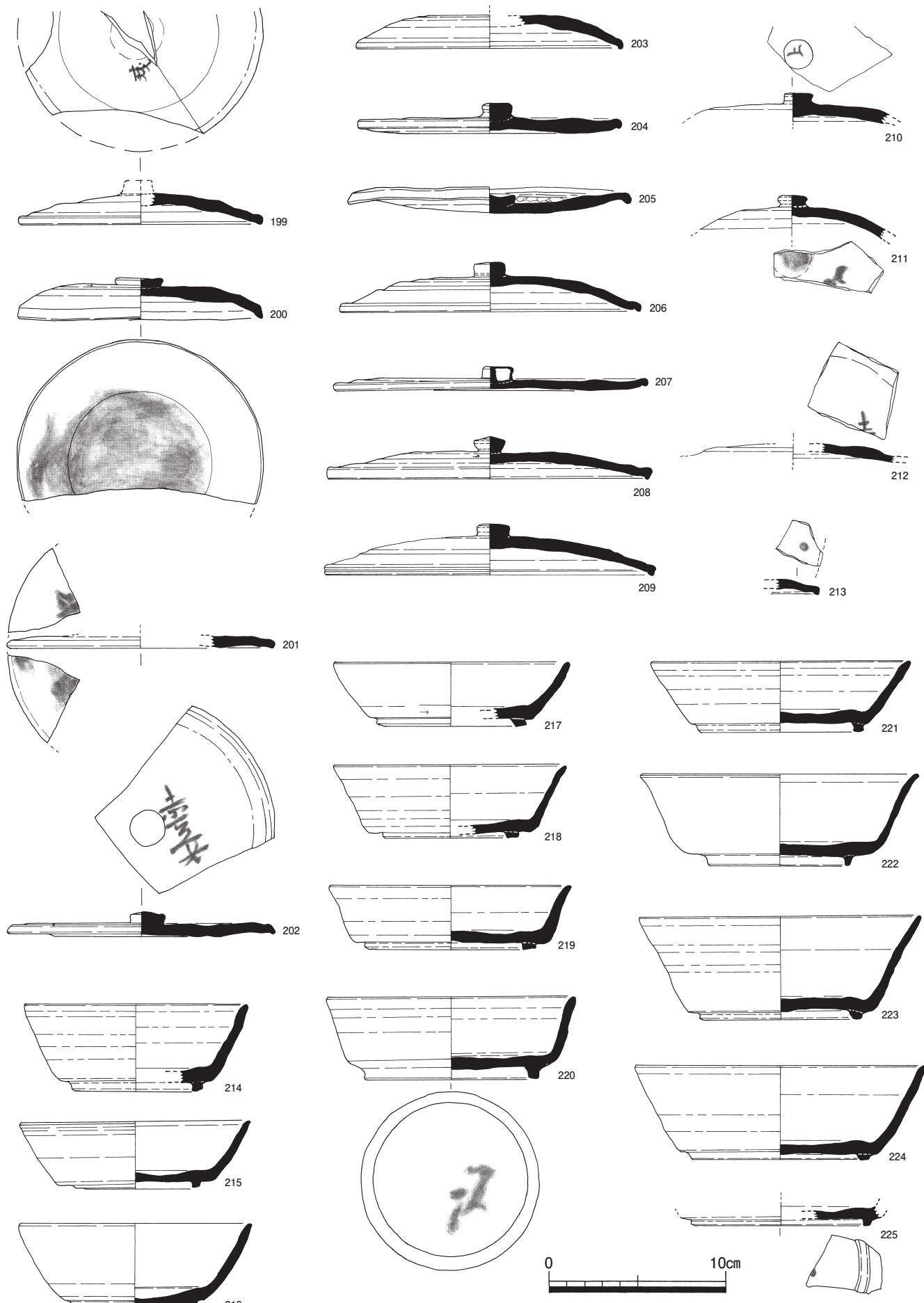


Fig.25 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/3)

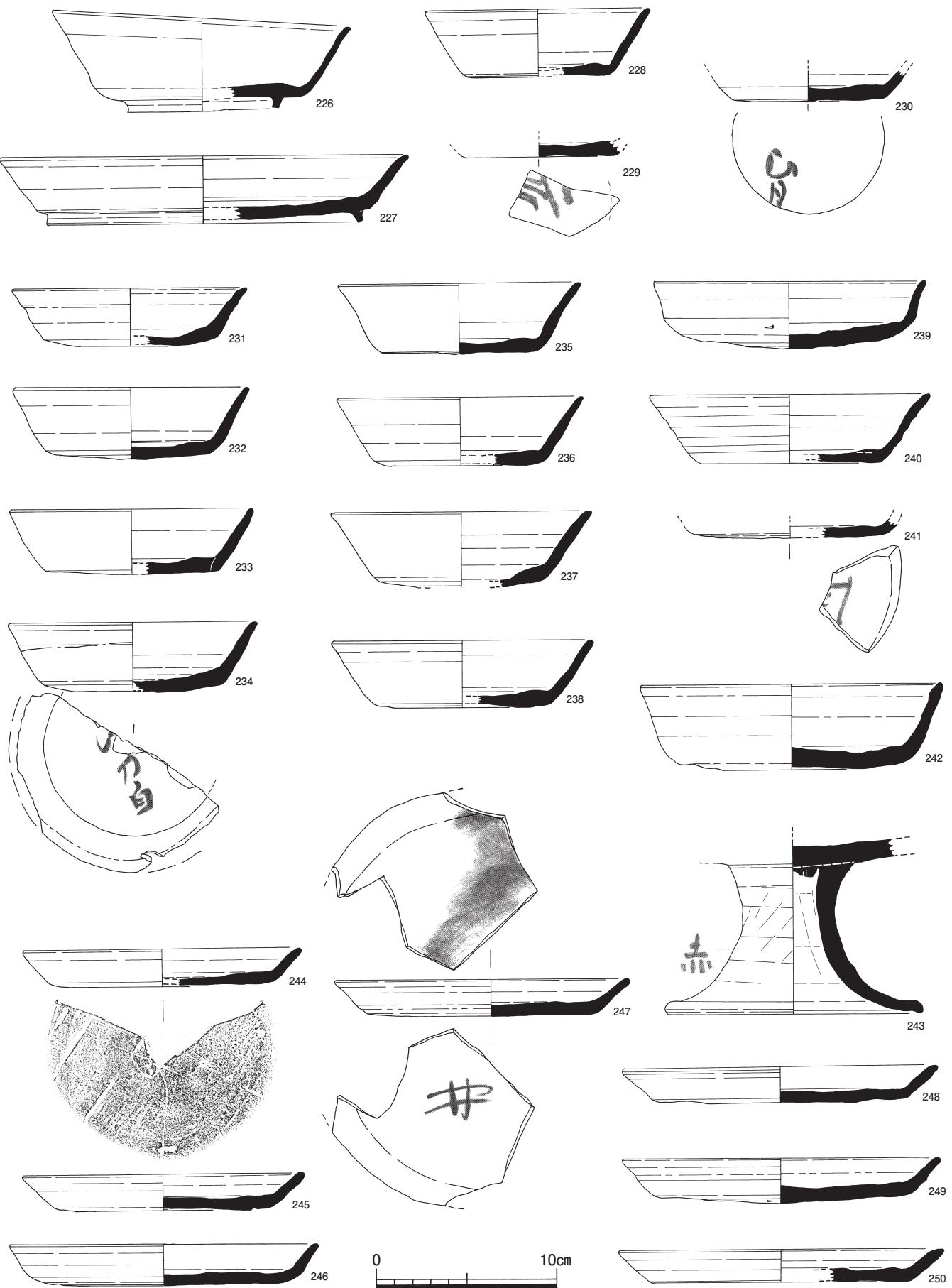


Fig.26 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/3)

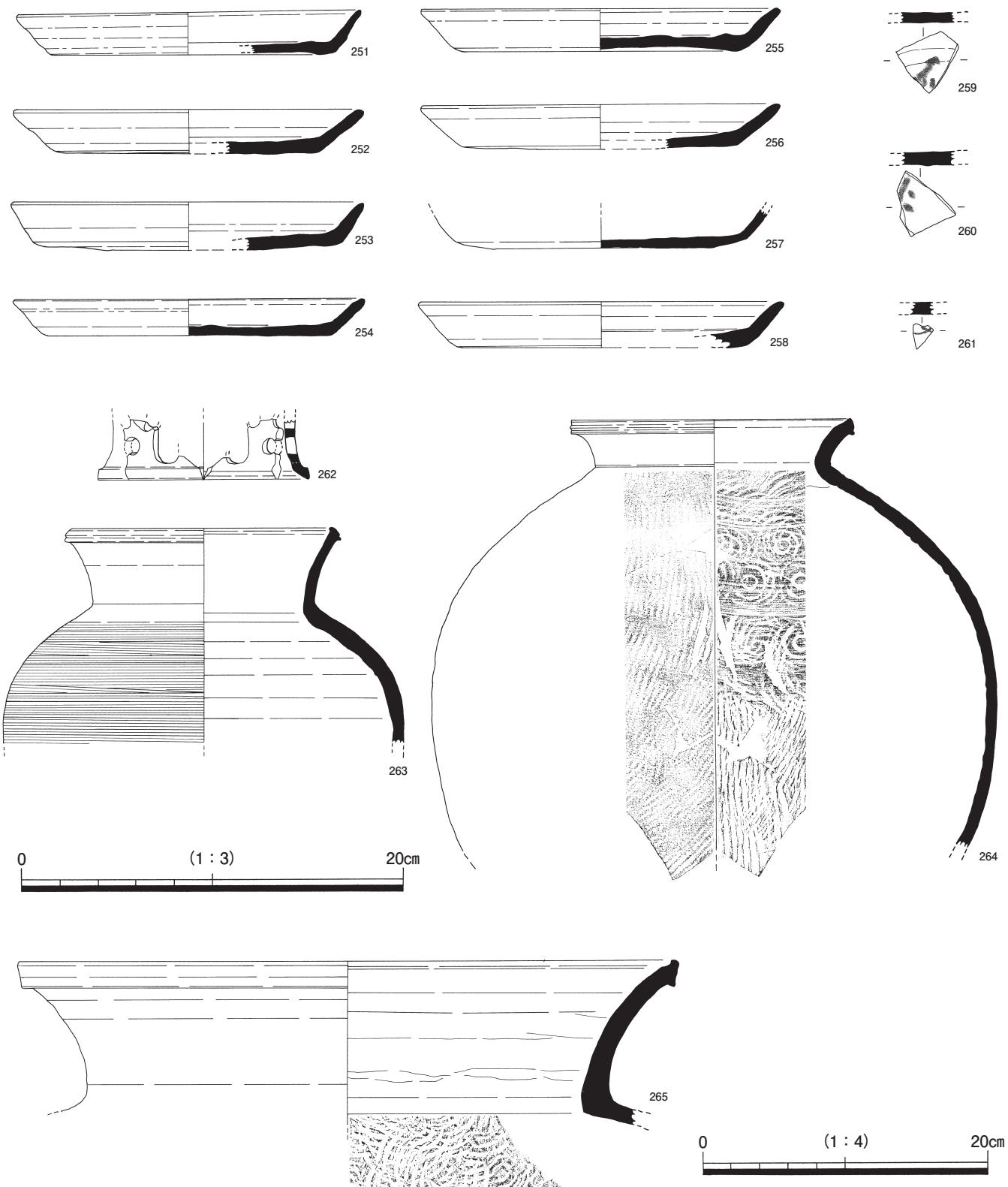


Fig.27 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

る。内面には墨痕があり、外底部には墨書がみられる。318は土師器高坏坏部である。319は手づくねの甕である。

南谷部(北側)最下層 (Fig.7) 南谷部(北側)で黒色土層より下層部分

出土遺物(Fig.31~34、PL37~40) 320~329は須恵器蓋である。324の天井部外面には「上」の

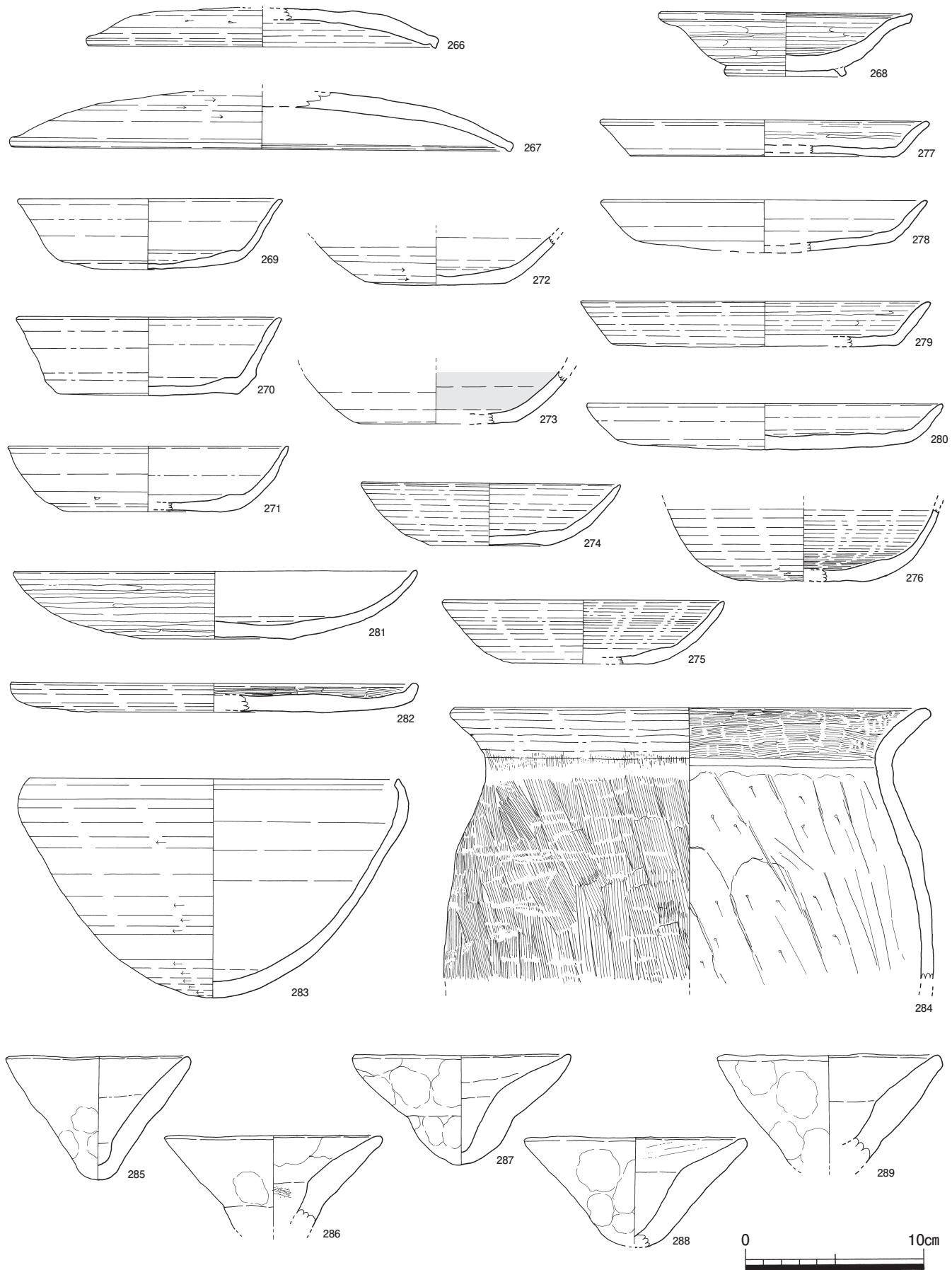


Fig.28 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/3)

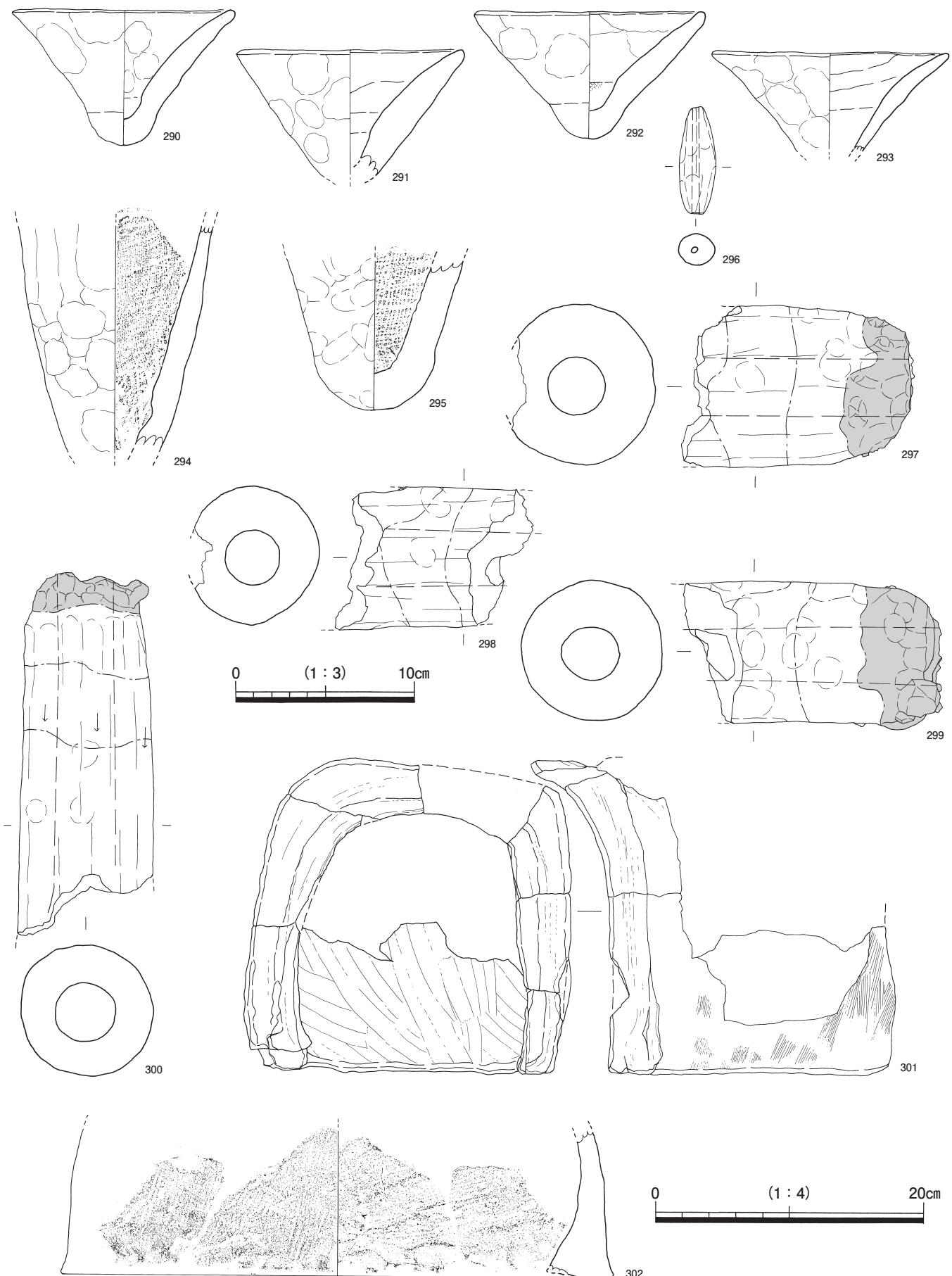


Fig.29 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

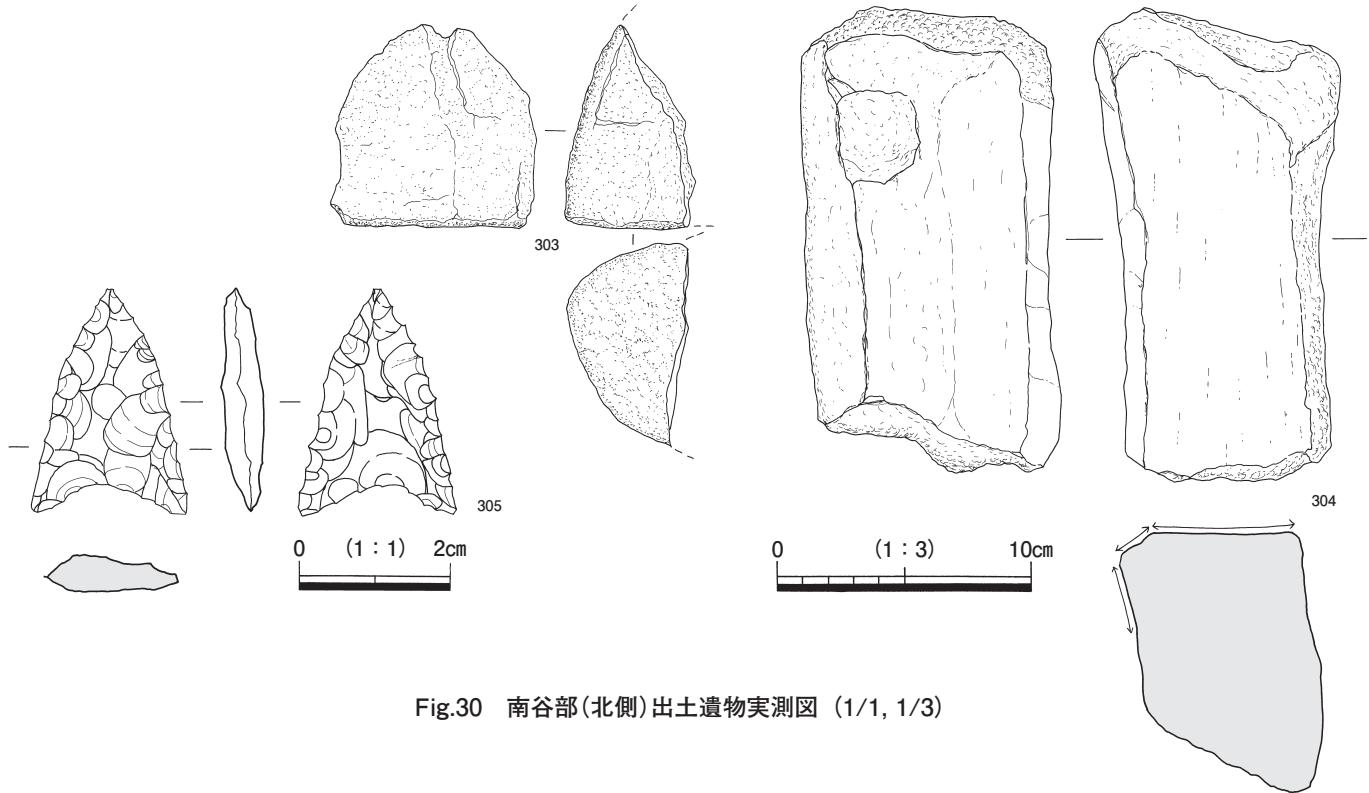


Fig.30 南谷部(北側)出土遺物実測図 (1/1, 1/3)

字が墨書されている。330～341は須恵器の高台付壺と皿である。330の高台内には「上」の墨書がみられる。331の高台内には判読できないが一字が墨書されている。337は高台内に「志豆女」の墨書がある。復元口径19.9cmのやや大型の340高台内には「出」の一字が墨書されている。342は須恵器無高台壺であり、外底部に「田原」の墨書がみられる。343～347は須恵器の皿である。343の外底部には「志□□」の墨書が、347の外底部にも判読できない字の墨書と内面に墨痕がそれぞれみられる。348は須恵器の脚付壺で体部下にヘラ記号がみられる。349は北谷部溜りから出土した125と接合した須恵器広口鉢である。350は須恵器鉄鉢の口縁破片。351は須恵器の甕。352～354は土師器の蓋である。355,356は土師器高台付壺と皿である。357は被熱により器表面が発泡している須恵器壺である。358は土師器皿。359は土師器鉄鉢。360は土師器小型の高壺。361は土師器短頸壺。362～364は土師器甕。365は焼塩壺。366,367は土錘。368～371は羽口。372は移動式カマドである。

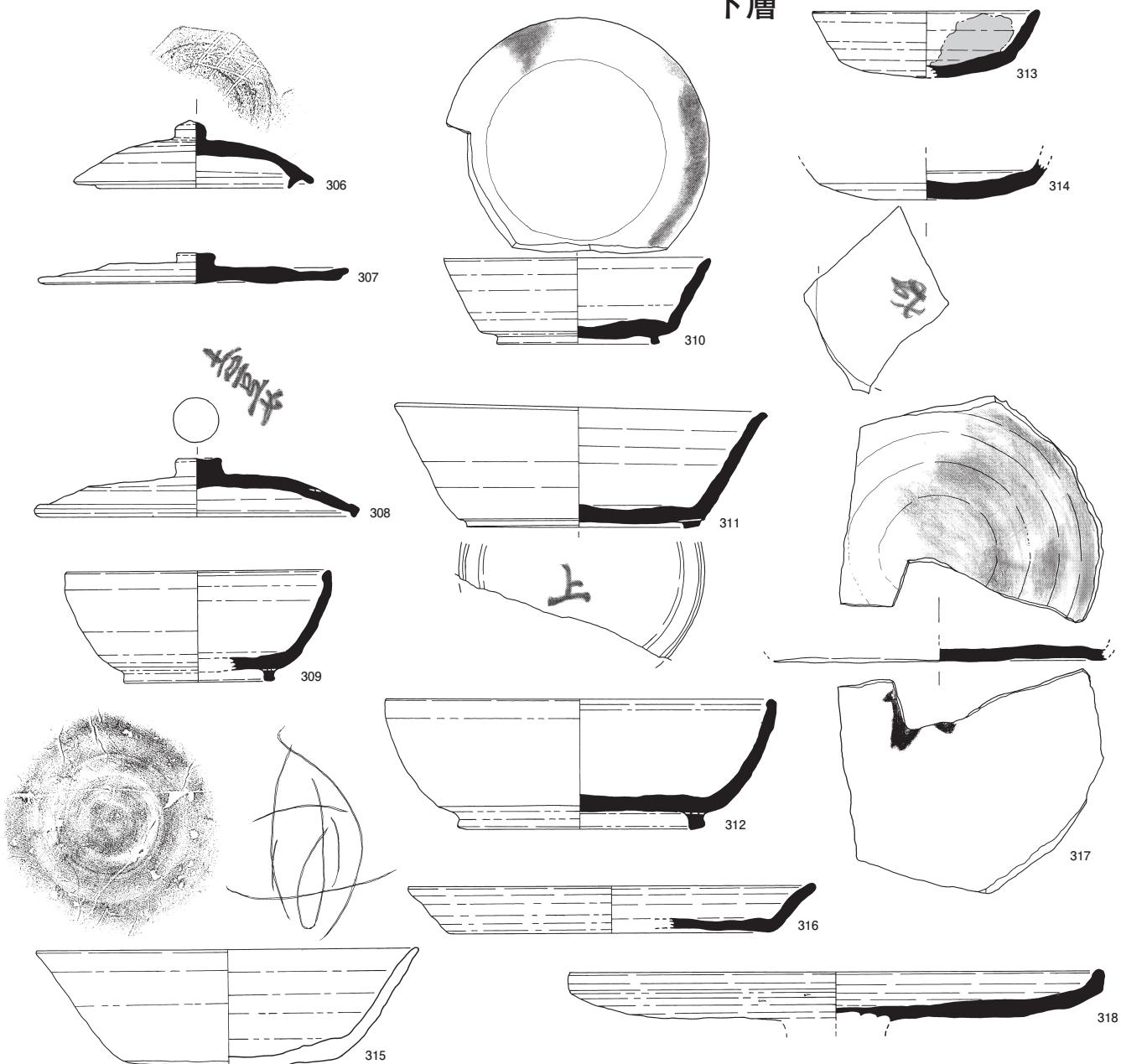
南谷部ベルト (Fig.21) 土層観察用ベルト黒色土層までの部分

出土遺物(Fig.35、PL.40) 373は須恵器の高台付壺。374は土師器の無高台壺である。復元口径13.8cmの須恵器無高台壺375の内面には墨痕がみられる。376,377は須恵器皿である。376の外底部には墨書がみられる。378は須恵器の短頸壺。379は復元底径19.8cmの円面窺である。380～382は土錘。383は羽口である。

南谷部ベルト黒色土 (Fig.21) 土層観察用ベルト黒色土層

出土遺物(Fig.35,36、PL.40,41) 384は土師器の蓋である。385～388は須恵器の高台付壺である。389～392は須恵器無高台壺である。復元口径13.2cmの391外底部には「上」の墨書がある。393は底径6.8cmの土師器壺である。内面には墨痕、外底部には判読できないが2文字と考えられる墨書がみられる。394は須恵器の皿である。395は土師器壺の破片である。器壁内面に「金」の字が焼成後に針書きされている。396は器種不明の須恵器片であり、墨書がみられる。397は土師器の蓋で、天井部外面にヘラ記号が刻まれている。398は復元口径38.2cmの須恵器甕である。

下層



最下層

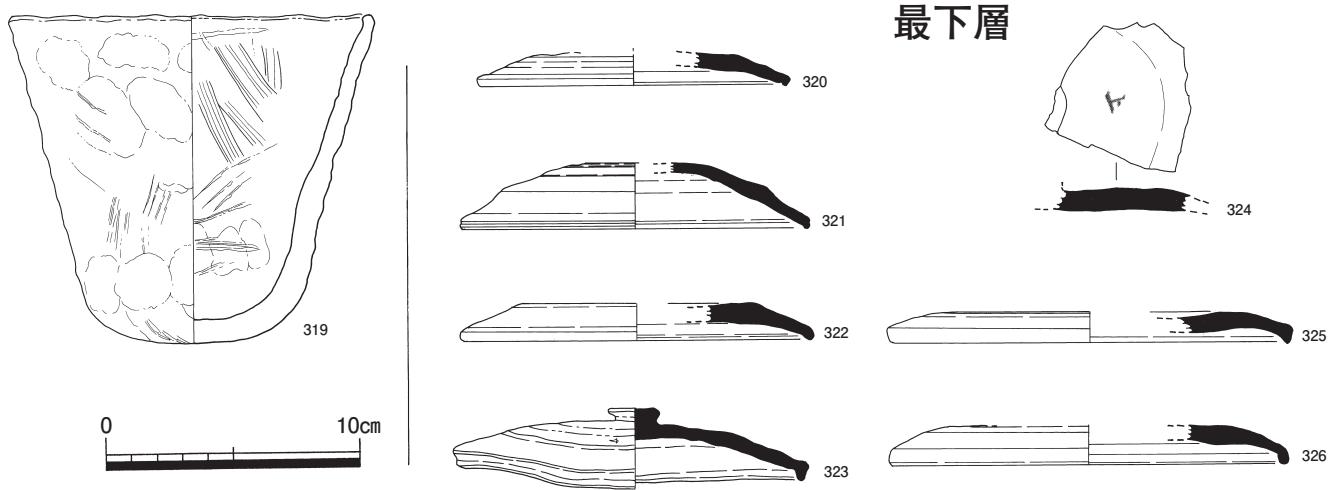


Fig.31 南谷部(北側)下層, 最下層出土遺物実測図 (1/3)

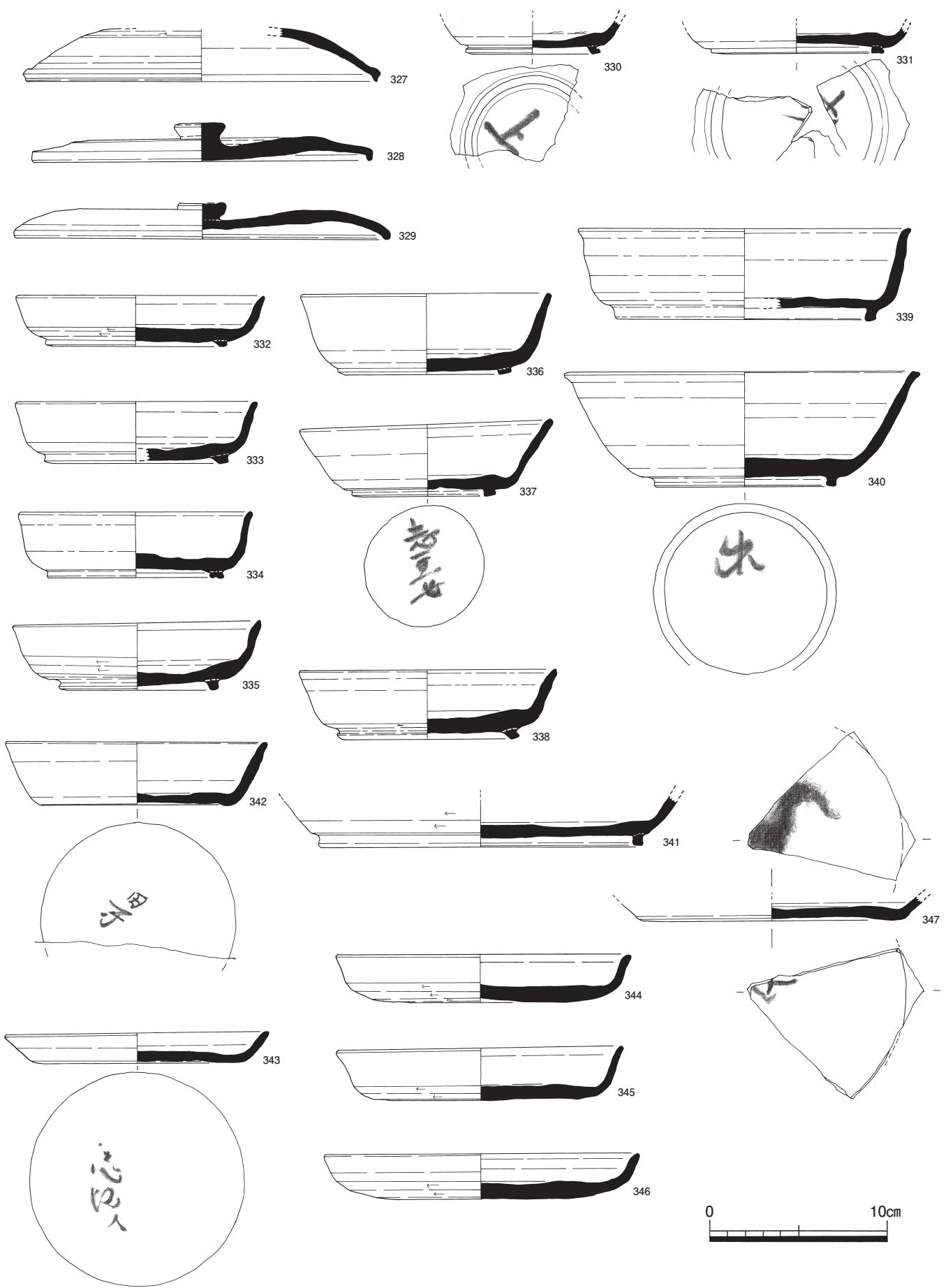


Fig.32 南谷部(北側)最下層出土遺物実測図 (1/3)

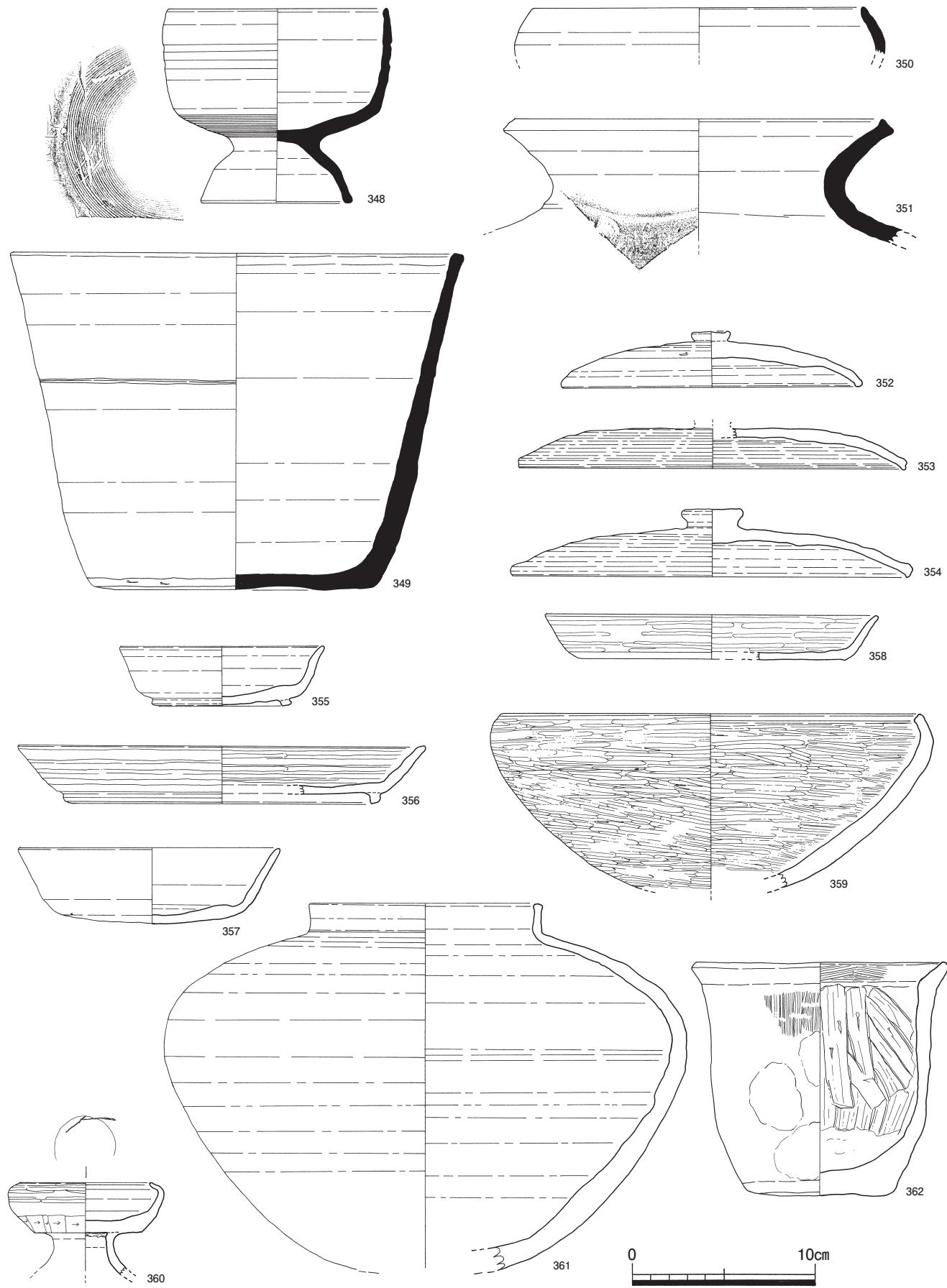


Fig.33 南谷部(北側)最下層出土遺物実測図 (1/3)

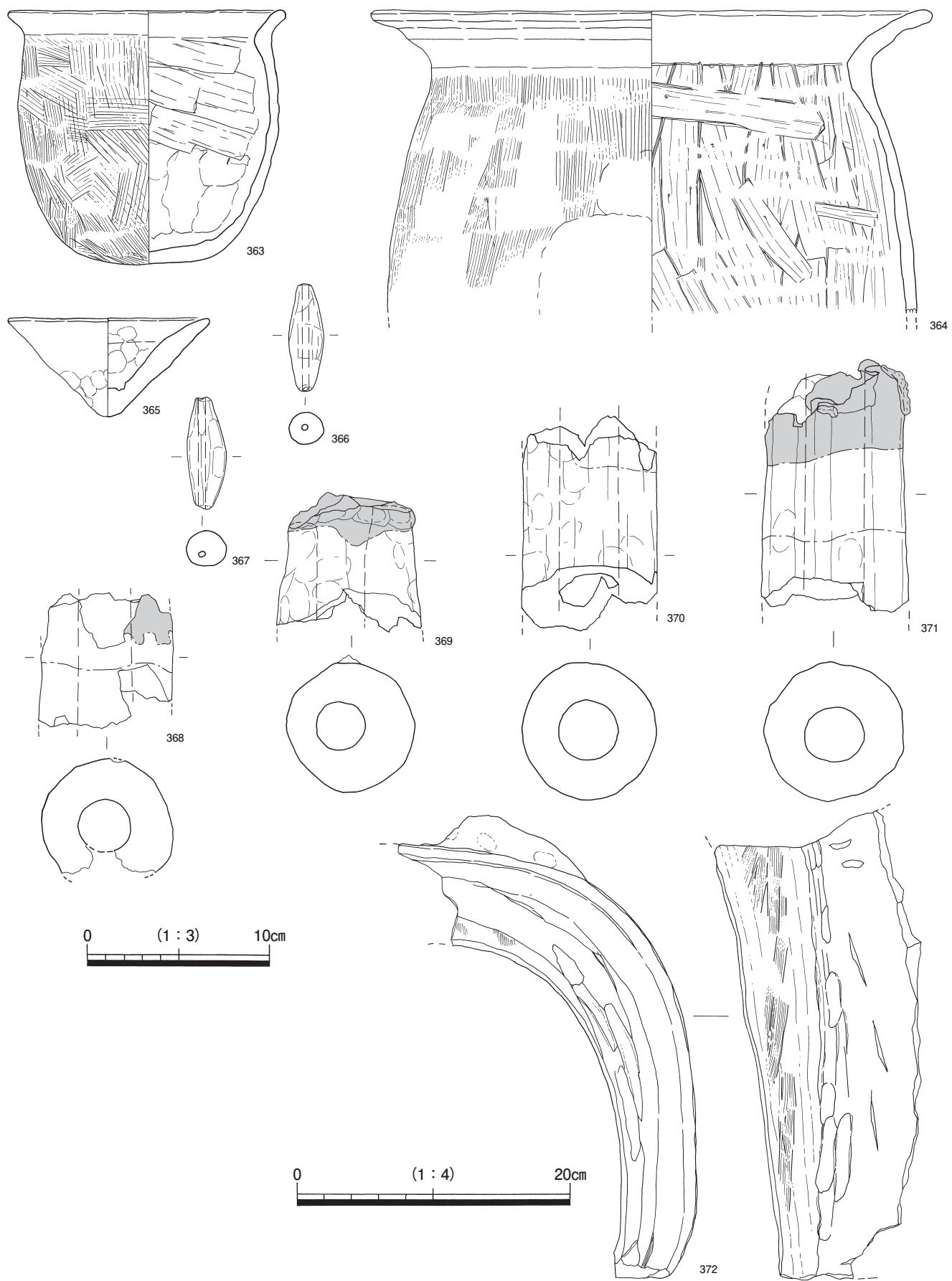
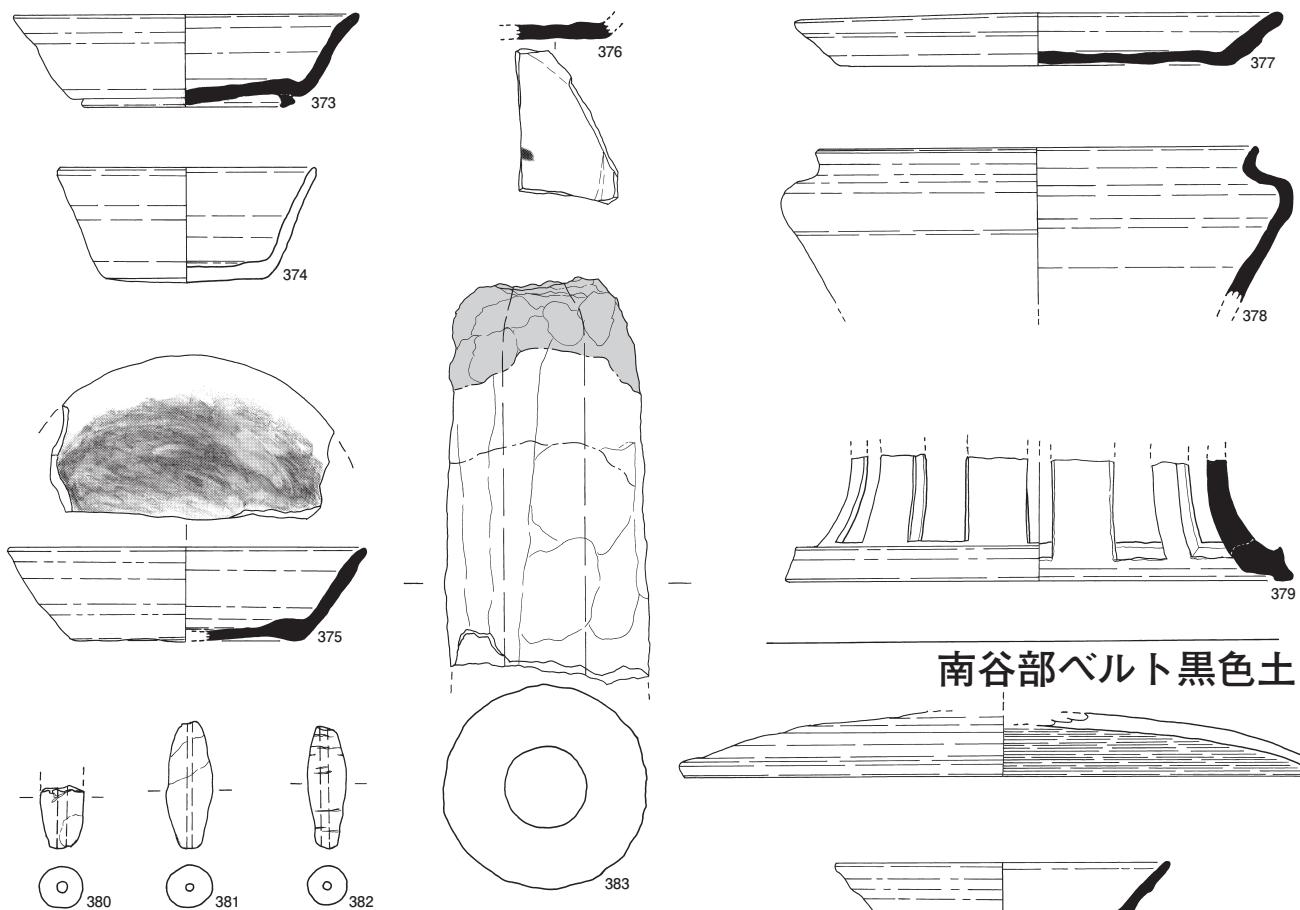


Fig.34 南谷部(北側)最下層出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

南谷部ベルト



南谷部ベルト黒色土

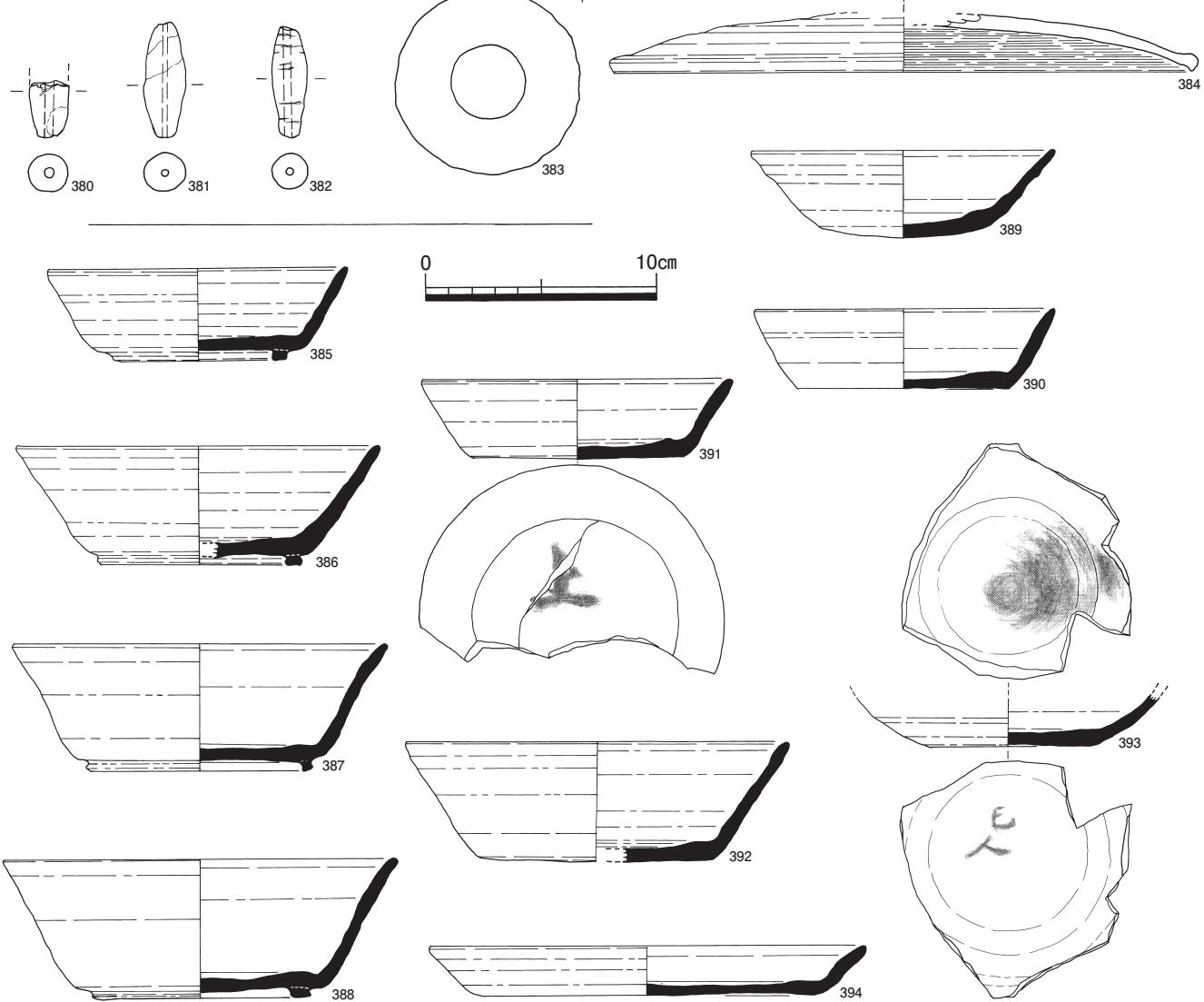


Fig.35 南谷部ベルト、南谷部ベルト黒色土出土遺物実測図(1/3)

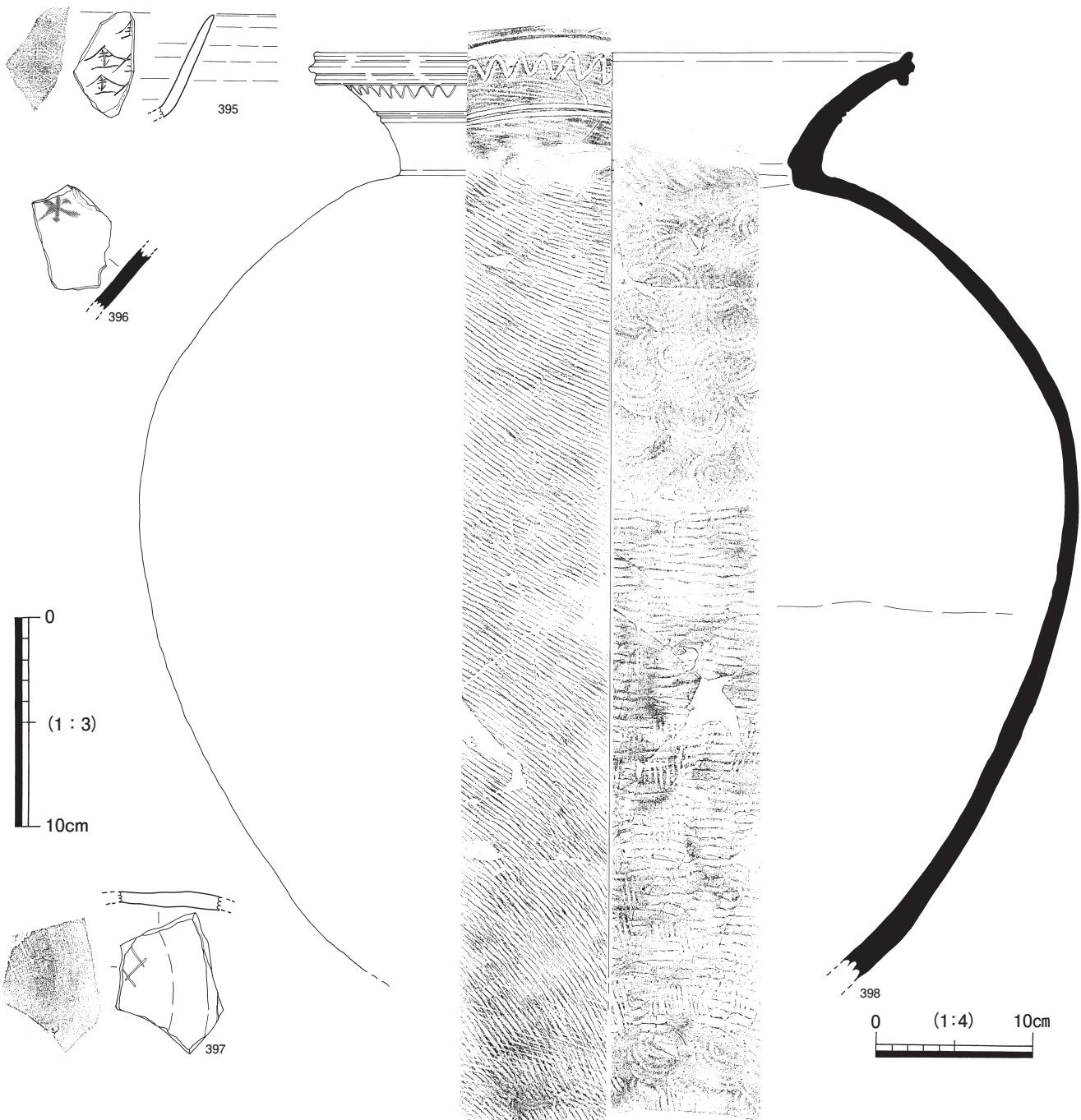


Fig.36 南谷部ベルト黒色土出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

南谷部(南側) (Fig.7) 南谷部内で、土層観察用ベルトより南側部分

出土遺物(Fig.37~43、PL.41~49) 399~415は須恵器蓋である。399のつまみ上には「田」の字が墨書される。406,407には墨痕がみられる。409の内面には判読できない字が墨書されている。414の天井部にも墨書がみられる。415の内面には墨痕がみられる。416~430は須恵器高台付壺である。418,429の高台内には墨痕がみられ、428の高台内には「主」の字が墨書され、430の高台内にも判読できないが字の墨書がみられる。431~447は須恵器無高台壺である。432の外底部には「七月」、445,446,447の外底部には判読できないが墨書がみられる。437の内外面には墨痕がみられる。448~457は須恵器皿である。449には「志」が、457には「豆」の字が墨書されている。454,455には墨痕がみられる。458,459は須恵器円面硯の破片である。同一個体か。460は須恵器短頸壺。461は須恵器鉢か。462,464は甕。463は盤である。465は須恵器大型鉢である。466,467は土師

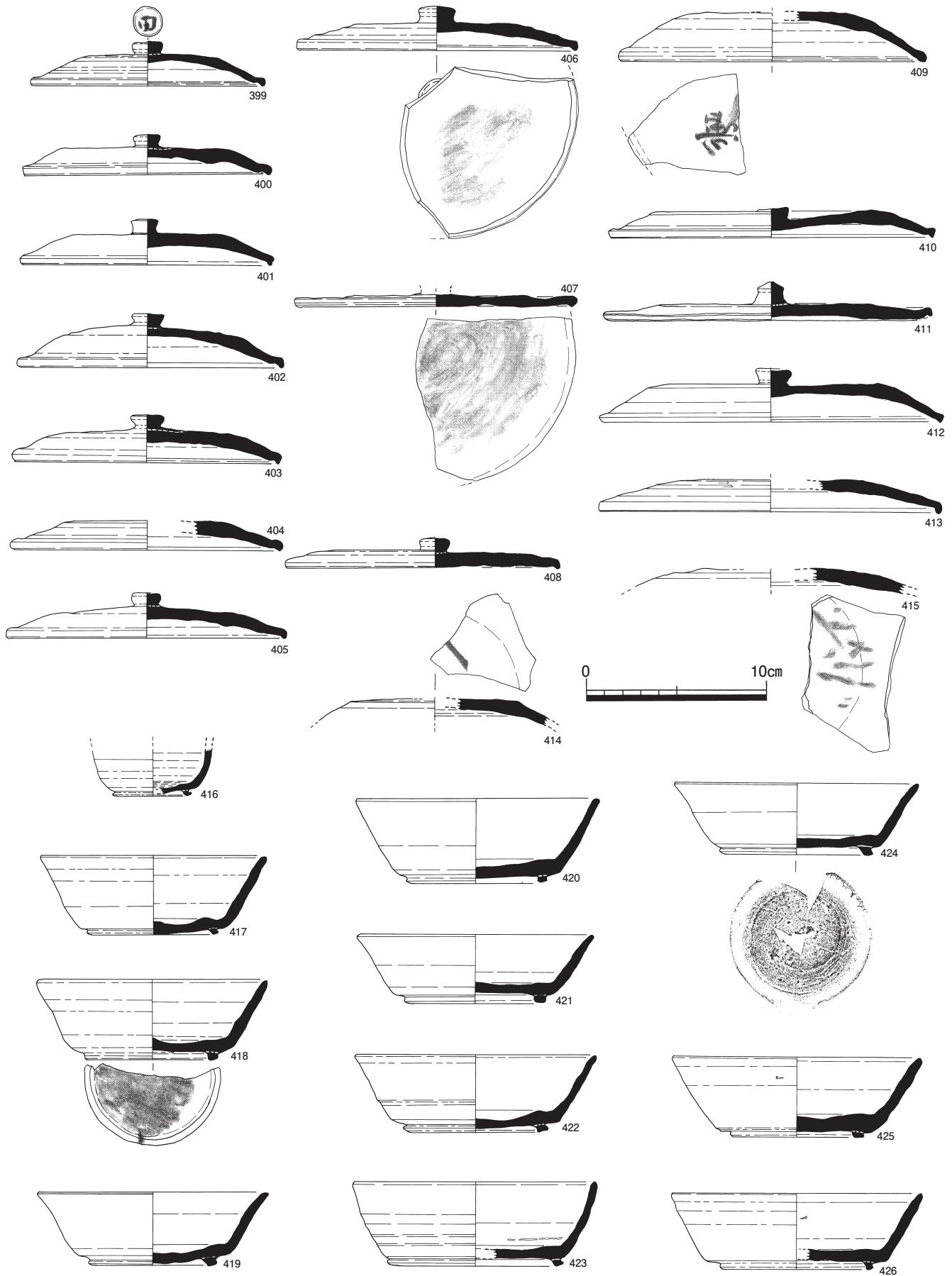


Fig.37 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3)

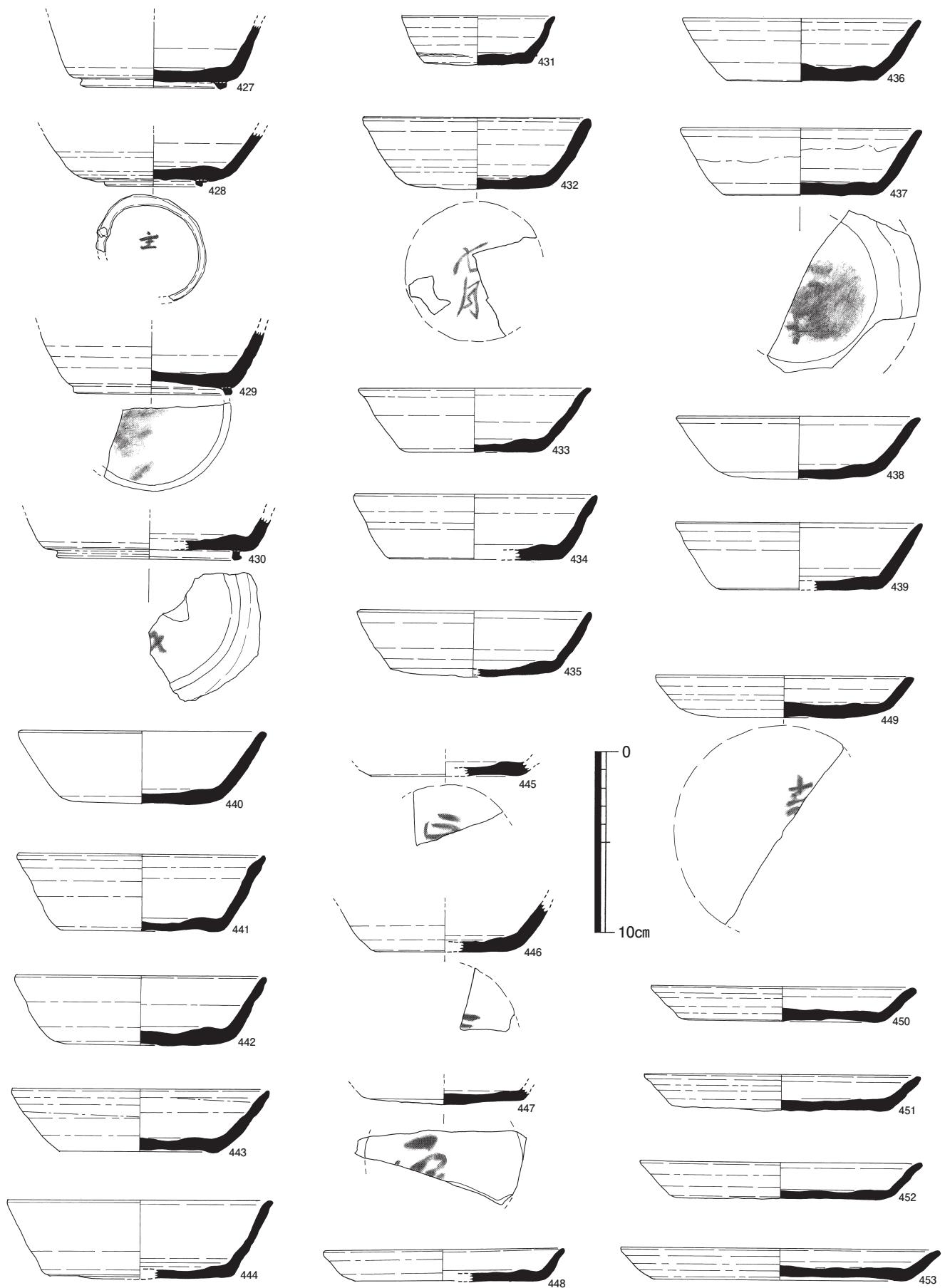


Fig.38 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3)

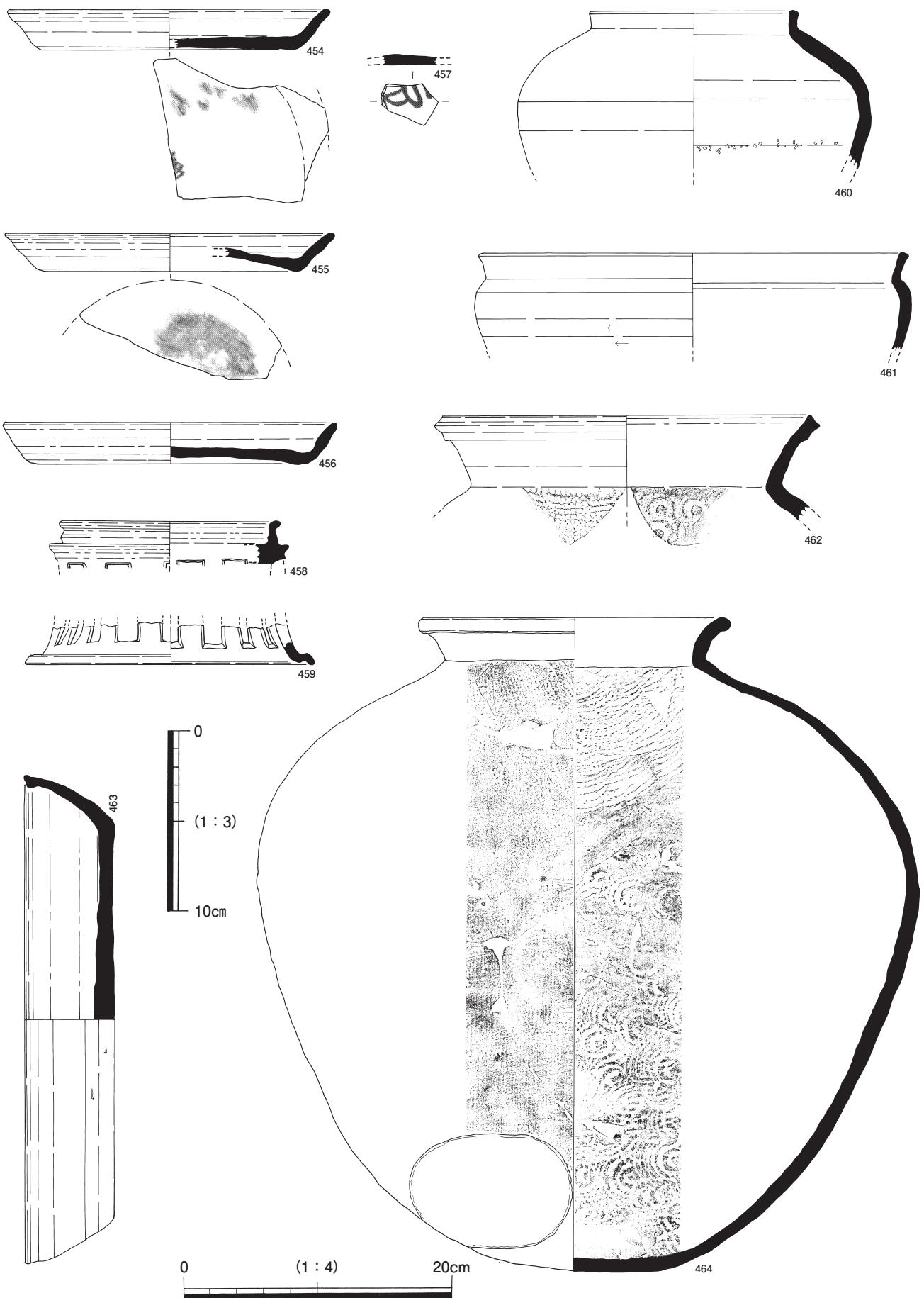


Fig.39 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

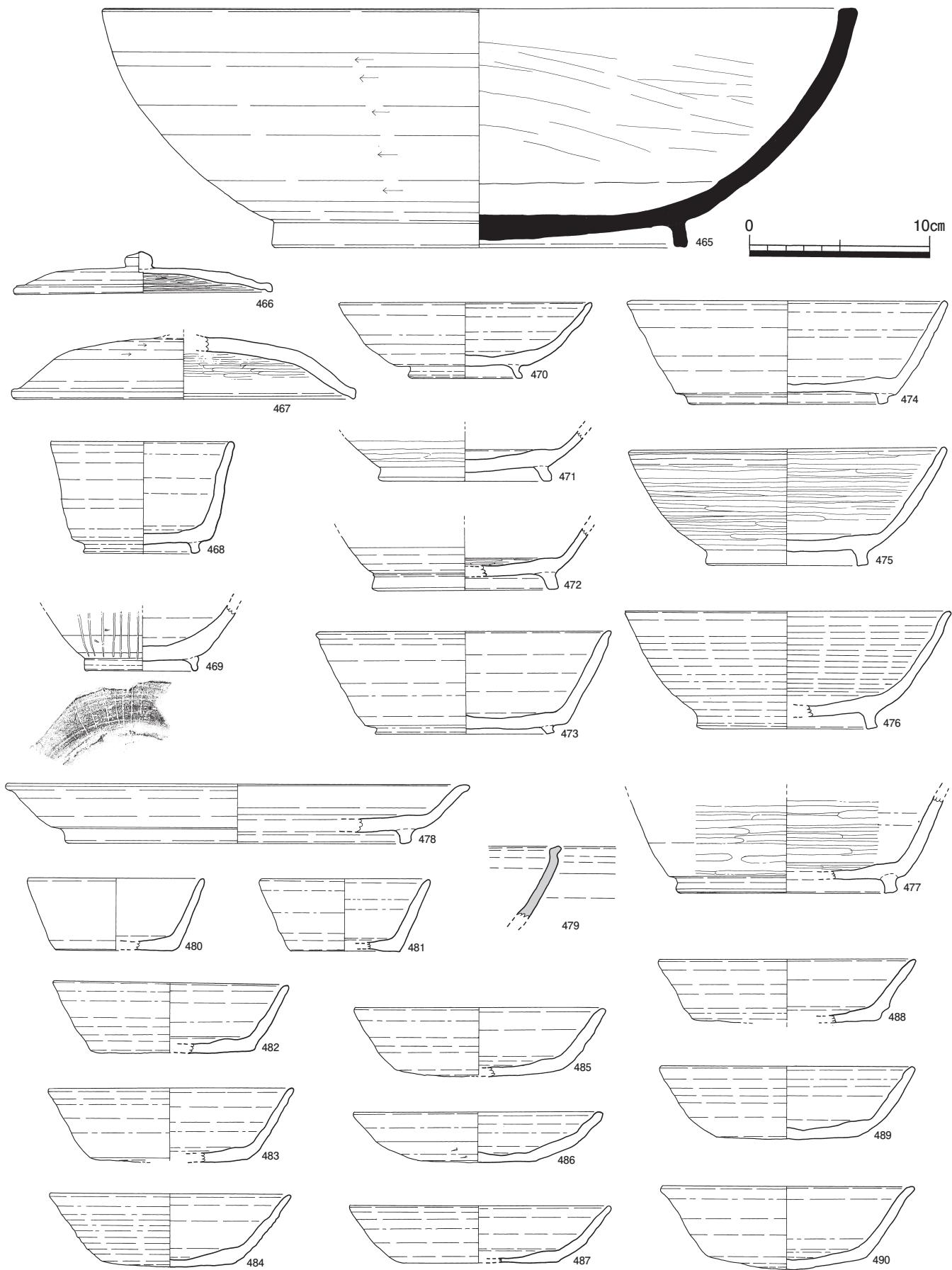


Fig.40 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3)

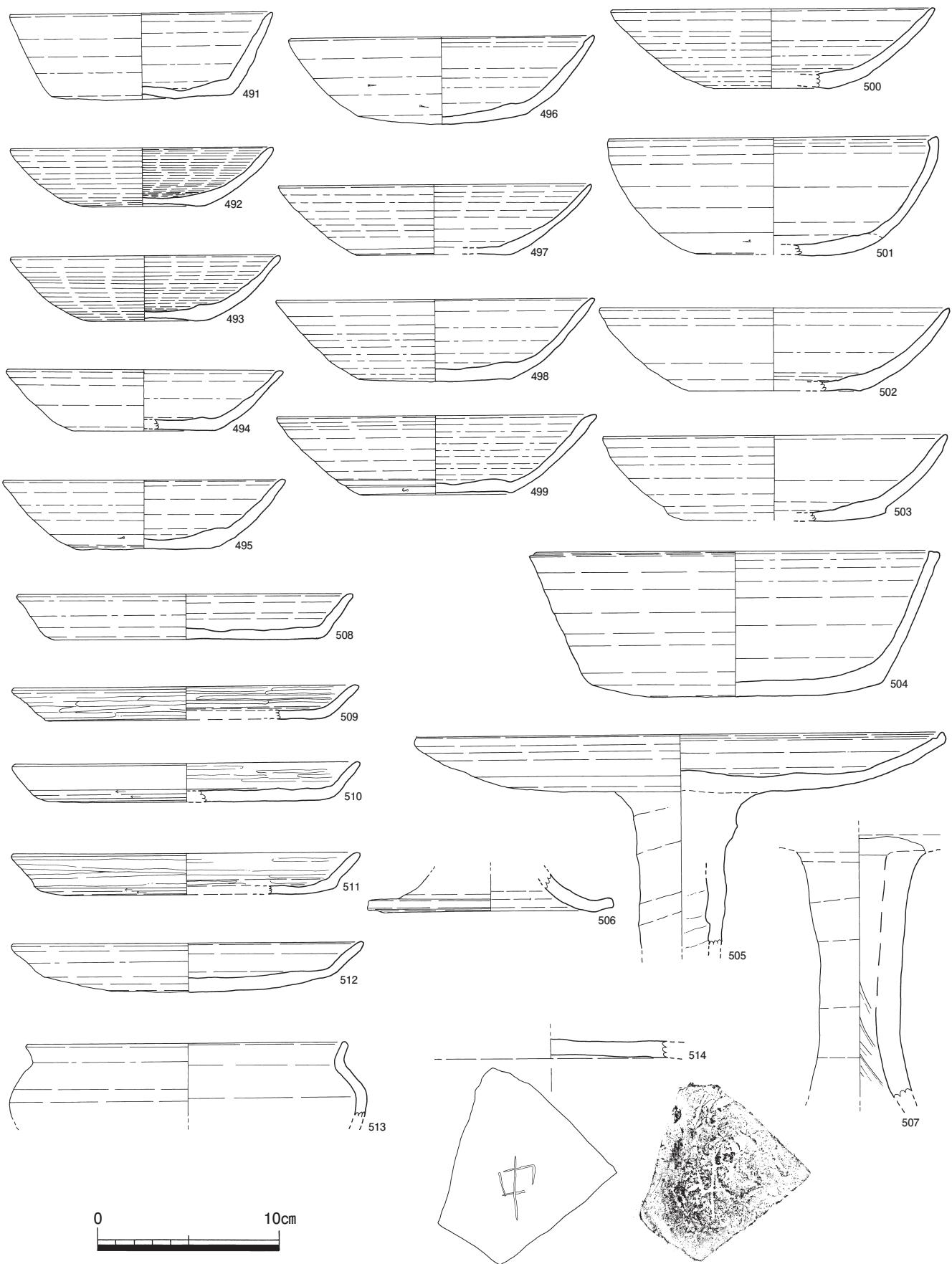


Fig.41 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3)

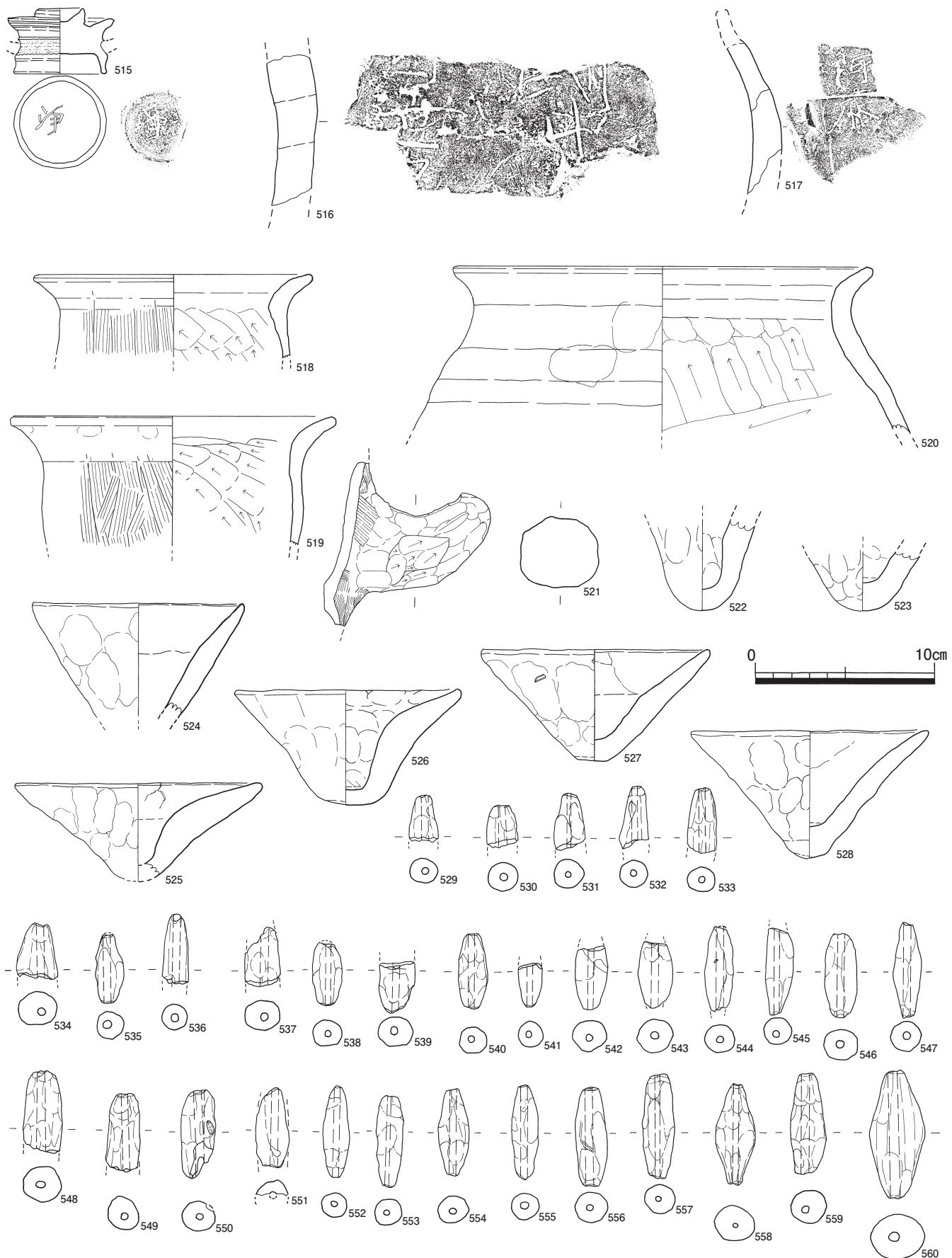
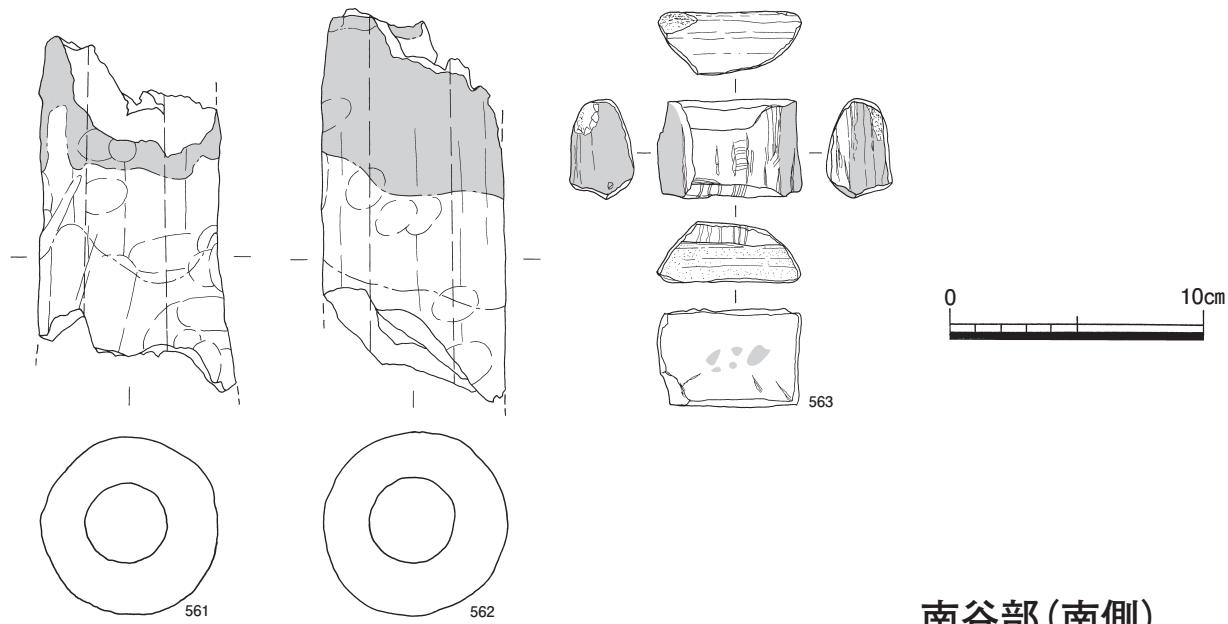
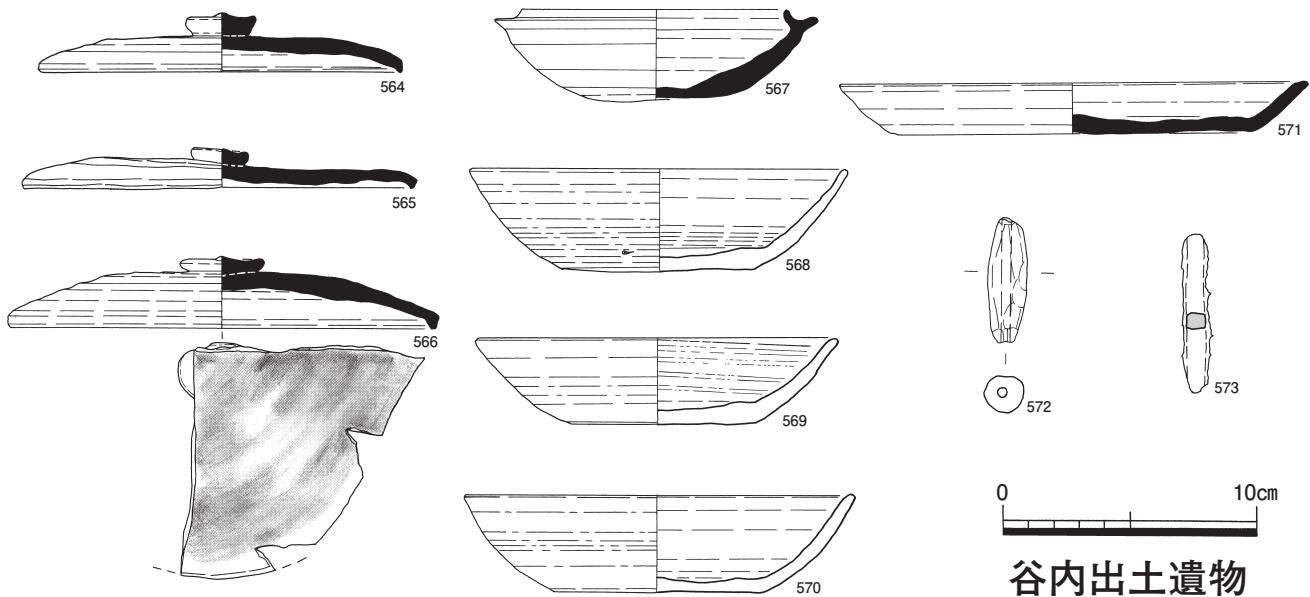


Fig.42 南谷部(南側)出土遺物実測図 (1/3)



南谷部(南側)



谷内出土遺物

Fig.43 南谷部(南側)、谷内出土遺物実測図 (1/3)

器蓋。468～478は土師器高台付の器種。469の外面には櫛目状の線刻がみられる。479は瓦質の土器片。480～504は土師器無高台坏。505～507は土師器高坏。508～512は土師器皿。513は土師器短頸壺。514は器種不明土器であり、外底部に「中」の焼成前線刻がみられる。515は托か。高台見込に「淨」の字が焼成前線刻されている。516,517は粘土帶巻上げの大型器種の破片であるが、焼成前に「□造」、「國中」、「阿麻」の字が刻まれている。518～520は甕である。521は把手。522～528は焼塩壺。529～560は土錘。561,562は羽口。563は小型の手持ち砥石状を呈しており、部分的に漆と思われる付着物がみられる。

その他の谷内出土遺物 (Fig.43、PL.49)

564～566は須恵器蓋。566の内面には墨痕がみられる。567はかえりのある坏身である。568～570は土師器無高台坏。571は須恵器皿である。572は土錘。573は釘と思われる鉄製品である。

木簡と木製品（巻頭図版、Fig.44～52、PL.52～56）

W001～W009には文字の墨書がみられる。W001は上下両端とも折れ、左右両辺とも割れているが、三行分が遺存しており一行目は割書となる。二行目には、「怡土城」の字がみられる。W002は上下両端とも折れ、下部で二つに折れている。人名が二名連ねられている。墨痕は比較的鮮明である。W003の上端は折れており、下部で二つに折れている。表面には二名の人名が連ねられ、裏面最下部に郡名が書かれる。郡名だけを裏面の最下部に記す書式には違和感があるが、木簡上部を束ねた状態で検索するには、有用かと考えられる。W004は上端の一部を欠く荷札木簡である。墨痕は不鮮明である。二文字目「マ」の字が「ア」に近く、やや古い様相を示す。また、「三斗」の上の字は「塩」、「米」ではなく、人名+三斗と思われる。下端の孔は径が小さく、穿孔痕跡がみられず人為的なものではない。W005は上端が折れている。下部には紐通しと考えられる孔がみられる。両面に墨痕が認められるが、裏面は木簡に対して左に寄せて書かれており、木簡使用後の習書の可能性も考えられる。W006の上下両端は折れており、左辺は年輪に沿って割れた可能性がある。両面に比較的鮮明な墨痕がみられる。W007の上端は折れ、下端は焼失している。焼失部の側面も炭化していることから、被熱時には既にこの形状であったことがわかる。表面は「足足足」の習書か。W008は緩く湾曲した縁辺に沿って、2孔1対の穿孔がみられることから、折敷の底板の一部であることがわかる。両面に墨書がみられ、転用されたものと考えられる。表面一文字目は「禾」(のぎへん)の字であり、二文字目のつくりは「皮」である。W009は上端の一部を欠失するが、上端は削っている。「延歴（暦）十年」(791)の紀年は左に寄せて書かれている。

W010はグリップ形を呈する人形木製品と考えられている祭祀具である。W013,W015,W016, W027,W042の計6点同様のものが出土している。W011は不明木製品。W012は編錘か。W014は祭祀具でもある丸木弓の弭である。W017は中央にホゾ孔がみられ、部材の一部と思われる。W018は曲物の側板である。曲物では他にW020,W021,W030,W031,W034,W035,W036,W037, W039,W045,W046, W048,W054,W055,W056,W057,W060,W061,W063があり出土木製品の割合の多くを占めている。曲物には、底板と側板の結合には樹皮を使用するものと、木釘を使用するものとがある。またW063のように底板を樹皮で繋ぎ、幅61cm、長さはそれ以上になると考えられる大型のものもあったようである。底板にはヒノキ、スギ、モミ属などの樹種が使われており、片面には刃物痕がみられるものが多い。W019は何かの部材。W022は先端の扁平部が被熱していることから、灯明皿の中の芯を扱うためのものか。W023は扁平な棒状の上位に切込みをいれ、小型の人形を呈するもので、W024,W047なども同様のものである。W053も人形を呈するが、ややタイプが異なるようである。W026はカシ材の鋤である。刃部は非対称の状態で使用されており、建物の柱穴など小径の深い穴を掘削するには、このような道具が使用されていたと考えられる。W025はケヤキ白木の剖物で精緻に製作されている。天地さえ不明であり、ヒノキの木栓が付く。W029はカエデ属の厚い木胎に黒漆を塗っているものである。内面は白木のままで緩やかに湾曲しており、冑の可能性も考えられる。W032は器物の脚と思われる。W040は小型の製品で、一端に小孔があけられている。W049は工具の柄である。W051,W052は棒状を呈する、部材の一部である。W059は横槌で、槌部が使用のため摩滅している。W062は器の底板と思われ、剖物の側板と組み合わさるものと考えられる。W064は、谷内に遺存していたマツ属の柱材で直立した状態で確認された。水面に張り出す掛け造り建物の存在を裏付ける。

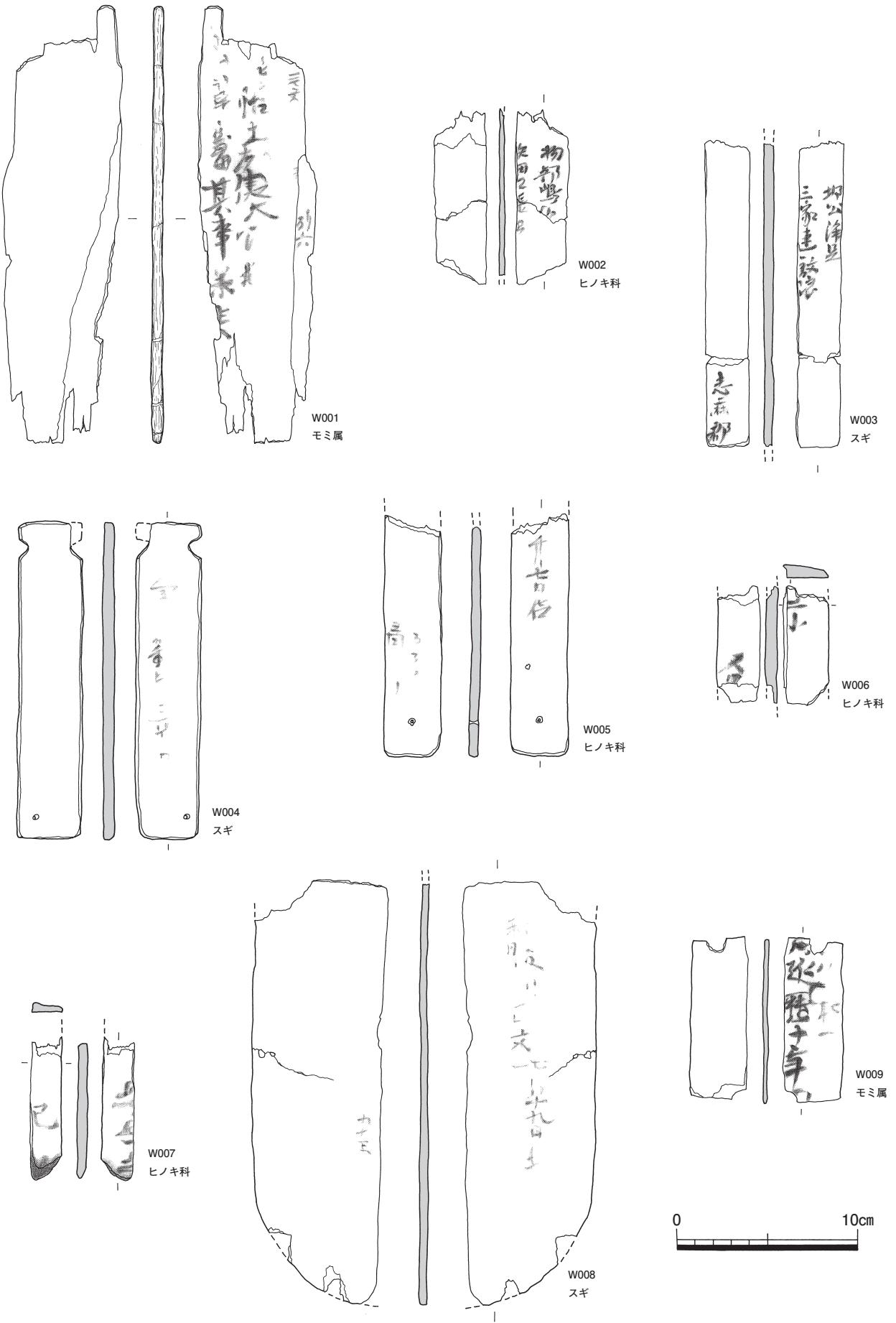


Fig.44 谷内出土木製品実測図 (1/3)

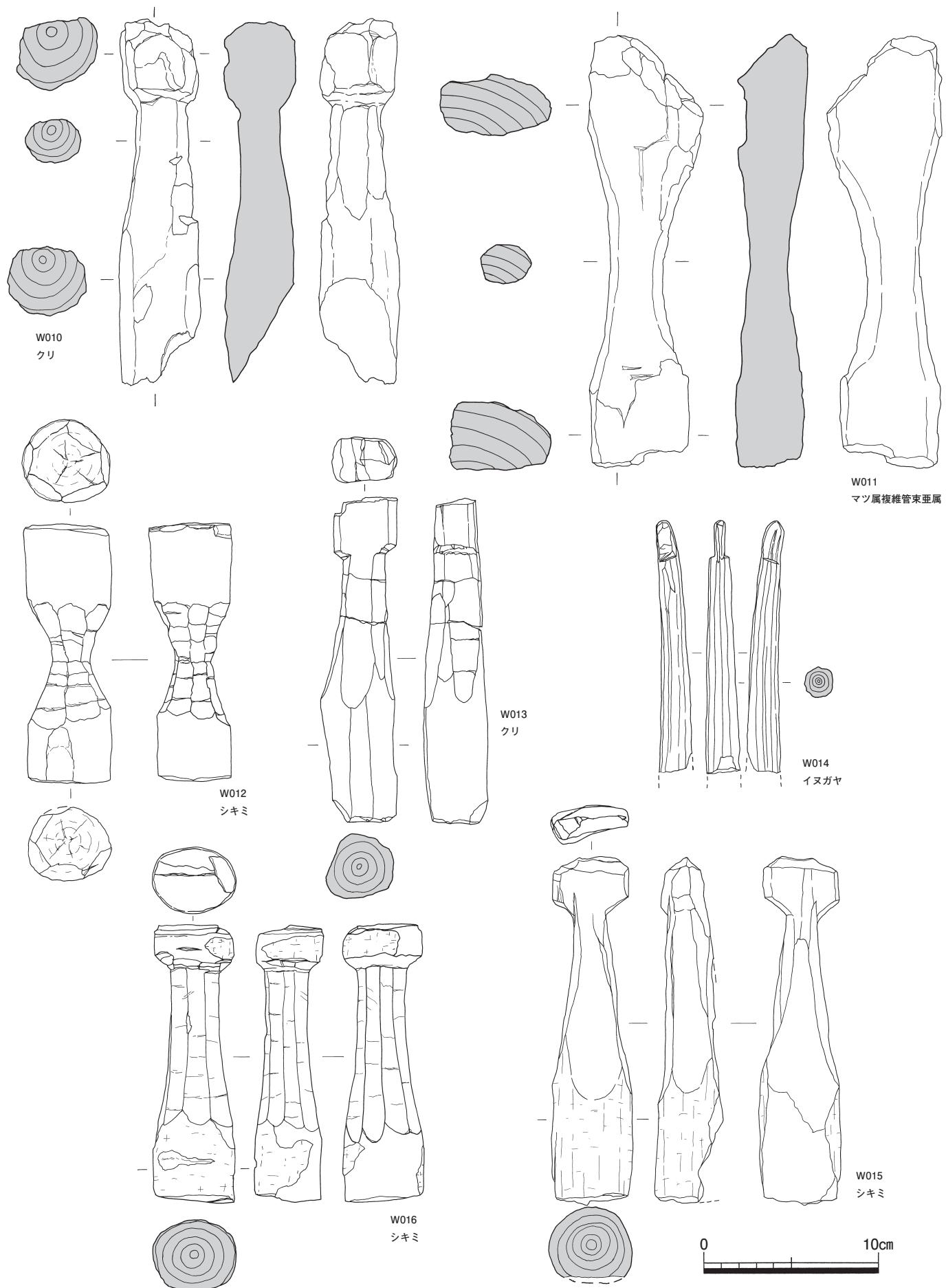


Fig.45 谷内出土木製品実測図 (1/3)

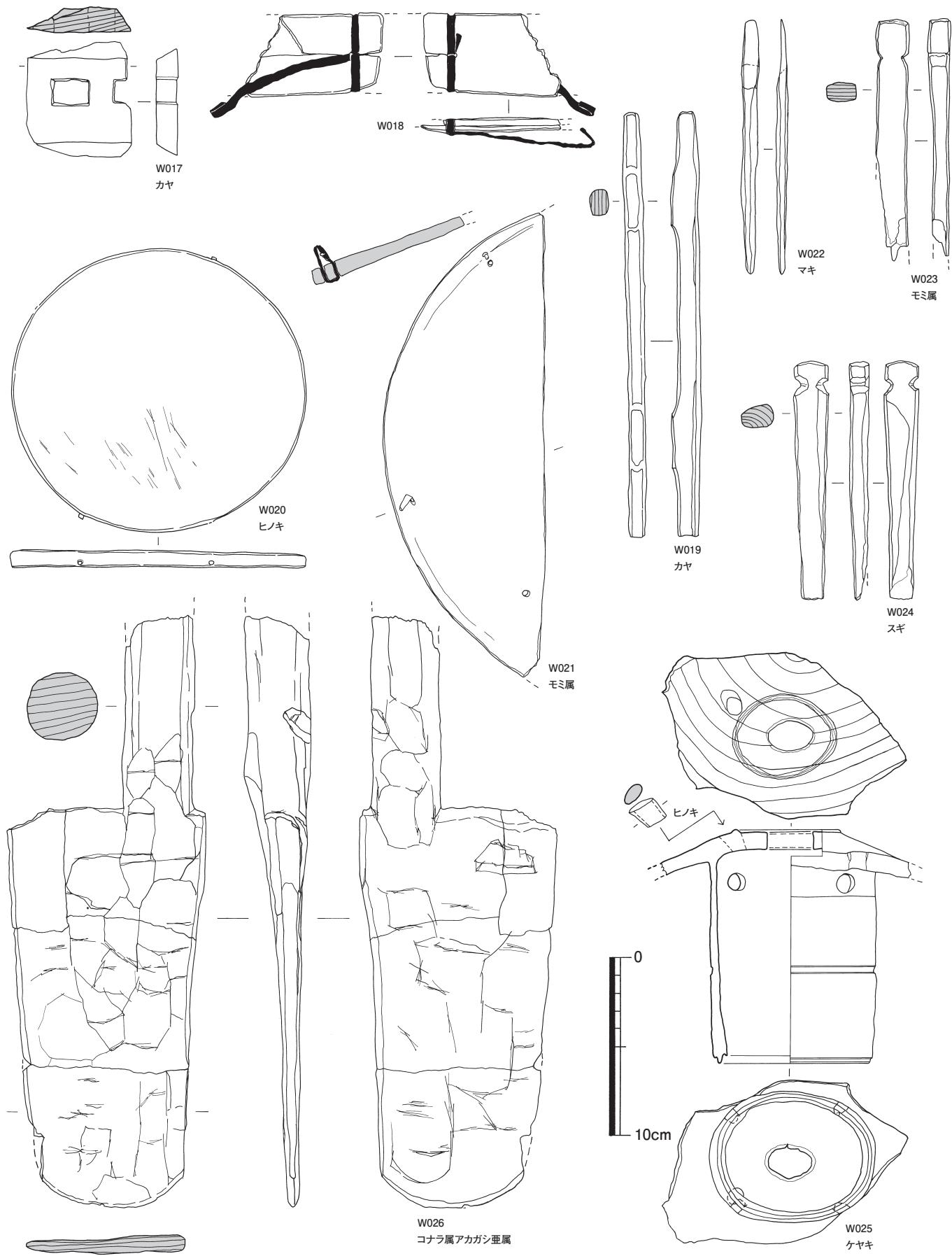


Fig.46 谷内出土木製品実測図 (1/3)

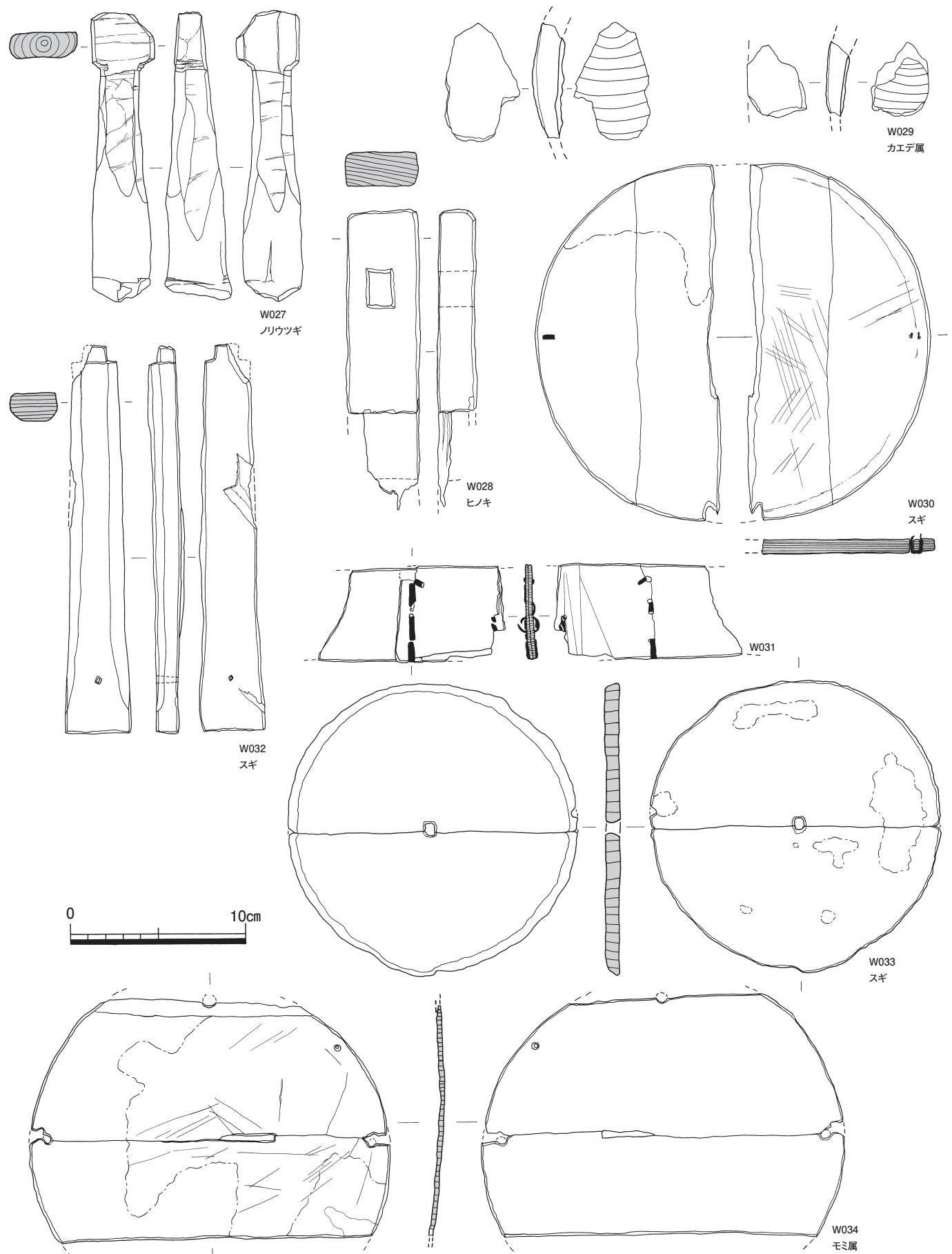


Fig.47 谷内出土木製品実測図 (1/3)

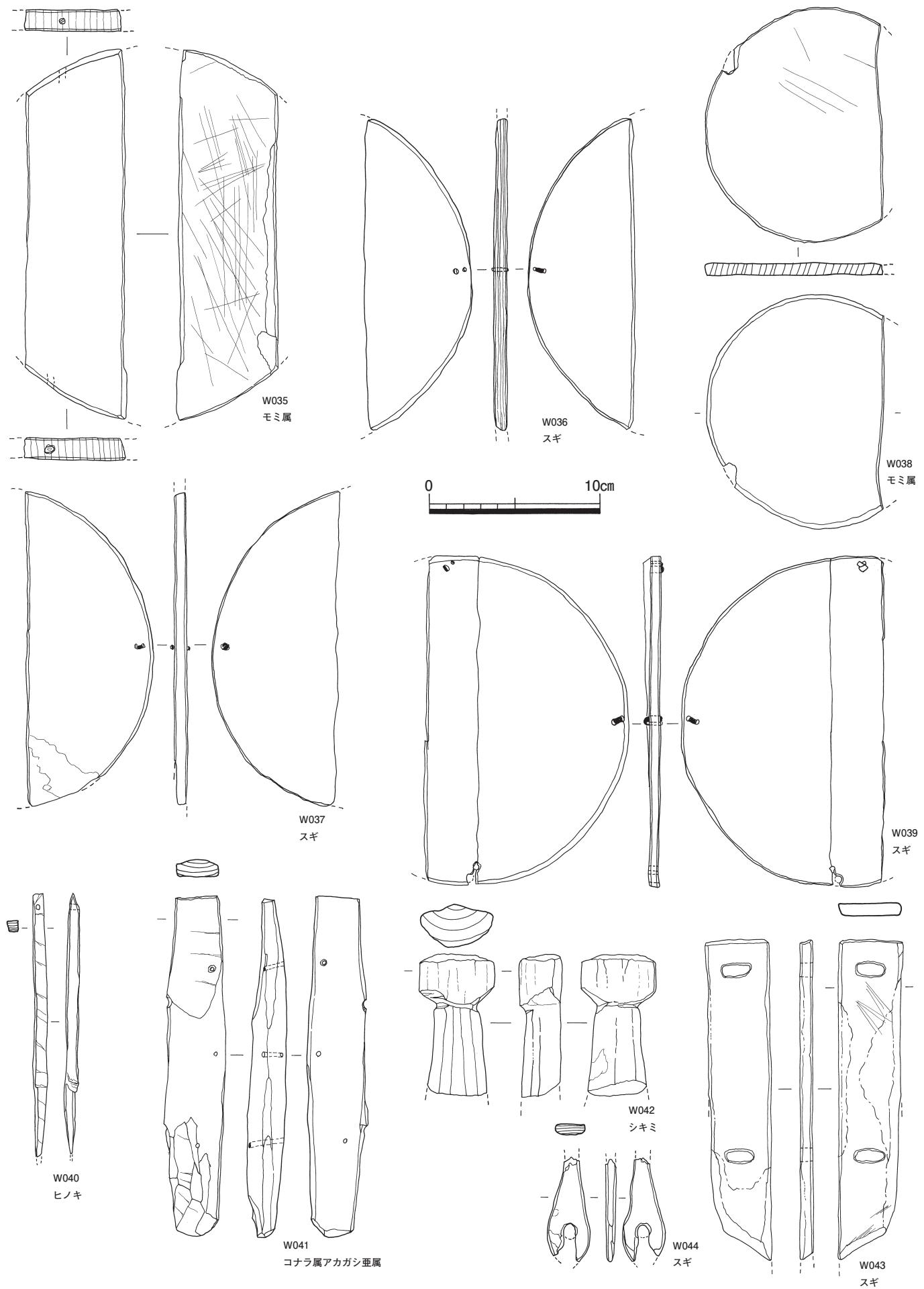


Fig.48 谷内出土木製品実測図 (1/3)

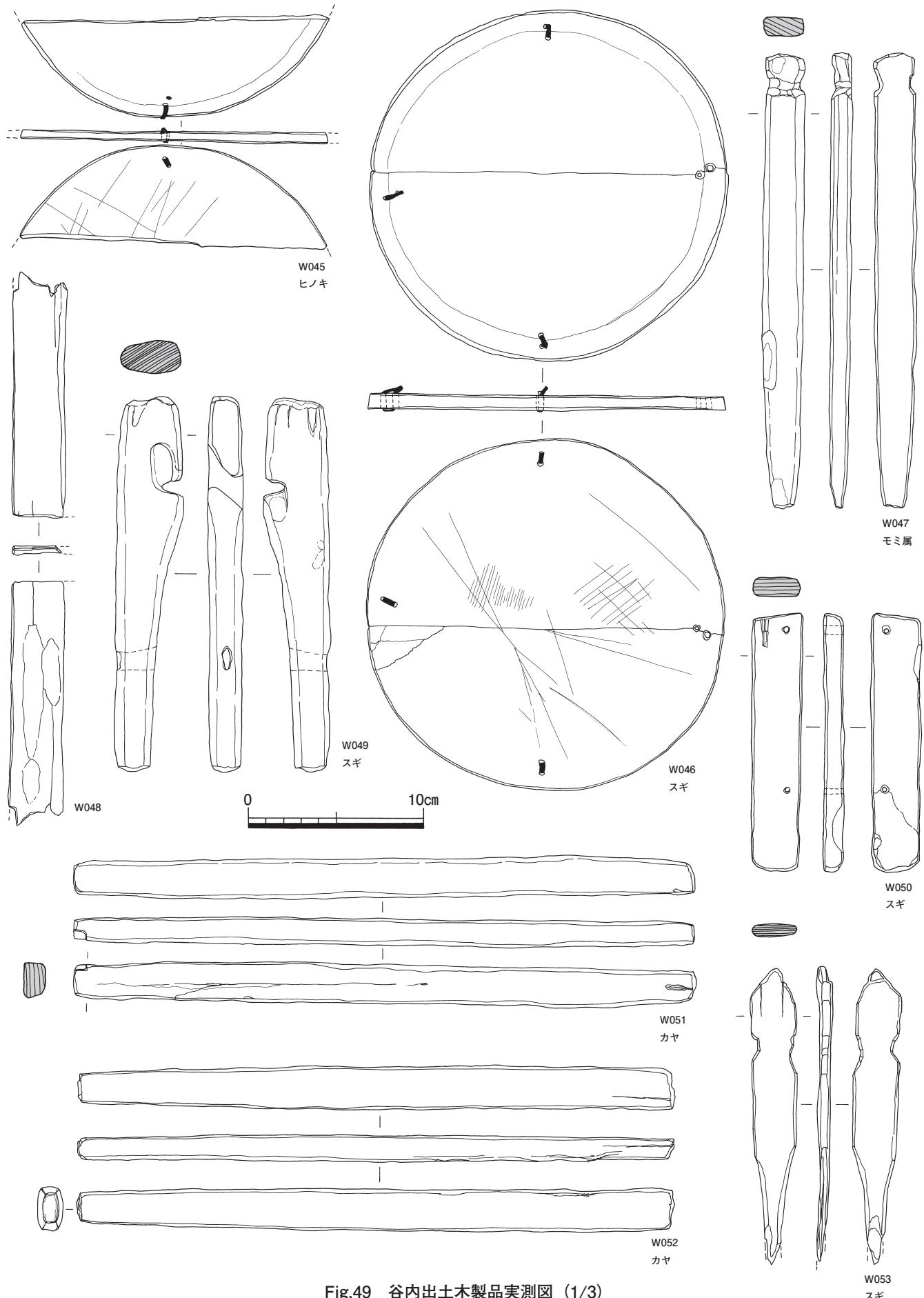


Fig.49 谷内出土木製品実測図 (1/3)

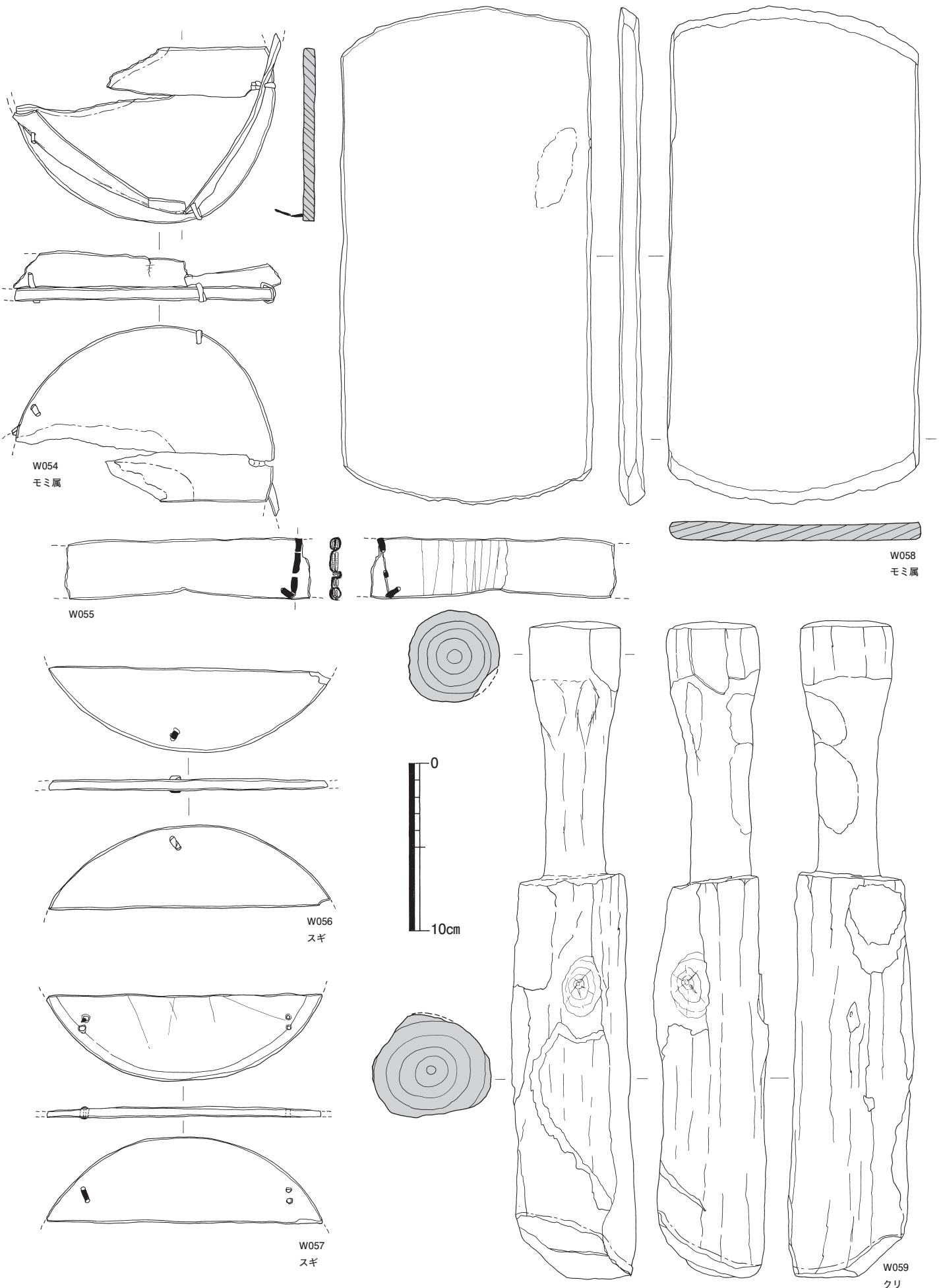


Fig.50 谷内出土木製品実測図 (1/3)

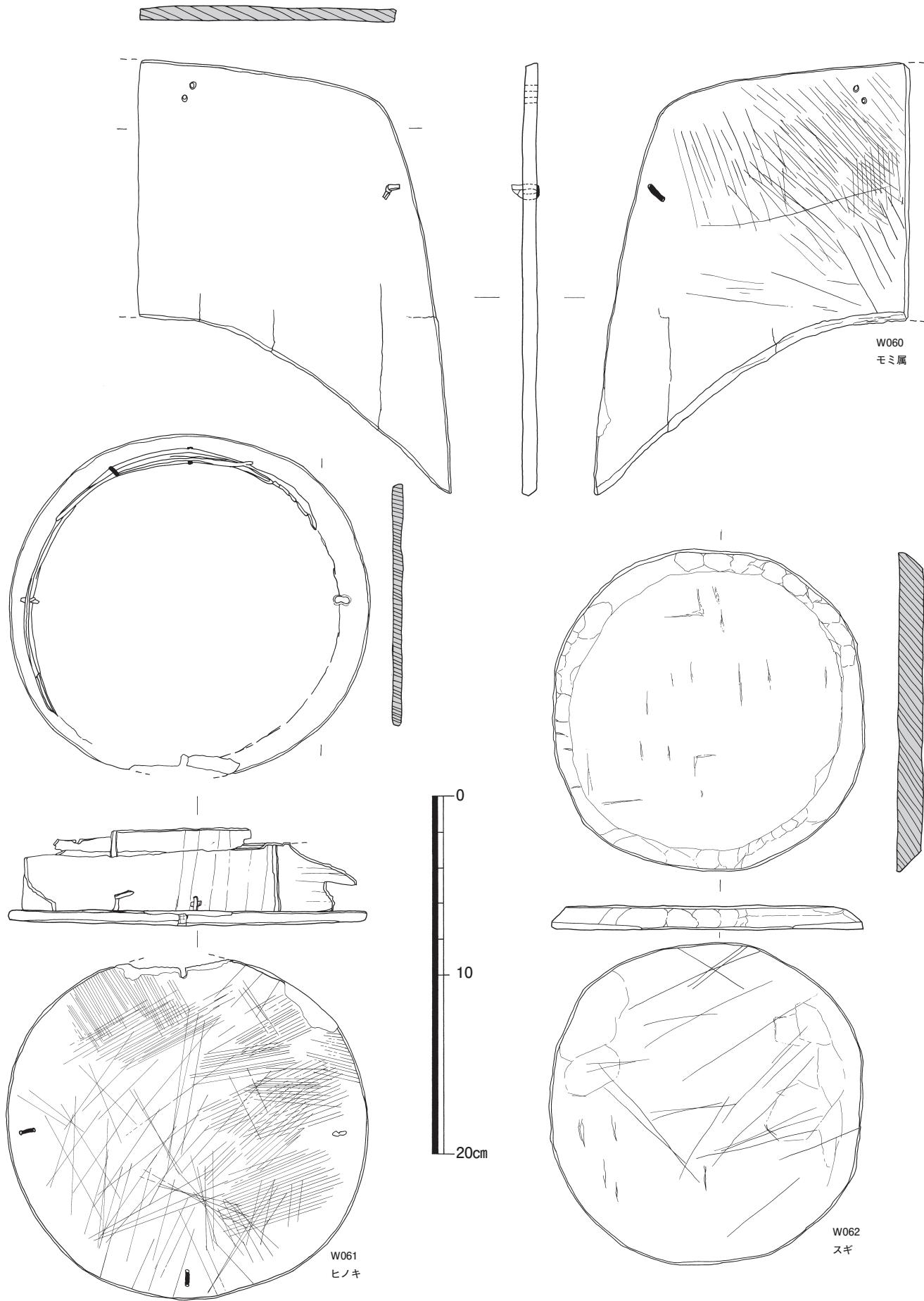


Fig.51 谷内出土木製品実測図 (1/3)

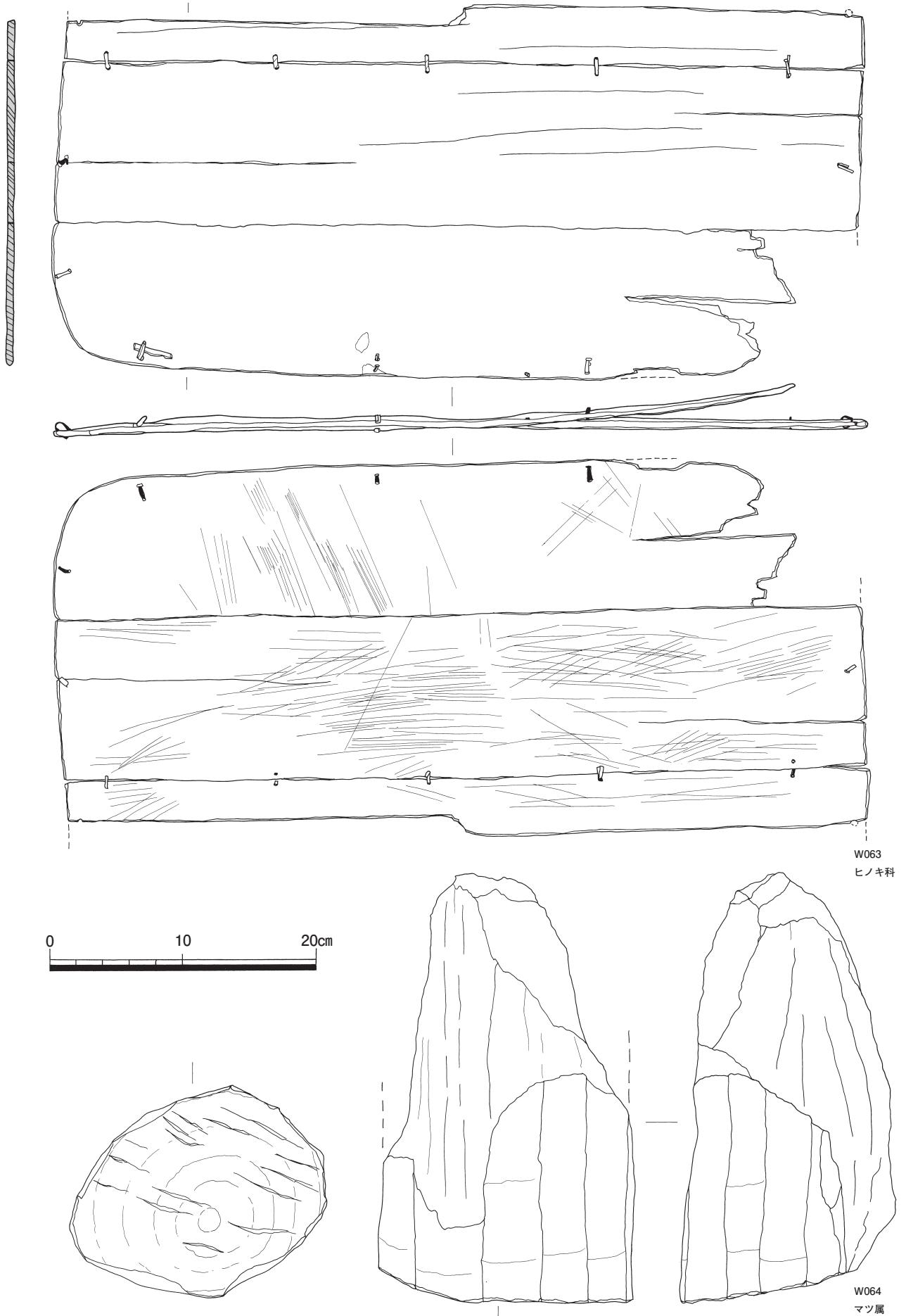


Fig.52 谷内出土木製品実測図 (1/4)

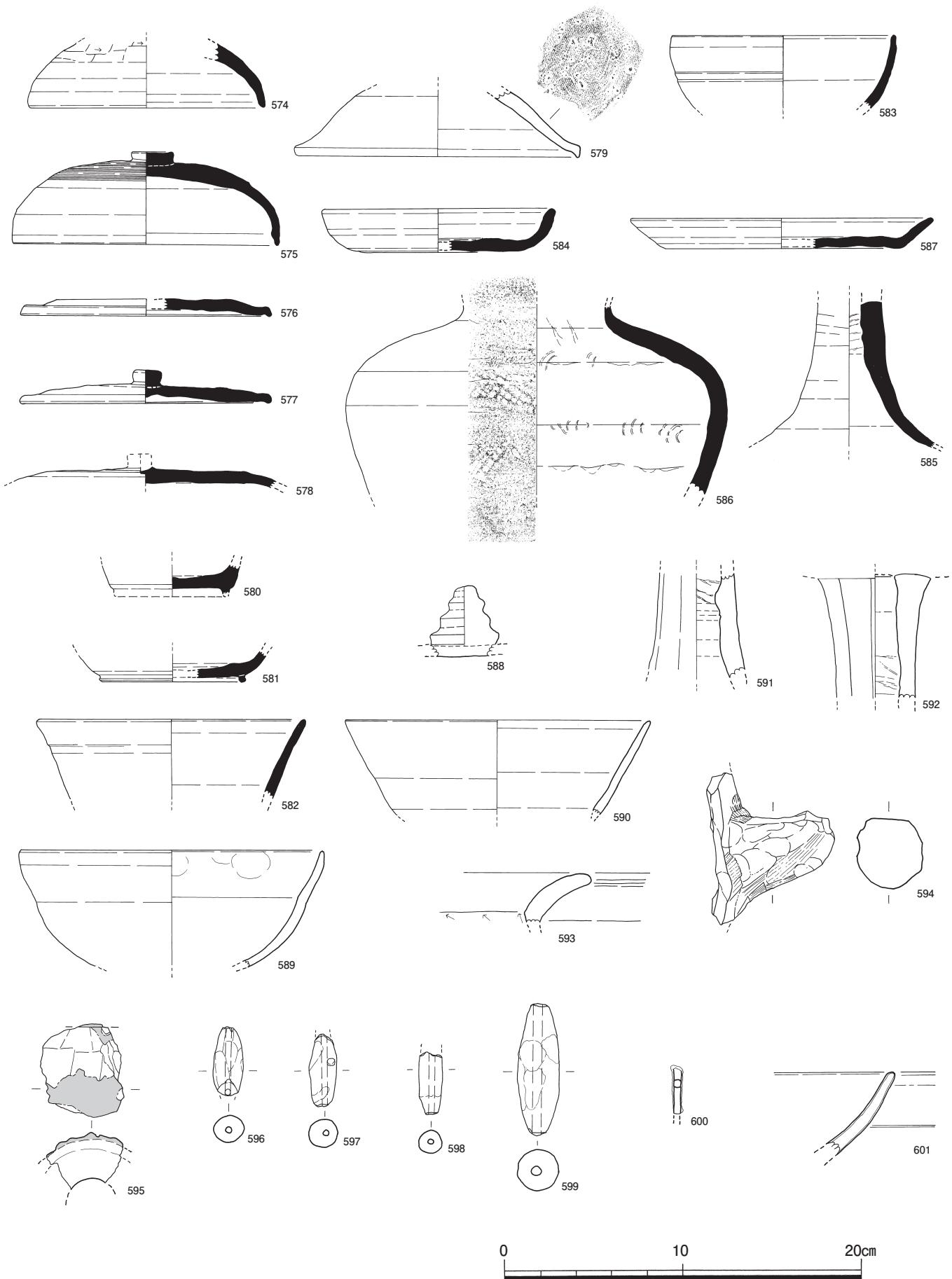


Fig.53 その他の B 区出土遺物 (1/3)

その他の遺物 (Fig.53、PL.49,50)

574～600までは遺構検出作業に伴い出土した遺物である。須恵器では蓋、壺、皿、壺、高壺などが出土している。土師器では線刻のある蓋ないしは壺579や複数の段を有する蓋のつまみ588の他、壺、高壺、甕、羽口、土錘などがみられる。600は釘と思われる鉄製品。601は谷上層から出土した白磁碗。602 (PL.50) は炉から流れ出て凝固した鉄である。

2. 金武青木B遺跡第1次・第2次調査

1 調査の概要

金武青木B遺跡第1次の調査は平成21年10月13日から表土剥作業のみを行い、翌年1月6日より人力による掘削作業を開始し、黒色粘質土が堆積する溜まり状の遺構と竜谷川側の旧河道を確認した。溜まり状の遺構には縄文遺物を始め、古墳時代、古代の遺物が混入していた。掘削調査終了後、溜まり状遺構の延長方向確認のため重機により一部調査区を拡張してその状況を確認した。その後埋め戻し作業をおこない平成22年2月8日に終了した。

第2次調査は平成22年4月6日より、現有道路の西側を対象に表土剥ぎ作業から開始した。北半で検出された遺構は、自然流路と溜り状遺構である。北端で確認された自然流路は竜谷川の旧河道である。基盤は大型の礫であり、粗砂と砂質土にて埋没している。出土遺物には、縄文時代石器もみられたが、埋没の時代は古墳時代後期ごろと考えられる。調査区の南側では溜井状の遺構を検出した。堆積層の最下部は黒褐色粘質土層であり水が淀んでいたことを示している。下層からは古墳時代の遺物が出土しているが、上層には中世以降の遺物もみられた。南半調査区は、やや安定した微高地であり、頂部の遺構は削られているものの、緩斜面には柱穴を中心に遺構が遺存していた。

2 遺構と遺物

掘立柱建物 (SB)

今回の調査では、50穴以上のピット状の遺構を検出し、約30穴から遺物が出土している。この内、建物として復元できたのは可能性を含めて以下の1軒である。

SB-01 (Fig.56)

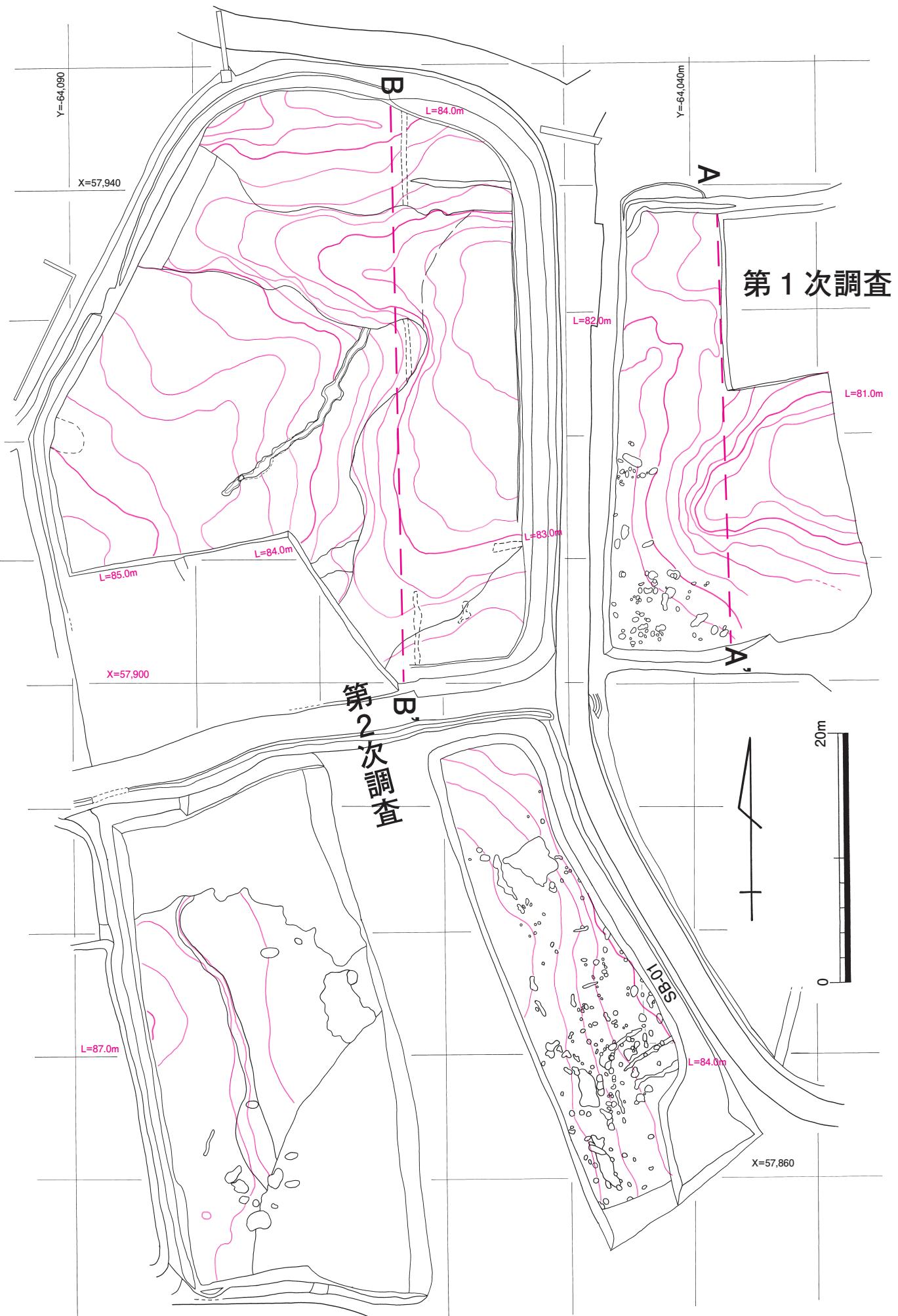
調査区南側、東端にて検出された。確認された柱穴は4穴のみで、調査区東側に展開すると考えられる。方位をN-4°-W（座標北）にとり、柱間は梁行き側が約1.3m、桁行き側が約2.0mである。柱穴の平面プランは略円形であり、長軸約50cm、遺存する深さは約30～60cmである。SP-018からは古代の須恵器片と土師器の小破片が出土している。SP-021からは土師器の小破片が出土している。柱穴の掘削時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。

第1次調査出土遺物 (Fig.56、PL.51)

001は、溜まり部黒色土内出土の土師器無高台壺である。復元口径14.0、底径6.6、器高3.9cmである。002は竜谷川の旧河道覆土より出土した縄文時代石斧である。全長13.3、幅5.7、厚さ2.9cm、重量306.8gの安山岩製である。

第2次調査出土遺物 (Fig.56、PL.51)

001は、流路内から出土した須恵器の壺身である。復元口径12.0、底径6.8、器高4.4cmである。002,003は流路内黒色堆積土から出土した。002は復元脚径10.2cmの土師器高台脚部である。003は復元口径23.8cmの甕である。004,005は南寄りの流路出土の遺物である。004は復元底径9.0cmの須恵器高台付壺である。005はやや高い高台の付く土師器壺である。006は蛇行する溝から出土した復元口径15.4、底径9.8、器高6.0cmで断面四角形の高台を貼り付ける土師器壺である。



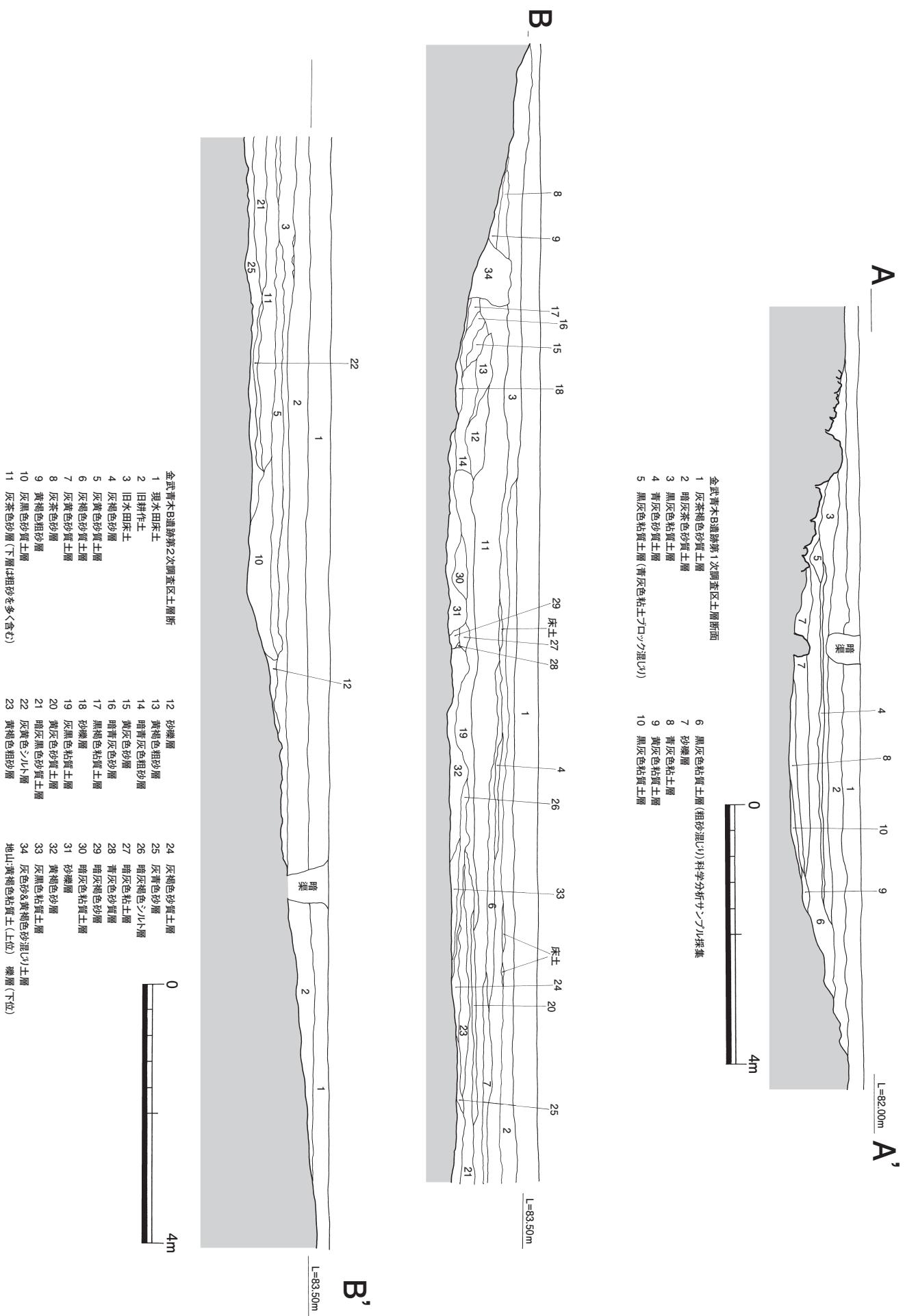
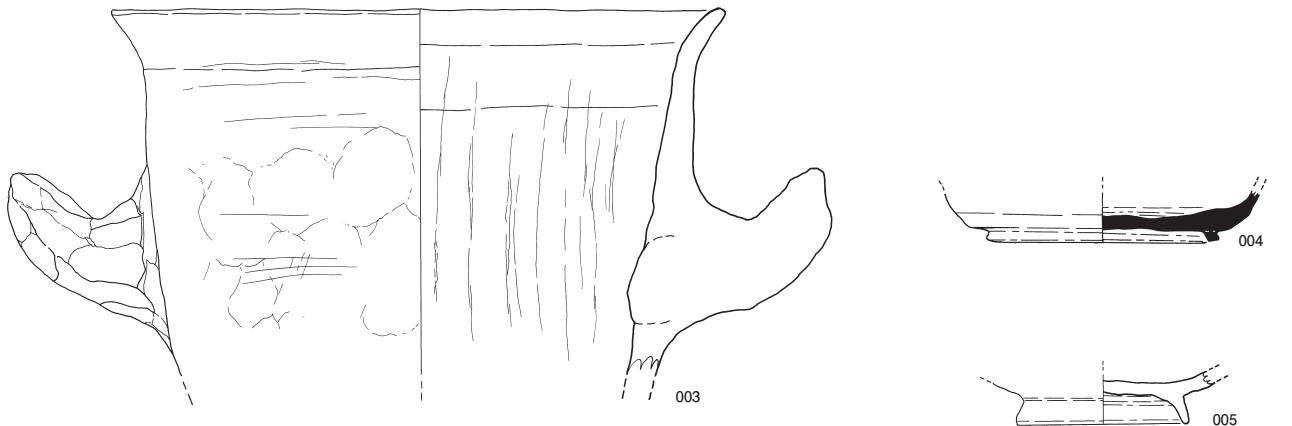
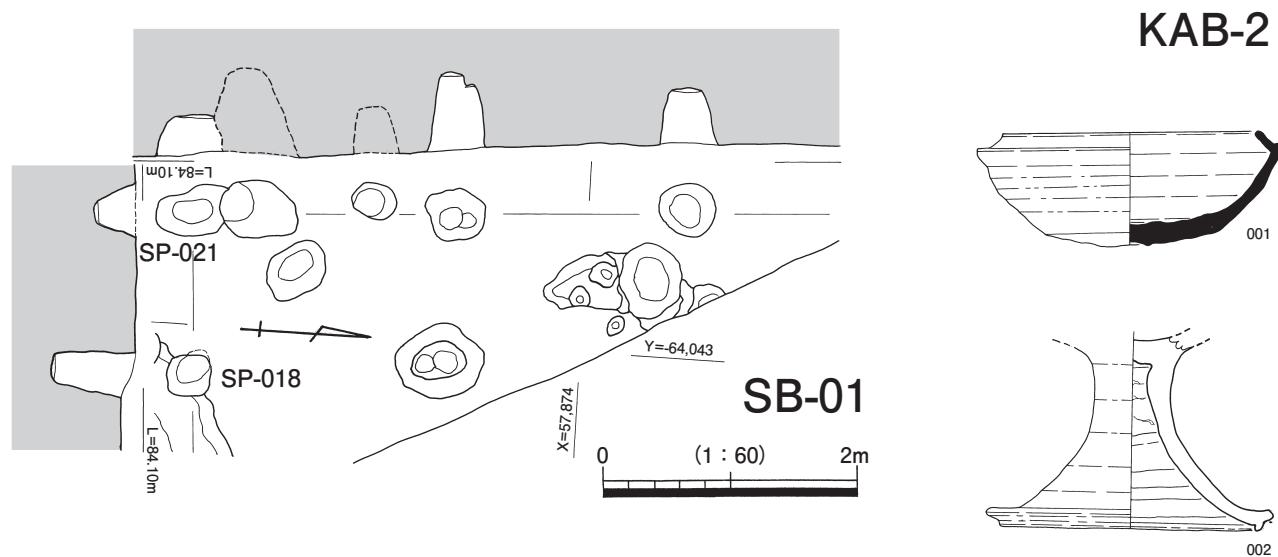
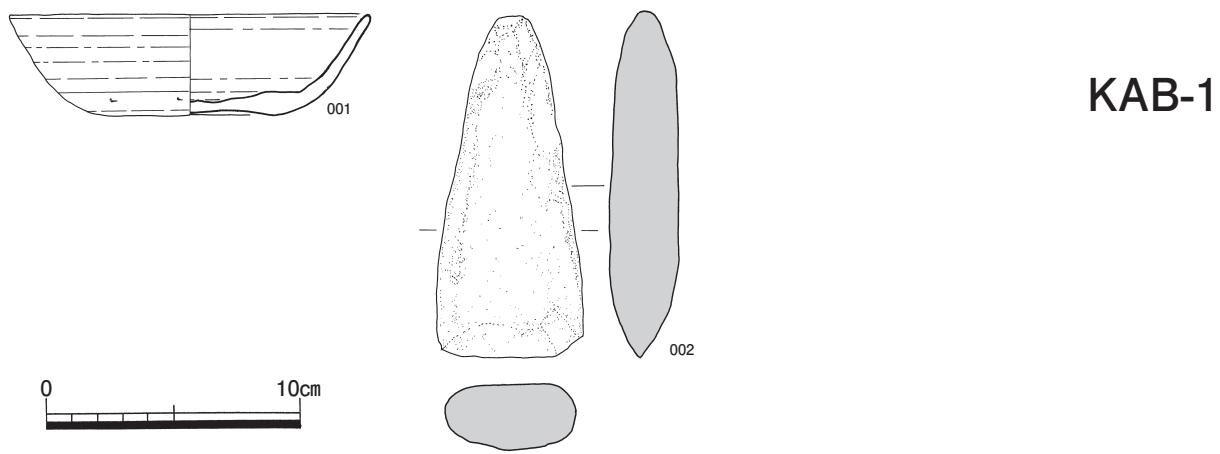


Fig.55 土層断面遺物実測図 (1/80)



0 10cm



Fig.56 金武青木 B 遺跡出土遺構 (1/60)・遺物実測図 (1/3)

3 金武青木B遺跡の縄文時代遺物 (Fig.57、PL.51)

山崎 純男

縄文時代の遺物が若干出土している。土器4点はいずれもB区の表面採集資料である。石器4点は調査区内の流路等の遺構に流れ込んだ資料と表面採集資料である。

土器はいずれも縄文時代早期に比定される押型文土器である。007は口縁部破片。全体に磨滅している。外面は詳細に観察すると大型の楕円文が施文されていた可能性がある。口縁部内面には原体条痕と呼ばれる凹線が施文されているが、最初に縦位に施され、後に斜位に施され、一部が重複している。口唇部には押型文原体を押圧してつけられた刻みが施文される。008は外面に山形押型文を密接施文した土器片。山形文は横走施文され、山形は2単位である。部分的に押型文が不明瞭で、一見ベルト施文に見える。009は外面にやや大きめの楕円文が施文される。前二者より遺存状態は良好である。010は009に比較して小ぶりの楕円文が密接施文した胴部破片。楕円文は横走施文され、文様は2単位、破片の上下では文様施文の重複がみられる。007～010の胎土には石英、長石の砂粒を多量に混入している。粒は不揃いでやや大きい粒子も含んでいる。焼成は良く、色調は007が内外面ともに褐色、008が内外面ともに黄褐色、009は外面が褐色、内面が黒褐色、010は外面が黒褐色、内面が黄褐色をなす。

石器はいずれも古銅輝石安山岩を素材としている。011は石槍、先端部と基部の一部を欠損している。両面から丁寧な剥離を加えて整形している。長さ10.0cm、幅2.8cm、厚さ0.7cm、比較的薄手である。012はスクレイパー。縦長の剥片の一側辺から先端にかけて片面から刃部形成の剥離を加えている。長さ7.2cm、幅4.7cm、厚さ1.3cmを測る。003(第1次調査出土)、013は大型の不定形の剥片、剥離のエッジに使用痕が観察できる。

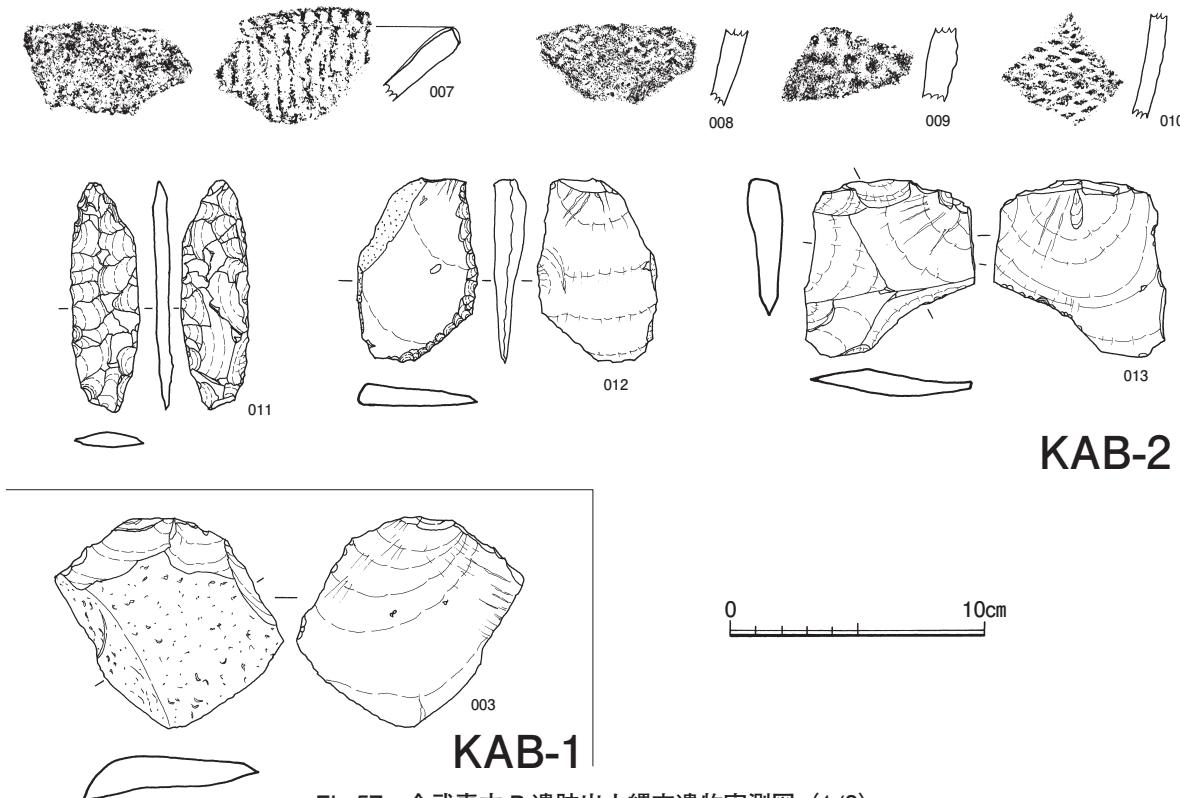


Fig.57 金武青木B遺跡出土縄文遺物実測図 (1/3)

金武青木A遺跡出土土器観察表

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎 土	焼成	色調	残存率	備 考
001	A区包含層	須恵器	壺蓋	(9.6)	—	—	精良。径2mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	良好	外面:暗緑灰色10GY4/1～灰 色N6/ 内面:灰色N6/	1/3	残存高:2.5cm かえり部径: (7.5cm) 天井部径:16.9cm
002	A区包含層	須恵器	壺蓋	—	—	2.6	密。1mm以下の石英含む。	不良	外面:黒灰色(炭素収着) 内面:乳灰色	約1/4	つまみ高:0.8cm つまみ径:1.5cm
003	A区包含層	須恵器	壺蓋	9.8	—	3.3	密。径2mm以下の白色砂粒を 多量含む	良好	灰色6/	完存	つまみ高:1.2cm つまみ径:1.3cm
004	A区包含層	須恵器	壺蓋	(9.8)	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色N4/～N6/ 内面:灰色N6/	2/5	残存高:1.55cm
005	A区包含層	須恵器	壺蓋	10.1	—	1.9	密。3mm以下の長石粒を少量 含む。	良好	青灰色	約2/5	かえり径:8.4cm
006	A区包含層	須恵器	壺蓋	11.0	—	2.3	密。径4mm以下の石英、長石、 黒色砂粒を多量含む。	良好	灰色N6/	1/2	頂部径:7.4cm
007	A区包含層	須恵器	壺蓋	(12.0)	—	2.6	密。径2mm以下の石英、長石を 少量含む。 (軟質)	やや不良	灰色N6/	1/4	かえり部径:9.8cm 天井部 径:7.8cm 天井部にヘラ記号
008	A区包含層	須恵器	壺蓋	(11.8)	—	2.15	密。径2mm以下の石英、長石、 黒色砂粒を多量含む。	不良	外面:明褐灰色7.5YR7/1～7/2 内面:灰白色7.5YR8/1	体部上半3/4 口縁部わずか	つまみ高:0.9cm つまみ径:2.1cm
009	A区包含層	須恵器	壺蓋	14.1	—	1.9	径2mm以下の石英、長石を少 量含む。	良好	灰白色	4/5	かえり部径:11.1cm 全体的に焼き歪み有り
010	A区包含層	須恵器	無高台壺	9.2	—	3.2	密。径1mm以下の白色・黒色砂 粒を少量含む。	良好	外面:灰オーブ色7.5Y5/2～暗 オーブ色2.5GY3/1 内面:灰白色N7/	体部1/4 底部1/1	
011	A区包含層	須恵器	無高台壺	(10.5)	—	2.85	精良。径1mm以下の白色砂粒 を少量含む。	やや不良	褐灰色5YR5/1	2/5	
012	A区包含層	須恵器	高壺	(12.8)	(9.5)	9.7	精良。径2mm以下の石英、長石 を少量含む。	良好	灰色N5/～N4/	壺部上半1/6 壺 部下半1/1 脚柱 部1/1 脚裾部1/8	全面に灰をかぶっている。
013	A区包含層	須恵器	高壺	—	(9.7)	—	精良。径3mm以下の石英、長石 を少量含む。	不良	灰白色7.5YR8/1～8/2	脚部1/8	残存高:4.4cm 壺部形状は不明。
014	A区包含層	須恵器	皿	(21.0)	(15.5)	3.0	精良。径2mm以下の白色・黒色 砂粒を多量含む。	良好	外面:暗青灰色5BG4/1(自然 釉) 内面:青灰色10BG6/1	1/3	
015	A区包含層	須恵器	鉢	(16.0)	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を 多量含む。	良好	外面:暗灰色N3/ 内面:灰色N6/	1/4	残存高:9.0cm
016	A区包含層	須恵器	壺蓋	8.1	—	2.9	密。1～3mmの砂粒を少量含 む。	良好	淡青灰色	約1/2	
017	A区包含層上層	須恵器	瓶類	(9.8)	—	—	密。径1mm以下の白色・黒色砂 粒を少量含む。	良好	釉:暗青灰色5BG4/1 露胎:灰色N6/	頸部のみ1/4	残存高:4.7cm
018	A区包含層	須恵器	瓶	—	—	—	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	外面:暗緑灰色5G3/1 内面:灰色N4/	胴部中位1/8	残存高:4.4cm
019	A区包含層	土師器	壺	(11.8)	6.3	3.1	密。径3mm以下の石英、長石、 雲母を多量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	体部1/8 底部1/1	
020	A区包含層	土師器	壺	(13.6)	(7.4)	4.85	精良。径3mm以下の石英、長 石、褐色土粒を多量含む。	やや不良	橙色7.5YR7/6	1/2	
021	A区包含層	土師器	高壺	—	(9.8)	—	精良。径2mm以下の石英、長石 を多量、雲母を少量含む。	良好	橙色5YR6/8～明赤褐色5YR5/8	脚柱部1/1 脚裾部1/3 壺底部わずか	残存高:6.0cm
022	A区包含層	土師器	甕	(20.0)	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を 多量含む。	良好	にい橙色7.5YR7/3	口縁部1/4	残存高:4.7cm
023	A区包含層	土師器	甕	(21.2)	—	—	やや粗。径9mm以下の石英、長 石を多量含む。	良好	外面:鈍い橙色7.5YR7/4～灰褐 色7.5YR4/2 内面:鈍い褐色 7.5YR5/3～黒褐色7.5YR3/2	口縁部1/6 胴部1/12	残存高:15.8cm
024	A区包含層	土師器	把手	—	—	—	密。4mm以下の石英、長石を 多量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR7/4	把手部分1/1	外面に黒斑有り。
025	A区包含層	土師器	把手	—	—	—	精良。径4mm以下の石英、長石 を少量含む。	やや不良	鈍い橙色7.5YR7/4	把手部分1/1	
031	B区SB-01 SP-002	須恵器	壺蓋	—	—	—	密。1～2mmの砂粒を少量含 む。	不良	淡灰黄色	一部(破片)	
032	B区SB-01 SP-008	須恵器	壺蓋	(11.4)	—	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	青灰色	一部(破片)	
033	B区SB-01 SP-013	須恵器	壺	(10.6)	—	—	密。1～2mm大の砂粒を少量含 む。	良好	茶灰褐色	一部(破片)	
034	B区SB-01 SP-154	須恵器	壺蓋	(16.2)	—	—	密。1～2mmの砂粒を含む。	不良	茶褐色	一部(破片)	
035	B区SB-03 SP-055	須恵器	壺蓋	(10.0)	—	—	密。1～2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	一部(破片)	
036	B区SB-03 SP-054	土師器	甕	(28.2)	—	—	密。2～4mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	一部(破片)	
037	B区SB-03 SP-054	土師器	甕	(30.2)	—	—	密。2～5mmの砂粒を含む。雲母 を少量含む。	やや不良	淡黄茶褐色	一部(破片)	
038	B区SB-04 SP-057	土師器	高壺(脚部)	—	(21.2)	—	密。1～3mmの砂粒を少量含 む。	やや不良	淡黄茶褐色	一部(破片)	
039	B区SB-06 SP-021柱痕	土師器	壺	13.5	8.6	5.7	密。1～4mmの砂粒を少量含 む。	良好	黄茶褐色	3/4	
040	B区SB-06 SP-021掘方	須恵器	皿	(13.2)	(9.4)	1.6	密。1～2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	一部(破片)	
041	B区SB-06 SP-021柱痕	須恵器	皿	(17.4)	(13.2)	1.6	密。1～2mmの砂粒を含む。	良好	灰青色	1/5	
042	B区SB-06 SP-021柱痕	須恵器	皿	(15.4)	(11.4)	2.1	1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	一部(破片)	
043	B区SB-08 SP-078	須恵器	壺蓋	(12.8)	—	—	密	良好	淡灰褐色	一部(破片)	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
044	B区SP-012	須恵器	高台付坏	—	(6.9)	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	灰青色	一部(破片)	
045	B区SP-022	土師器	坏	17.0	9.0	4.8	密。1~3mmの砂粒を少量含む。	やや不良	赤黄茶色	4/5	
046	B区SP-022	土師器	高坏(坏部)	26.4	—	—	密。1~5mmの砂粒を少量含む。	やや不良	赤茶褐色	坏部ほぼ完存	
047	B区SP-022	土師器	高坏(坏部)	(16.5)	—	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	やや不良	淡黄茶褐色	坏部 約1/2	
048	B区SP-045	須恵器	皿	(17.6)	(12.2)	2.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	淡灰茶色	約1/2	
049	B区SP-081	須恵器	坏蓋	(14.8)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	灰青色	約1/5	
050	B区SP-082	須恵器	無高台坏	(13.3)	(8.6)	3.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰青色	約1/2	
051	B区SP-090	須恵器	高台付坏	(13.0)	(7.6)	4.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	約1/2	
052	B区SP-090	須恵器	無高台坏	(14.8)	(10.8)	3.7	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	一部(破片)	
053	B区SP-115	須恵器	坏蓋	(15.0)	—	—	密。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	約1/5	焼き垂み著しい
054	B区SP-115	須恵器	坏蓋	(15.8)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	一部(破片)	
055	B区SP-115	須恵器	皿	(16.0)	(14.8)	3.0	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	淡灰青色	約1/5	焼き垂み著しい
056	B区SP-115	須恵器	円面覗	(14.0)	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	全面:青灰色5BG5/1 灰かぶり:暗緑灰色10GY3/1	上半部1/5周分	残存高:3.5cm
057	B区SP-117	須恵器	坏蓋	(14.6)	—	—	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	青灰色	約1/6	
058	B区SP-117	須恵器	無高台坏	(13.6)	(8.8)	3.8	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	淡灰青色	約1/6	
059	B区SP-126	須恵器	皿	(19.4)	(16.0)	2.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰青色	一部(破片)	
060	B区SP-132	須恵器	高台付坏	(12.8)	(7.8)	4.1	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	青灰色	約1/4	
061	B区SK-01	土師器	蓋	18.4	—	3.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄褐色	1/4	つまみ径:2.1cm つまみ高:0.9cm
062	B区SK-01	須恵器	皿	(18.2)	(15.6)	1.9	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/6	
063	B区SK-02	土師器(線刻)	香炉蓋	—	—	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	やや不良	黄茶褐色	一部(破片)	草花文(焼成前)
064	B区SK-02	土師器	蓋	(23.7)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄灰色	1/10	
065	B区SK-02	土師器	鉢	21.4	11.8	6.6	密。3~4mmの砂粒を含む。	やや不良	黄灰褐色	1/2	
066	B区溜井南側	須恵器	坏蓋	(20.4)	—	—	密。2~4mmの砂粒を含む。	不良	淡灰茶褐色	約1/2	つまみ径:1.8cm つまみ高:1.1cm
067	B区溜井南側	須恵器	高台付坏	(13.0)	(6.8)	3.8	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	約2/5	
068	B区溜井南側	須恵器	坏	(12.8)	(8.0)	4.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	不良	淡灰褐色	約3/5	
069	B区溜井南側	須恵器	皿	(17.8)	(12.8)	2.0	緻密	良好	淡青灰色	約1/5	
070	B区溜井南側	須恵器	皿	(20.1)	(16.8)	(2.3)	密。1mm大の砂粒を含む。	不良	淡灰褐色	約2/5	
071	B区溜井南側	土師器	皿	(19.8)	(16.6)	2.8	密。1~2mm大の砂粒を含む。	不良	淡灰褐色	約3/4	
072	B区北谷部	須恵器	蓋	(10.8)	—	1.1	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	つまみ無し 小型
073	B区北谷部	須恵器	蓋	(13.3)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5	つまみ径:2.4cm つまみ高:0.5cm
074	B区北谷部	須恵器	蓋	14.1	—	—	密。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	
075	B区北谷部	須恵器	蓋	(14.7)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	3/5	つまみ径:2.3cm つまみ高:0.6cm
076	B区北谷部	須恵器	坏蓋	14.2	—	3.2	密。1mm前後の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	つまみ径:2.5cm つまみ高:0.6cm
077	B区北谷部	須恵器	坏蓋	15.2	—	3.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	淡青灰色	3/4	つまみ径:1.8cm つまみ高:1.0cm
078	B区北谷部	須恵器	蓋	(15.4)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	2/5	つまみ径:2.2cm つまみ高:0.6cm
079	B区北谷部	須恵器	坏蓋	15.2	—	3.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	つまみ径:2.0cm つまみ高:1.2cm
080	B区北谷部	須恵器	蓋	(17.2)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/2	つまみ径:1.8cm つまみ高:0.6cm
081	B区北谷部	須恵器	蓋	(17.4)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	2/5	つまみ径:2.0cm つまみ高:0.5cm

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
082	B区北谷部	須恵器	高台付坏		(6.0)	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰褐色	破片	小型
083	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(9.9)	(7.4)	3.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	小型
084	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(10.6)	(7.7)	3.4	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	小型
085	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(12.6)	(8.6)	3.6	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	小型
086	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(13.4)	(8.9)	5.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2(口縁は一部)	
087	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(13.3)	(7.7)	4.3	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
088	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(13.2)	(8.6)	4.2	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/2(口縁は1/8)	
089	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(15.3)	(9.3)	5.5	密。1~3mmの砂粒を含む。	やや不良	淡青灰色	2/5	
090	B区北谷部	須恵器	高台付坏	(16.4)	(8.4)	5.9	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	青灰色	3/5	
091	B区北谷部	須恵器	高台付坏	17.5	11.2	5.1	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	焼き歪み著しい、割れ有り。
092	B区北谷部	須恵器(墨書き)	高台付坏	—	(9.2)	—	密	やや不良	外:黒褐色 内:淡灰褐色	1/3	墨書き「中」
093	B区北谷部	須恵器	高坏	(20.2)	(12.5)	6.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	焼き歪み著しい。
094	B区北谷部	須恵器	高坏	(20.8)	(13.6)	6.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	焼き歪み著しい。
095	B区北谷部	須恵器	皿	18.6	13.4	—	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	焼き歪み著しい
096	B区北谷部	須恵器	鉢	19.1	—	8.1	密。砂粒少なし。	良好	青灰色	一部欠け	
097	B区北谷部	土師器(線刻)	不明土器	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	破片	線刻「女」(焼成前)
098	B区北谷部	土師器	坏	(9.7)	(5.6)	3.8	緻密	良好	黄灰褐色	1/3	小坏
099	B区北谷部	土師器	坏	(14.4)	(9.6)	4.3	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	2/3	
100	B区北谷部	土師器	坏	(14.8)	(7.2)	4.8	緻密	やや不良	黄茶褐色	1/3	
101	B区北谷部	土師器	坏	(17.4)	(10.4)	3.4	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	灰茶褐色	1/5	
102	B区北谷部	土師器	大皿	(25.0)	(18.1)	4.0	密。1mm大の砂粒を含む。	やや不良	赤茶褐色	2/3	
103	B区北谷部	土師器	甕	(22.1)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/8	胴部最大径:(22.7cm)
104	B区北谷部	土師器	甕	(35.6)	—	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	茶黄褐色	1/4	
105	B区北谷部	土師器	焼塙壺	(12.0)	—	6.6	やや粗。1~8mmの砂粒を多く含む。	良好	茶黄褐色	1/2	
106	B区北谷部	土製品	土錘	—	—	—	密。径1mm大の砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	完存	長さ:3.8cm 幅:1.65cm 厚さ:1.60cm 重さ:8.72g 穴径:0.4cm
107	B区北谷部	土製品	土錘	—	—	—	密。1~1.5mm大の砂粒を含む。	良好	暗灰色~暗茶褐色	完存	長さ:4.83cm 幅:1.71cm 厚さ:1.54cm 重さ:13.31g 穴径:0.4cm
108	B区北谷部	土製品	土錘	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	鈍い橙色7.5YR6/4~褐灰色 7.5YR5/1	完存	長さ:4.9cm 幅:1.85cm 厚さ:1.55cm 重さ:11.81g
109	B区北谷部(溜り)	須恵器	坏蓋	13.6	—	1.9	密。径1mm前後の砂粒を含む。	良好(やや焼歪有り)	灰青褐色	4/5	つまみ径:2.2cm つまみ高:0.4cm
110	B区北谷部(溜り)	須恵器	坏蓋	(13.9)	—	2.3	密。径1mmの砂粒を含む。	良好(やや焼歪有り)	灰褐色	3/5	つまみ径:2.1cm つまみ高:0.6cm
111	B区北谷部(溜り)	須恵器	坏蓋	(14.8)	—	2.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	淡灰青色	1/4	つまみ径:2.2cm つまみ高:0.6cm
112	B区北谷部(溜り)	須恵器	坏蓋	15.5	—	—	密。径2mmの砂粒を含む。	良好(焼歪み著しい)	灰青色	4/5	つまみ径:2.2cm つまみ高:0.8cm
113	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	(11.0)	(7.0)	3.5	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	青灰色	2/3	小型
114	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	(11.6)	(10.8)	4.3	密。径2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5(口縁一部)	
115	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	(12.2)	13.7	3.9	密。径2mmの砂粒を含む。	良好(焼歪み有り)	灰青色	4/5	
116	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	(12.5)	7.9	3.4	径2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5	
117	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	(13.6)	(8.5)	3.5	密。1~2mm大の砂粒を多く含む。	やや不良	淡青灰色	3/5	
118	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	13.4	9.2	4.7 (最大)	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	焼き歪み著しい
119	B区北谷部(溜り)	須恵器	高台付坏	14.6	9.0	3.7	径2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
120	B区北谷部(溜り)	須恵器	壺	(15.4)	—	3.7	径1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
121	B区北谷部(溜り)	須恵器	壺	(16.0)	—	3.0	径1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
122	B区北谷部(溜り)	須恵器	皿	(16.6)	—	3.1	径1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	
123	B区北谷部(溜り)	須恵器	皿	(20.6)	—	—	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/3	
124	B区北谷部(溜り)	須恵器	長頸壺	(16.2)	16.0	36.0	密。3~5mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	一部欠く8/10	胴部最大径:26.0cm
125	B区北谷部(溜り)	須恵器	広口鉢	(24.6)	(15.1)	18.4	密。径1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/4	南谷部(北側)最下層出土の349と接合
126	B区北谷部(溜り)	須恵器	小甕	(20.6)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/8	
127	B区北谷部(溜り)	須恵器	小甕	22.8	—	—	密	良好	淡青灰色、茶褐色	約1/10	
128	B区北谷部(溜り)	土師器	壺蓋	(17.8)	—	2.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	茶褐色	1/2	つまみ径:3.2cm つまみ高:0.7cm
129	B区北谷部(溜り)	土師器	高台付壺	—	13.7	—	緻密	やや不良	黄褐色	1/2	
130	B区北谷部(溜り)	土師器	高壺	(24.6)	(11.8)	6.4	密。1~3mmの砂粒を含む。	やや不良	茶褐色	2/3	
131	B区北谷部(溜り)	土師器	高壺	(25.6)	—	—	密。1~4mmの砂粒を含む。	やや不良	黄褐色	1/4	
132	B区北谷部(溜り)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:先端側に行くにつれ変色(灰白色10YR6/1→黒褐色10YR3/1→灰白色10YR7/1) 内面:淡棕色5YR8/4	先端部のみ残存	残存長:8cm 基部断面不規則。先端部外径3.4cm 基部幅6.5cm。基部内径3.5cm。體身、底盤でいる部分は、大部分が被熱、発泡して灰白色化。
133	B区北谷部(溜り)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径9mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:先端側に行くにつれて変色(灰白色10YR8/2→黒褐色10YR6/2→黒色10YR2/1→灰白色10YR8/2) 内面:橙色10YR7/6	先端部のみ残存	残存長:10.4cm。先端部内径3.35cm、基部幅7.7cm。基部内径3.5cm。二次熱を受けた。灰褐色化しているが、大部分が被熱、発泡して灰白色化。
134	B区北谷部(溜り)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径7mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:先端側に行くにつれ変色(純い黃褐色10YR5/3→灰白色10YR8/2→灰白色N6) 内面:棕色7.5YR6/6	基部のみ残存	基部幅:7.4cm 基部内径:2.9cm
135	B区北谷部(溜り)	土製品	羽口	—	—	—	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含む。(径18mm大の石英砾も1つ含む。)	良好	外面:被熱の為、先端側に行くにつれ変色(純い黃褐色10YR7/4→灰白色10YR8/1→黒褐色10YR6/1) 内面:純い黃褐色10YR7/4		残存長:13.0cm、基部幅:7.8cm、基部内径3.35cm、先端側内径3.2cm。二次熱を受けた。外面に被熱。
136	B区南谷部	須恵器	壺蓋	(12.2)	—	1.8	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/3	つまみ径:1.9cm つまみ高:1.0cm
137	B区南谷部	須恵器	壺蓋	12.7	—	1.6	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	一部欠	つまみ径:1.6cm つまみ高:0.6cm 焼き歪み著しい。
138	B区南谷部	須恵器(墨痕)	壺蓋	14.9	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	つまみ径:1.8cm つまみ高:0.8cm 焼き歪み著しい。 墨痕有り。転用硯
139	B区南谷部	須恵器(墨書き)	壺蓋	(14.5)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	—部(破片)	転用硯
140	B区南谷部	須恵器	壺蓋	14.5	—	1.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	つまみ径:1.6cm つまみ高:0.5cm 焼き歪み著しい。
141	B区南谷部	須恵器	壺蓋	15.2	—	2.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	一部欠	つまみ径:1.9cm つまみ高:0.6cm
142	B区南谷部	須恵器	壺蓋	(17.4)	—	3.3	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/4	つまみ径:2.0cm つまみ高:0.8cm
143	B区南谷部	須恵器	壺蓋	(17.8)	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	口縁部外面:褐灰色10YR5/1 その他:純い黃褐色10YR6/4	体部1/6 天井部1/3	残存高:1.4cm 口縁部外面だけに灰をかぶっている
144	B区南谷部	須恵器(墨痕)	壺蓋	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡灰褐色	—部(破片)	つまみ径:1.9cm つまみ高:0.8cm 転用硯
145	B区南谷部	須恵器(墨書き)	壺蓋	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡灰褐色	—部(破片)	墨書き
146	B区南谷部	須恵器	高台付壺	(11.6)	(6.1)	3.7	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
147	B区南谷部	須恵器(墨痕)	高台付壺	12.6	7.6	4.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/4	高台内面に墨痕有り。転用硯
148	B区南谷部	須恵器	高台付壺	(13.0)	(7.2)	4.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/3	
149	B区南谷部	須恵器	高台付壺	(13.7)	(7.2)	4.3	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
150	B区南谷部	須恵器(墨痕)	壺	(11.4)	(9.0)	3.8	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色		内外面一部に墨痕
151	B区南谷部	須恵器	壺	(14.4)	(8.6)	4.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	淡青灰色	1/2	
152	B区南谷部	須恵器(墨痕)	皿	(16.2)	(13.4)	2.2	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	茶黃褐色	1/6	墨痕有り。
153	B区南谷部	須恵器	皿	(18.2)	—	1.9	密。1mm大の砂粒を含む。	やや不良	青灰色/黃灰色(重ね焼痕)	1/2	
154	B区南谷部	須恵器	大皿	(23.4)	(13.7)	6.3	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5	
155	B区南谷部	須恵器	壺蓋	(9.2)	—	1.9	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/4	つまみ径:1.1cm つまみ高:0.9cm
156	B区南谷部	須恵器	短頸壺	10.9	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良	青灰色	約1/4	最大径:20.6cm
157	B区南谷部	須恵器	甕	(16.6)	—	—	密	やや不良	淡青灰色	1/10以下 口縁1/2	頸最小径:15.0cm

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
158	B区南谷部	須恵器	甕	(26.4)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/3	最大径:40.5cm
159	B区南谷部	土師器	塊	—	6.3	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	浅黄褐色 10YR 8/3 (黒色 10YR 2/1の黒斑有り。)	高台部2/3 体部上半1/1 体部下半わずか	残存高:5.3cm 高台部に径4cmほどの黒斑有り。
160	B区南谷部	土師器	大型塊	(17.8)	(8.8)	7.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	2/3	
161	B区南谷部	土師器	小坏	(8.5)	5.8	3.9	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	上:黄灰色 下:灰茶褐色(重ね焼き)	1/2	
162	B区南谷部	土師器	小坏	(9.2)	5.8	4.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	1/2	
163	B区南谷部	土師器	坏	(13.4)	(7.6)	3.7	精緻	良好	黄茶褐色	1/2	
164	B区南谷部	土師器	坏	—	8.0	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	黄褐色	1/8	
165	B区南谷部	土師器	坏	13.4	8.4	3.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶灰褐色	3/4	
166	B区南谷部	土師器	坏	(13.6)	(8.8)	3.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	1/4	
167	B区南谷部	土師器	坏	(14.4)	(10.0)	4.0	緻密	良好	淡黄褐色	1/2	
168	B区南谷部	土師器	坏	(15.0)	(10.5)	4.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	1/4	
169	B区南谷部	土師器	坏	(15.4)	(10.8)	4.0	緻密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/5	
170	B区南谷部	土師器	坏	(16.4)	(11.5)	4.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/4	
171	B区南谷部	土師器	坏	(13.8)	(7.3)	3.5	密。1~2mmの砂粒を含む。雲母を少量含む。	良好	赤茶褐色	1/3	
172	B区南谷部	土師器	大型坏	(20.0)	9.9	3.9	精良。径4mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外側:鈍い橙色7.5YR7/4 内側:黒褐色7.5YR3/1	体部上半2/5 体部下半~底部3/4	内面黒色
173	B区南谷部	土師器	皿	(19.0)	(15.8)	2.7	緻密	良好	黄茶褐色	1/5	
174	B区南谷部	土師器	皿	(19.0)	(15.2)	2.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	赤茶褐色	1/5	
175	B区南谷部	土師器	皿	(19.3)	(15.2)	2.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	1/5	
176	B区南谷部	土師器	燭台	7.8	6.1	—	密	良好	灰黄褐色	1/3	
177	B区南谷部	土師器	焼塙壺	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	赤茶褐色	1/5	最大径:11.2cm
178	B区南谷部	土師器	焼塙壺	(11.8)	—	(6.5)	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶黃褐色	1/3	
179	B区南谷部	土師器	焼塙壺	(12.2)	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を多く含む。	良好	赤茶褐色	1/3	
180	B区南谷部	土師器	焼塙壺	(12.2)	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	茶黃褐色	1/4	
181	B区南谷部	土師器	焼塙壺	12.8	—	—	やや粗。2~3mmの砂粒を含む。	良好	茶黃褐色	2/3	
182	B区南谷部	土師器	焼塙壺	(12.4)	(2.4)	(6.5)	やや粗。1~4mmの砂粒を多く含む。	良好	赤茶褐色	1/4	
183	B区南谷部	土製品	紡錘車	—	—	—	密。1mm以下の砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/3	径:(5.6cm) 厚さ:1.9cm 孔径:0.4cm 重さ:17.48g
184	B区南谷部	土師器	甕	(30.0)	—	—	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	口縁部1/3	胴部最大径:(28.0cm)
185	B区南谷部	土師器	甕	(30.4)	—	—	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	約1/7	胴部最大径:(25.6cm)
186	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。2~3mmの砂粒を多く含む。	良好	淡灰黄色	2/3	長さ:3.90cm 幅:1.68cm 厚さ:1.55cm 重さ:8.42g 穴径:0.3cm
187	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	精良。砂粒をほとんど含まない。	やや不良	橙色7.5YR6/6~鈍い橙色7.5YR7/3	1/2	長さ:2.8cm 幅:1.6cm 厚さ:1.55cm 重さ:5.36g
188	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	灰褐色	1/2	長さ:3.83cm 幅:1.59cm 厚さ:1.61cm 重さ:8.90g 穴径:0.3cm
189	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	一部欠	長さ:5.08cm+α 幅:1.68cm 厚さ:1.54cm 重さ:12.72g 穴径:0.3cm
190	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR6/4	1/2	長さ:3.8cm 幅:2.0cm 厚さ:1.65cm 重さ:12.51g 両端とも欠損
191	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm以下の砂粒を含む。	良好	茶褐色	完存	長さ:4.92cm 幅:1.49cm 厚さ:1.40cm 重さ:8.94g 穴径:0.3cm
192	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰黑色	完存	長さ:4.91cm 幅:1.67cm 厚さ:1.59cm 重さ:12.72g 穴径:0.3cm
193	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	精良。径1mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2~橙色7.5YR6/6	ぼぼ完存(片方の端部を一部欠損)	長さ:4.9cm 幅:1.5cm 厚さ:1.45cm 重さ:9.11g
194	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石、雲母を多量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR6/4~褐灰色7.5YR5/1	完存	長さ:5.2cm 幅:1.65cm 厚さ:1.75cm 重さ:12.51g
195	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR6/6~鈍い橙色7.5YR7/3	4/5	長さ:5.6cm 幅:1.75cm 厚さ:1.6cm 重さ:14.62g

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
196	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	精良。径1mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	黒褐色7.5YR3/1(炭素吸着)、鈍い橙色7.5YR7/3	完存	長さ5.35cm 幅1.75cm 厚さ1.75cm 重さ:13.81g 大半が黒褐色
197	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡茶褐色	完存	長さ6.12cm 幅2.79cm 厚さ2.58cm 重さ:35.26g 穴径0.6cm
198	B区南谷部	土製品	土錐	—	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量、細かい雲母を少量含む。	良好(一部陶質)	灰白色10YR7/1~黒褐色10YR3/1、鈍い黄褐色10YR5/4	ほぼ完存(片方の端部を一部欠損)	長さ6.5cm 幅2.35cm 厚さ2.05cm 重さ:23.36g
199	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺蓋	(13.7)	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好(硬質)	灰色N6/(自然釉部分は灰色N4/、スズ付者部分は黑色10YR2/1)	天井部4/5 体部2/5	残存高:1.75cm 外面天井部に墨書「成」
200	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨痕)	壺蓋	(13.8)	—	2.4	精良。径1mm以下の白色、黒色砂粒を少量含む。	良好	外面部:暗緑灰色5G3/1~緑灰色5G5/1 内面部:灰色5Y6/1(一部、墨の為に黒色化)	2/3	つまみ径:2.65cm。転用硯。(内面に墨の痕跡)
201	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺蓋	15.0	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰かぶ印:緑灰色7.5GY5/1 その他:灰色N6/	口縁部のみ1/8	残存高:0.7cm 両面に墨書有り。
202	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺蓋	(15.0)	—	1.35	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	釉:灰褐色7.5YR6/2~灰白色7.5YR8/1 その他:褐灰色10YR6/1~灰褐色10YR5/2	1/4	つまみ径:2.0cm 天井部外面に墨書「志豆女」
203	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	(15.0)	—	—	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	口縁部両面:灰白色2.5Y8/1(灰をかぶっている) その他:灰色N6/	1/4	残存高:1.9cm 灰の残り具合は重ね焼きである事を示す。
204	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	(14.8)	—	1.7	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	口縁部外面部:灰色N4/(灰をかぶる) その他:灰色N6/	1/7	つまみ径:1.7cm
205	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	(15.8)	—	1.5	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰色N6/	3/4	つまみ径:2.8cm。
206	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	(16.9)	—	2.8	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	青灰色10BG5/1	1/12	つまみ径:1.75cm
207	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	17.7	—	1.4	精良。径5mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	灰色N5/	ほぼ完存	つまみ径:1.7cm
208	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	(17.7)	—	2.4	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	つまみ径:1.7cm つまみ高:1.0cm
209	B区南谷部(北側)	須恵器	壺蓋	(18.6)	—	2.9	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	灰白色10YR8/1	1/5	つまみ径:1.85cm
210	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺蓋	—	—	—	密。径2mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	青灰色5B5/1	天井部1/4	残存高:1.65cm 天井部径:(9.6cm) つまみ径:1.6cm つまみ頂部に「上」
211	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨痕)	壺蓋	—	—	—	密。2~3mmの砂粒を少量含む。	良好	青灰色	一部(破片)	つまみ径:1.7cm つまみ高:0.7cm転用硯か。
212	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺蓋	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	一部(破片)	墨書
213	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺蓋	—	—	—	密	良好	灰青色		墨書「○」
214	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	10.4	6.8	4.9	密	やや不良	茶灰色	1/2	
215	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(13.0)	7.0	—	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	体部外面部:暗緑灰色5G4/1~緑灰色10GY6/1(外面部灰かぶり) その他:青灰色5B5/1	体部1/3 底部1/1	
216	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(13.1)	7.1	4.9	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面部:灰色N4/ 内面部:灰色N5/	体部1/6 底部1/2	
217	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(13.2)	(8.4)	3.6	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面部:灰色N6/ 内面部:鈍い黄褐色10YR5/3~4/3	1/5	
218	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(13.1)	(7.4)	4.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	
219	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(13.4)	(8.4)	3.6	密	良好	青灰色	1/2	
220	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	高台付壺	13.9	9.9	(2.2)	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	内面部:高台部内側:灰色N6/~鈍い黄褐色10YR6/3 その他:外面部:灰色N6/、暗緑灰色5G3/1(自然釉の色)	底部1/1 体部わざか	残存高:2.2cm 墨書有り。高台部内側を除く外面部全体に灰をかぶる。
221	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(14.4)	(8.4)	5.0	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
222	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(15.6)	(8.0)	5.2	密。径2mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	暗緑灰色10GY4/1	体部1/10 底部1/3	
223	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(15.8)	(8.4)	5.7	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
224	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(16.2)	(9.8)	5.3	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
225	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	高台付壺	—	(10.0)	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	一部(破片)	墨書有り。
226	B区南谷部(北側)	須恵器	高台付壺	(16.5)	(8.2)	5.65	密。径3mm以下の石英、長石を多く含む。	良好	灰色N4/	体部1/3 底部2/3	
227	B区南谷部(北側)	須恵器	大皿	(22.6)	(17.4)	3.8	密。1~3mm大の砂粒を含む。	良好	暗青灰色	1/3(2片)	
228	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(12.4)	(7.4)	3.75	精良。径4mm以下の白色、黒色砂粒を少量含む。	良好	体部外面上半:黄灰色2.5Y4/1 その他:灰白色2.5Y7/1	1/5	重ね焼き
229	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺身	—	(8.0)	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰白色N8/	底部のみ1/8	残存高:0.8cm 底部外面部に墨書あり。
230	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺身	—	8.4	—	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面部:灰白色2.5Y7/1 内面部:灰白色N8/	体部わざか 底部1/1	残存高:1.7cm 底部外面部に墨書「正月」
231	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(12.8)	(9.6)	3.2	密。径1~2mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
232	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(13.0)	(9.3)	3.95	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良(瓦質)	口縁部外面部~体部内面部:灰色N4/~鈍い黄褐色10YR6/1(灰かぶり) その他:灰白色10YR7/1	体部1/6 底部1/4	
233	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(13.4)	(9.8)	3.65	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	不良(瓦質)	口縁部外面部:鈍い黄褐色10YR5/1~4/1(灰かぶり) 外面部:鈍い黄褐色10YR6/1 内面部:灰白色10YR7/1	1/3	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
234	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺身	(13.7)	(9.8)	3.8	密。径1mm以下の石英、長石を少量含む。	良好 (瓦質)	灰白褐色	口縁部1/6 その他1/2	「□刀自」
235	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(13.4)	(8.6)	3.9	精良。径2mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	やや不良 (瓦質)	外面:暗緑色7.5GY4/1~灰色6/ 内面:褐灰色7.5YR6/1~ 灰白色7.5YR8/2	1/4	
236	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(13.6)	(9.5)	3.75	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	体部外面上半:灰色N4/ その他:灰色N5/	1/4	重ね焼き
237	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(14.4)	(9.0)		精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好 (瓦質)	外面~口縁部内面:黒褐色10YR3/2(灰かぶり) その他:灰白色2.5Y8/1	1/6	残存高:4.15cm 重ね焼き
238	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(14.4)	(9.8)	3.7	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良 (瓦質)	口縁部外面:灰褐色7.5YR6/2 (灰かぶり、重ね焼きの為だらう。) その他:灰白色2.5Y8/1	体部1/6 底部1/3	
239	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	14.8	—	3.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	不良	淡黄灰色	2/3	
240	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(15.4)	(9.7)	3.8	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好 (瓦質)	体部~底部外面:灰白色10YR7/1 底部内面:灰黃褐色10YR5/2	体部1/12 底部1/4	体部の両面にスス
241	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺身	—	(10.6)	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	やや不良	淡灰褐色	一部(破片)	墨書有り。
242	B区南谷部(北側)	須恵器	壺身	(16.4)	—	4.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
243	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	高壺	—	(14.2)	—	密。径3mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	灰白色10YR7/1~N7/	壺部わずか 脚柱部1/1 脚裾部1/4	残存高:9.6cm 脚柱部外面に「赤」
244	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(15.3)	12.3	2.05	やや粗。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰色N6/1	2/3	外底部のへら記号
245	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(15.5)	—	2.0	密。径1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/4	
246	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(17.0)	(13.5)	2.25	精良。径4mm以下の石英、長石、雲母を少量含む。	不良	体部前面:褐灰色7.5YR4/1(灰かぶり) 底部外面:明褐色7.5YR7/1~7/2 底部内面:明褐色7.5YR7/2~橙色7.5YR7/6	1/3	
247	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺	(15.0)	(13.7)	2.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/4	墨書「井」
248	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(17.4)	(14.2)	2.0	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	体部外面:暗緑灰色10GY3/1 その他:明緑灰色10GY7/1	体部1/6 底部1/3	
249	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(17.6)	—	2.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色。内面中央は褐色化	1/2	
250	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(17.8)	(14.5)	1.8	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好 (瓦質)	灰白色10YR7/1	1/6	割れ口を見ると、芯は須恵質。
251	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	17.9	14.7	2.3	密。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
252	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(18.2)	(13.8)	2.3	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	外面:灰白色2.5Y8/1~7/1 内面:灰白色2.5Y7/1~黄灰色2.5Y5/1(灰かぶり)	1/3	
253	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(18.4)	(16.1)	2.5	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	やや不良 (瓦質)	口縁部両面:暗緑灰色10GY3/1~4/1 その他:灰白色N8/	1/4	重ね焼き
254	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	—	—	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	やや不良	茶褐色	1/3	
255	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(18.5)	—	2.2	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
256	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(18.6)	(14.3)	2.35	精良。径3mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	やや不良	灰白色10YR7/1	1/4	
257	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	—	(15.0)	—	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	暗青灰色	1/5	内外面に墨痕らしきものが付着しているが不明。
258	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(19.0)	(15.2)	2.4	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良 (瓦質)	内面~体部外面上半:暗緑灰色10GY4/1 体部外面下半~底部:灰白色2.5Y8/1	主に体部のみ1/7	
259	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺か皿	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色		器壁厚:0.5cm 底部外面に墨書
260	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺か皿	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	灰茶褐色		器壁厚:0.7cm 底部外面に墨書
261	B区南谷部(北側)	須恵器 (墨書)	壺か皿	—	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰色5Y6/1 内面:灰オリーブ色5Y5/2(薄く灰をかぶっていいる。)	小破片(1cm程)	底部外面に墨書
262	B区南谷部(北側)	須恵器	円面鏡	—	—	—	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:暗緑灰色10G4/1 内面:灰色N5/	脚部のみ1/8	残存高:3.15cm 脚裾部径:(11.0cm)
263	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(13.3)	—		精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:褐灰色10YR5/1 内面:暗緑灰色10GY3/1(自然釉)	胴部上半1/6	胴部最大径:20.8cm 残存高:9.4cm
264	B区南谷部(北側)	須恵器	壺	(19.6)	—	—	密	良好	青灰色	1/3	
265	B区南谷部(北側)	須恵器	甕	(46.0)	—	—	密。径5mm以下の石英、長石、黒色砂粒を多量含む。	良好	灰白色N7/ ~ 暗緑灰色10GY4/1	口頸部1/3	残存高:11.6cm
266	B区南谷部(北側)	土師器	蓋	(19.2)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	淡黄茶色	1/3	
267	B区南谷部(北側)	土師器	蓋	(28.0)	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	浅黄橙色7.5YR8/4~8/6	1/8	残存高:3.2cm
268	B区南谷部(北側)	土師器	皿か蓋	(14.0)	(6.8)	3.5	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:褐色10YR4/4~灰黃褐色10YR6/2 内面:暗褐色10YR3/4~鈍い黄褐色10YR4/3	1/3	
269	B区南谷部(北側)	土師器	壺	(14.6)	9.8	4.0	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	外面:鈍い褐色7.5YR6/3 内面:鈍い褐色7.5YR5/3	体部1/4 底部2/3	
270	B区南谷部(北側)	土師器	壺	(14.5)	(9.9)	4.3	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	黄茶褐色	1/5	
271	B区南谷部(北側)	土師器	壺	(15.6)	(8.0)	3.6	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	赤茶褐色	1/5	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
272	B区南谷部(北側)	土師器	壺	—	7.8	—	精良。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:鈍い橙色7.5YR7/4~6/4 内面:橙色5YR7/6	体部下半1/2 底部1/1	残存高:2.7cm
273	B区南谷部(北側)	土師器	壺	—	(9.0)	—	密	良好	外:赤茶褐色 内:漆黒色	一部(破片)	黒色土器(内黒)
274	B区南谷部(北側)	土師器	壺	(14.2)	(6.3)	3.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/4	
275	B区南谷部(北側)	土師器	壺	(15.6)	(7.5)	3.5	密	良好	灰茶褐色	1/6	墨痕有り。
276	B区南谷部(北側)	土師器	壺	—	(6.9)	—	密。1mm大的砂粒を含む。	良好	茶灰褐色	1/4	
277	B区南谷部(北側)	土師器	皿	(18.2)	(14.6)	2.0	密。径1mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色5YR7/6	1/4	
278	B区南谷部(北側)	土師器	皿	(18.0)	(14.2)	(2.9)	精良。径2mm以下の石英、長石、雲母を少量含む。	やや不良	鈍い橙色7.5YR7/4	1/4	
279	B区南谷部(北側)	土師器	皿	(18.2)	(14.6)	—	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	1/5	
280	B区南谷部(北側)	土師器	皿	(19.5)	(16.3)	2.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	淡灰褐色	1/2	
281	B区南谷部(北側)	土師器	大皿	(22.3)	8.2	3.75	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	橙色5YR7/6~6/8	体部上半1/4 体部下半1/2 底部3/5	
282	B区南谷部(北側)	土師器	高壺(壺部)	22.6	—	—	密。砂粒を含まない。	良好	茶褐色	壺のみ1/4	
283	B区南谷部(北側)	土師器	鉄鉢	(20.2)	—	12.15	精良。砂粒をほとんど含まない。	やや不良	外面:鈍い橙色5YR7/4 内面:淡橙色5YR8/4	体部上半1/8 体部下半1/3	体部最大径:(21.5cm)
284	B区南谷部(北側)	土師器	甕	(26.8)	—	—	密。3~5mmの砂粒を含む。	良好	外:黒褐色(煤付着) 内:灰黄色	1/3	最大径:27.2cm
285	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(9.8)	—	6.9	やや粗。2~7mmの砂粒を含む。	良好	赤茶褐色	1/4	
286	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.1)	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	1/3	
287	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(11.8)	—	6.1	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶灰褐色	1/4	
288	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.3)	—	6.1	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	1/4	
289	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.1)	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄灰褐色	1/4	
290	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.3)	—	7.5	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/3	
291	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.2)	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	1/4	
292	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.6)	—	7.1	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	2/3	
293	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	(12.1)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/4	
294	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	—	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	赤茶褐色	1/10	胴部中央部径:9.0cm
295	B区南谷部(北側)	土師器	焼塙壺	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石、雲母を多量含む。	やや不良	外面:橙色5YR6/8~赤褐色5YR4/6 内面:鈍い赤褐色5YR5/4	底部1/3	残存高:8.4cm 削れ、剥離が顕著、形が突底深鉢形で、内面に布目压痕
296	B区南谷部(北側)	土製品	土錘	—	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	鈍い黄橙色10YR7/3~6/3	完存	長さ:6.0cm 幅:2.0cm 厚さ:1.75cm 重さ:20.23g
297	B区南谷部(北側)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径7mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:二次熱を受け、先端部に凹凸があり 灰白色10YR8/1~灰褐色6/6~緑黒色10G2Y1/1 と変色している。	先端部のみ完存	
298	B区南谷部(北側)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径6mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:二次熱を受け、先端部に凹凸があり 変色(褐)黄褐色10YR8/1~灰白色10YR8/1~灰褐色6/6 内面:鈍い黄褐色10YR5/3	残存長:11.0cm、幅:7.5~7.8cm、 内径先端側:3.0cm、内径基部側:3.2cm、外面は被擦、面が明瞭。	
299	B区南谷部(北側)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径6mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:二次熱を受け、先端部に凹凸があり 灰白色10YR8/1~灰褐色6/6~緑黒色10G2Y1/1 と変色している。 内面:鈍い黄褐色10YR5/3	残存長:14.4cm、先端部幅:不明、先端部内径:3.15cm、基部幅:7.8cm、基部内径:2.85cm、先端部は溶蝕、被擦、変色している。	
300	B区南谷部(北側)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径6mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	基本的に両面とも鈍い黄褐色10YR5/3 (外側は先端部にゆくにつれて、灰褐色6/6~灰白色10YR8/2~黒色5Y2/1)	ほぼ完形	残存長:20.3cm、先端部幅:不明、先端部内径:3.1cm、基部幅:7.3cm、基部内径:3.3cm、先端部は溶蝕、被擦、変色している。
301	B区南谷部(北側)	土師器	移動式カマド	—	—	—	密。2~5mmの砂粒を含む。	良好	灰黄褐色	約1/2	残存高:23.0cm 残存幅:24.3cm
302	B区南谷部(北側)	土師器	移動式カマド	—	—	—	—	良好	橙色7.5YR7/6		残存高:10.9cm 輪部径:(41.0cm)
306	B区南谷部(北側)下層	須恵器	壺蓋	11.1	—	3.15	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:暗緑灰色5G3/1(灰かぶつ) 内面:灰褐色N7/1~暗緑灰色5G4/1(灰かぶつ)	天井部3/4 体部1/4	口径(身受け部径):11.1cm 立ち上がり部径:8.8cm つまみ径:1.45cm 天井部外面にヘラ記号
307	B区南谷部(北側)下層	須恵器	壺蓋	14.4	—	1.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	4/5	つまみ径:1.8cm つまみ高:0.7cm
308	B区南谷部(北側)下層	須恵器(墨書き)	壺蓋	14.7	—	2.7	密。径2mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	灰色N5/	天井部2/3 体部1/3	残存高:2.3cm つまみ径:2.1cm 天井部外面に墨書き「志豆女」
309	B区南谷部(北側)下層	須恵器	壺・塊	(12.2)	(6.8)	5.2	密。1mm大的砂粒を少量含む。	良好	青灰色	1/3	
310	B区南谷部(北側)下層	須恵器(墨痕)	高台付壺	12.4	7.7	—	密。2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	淡青灰色	3/4	墨痕又は油煙痕有り。
311	B区南谷部(北側)下層	須恵器(墨書き)	高台付壺	(17.3)	10.8	5.85	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	体部外面:黒色2.5Y2/1 その他:灰白色2.5Y8/1	体部2/5 底部2/3	底部外面に墨書き「上」
312	B区南谷部(北側)下層	須恵器	高台付壺	(18.2)	(10.2)	6.1	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
313	B区南谷部(北側)下層	須恵器	無高台坏	(10.6)	(8.4)	3.1	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	灰青褐色 灯明皿に転用か	1/4	煤付着
314	B区南谷部(北側)下層	須恵器(墨書)	無高台坏	—	(10.2)	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰白色10Y7/1	底部1/3 体部わずか	残存高:2.0cm 底部外面に墨書「成」
315	B区南谷部(北側)下層	土師器(線刻)	坏	17.8		5.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡茶褐色	3/5	内底部に線刻
316	B区南谷部(北側)下層	土師器	坏	(19.1)	(14.8)	2.2	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	茶黃褐色	1/4	
317	B区南谷部(北側)下層	須恵器(墨書)	皿	—	—	—	緻密	良好	青灰色	(破片)	墨書・墨痕有り。転用観
318	B区南谷部(北側)下層	土師器	高坏(坏部)	(25.0)	—	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	黄茶褐色	1/4	
319	B区南谷部(北側)下層	土師器	甕	(14.0)	—	12.9	密。径1~3mmの砂粒を含む。	良好	赤茶色	2/3	
320	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(12.2)	—	—	精良。砂粒をほとんど含まない。	良好 (堅緻)	外面:灰色N4/(灰かぶり) 内面:褐灰色10YR4/1(灰かぶり)	1/4	残存高:1.25cm
321	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(13.6)	—	—	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:緑灰色5G5/1 内面:青灰色10BG5/1	天井部1/5 体部1/10	残存高:2.55cm 転用観
322	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(13.8)	—	—	精良。砂粒をほとんど含まない。	良好	外面:褐灰色10YR5/1[外面に一部釉(暗緑灰色10G3/1)の痕跡有り。 内面:褐灰色10YR6/1]	1/4	残存高:1.45cm
323	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	13.4	—	3.1(歪あり)	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	つまみ径:2.0cm つまみ高:0.6cm 焼き歪有り
324	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	—	—	—	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:褐灰色10YR6/1 内面:鈍い黄褐色10YR5/3	天井部1/4	天井部外面に墨書「上」
325	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(15.8)	—	—	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好 (堅緻)	両面とも灰色N5/	1/5	残存高:1.2cm
326	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(15.6)	—	—	精良。砂粒をほとんど含まない。	やや不良	内面~体部外面:灰黃褐色10YR5/2~鈍い黄褐色10YR5/3 天井部外面:灰白色10YR7/1	1/4	残存高:1.5cm
327	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(20.0)	—	—	精良。砂粒をほとんど含まない。	良好	両面とも灰色N6/	体部1/6	残存高:3.0cm
328	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	19.05	—	2.1	精良。径1mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	良好	内面 天井部外面:褐灰色10YR5/1 体部外面:灰白色N7//輪が一部飛んでいる。自然焼灰オーブ色5Y6/2~4/2	2/3	つまみ径:2.9cm、 つまみ高:2.6cm
329	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	蓋	(21.0)	—	—	精良。砂粒をほとんど含まない。	良好	外面:黄灰色5Y6/1 内面:灰白色2.5Y7/1	体部のみ1/7	残存高:1.65cm つまみ高:2.6cm つまみ高:1.0cm
330	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	高台付坏	—	(7.6)	—	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰色N4/	底部1/3	残存高:1.9cm 外面の高台内側に墨書「上」
331	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	高台付坏	—	9.6	—	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰白色10YR7/1 内面:褐色7.5Y4/6	底部2/3	残存高:1.4cm 墨書「□」
332	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	(13.9)	(10.1)	2.85	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰色N6/、オリーブ灰色2.5GY6/1(灰かぶり) 内面:褐色N6/	底部3/4 体部1/8	
333	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	(13.5)	(10.3)	3.45	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好 (堅緻)	両面とも灰色N6/ (外:ともに灰をかぶる。 外:青灰色10BG5/1、内:鈍い黄褐色10YR4/3) 内面の方は灰を受けて半分は飛んでいる。	2/5	内面の黒褐色部分は墨の可能性有り。
334	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	(12.8)	(9.8)	3.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
335	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	13.9	8.9	3.9	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	内面:鈍い黄褐色10YR5/3 外:褐灰色10YR6/1	体部1/3 底部1/1	
336	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	(14.0)	9.7	4.55	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	不良	内面:鈍い黄褐色10YR4/3 体部外面:黒褐色10YR3/1(灰かぶり) 底部外面:鈍い黄褐色10YR6/3	体部1/5 底部7/8	
337	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	高台付坏	14.2	8.0	4.2	密。径1mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	青灰色5B6/1、暗オリーブ灰色2.5GY3/1(うすらと灰をかぶっている。)	体部3/4 底部1/1	底部外面に墨書「志豆女」
338	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	(14.4)	(9.2)	3.9	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
339	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	高台付坏	(18.4)	(14.4)	5.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
340	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	高台付坏	(19.9)	10.2	6.45	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	灰色N6/~灰黃褐色10YR5/2	体部上半1/8 体部下半1/3 底部1/1	底部外面に墨書「出」
341	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	大皿	—	(18.0)	—	精良。径5mm以下の石英、長石を少量含む。	良好 (堅緻)	内面見込み:灰色N4/ その他の灰色N5/ 体部外面:青灰色5BG5/1	底部2/5 体部わずか	残存高:2.9cm 体部外面のみ薄く灰をかぶる。
342	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	無高台坏	14.6	10.9	3.6	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	鈍い黄褐色10YR5/3~4/3	3/5	底部外面に墨書「田原」
343	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	皿	14.8	12.0	1.75	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	外面:褐色10YR4/4~暗褐色10YR3/3(自然釉) 内面:褐灰色10YR6/1、暗褐色10YR3/3(自然釉)	体部2/3 底部1/1	底部外面に墨書「志□□」
344	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	皿	(16.5)	—	2.7	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好 (堅緻)	外表面褐色10YR6/1(灰をかぶった大部分はオリーブ灰色5GY3/1だが半分は水受けで白色化している。) 内面褐灰色10YR6/1	体部2/5 底部2/3	
345	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	皿	16.1	11.5	3.05	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好 (堅緻)	両面とも褐灰色10YR5/1 釉:黒褐色5YR3/1~灰褐色5YR4/2	体部1/2 底部1/1	
346	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	皿	(17.7)	—	2.55	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好 (堅緻)	外表面暗緑灰色10G4/1~灰褐色7.5YRS/2(灰かぶり) 内面:褐灰色10YR5/1	底部1/3 体部わずか	外表面はほとんど灰をかぶっている。
347	B区南谷部(北側)最下層	須恵器(墨書)	皿	—	(15.0)	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	両面とも灰白色10YR8/1(内面は煤で黒色化している部分もある。 内面褐灰色10YR6/1)	底部のみ1/6	残存高:1.3cm 転用観。底部の外面に墨書有り。底部の内面に墨の痕跡有り。
348	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	脚付甕	(12.1)	(8.2)	10.6	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	やや不良	塊体部1/3 脚部1/3 瓢底部1/1	塊体部1/3 脚部1/3 瓢底部1/1	外表面カキメ部分にヘラ記号。
349	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	広口鉢	(22.7)	(13.3)	17.9	精良。径3mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好 (堅緻)	外表面灰をかぶる。北谷部溜まり出土125と接合	体部1/3 底部わずか	外表面灰をかぶる。北谷部溜まり出土125と接合
350	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	鉄鉢	(17.8)	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	灰黃褐色10YR5/2	口縁部1/5	残存高:2.6cm 体部最大径:(20.1cm)

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
351	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	甕	(21.0)	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	やや不良(軟質)	頸部内面:灰色N5/(灰かぶり) 外面~口縁内面オリーブ灰色5GY 6/1(火を受けて灰が飛んでいる)	口部1/4 体部わずか	残存高:7.7cm
352	B区南谷部(北側)最下層	土師器	蓋	(16.4)	—	3.1	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	茶黄褐色	1/4	つまみ径:2.2cm つまみ高:0.6cm
353	B区南谷部(北側)最下層	土師器	蓋	(20.8)	—	—	緻密	良好	茶黄褐色	1/2	
354	B区南谷部(北側)最下層	土師器	蓋	(21.6)	—	3.7	緻密	良好	茶黄褐色	1/4	つまみ径:3.3cm つまみ高:0.7cm
355	B区南谷部(北側)最下層	土師器	高台付坏	(11.2)	(6.6)	3.2	緻密	良好	茶黄褐色	1/2	
356	B区南谷部(北側)最下層	土師器	皿	(22.2)	(17.2)	3.15	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	鈍い褐色7.5YR6/3	1/3	
357	B区南谷部(北側)最下層	須恵器	坏	(14.2)	—	4.1	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:灰黄褐色10YR4/2~黒褐色10YR3/1 内面:灰黄褐色10YR4/2~黒褐色10YR3/2	体部1/3 底部2/3	両面とも被熱により器表面が発泡している。
358	B区南谷部(北側)最下層	土師器	皿	(18.2)	(14.4)	2.4	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	外面:明褐色7.5YR5/6 内面:褐色7.5YR4/4	1/5	
359	B区南谷部(北側)最下層	土師器	鉄鉢	(22.6)	—	—	緻密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	赤茶褐色	1/3	最大径:(24.0cm)
360	B区南谷部(北側)最下層	土師器	高坏	(6.9)	—	—	精良。径1mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	鈍い褐色7.5YR6/3~5/4	口縁部1/3 环部下半1/1 脚柱部2/3	残存高:5.1cm 坏部底部径:5.8cm 内底部に線刻
361	B区南谷部(北側)最下層	土師器	短頸壺	(12.7)	—	20.3	密	良好	灰茶褐色	1/2	最大径:28.6cm
362	B区南谷部(北側)最下層	土師器	甕	(13.4)	(8.0)	(12.7)	密。2~3mmの砂粒を多量含む。	良好(二次的被熱)	茶黄褐色	1/2	
363	B区南谷部(北側)最下層	土師器	甕	(14.8)	(7.6)	(13.9)	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	茶黄褐色	1/3	
364	B区南谷部(北側)最下層	土師器	甕	(30.4)	—	—	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	約1/5	胴部最大径:(28.8cm)
365	B区南谷部(北側)最下層	土師器	焼塩壺	(10.8)	—	5.4	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶灰褐色	1/5	
366	B区南谷部(北側)最下層	土製品	土錐	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	灰黄褐色10YR5/2~黒褐色10YR3/1	完存	長さ:5.85cm 幅:1.85cm 厚さ:1.75cm 重さ:16.89g
367	B区南谷部(北側)最下層	土製品	土錐	—	—	—	精良。径1mm以下の石英、長石、黑色砂粒を少量含む。	良好	灰黄褐色10YR5/2~褐色10YR4/1	完存	長さ:6.1cm 幅:2.15cm 厚さ:1.9cm 重さ:20.57g
368	B区南谷部(北側)最下層	土製品	羽口	—	—	—	粗。径7mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面灰白色10YR8/1(被熱部分は青灰色BG3/1、さらに先端側の溶融した部分には暗青灰色10BG3/1) 内面:鈍い黃褐色10YR6/3		残存長:7.4cm 幅:7.2~7.5cm、内径:2.9cm。先端部は溶融しており、発泡あるいはガラス化している。
369	B区南谷部(北側)最下層	土製品	羽口	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:先端部:暗灰色N3。外面:体部:灰オリーブ色5Y6/2~青灰色5B6/1 内面:灰黄褐色10Y5/2	先端部のみ1/1	残存長:7.6cm 先端部:幅不明、内径3.1cm 基部:幅不明、内径2.6cm。太身:先端部は被熱して溶融、充泡し、一部ガラス化。
370	B区南谷部(北側)最下層	土製品	羽口	—	—	—	粗。径6mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:灰白色10YR7/1(先端部は明青灰色5B7/1) 内面:橙色7.5YR6/6		残存長:11.7cm 基部:幅7.3cm、内径3.2cm。先端部は被熱。
371	B区南谷部(北側)最下層	土製品	羽口	—	—	—	粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	黒褐色10YR3/1~灰白色10YR8/1~鈍い黄褐色10YR6/4	先端部1/4 その他1/1	残存長:13.8cm 先端部:幅不明、内径3.15cm 基部:幅0.6cm、内径3.25cm。太身:先端部は被熱、溶融。
372	B区南谷部(北側)最下層	土師器	移動式カマド	—	—	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡灰茶褐色	一部	
373	B区南谷部ベルト	須恵器	高台付坏	(13.5)	(7.6)	3.6	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
374	B区南谷部ベルト	土師器	無高台坏	(10.0)	(6.5)	4.5	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	灰茶褐色	1/3	
375	B区南谷部ベルト	須恵器(墨痕)	坏	(13.8)	(8.8)	3.7	密。1~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/3	墨痕有り。
376	B区南谷部ベルト	須恵器(墨書)	皿	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	灰褐色	破片	墨書有り。字は不明。
377	B区南谷部ベルト	須恵器	皿	19.0	15.3	2.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	一部欠	
378	B区南谷部ベルト	須恵器	短頸壺	(17.2)	—	—	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	青灰色	一部(破片)	最大胴径:(20.0cm)
379	B区南谷部ベルト	須恵器	円面鏡(脚部)	—	(19.8)	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	灰褐色	破片(一部)	
380	B区南谷部ベルト	土製品	土錐	—	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を多く含む。	やや不良	黄褐色	約1/2	長さ:2.36cm 幅:1.74cm 厚さ:1.68cm 重さ:6.69g 六径:0.4cm
381	B区南谷部ベルト	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	茶褐色	完存	長さ:5.00cm 幅:1.80cm 厚さ:1.68cm 重さ:13.23g 六径:0.2cm
382	B区南谷部ベルト	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	白灰褐色	完存	
383	B区南谷部ベルト	土製品	羽口	—	—	—	粗。径3~8mmの砂粒を多く含む。	良好(二次使用済み)	内面:暗灰褐色 外:茶黄褐色(基部)		残存長:16.0cm 幅:7.5~8.0cm 内径:3.2cm
384	B区南谷部ベルト黒色土	土師器	蓋	(24.8)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶黄褐色	1/2	
385	B区南谷部ベルト黒色土	須恵器	高台付坏	(12.8)	(7.6)	4.0	密。1~5mmの砂粒を少量含む。	良好	青灰色	1/3	
386	B区南谷部ベルト黒色土	須恵器	高台付坏	(15.6)	(8.8)	5.1	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/3	
387	B区南谷部ベルト黒色土	須恵器	高台付坏	(26.1)	(9.1)	5.5	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
388	B区南谷部ベルト黒色土	須恵器	高台付坏	(16.8)	(8.2)	6.0	密	良好	淡青灰色	底部1/1 体部1/4	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
389	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器	無高台坏	(13.0)	(7.4)	3.8	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
390	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器	無高台坏	(12.9)	(9.2)	3.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
391	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器 (墨書)	無高台坏	(13.2)	(9.1)	3.4	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	暗灰褐色	1/2	墨書「上」
392	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器	無高台坏	(16.4)	(10.2)	5.2	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/3	
393	B区南谷部ベルト 黒色土	土師器 (墨書)	坏	—	6.8	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	灰茶褐色	1/2	墨痕有り。墨書「山」「人」か。
394	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器	皿	(18.8)	(15.4)	2.1	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/2	
395	B区南谷部ベルト 黒色土	土師器 (刻書)	坏	—	—	—					針書「金」(焼成後)
396	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器 (墨書)	不明	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	灰褐色	破片	墨書「水」一部か
397	B区南谷部ベルト 黒色土	土師器	蓋	—	—	—	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	破片	天井部外面ヘラ記号有り。
398	B区南谷部ベルト 黒色土	須恵器	甕	(38.2)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	口縁完存 体部2/5	最大径:62.0cm
399	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	蓋	(12.8)	—	2.4	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	青灰色	1/5	墨書「田」か。 つまみ径: 1.6cm つまみ高:0.7cm
400	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(13.6)	—	2.2	径2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	つまみ径:1.5cm つまみ高:0.8cm
401	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(14.0)	—	2.55	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好 (硬質)	外面:鈍い橙色7.5YR7/4~6/4 内面:鈍い褐色7.5YR5/3	天井部2/3 体部1/8	天井部径:7.9cm つまみ径:1.5cm
402	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	14.6	—	3.0	径2~5mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	つまみ径:1.7cm つまみ高:0.9cm
403	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(14.8)	—	2.6	径2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	つまみ径:1.8cm つまみ高:0.8cm
404	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(15.0)	—	—	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	口縁部両面:暗緑灰色10G4/1 (灰かぶけ) その他:灰白色10YR7/1	1/5	残存高:1.6cm 天井部径: (9.3cm) 重ね焼き
405	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(15.4)	—	2.5	1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	2/3	つまみ径:1.6cm つまみ高:0.7cm
406	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	蓋	(15.6)	—	2.5	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/4	つまみ径:2.0cm つまみ高: 0.9cm 焼き歪み著しい。 墨痕有り。
407	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	蓋	(15.6)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰青色	1/5	転用硯
408	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	15.0	—	1.6	径2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5	つまみ径:1.7cm つまみ高:0.7cm
409	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	蓋	(17.1)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	灰茶褐色	破片(1/8)	墨書、墨痕有り。 つまみの有無は不明。
410	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(18.0)	—	1.7	精良。径3mm以下の石英、長石 を少量含む。	良好	外面:褐色10YR5/1 内面:灰色N4/	1/4	つまみ径:1.9cm
411	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	18.1	—	2.2	径1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	つまみ径:1.5cm つまみ高:1.3cm
412	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(19.0)	—	3.0	精良。径2mm以下の白色砂粒 を少量含む。	やや不良	外面:灰褐色5YR5/2 内面:灰色N5/~N4/	1/4	天井部径:(13.6cm) つまみ径:1.95cm 重ね焼き
413	B区南谷部(南側)	須恵器	蓋	(19.0)	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石 を少量含む。	不良	体部外面:橙色5YR7/6 その他:淡橙色5YR8/4	1/7	残存高:1.8cm 重ね焼き。還 元焰焼成に至らず。
414	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	蓋	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	暗灰青色	破片	墨書有り。 転用硯
415	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	蓋	—	—	—	密。1~4mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	一部(破片)	墨痕有り。転用硯
416	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	—	(4.2)	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	暗灰褐色	1/3	
417	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(12.4)	(6.5)	4.3	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/4	
418	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	高台付坏	(12.6)	(7.4)	4.4	密。2~4mmの砂粒を少量含 む。	良好	暗青灰色	1/3	墨痕有り。転用硯か。
419	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(12.8)	7.2	4.0	精良。径3mm以下の石英、長石 を少量含む。	良好	体部外面:暗青灰色10BG3/1~ 灰白色10YR7/1(自然釉) その他:灰色N6/~N5/	体部1/4 底部3/4	
420	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(13.4)	7.8	4.7	精良。径3mm以下の石英、長石 を少量含む。	良好	灰色N5/	体部1/6 底部1/1	
421	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(13.1)	7.8	3.85	精良。径3mm以下の白色砂粒 を多量含む。	良好	灰色N6/~N5/	体部1/4 底部1/2	
422	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	13.4	6.8	4.3	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	
423	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(13.5)	(9.6)	4.65	密。径2mm以下の白色砂粒を 多量含む。	良好	灰色N5/	2/5	体部内面に重ね焼き時に軸着 した痕跡有り。
424	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(13.5)	8.5	3.95	密。径2mm以下の石英、長石を 多量含む。	やや不良	外面:青灰色5B5/1 内面:暗紫灰色 5RR4/1 断面:内面側が焼きが悪く、 層状に暗赤褐色(2.5YR3/4)になる。	体部1/5 底部3/4	外底部にヘラ記号
425	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(13.6)	(4.2)	4.4	密。2~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	底部4/5 体部1/5	高台幅:3.5~8.5mm
426	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	(13.8)	(7.6)	4.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	高台幅:3.5~6.0mm

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
427	B区南谷部(南側)	須恵器	高台付坏	—	8.1	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5	
428	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	高台付坏	—	(5.4)	—	密2~5mmの砂粒を少量含む。	良好	灰褐色	1/4	墨書「主」
429	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	高台付坏	—	(9.0)	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	青灰色	1/8	転用観か。
430	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	高台付坏	—	(10.0)	—	密。1mm大の砂粒を含む。	不良	内:淡灰色 外:(煤付着)黒灰色	1/8以下	墨書有り。
431	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	8.4	6.0	2.8	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	
432	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	無高台坏	12.5	7.7	4.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡灰褐色	2/3	墨書「七月」
433	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(12.8)	(7.6)	3.5	密。2~5mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
434	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(13.2)	(9.6)	3.6	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡青灰色	1/3	
435	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(12.9)	(9.2)	3.6	精良。径3mm以下の白色砂粒を含む。	良好	灰色N6/	1/3	
436	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(13.0)	(8.2)	3.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	底部1/1 体部1/5	
437	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	無高台坏	(13.3)	(8.5)	3.7	密。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	灰白色10Y7/1(自然釉 灰色N4/、煤)黒色10YR2/1)	底部3/7 体部1/7	底部両面にスス(墨?)痕跡。
438	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(13.4)	(8.8)	3.45	精良。径1mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	良好	口縁外面:灰色N4/ その他:灰色N3/	2/5	
439	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(13.6)	9.0	3.7	精良。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	灰白色2.5Y7/1(口縁部外面の み黒褐色10YR3/1)	体部1/4 底部1/2	重ね焼き
440	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(13.6)	9.0	4.05	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	体部外面上半:褐灰色10YR5/1 ~4/1 その他:灰白色10YR7/1	体部2/5 底部2/3	
441	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(13.6)	(9.0)	4.2	密。1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	淡青灰色	底部1/1 体部1/8	
442	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	13.8	9.2	3.8	密。1~2mm大の砂粒を含む。	やや不良	淡灰褐色	2/3	
443	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(14.2)	(8.4)	3.4	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色&赤褐色(重ね焼)	3/5	
444	B区南谷部(南側)	須恵器	無高台坏	(14.6)	(10.3)	4.4	精良。径1mm以下の白色砂粒を多量含む。	良好	体部外面:褐灰色5YR6/1 その他:純い橙色5YR6/4	体部1/4 底部2/5	
445	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	無高台坏	—	(8.0)	—	緻密	やや不良	淡灰褐色	一部(破片)	墨書 字不明
446	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	無高台坏	—	(8.0)	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	淡青灰色	一部(破片)	墨書 字不明
447	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	無高台坏	—	8.65	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	両面とも緑灰色10GY5/1	底部のみ1/3	残存高:1.0cm 底部外面に墨書有り。
448	B区南谷部(南側)	須恵器	皿	13.1	10.1	1.9	密。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
449	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	皿	(14.0)	(11.7)	2.3	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	暗青灰色	1/3	墨書有り。
450	B区南谷部(南側)	須恵器	皿	(14.4)	(11.4)	1.9	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	3/5	
451	B区南谷部(南側)	須恵器	皿	15.2	11.6	2.0	密。1~4mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色-茶褐色	4/5	
452	B区南谷部(南側)	須恵器	皿	(15.4)	(11.9)	2.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	体部1/5 底部4/5	
453	B区南谷部(南側)	須恵器	皿	(17.4)	(13.7)	1.7	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
454	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	皿	(17.7)	(14.4)	2.2	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡灰褐色	1/8破片	墨書有り。
455	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨痕)	皿	(18.0)	(13.9)	2.1	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/8程度	墨痕有り。
456	B区南谷部(南側)	須恵器	皿	(18.5)	(14.8)	2.3	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
457	B区南谷部(南側)	須恵器 (墨書)	皿	—	—	—	精良。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	灰色N6/	底部破片(幅3cm分 残有)	底部外面に墨書「豆」
458	B区南谷部(南側)	須恵器	円面覗	(12.0)	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	一部(破片)	459と同一個体か
459	B区南谷部(南側)	須恵器	円面覗	—	(15.8)	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	灰褐色	破片	458と同一個体か
460	B区南谷部(南側)	須恵器	短頸壺	(11.5)	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:灰色N4/ 内面:灰色N5/	口縁1/8 脚部上~中位1/5	残存高:8.7cm 脊部最大径: (19.5cm) 脊部内面の 下位に自然釉が水平に付着。
461	B区南谷部(南側)	須恵器	鉢カ	(24.0)	—	—	精良。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	やや不良	灰色10Y6/1	口縁 ~ 脊部上半 1/12	残存高:5.3cm 脊部最大径:(23.6cm)
462	B区南谷部(南側)	須恵器	甕	(20.2)	—	—	密。径1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	1/10以下 口縁1/4	頸最小径:17.2cm
463	B区南谷部(南側)	須恵器	盤	(26.8)	21.6	4.9	密。1~3mmの砂粒を含む。	不良	淡灰褐色	2/3 口縁1/8	
464	B区南谷部(南側)	須恵器	甕	21.4	—	48.5	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	4/5	最大径:48.7cm

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
465	B区南谷部(南側)	須恵器	大型鉢	(42.0)	(23.7)	13.2	密。径4mm以下の石英、長石、黒色砂粒を多量含む。	良好	外面:緑灰色10GY5/1 内面:青灰色10BG5/1	体部1/8 底部1/4	焼成時の歪みが著しく、流通時に既に割れていた可能性、大。
466	B区南谷部(南側)	土師器	蓋	14.25	—	2.3	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	鈍い橙色7.5YR7/4	天井部5/6 体部1/3	つまみ径:1.5cm
467	B区南谷部(南側)	土師器	蓋	(19.0)	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	浅黄橙色7.5YR8/3	1/6	残存高:3.4cm
468	B区南谷部(南側)	土師器	小壺	(9.8)	6.4	6.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡灰茶褐色	1/3 口縁は一部	
469	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	—	(6.1)	—	密。5~8mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/4	胴部下位に線刻
470	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	(13.8)	(6.4)	4.2	密。2~4mmの砂粒を含む。	やや不良	黄褐色	1/3	
471	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	—	9.6	—	精良。径1mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	鈍い橙色7.5YR7/4	底部1/1 体部わずか	残存高:2.8cm
472	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	—	(10.2)	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR7/4	底部1/3 体部わずか	残存高:3.5cm
473	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	(16.2)	9.8	5.7	密。1~3mmの砂粒を含む。	やや不良	灰褐色	3/5	
474	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	(17.6)	10.4	5.7	密。1~3mmの砂粒を含む。	やや不良	灰茶褐色	1/2 口縁一部	
475	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	(17.5)	8.95	6.55	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	外面:鈍い橙色5YR7/4 内面:淡橙色5YR8/3~8/4	体部1/3 底部1/1	
476	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	(17.8)	(10.1)	6.5	密。2~5mmの砂粒を少量含む。	良好	黄茶褐色	1/5	
477	B区南谷部(南側)	土師器	高台付壺	—	12.2	—	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	明褐色7.5YR7/2~褐色 7.5YR4/6	体部下半1/8 高台部5/6	残存高:5.4cm
478	B区南谷部(南側)	土師器	皿(高台付)	(25.6)	(19.0)	3.3	精良。径2mm以下の石英、長石、雲母を少量含む。	良好	鈍い黄橙色10YR7/3	高台部1/5 体部・底部わずか	
479	B区南谷部(南側)	土師器	塊力	—	—	—	緻密	良好	黒灰色	一部	黒色土器
480	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(9.8)	(6.8)	4.0	精良。ほとんど砂粒を含まない。	良好	浅黄橙色7.5YR8/3	体部1/6 底部1/3	
481	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(9.4)	(6.0)	4.0	緻密	良好	灰黃褐色	1/5	
482	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	13.1	9.0	4.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/2	
483	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(13.4)	(8.8)	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	赤茶褐色	1/3	
484	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(13.4)	(7.5)	4.1	緻密	良好	黄茶褐色	1/3	
485	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(13.8)	(9.4)	3.8	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	赤茶褐色	1/3	
486	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(13.8)	(6.7)	2.8	緻密	良好	茶黄褐色	1/4	
487	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(14.2)	(8.6)	3.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/4	
488	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(14.2)	(10.2)	—	密。1mm大的砂粒を少量含む。	やや不良	茶黄褐色	1/5	
489	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(13.8)	7.8	4.1	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/3	
490	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(13.8)	8.8	4.6	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡茶褐色	1/3	
491	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	14.2	9.8	4.7	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	黄茶褐色	4/5	
492	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	14.2	5.8	3.2	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶黄褐色	1/3	
493	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(14.5)	(6.0)	3.6	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	赤茶褐色	2/3	
494	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(15.0)	(7.4)	3.3	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/3	
495	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(15.4)	7.0	3.8	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	やや不良	淡黄褐色	2/3 口縁1/5	
496	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(16.6)	(9.3)	4.7	密。1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	茶黄褐色	1/4	
497	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(17.0)	(8.2)	4.0	密。1~4mmの砂粒を少量含む。	良好	灰茶褐色	1/4	
498	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(17.3)	(8.2)	4.5	密。1mm大的砂粒を少量含む。	良好	茶黄褐色	1/2	
499	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(17.3)	(8.2)	4.3	密。1mm程度の砂粒を少量含む。	良好	茶灰色	1/5	
500	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(17.5)	6.2	5.3	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	1/2 口縁は一部	
501	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(17.8)	(8.4)	6.4	密。1mm大的砂粒を含む。	良好	茶黄褐色	1/4	
502	B区南谷部(南側)	土師器	無高台壺	(9.8)	(9.4)	4.5	緻密	やや不良	淡黄茶褐色	1/4	

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
503	B区南谷部(南側)	土師器	無高台坏	(18.6)	(11.8)	(4.6)	密。1~3mmの砂粒を含む。	やや不良	淡茶褐色	1/4	
504	B区南谷部(南側)	土師器	無高台坏	(22.4)	(15.8)	7.9	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	淡黄褐色	1/2	
505	B区南谷部(南側)	土師器	高坏	(28.6)	—	—	密	やや不良	淡黄褐色	坏部1/8	坏高:3.1cm
506	B区南谷部(南側)	土師器	高坏	—	(13.4)	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	橙色7.5YR7/6	脚裾部1/3	残存高:2.1cm
507	B区南谷部(南側)	土師器	高坏	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	やや不良	灰白色10YR8/2	脚柱部のみ1/1	残存高:14.3cm
508	B区南谷部(南側)	土師器	皿	(18.3)	14.4	2.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	淡黄茶色	1/4 口縁は一部	
509	B区南谷部(南側)	土師器	皿	(19.0)	(15.0)	1.8	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:褐色10YR4/4~鈍い黄橙色10YR6/4 内面:鈍い黄橙色10YR7/3	1/6	
510	B区南谷部(南側)	土師器	皿	(19.0)	(16.1)	2.15	精良。径2mm以下の石英、長石、雲母を少量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR7/3	1/6	
511	B区南谷部(南側)	土師器	皿	(19.0)	(16.4)	2.25	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR7/4~灰褐色7.5YR6/2	1/6	
512	B区南谷部(南側)	土師器	皿	(19.4)	(15.8)	2.7	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	やや不良	黄茶褐色	2/3 口縁は一部のみ。	
513	B区南谷部(南側)	土師器	短頸壺	(17.3)	—	—	密。1mm大の砂粒を少量含む。	不良	黄褐色	1/10	最大径:19.4cm
514	B区南谷部(南側)	土師器 (線刻)	不明	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	灰褐色	破片	線刻「中」か(焼成前)。
515	B区南谷部(南側)	土師器 (刻書)	托か	5.8	4.8	3.6	密。径1mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	淡灰褐色	2/3	底部内底に刻書「淨」(焼成前)
516	B区南谷部(南側)	土師器 (刻書)	大型容器	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を少量含む。	良好	茶黃褐色	破片	「口造」(焼成前) 「國中」(焼成前)
517	B区南谷部(南側)	土師器 (刻書)	大型容器	—	—	—	密。1~3mmの砂粒を少量含む。	良好	茶黃褐色	破片	「阿麻」(焼成前)
518	B区南谷部(南側)	土師器	甕	(15.4)	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	外面:浅黄橙色7.5YR8/3 内面:灰褐色7.5YR6/2 内面コケ?黒褐色7.5YR3/2	口縁~胴上半1/5	残存高:4.6cm
519	B区南谷部(南側)	土師器	甕	(18.0)	—	—	密。径2mm以下の石英、長石、雲母を多量含む。	良好	鈍い褐色7.5YR6/3 [外面にスス(黒色7.5YR2/1) 内面にコケ跡有り(灰褐色7.5YR4/2)]	口縁部1/6 脇部上半1/12	残存高:7.2cm 脇部最大径:(14.4cm)
520	B区南谷部(南側)	土師器	甕	(23.2)	—	—	密。2~4mmの砂粒を含む。	良好	茶黃褐色	約1/8 口縁は一部	
521	B区南谷部(南側)	土師器	把手	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石、雲母を多量含む。	良好	鈍い褐色7.5YR6/3	把手部分のみ	外面にスス、内面にコケ?が残る。
522	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石、雲母、黒色土粒を多量含む。	良好	外面:赤褐色2.5YR4/8 内面:明赤褐色2.5YR5/8	底部1/4	残存高:5.1cm 割れ、剥離が顕著、形は底突深鉢形で器壁が厚いタイプ。
523	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石、雲母を多量含む。	良好	外面:灰褐色5YR6/2~鈍い赤褐色5YR4/4 内面:棕色5YR6/8	底部1/1	残存高:3.3cm 割れ、剥離が顕著、形は底突深鉢形で器壁が厚いタイプ。
524	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	(11.8)	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	1/3	
525	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	13.8	—	(5.5)	やや粗。2~3mmの砂粒を多く含む。	良好	黄茶褐色	1/3	
526	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	12.5	—	6.4	やや粗。径9mm以下の石英、長石、雲母、黒色土粒を多量含む。	やや不良	鈍い褐色7.5YR6/3~橙色7.5YR6/6	ほぼ完存(端部を数カ所欠損している。)	
527	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	(16.6)	1.8	6.1	やや粗。2~4mmの砂粒を含む。	良好	茶黃褐色	1/3	
528	B区南谷部(南側)	土師器	焼塙壺	(13.2)	—	7.0	やや粗。1~2mmの砂粒を多く含む。	良好	赤茶褐色	1/5	
529	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR6/4	2/5~1/2	長さ:2.6cm 幅:1.6cm 厚さ:1.35cm 重さ:4.66g
530	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	鈍い褐色7.5YR6/3	1/2	長さ:2.4cm 幅:1.7cm 厚さ:1.6cm 重さ:5.63g
531	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	黄褐色	約1/2	長さ:3.08cm+a 幅:1.74cm 厚さ:1.65cm 六径:0.2cm
532	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	精密	良好	黄灰色	約1/2	長さ:3.38cm+a 幅:1.58cm 厚さ:1.58cm 重さ:5.83g 六径:0.3cm
533	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	明褐色7.5YR7/2~黒褐色7.5YR3/1	2/3~1/2	長さ:3.6cm 幅:1.6cm 厚さ:1.35cm 重さ:7.62g
534	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR6/6~鈍い橙色7.5YR7/3	2/5	長さ:3.6cm 幅:2.15cm 厚さ:1.8cm 重さ:9.96g
535	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~1.5mmの砂粒を含む。	良好	黄灰色	ほぼ完存	長さ:3.67cm 幅:1.54cm 厚さ:1.50cm 重さ:7.62g 六径:0.46cm
536	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	やや粗。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰黄褐色10YR6/2~褐灰色10YR4/1	1/2	長さ:3.85cm 幅:1.4cm 厚さ:1.4cm 重さ:7.35g
537	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	浅黄橙色7.5YR8/3	1/4	長さ:3.25cm 幅:2.0cm 厚さ:1.65cm 重さ:9.37g
538	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~1.5mm大の砂粒を少量含む。	良好	茶褐色	—一部欠	長さ:3.39cm 幅:1.57cm 厚さ:1.52cm 重さ:6.87g 六径:0.3cm
539	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄褐色	約1/3	長さ:2.83cm+a 幅:1.96cm 厚さ:1.61cm 重さ:8.19g 六径:0.4cm
540	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好(陶質)	灰白色N7/~鈍い橙色7.5YR7/4	完存	長さ:4.2cm 幅:1.6cm 厚さ:1.45cm 重さ:9.30g

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
541	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	やや粗。1~3mmの砂粒を含む。	良好	黄褐色	約1/3	長さ:2.51cm+α 幅:1.45cm 厚さ:1.41cm 重さ:4.30g 穴径:0.3cm
542	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	やや粗。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄褐色	約3/4	長さ:3.53cm+α 幅:1.95cm 厚さ:1.86cm 重さ:11.34g 穴径:0.3cm
543	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	やや粗。1~3mmの砂粒を含む。	良好	黄灰色	約3/4	長さ:3.74cm+α 幅:1.89cm 厚さ:1.79cm 重さ:11.38g 穴径:0.4cm
544	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。0.5~1mm大の砂粒を含む。	良好	黄褐色	一部欠	長さ:4.62cm+α 幅:1.60cm 厚さ:1.51cm 重さ:10.26g 穴径:0.4cm
545	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	精良	良好	茶褐色	3/4	長さ:4.87cm+α 幅:1.74cm 厚さ:1.56cm 重さ:12.18g 穴径:0.3cm
546	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄褐色	完存	長さ:4.67cm 幅:1.90cm 厚さ:1.82cm 重さ:15.49g 穴径:0.4cm
547	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	精良	良好	黄灰色	完存	長さ:5.26cm 幅:1.60cm 厚さ:1.53cm 重さ:9.00g 穴径:0.4cm
548	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	淡橙色5YR8/3~明赤褐色5YR5/8	2/3	長さ:4.5cm 幅:2.15cm 厚さ:1.95cm 重さ:18.41g
549	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	やや粗。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	褐灰色7.5YR5/1~黒褐色7.5YR3/1	1/2	長さ:4.4cm 幅:1.8cm 厚さ:1.8cm 重さ:12.36g
550	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰褐色7.5YR6/2~褐灰色7.5YR4/1	5/6	長さ:4.9cm 幅:1.95cm 厚さ:1.65cm 重さ:13.80g
551	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mm大の砂粒を含む。	良好	黄褐色	約1/3	長さ:4.31cm+α 幅:1.65cm 厚さ:1.22cm 重さ:6.12g 穴径:0.4cm
552	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm以下の砂粒を含む。	良好	茶褐色	完存	長さ:4.99cm 幅:1.53cm 厚さ:1.45cm 重さ:9.62g 穴径:0.3cm
553	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	黄褐色	完存	長さ:4.99cm 幅:1.42cm 厚さ:1.38cm 重さ:10.04g 穴径:0.2cm
554	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径1mm以下の石英、長石、雲母を多量含む。	やや不良	鈍い橙色7.5YR7/4~6/4	完存	長さ:4.75cm 幅:1.7cm 厚さ:1.5cm 重さ:9.65g
555	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	茶褐色	完存	長さ:5.12cm 幅:1.68cm 厚さ:1.48cm 重さ:11.40g 穴径:0.4cm
556	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1mm以下の砂粒を含む。	良好	茶黃褐色	完存	長さ:5.39cm 幅:1.93cm 厚さ:1.85cm 重さ:17.82g 穴径:0.4cm
557	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	灰黃褐色	完存	長さ:5.75cm 幅:1.72cm 厚さ:1.68cm 重さ:16.83g 穴径:0.3cm
558	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好(部分陶質)	灰白色N7/~鈍い橙色7.5YR6/4	完存	長さ:5.5cm 幅:2.2cm 厚さ:1.95cm 重さ:14.24g
559	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	鈍い橙色7.5YR6/4~黒褐色7.5YR3/1	完存	長さ:5.6cm 幅:2.0cm 厚さ:1.8cm 重さ:16.74g
560	B区南谷部(南側)	土製品	土錐	—	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量、雲母を少量含む。	良好	灰白色7.5YR8/2、黒褐色7.5YR3/1(炭素吸着)	完存	長さ:7.1cm 幅:2.9cm 厚さ:2.5cm 重さ:41.29g
561	B区南谷部(南側)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石を多量、黑色砂粒を少量含む。	良好	内面:鈍い黄褐色10YR6/3 外面:先端部になるにつれて変色。純い黄褐色10YR6/3~1-灰白色10YR8/1~褐灰色10YR6/1~黒褐色10YR2/1~暗灰色N3/1	不明	残存長14.0cm 基部:幅7.5cm 基部内径3.3cm 先端部:幅3.0cm。基部側の広がる形となる部分が残っている。
562	B区南谷部(南側)	土製品	羽口	—	—	—	粗。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	内面:鈍い黄褐色10YR6/4 外面:先端部になるにつれて変色。純い黄褐色10YR6/4~灰白色10YR8/1~黒褐色10YR2/1~青灰色10BG5/1	不明	残存長15.4cm 基部:幅7.2cm 基部内径3.3cm 先端部:内径3.2cm。先端部が溶融・発泡している。
564	B区南谷部(北側)肩部	須恵器	蓋	(14.2)	—	2.3	密。径1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/2	つまみ径:2.7cm つまみ高:0.9cm
565	B区南谷部(北側)肩部	須恵器	蓋	15.1	—	1.6	密。径1~2mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	2/3	つまみ径:2.3cm つまみ高:0.5cm 焼歪著しい。
566	B区南谷部(北側)肩部	須恵器(墨痕)	蓋	(16.6)	—	2.8	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	1/5	墨痕有り。つまみ径:3.4cm つまみ高:0.6cm
567	B区南谷部北側上面	須恵器	坏身	—	6.3	3.65	精良。ほとんど砂粒を含まない。		外面:灰色N6/~暗青灰色10BG3/1(灰かぶつ) 内面:灰色N6/	底部ぼぼ1/1 体部2/3	口径(蓋受け部径):12.6cm立ち上がり部径:10.4cm
568	B区通路ベルト	土師器	無高台坏	14.8	7.5	4.0	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	一部欠く	
569	B区通路ベルト	土師器	無高台坏	14.1	7.4	3.4	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	一部欠く	
570	B区通路ベルト	土師器	無高台坏	(15.4)	(8.2)	3.8	密。1~2mmの砂粒を含む。	やや不良	内面:赤茶褐色 外面:灰茶褐色	1/5	
571	B区通路ベルト	須恵器	皿	(18.2)	(13.8)	2.0	密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	青灰色	2/5	
572	B区北谷部肩部	土製品	土錐	—	—	—	密	良好(部分陶質)	灰色N6/(陶質部分)、鈍い橙色7.5YR6/4	完存	長さ:4.9cm 幅:1.55cm 厚さ:1.45cm 重さ:10.53g 陶質部分が硬く、表面が発泡している部分もある。
574	B区遺構検出時	須恵器	坏蓋	(13.2)	—	—	精良。径3mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	良好	外面:暗緑色10GY3/1、黄褐色7.5YR7/8 内面:灰色N6/	体部1/5	残存高:3.6cm
575	B区遺構検出時	須恵器	蓋	(14.8)	—	5.2	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:灰色N4/~褐色10YR4/3(外は自然釉(灰かぶつて)で暗色化) 内面:灰色N5/	天井部7/8 体部1/5	つまみ径:2.35cm
576	B区遺構検出時	須恵器	坏蓋	(14.0)	—	0.95	密。径5mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰色N6/~N5/	1/5	天井部径:(10.0cm)
577	B区遺構検出時	須恵器	坏蓋	(14.0)	—	1.9	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好(軟質)	灰白色10Y7/1	1/6	つまみ径:1.6cm
578	B区遺構検出時	須恵器	蓋	—	—	—	密。径4mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:鈍い黄褐色10YR6/3 内面:灰色N6/	天井部1/4 体部わすか	残存高:1.1cm
579	B区遺構検出時	土師器	蓋か坏	(16.0)	—	—	密。径5mm以下の石英、長石を多量、径2mm以下の褐色土粒、雲母を少量含む。	やや不良(硬質)	外面:橙色5YR7/6 内面:鈍い橙色5YR6/3	体坏部下半1/8	残存高:3.7cm
580	B区遺構検査時	須恵器	坏	—	6.4	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良(硬質が酸化焰燃成)	灰白色7.5YR8/1~橙色7.5YR7/6 (欠損面は褐色7.5YR4/6)	底部のみ1/1(高台も体部もわずかに残存するのみ)	残存高:1.8cm

法量cm(復元)											
遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
581	B区遺構検出時	須恵器	壺身	—	(8.1)	—	精良。径1mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:青灰色5B5/1 内面:灰色N6/	底部1/5 体部わずか	残存高:1.7cm
582	B区遺構検出時	須恵器	壺身	(15.0)	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰色N6/	体部のみ1/6	残存高:4.5cm
583	B区遺構検出時	須恵器	高坏	(12.5)	—	—	精良。径1mm以下の白色・黒色砂粒を少量含む。	良好(軟質)	外面:灰白色7/~緑灰色10GY6/1 内面:暗緑灰色10GY4/1	壺部上半1/6	残存高:4.1cm
584	B区表採	須恵器	壺	(13.0)	—	2.45	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	灰色N6/	1/5	ヘラ記号に沿って割れている。
585	B区遺構検出時	須恵器	高坏	—	—	—	精良。径1mm以下の石英、長石を少量含む。	不良	橙色5YR6/6~6/8	脚柱部のみ、脚裾部はわずか。	残存高:8.2cm
586	B区遺構検出時	須恵器	壺か平瓶	—	—	—	密。径2mm以下の白色砂粒を少量含む。	良好	外面部オーバー灰黑色5GY4/1(自然釉)灰かぶり) 内面:褐色10YR6/1~鈍い黄褐色10YR6/3 断面:灰白色N7/	胴部上~中位1/6	残存高:10.5cm 胴部最大径:(21.3cm) 壺なら底が平底になる。
587	B区遺構精査時	須恵器	皿	(17.0)	(13.0)	1.7	密。径4mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	灰色N5/	1/8	
588	B区遺構検出時	土師器	蓋	—	—	—	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	浅黄橙色7.5YR8/4~鈍い橙色7.5YR7/3	つまみ部分のみ1/1	残存高:4.0cm つまみ最大径:3.8cm つまみ高:3.35cm
589	B区遺構検出時	土師器	塊	(17.0)	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	赤褐色5YR4/8	1/5(底部以外)	残存高:6.45cm
590	B区遺構検出時	土師器	高坏(坏部)	(17.0)	—	—	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:橙色7.5YR6/8 内面:橙色7.5YR7/6	口頸部1/6	残存高:5.35cm
591	B区遺構検出時	土師器	高坏(脚柱部)	—	—	—	精良。径3mm以下の石英、長石を少量含む。	良好		脚柱部のみ2/5	残存高:5.9cm 脚柱部の水平断面形は8~9角形。
592	B区遺構精査時	土師器	高坏	—	—	—	精良。径2mm以下の石英、長石を少量含む。	良好	外面:鈍い橙色7.5YR6/6 内面:褐色7.5YR4/6	脚柱部2/3	残存高:6.9cm
593	B区遺構精査時	土師器	甕	—	—	—	密。径3mm以下の石英、長石を多量含む。	やや不良	外面:鈍い橙色7.5YR7/4~6/4 内面:灰白色7.5YR8/2、灰褐色7.5YR5/2	口縁部破片(幅6cm分)	残存高:2.9cm
594	B区遺構検出時	土師器	把手	—	—	—	やや粗。径7mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	橙色7.5YR6/6	把手のみ1/1	
595	B区遺構検出時	土製品	羽口	—	—	—	やや粗。径3mm以下の白色・黒色砂粒を多量含む。	良好	外面:灰色N6/ 内面:灰色N6/、橙色7.5YR7/6 鉄滓:黒褐色5YR2/2~暗赤褐色5YR3/6	羽口先端部を1/4周分	翼有り0cm 内径(3.0cm)内面先端部へ外側へ放熱を受け灰化(径1mmほどの気泡が多く存在)。鉄滓は先端部方向へ垂れている。
596	B区遺構検出時	土製品	土錐	—	—	—	密。径2mm以下の石英、長石を多量含む。	良好	黑色10YR2/1(孔内部は浅黄橙色10YR8/3)	3/4	長さ:3.9cm 幅:1.65cm 厚さ:1.5cm 重さ:8.59g
597	B区遺構検出時	土製品	土錐	—	—	—	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	茶褐色	一部欠	長さ:3.94cm+α 幅:1.71cm 厚さ:1.57cm 重さ:9.56g 穴径:0.3cm
598	B区遺構面精査	土製品	土錐	—	—	—	精良	良好	暗茶褐色	約2/3	長さ:3.54cm+α 幅:1.45cm 厚さ:1.29cm 重さ:6.34g 穴径:0.3cm
599	B区調査区精査時	土製品	土錐	—	—	—	密。2~5mmの砂粒を含む。	良好	黒灰色	完存	長さ:7.25cm 幅:2.61cm 厚さ:2.41cm 重さ:40.74g 穴径:0.5cm
601	B区南谷部上層	白磁	碗	—	—	—	密(灰白色)	良好	乳白色 軸やや青みを帯びる。	破片1/10	唯一の陶磁器

金武青木A遺跡出土石製品観察表

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	色調	残存率	備考
026	A区包含層	石鍋	—	—	1.8	323.32	滑石	灰茶褐色	一部	底径:(17.0cm)
027	A区包含層	石錐	5.02	5.34	0.82	33.49	砂岩	黃灰色	ほぼ完存	
028	A区包含層	打製石錐	1.53	1.41	0.3	0.49	黒曜石	黒灰色	完存	縄文早期
029	A区清掃時	打製石錐	2.78	2.17	0.39	1.73	安山岩	灰褐色	完存	縄文後期後半以降
030	A区包含層	打製石錐	2.75	1.52	0.29	1.17	黒曜石	漆黒色	脚一部欠	縄文後期後半以降
303	B区南谷部(北側)	軽石	7.9	8.2	4.7	63.24		灰白色	一部	
304	B区南谷部(北側)	砾石	18.2	9.8	10.2	2440	花崗岩			
305	B区南谷部(北側)	打製石錐	3.0	2.1	0.55	2.55	安山岩又は粘板岩	暗灰色 N3/	完存	
563	B区南谷部(南側)	漆加工関係工具か	5.6	3.9	2.5	84.53	不明	淡灰黒色	完存	漆を練る道具か

金武青木A遺跡出土鉄製品観察表

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	名称	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	備考	遺物番号	遺構・層位	器種	長さ	幅	厚さ	器高	石材	色調	残存率	備考
573	B区通路ベルト	釘か	6.2	0.8	0.7	10.70		002	A区自然流路部	石斧	13.3	5.7	2.9	3.9	306.81	安山岩	縄文	
600	B区遺構検出	鉄釘	2.8	0.5	0.4	1.39												

金武青木B遺跡第1次調査出土土器観察表

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率	備考
001	A区南側溜り黒色土内	土師器	壺	(14.0)	(6.6)	3.9	密。1~2mmの砂粒を含む。	良好	黄茶褐色	2/3	

金武青木B遺跡第1次調査出土土器観察表

法量cm(復元)

遺物番号	遺構・層位	器種	器形	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	残存率
001	B区SD-01	須恵器	壺身	(12.0)	(6.8)	4.4	密。1mm大の砂粒を含む。	良好	青灰色	約1/3
002	B区SD-01 黒色土	土師器	高坏(脚部)		(10.2)		密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	茶黄褐色	約1/6
003	B区SD-01 黒色土	土師器	甑	(23.8)			密。1~3mmの砂粒を含む。	良好	茶灰褐色	約1/6
004	B区SD-02 東調査区	須恵器	高台付壺		(9.0)		密。1mm大の砂粒を少量含む。	良好	灰青色	一部(破片)
005	B区SD-02 東調査区	土師器	高台付壺		(6.8)		緻密	やや不良	淡灰黄色	一部(破片)
006	B区SD-03	土師器	高台付壺	(15.4)	(9.8)	6.0	密。1mmの砂粒を少量含む。	やや不良	黄茶褐色	約1/6

金武青木 A 遺跡出土木製品観察表

遺物番号	遺構・層位	名 称	法量cm(復元)					備 考
			最大長	最大幅	最大厚	木取り	樹 種	
W001	B区南谷部(北側)	木筒	24.3	6.5	0.6	板目	モミ属	怡土城擬大領
W002	B区南谷部(北側)	木筒	9.6	2.9	0.3	板目	ヒノキ科	物部鷦足 矢田マ長足
W003	B区南谷部(北側)	木筒	16.9	2.4	0.5	板目	スギ	三家連敷浪 志麻郡
W004	B区南谷部(北側)	木筒	17.4	3.6	0.6	追柾	スギ	□マ□□□三斗
W005	B区南谷部(北側)	木筒	13.4	3.2	0.5	追柾	ヒノキ科	□月七日
W006	B区南谷部(北側)	木筒	6.5	2.4	0.6	柾目	ヒノキ科	二小
W007	B区南谷部(北側)	木筒	8.0	1.8	0.5	板目	ヒノキ	足足足
W008	B区南谷部ベルト黒色土	折敷	23.3	7.4	0.5	柾目	スギ	七月十九日
W009	B区南谷部ベルト黒色土上層	木筒	9.1	3.3	0.3	板目	モミ属	延歴四年
W010	B区南谷部ベルト	人形	20.9	4.8	4.2	芯持材	クリ	
W011	B区南谷部(南側)	用途不明木製品	24.8	6.7	4.0	分割材	マツ属複維管束亜属	
W012	B区南谷部(北側)	編縫	14.9	5.1	4.8	芯持丸木	シキミ	
W013	B区工事水路	人形	18.8	4.3	3.8	芯持丸木	クリ	
W014	B区南谷部(北側)	彌	14.6	1.9	1.8	芯持丸木	イヌガヤ	
W015	B区南谷部(北側)	人形	19.9	4.7	3.8	半裁木	シキミ	
W016	B区南谷部(北側)	人形	16.0	4.8	3.9	芯持丸木	シキミ	
W017	B区南谷部ベルト	部材片	6.5	5.9	1.2	板目	カヤ	
W018	B区南谷部ベルト	曲物	7.4	4.7	0.8			樹皮紐幅 0.4
W019	B区南谷部ベルト	部材	24.0	1.2	1.7	削出角棒	カヤ	
W020	B区南谷部ベルト	容器底	16.8	16.5	1.0	板目	ヒノキ	木釘による4ヶ所留め
W021	B区南谷部ベルト	曲物底	26.2	9.2	0.9	板目	モミ属	外面荒 復元径: 27.5
W022	B区南谷部(北側)	不明木製品	14.4	1.1	0.7	削出棒	マキ	
W023	B区南谷部(北側)	付札または人形	13.7	2.0	1.3	板目	モミ属	墨痕なし
W024	B区南谷部(北側)	付札または人形	13.6	2.1	1.3	板目	スギ	墨痕なし
W025	B区南谷部(北側)	不明容器	13.3	9.4	7.4	縦木地(剖物)	ケヤキ	剖物(白木) 器壁厚 0.7
			1.2	1.4	0.7	削出	ヒノキ	栓
W026	B区南谷部(北側)	鋤	33.2	11.3	3.9	板目	コナラ属アガシ亜属	左右非対象
W027	B区南谷部(北側)	人形	16.7	3.7	3.8	芯持丸木	ノリウツギ	
W028	B区南谷部(北側)	部材(ホゾ穴)	17.2	4.3	2.3	板目	ヒノキ	部材に直角方向のホゾ穴
W029	B区工事水路	漆塗製品	6.7	4.2	1.8	横木地?	カエデ属	
W030	B区工事水路	曲物(底板)	20.5	9.9	0.8	板目	スギ	復元径: 20.5
W031	B区南谷部(南側)	曲物(側板)	10.0	5.5	0.5			
W032	B区南谷部(南側)	脚か?	22.3	3.8	1.8	板目	スギ	
W033	B区南谷部(北側)	蓋	16.7	16.8	0.9	板目	スギ	
W034	B区南谷部(北側)	曲物(底板)	20.8	13.6	0.3	柾目	モミ属	
W035	B区南谷部(北側)	底板	21.8	5.7	1.3	板目	モミ属	復元径: 23.0
W036	B区南谷部(南側)	曲物	18.3	6.3	0.8	板目	スギ	復元径: 20.0 W037と同一個体か
W037	B区南谷部(南側)	曲物(底板)	18.6	7.4	0.8	板目	スギ	復元径: 19.4 W036と同一個体か
W038	B区南谷部(南側)	曲物底板(穴なし)	13.8	10.4	0.7	柾目	モミ属	
W039	B区南谷部(南側)	曲物(底板)	19.3	11.9	1.1	板目	スギ	復元径: 19.8 cm
W040	B区南谷部(南側)	棒状製品	15.5	0.9	0.8	削出角棒	ヒノキ	
W041	B区南谷部(北側)	棒状製品	20.2	3.6	2.3	半裁木	コナラ属アガシ亜属	
W042	B区南谷部(北側)	人形	8.4	4.5	2.6	半裁木	シキミ	
W043	B区南谷部(北側)	板材	19.0	3.8	0.8	板目	スギ	
W044	B区南谷部(北側)	部材(小型)破片	6.1	2.6	0.7	板目	スギ	
W045	B区南谷部(北側)	曲物(底板)	17.7	5.4	0.7	板目	ヒノキ	復元径: 20.0 cm
W046	B区南谷部(北側)	曲物(底板)	20.5	20.3	1.0	板目	スギ	側板径: 約 18.2cm
W047	B区南谷部(北側)	付札または人形	26.2	2.4	1.3	板目	モミ属	墨痕なし
W048	B区南谷部(北側)	曲物(側板片)	3.1	14.1	0.6			
W049	B区南谷部(北側)	工具柄	21.6	3.9	2.1	削出丸木~柾目板状	スギ	
W050	B区南谷部(南側)	部材	15.0	2.9	1.2	板目	スギ	
W051	B区南谷部ベルト	部材(棒状)	35.8	2.3	1.6	板目	カヤ	
W052	B区南谷部	部材(棒状)	34.5	2.5	1.5	板目	カヤ	
W053	B区南谷部(北側)	舟串か?	17.2	2.7	1.0	板目	スギ	
W054	B区南谷部(北側)	曲物	15.6	10.6	—	柾目	モミ属	底板 厚 0.7
						柾目	モミ属	側板
W055	B区南谷部(北側)	曲物(側板)	14.8	3.7	0.2			
W056	B区南谷部(北側)	曲物	16.5	4.9	0.8	板目	スギ	復元径: 20.2 cm
W057	B区南谷部ベルト	曲物	16.7	5.2	0.7	柾目	スギ	内側に刃物キズ少し有り 復元径: 19.2 cm
W058	B区南谷部(北側)	容器(底板)か?	30.0	15.2	1.6	板目	モミ属	
W059	B区南谷部(北側)	横槌	39.6	7.3	6.8	芯持丸木	クリ	
W060	B区南谷部(南側)	折敷 底板か?	24.3	17.7	0.9	板目	モミ属	
W061	B区南谷部(北側)	曲物(側板遺存)	20.5	18.6	0.8	板目	ヒノキ	底板
						柾目	ヒノキ	側板
W062	B区南谷部(南側)	板材(円盤形)	18.0	17.5	1.4	柾目~追柾	スギ	底板か
W063	B区通路ベルト	折敷(大型)	61.0	28.3	1.3	板目	ヒノキ科	内側 刃物キズ多い
W064	B区南谷部	柱材(基部)	32.3	19.5	15.3	芯持丸木	マツ属	

3. まとめ

まず、金武青木遺跡が位置している金武はどのような地域なのか、周辺調査の成果をもとに時間軸に沿って概観してみたい。

縄文時代では、早期の押型文土器の出土がみられ、当既期の資料は近年増えつつある。弥生時代の伊都国（平原）—奴国（須玖）間の移動経路は、すでに旧今津湾岸—博多湾岸の海上往来が主要な移動手段となっていたと考えられるが、前述したように、陸路としては今宿五郎江遺跡から野方遺跡を結ぶ広石峠越えルートや日向峠越えルートが指摘されている。そして、昨年には金武より更に南側の早良平野最深部に位置する岸田遺跡から金属製武器類を副葬する甕棺墓地が発見され、この地周辺に他地域との交易、交流の交通拠点を掌握する集団の存在を示唆する遺跡が発見された。

古墳時代の集落は、後半期から扇状地上の広範囲に形成が始まる。群集墳の築造は6世紀前半から始まり、6世紀後半代には最盛期を迎える。平野西縁の長垂山から叶岳、飯盛山、西山と続く小山塊の山裾には長垂古墳群、草場古墳群、高崎古墳群、広石古墳群、野方古墳群、羽根戸古墳群、羽根戸南古墳群、飯盛古墳群、金武古墳群、西山古墳群、黒塔古墳群等の群集墳が営まれる。今回の整備事業対象地内でも最も標高の高い南西部には黒塚古墳群C群があり、またB区調査地の南側舌状高所で現在宅地になっている地には、かつて古墳があり、昭和になって機械による造成をおこなったと聞き及んでいる。これら金武周辺の群集墳について特筆される事は鉄滓供獻習俗を有することである。九州での鉄滓出土古墳の初現は、5世紀前半から造営される金武古墳群吉武S群である。鉄生産体制と鉄滓供獻習俗の関係についてはいまだ不明な点が多いが、飯盛山麓群集墳における鉄滓供獻数は九州内でも際立っており、さらに半島系土器も多くみられる。このことから、早良平野の発展には製鉄技術を有した半島系移住者の存在が大きく関与しており、この地では鉄生産が生業の基盤となっていたことがうかがえる。また、この地域においては、玄界灘沿岸でも数少ない装飾古墳が2基見つかっている。都地泉水遺跡に隣接する金武古墳群吉武K7号墳と、浦江古墳群の浦江1号墳である。いずれも蘇手状の渦文を主文様としている。乙石遺跡に隣接する夫婦塚2号墳は、7世紀前後に造営された墳長30m規模の巨石室を持った方墳で、1号墳は後世の削平により消滅している。夫婦塚古墳は2基のみ単独で築造された方墳で、その規模や副葬品から見て、この地域の首長層の墳墓と考えられている。そして、その立地は日向峠越えルートを臨む場所である。

7世紀後半ごろから金武周辺の様相は大きく変わり始める。城田遺跡ではそれまで竪穴住居を中心に、やや高所に集落を形成していたが、この時期から「コ」字形や「L」字形の配列をみせる大型建物群が建てられはじめる。その位置は、前時代の集落中心地とは異なり、竜谷川寄りの低位段丘面に新たにつくられる。このことは、集落を断絶させることなく、この地に新たな役割が課せられたことを示唆している。この頃に造営されたと考えられている軍事施設の一部とされる雷山神籠石も、この日向峠越えルートをとおして大宰府と繋がっていたと言えよう。

古代になると各遺跡で製鉄遺構がさらに多く検出されはじめる。当該期の製鉄遺跡として著名な元岡遺跡と比べると遺構の分布が散漫であるが、乙石遺跡、都地遺跡、都地泉水遺跡、城田遺跡、浦江遺跡等で製鉄炉や鍛冶炉、また関連遺物が検出され、それに次ぐ規模を有している。元岡遺跡は大宰府管轄の官営工房の可能性が指摘されているが、金武でも、都地泉水遺跡の那珂郡曰佐と刻まれたと考えられている刻書土器、都地遺跡の「大殿」と記された墨書土器、権や多様な越州窯青磁、白磁I類、緑釉陶器、城田遺跡の新羅土器、硯、銅製椀など特殊な遺物が出土しており、公的施設の存在を示唆している。また遺構として都地遺跡では、大型建物が官衙的配置と考えられている「コ」字形に建てられ、城田遺跡の2間以上×17間の長大な南北建物や都地遺跡の大型建物群は、郡衙の施設と

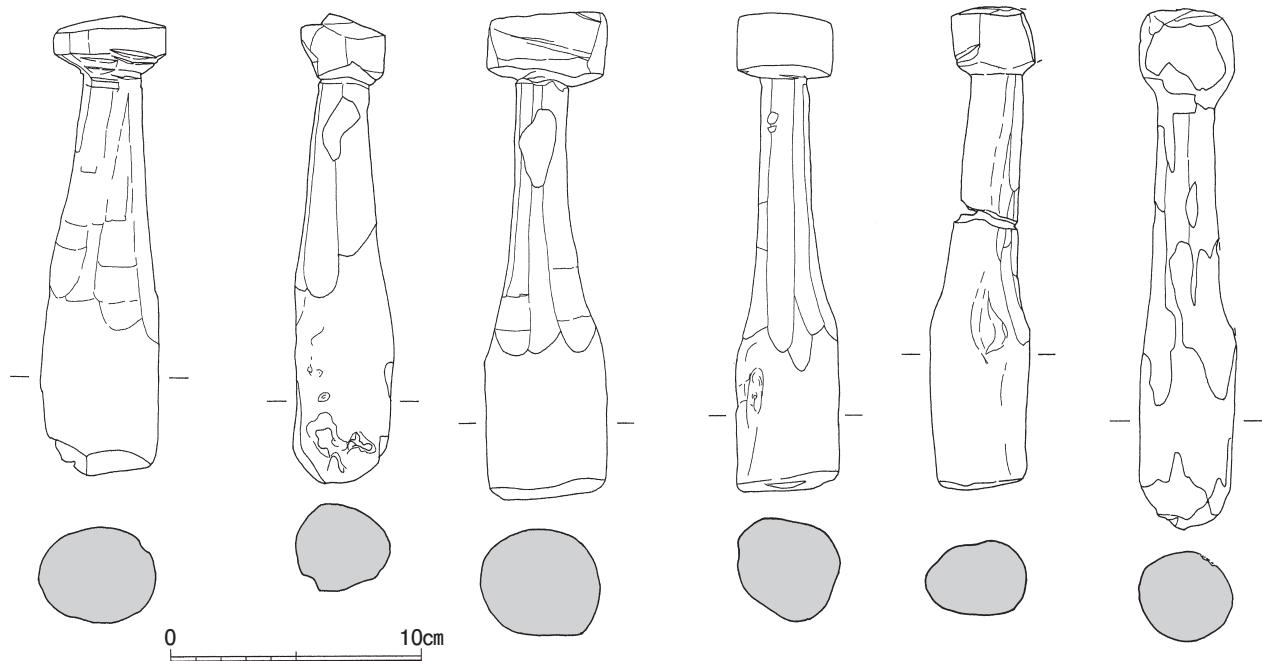
しても遜色なく、有田遺跡の早良郡衙に準ずる施設、ないしは施設の一部を移動させた可能性が考えられるようになった。

古代末から中世は、建物群は廃絶しており、水田への給排水施設がみられるようになることから、水田開発がおこなわれたようである。中世の集落遺跡では室見川対岸の清末遺跡が知られており、12世紀代の「L」字形配置の大型建物と、14世紀代の濠を巡らした居館が検出されている。そして、その墓地が、浦江遺跡内で発掘された中世期の大規模な集団墓と考えられている。

次に、今回の調査成果において特筆すべき項目を何点か記述する。

まず、刻書・墨書き土器などについてである。円面窯や墨痕があり窯に転用したと思われる土器も多く出土している。また、刻書・墨書きにより文字の書かれた資料は38点を数える。刻書による文字資料では「女」、「金」、「中」、「淨」、「□造」、「國中」、「阿麻」などが出土している。墨書きされた文字では「中」、「井」、「赤」、「主」、「出」、「田」、「成」2点、「上」3点、「田原」、「七月」、「正月」、「志豆女」3点、「□刀自」がみられる。この中で注目されるものに「志豆女」の墨書きがある。須恵器壺蓋の外面天井部に墨書きされている資料が2点202,308と須恵器高台付壺の外底部に墨書きされているのが1点337である。また、須恵器皿449の外底部に書かれた一文字目は筆運びから「志」の字と考えられるが、この1点を除いても3点の出土を数え点数が多い。文献史料によると『大日本古文書』編年卷3(359頁～)所収の天平勝宝2年官奴司解(正倉院文書)には奴婢の一人に「志豆女」(女性・57歳)の名がみられるとのことであり(福岡市史編さん室 原田論氏教示)人名と考えられる。また、大型容器の外面に「□造」、「國中」、「阿麻」などの字が焼成前に刻書されている516,517は、その刻まれた文面の意味が注目される。

金武地域は古代においては、早良郡平群郷(評)にあたる。今回、早良郡内で初めての出土となつた木簡の中では、「怡土城擬大領」「専当其事」「別六」の字句がみられるW001木簡が特に注目さ



『元岡・桑原遺跡群8』第962集より転載

Fig.58 元岡遺跡第20次調査 SX001 出土木製品実測図 (1/3)

れる。これは、出土地のある早良郡宛木簡ではなく、怡土城の長官クラスに対する伝達である。その内容は、怡土城長官クラスの指揮下にあって特定の事を担当する案主に対して、命令を下して仕事をさせるように伝えたものと考えられる。具体的には、文面の右側にある数字から推測して、人間の手配、あるいはその手配する人間への支給物の調達、もしくは手配する人間の用意すべきものの量かと考えられる。そして、W003の人名を書き連ねた木簡の裏面下位には、同じく行政区画を越えた「志麻郡」が記されている。この様に「怡土城」「志麻郡」など広域行政区と密接に関連していた事実は、地理的立地を含めて重要な資料となる。また、W009の「延歴(暦)十年」(791)紀年銘木簡は、8世紀末の絶対年代を押さえることができる貴重な資料である。

人形木製品と考えられている木製品が2種類出土している。一つは細い板状を呈する斎弔状のもので、もう一つは丸太材を利用し、端部の一方をグリップ状に削り出し、片方は平坦もしくは丸みを持たせるように加工するものである。頭部の断面は円形のままのものと、扁平に加工するものがある。胴部には樹皮を残したものがあり、側面に横槌のような使用痕はみられず、他の部分にも明瞭な使用痕はみられない。同様のものが、元岡遺跡第20次調査のS X 001から出土している(Fig.58)。この遺構は、谷筋を土手状遺構により堰き止めたもので、人形20点以上や丸木弓など金武青木と共に通する祭祀遺物と共に、「延暦四年」(785)の紀年が記された木簡が出土している。元岡遺跡とは製鉄関連施設としての共通性があり注目されるが、元岡遺跡では普遍的にみられる舟形木製品が、金武ではみられず、祭祀具の内容に異なる部分がある。また、用途は不明であるが白木の精製品W025が注目される。天地さえも不明であるが、有孔の笠が付く剣物容器で、容器部の横には、4つの孔があり、笠の部分には別木でつくる栓がつく。煤などの付着もなく、灯火具とも考えられない。W029は厚い木胎に黒漆を厚く塗布するもので、岩手県矢巾町の徳丹城跡から出土したトチノキ製冑(7世紀後半)の例もあることから、その可能性も考えられる。

建物が存続している時期の環境としてはどのような状況であったのか、谷内黒色土のサンプリング試料で珪藻分析と花粉分析を行なっており、そのデータから推測してみたい。珪藻分析では、淡水～汽水生種と水生珪藻が検出されており、谷内には塩類を豊富に含む電気伝導度の高い水域が存在したと推測されている。遺跡の立地は海岸線から7km離れた山中に位置しており、塩類に関係するものでは唯一、焼塩壺が多く出土している。また、浮遊性種の産出が極端に少ないとから、その水深は浅く、水は濁り水素イオン濃度は中性～アルカリ性の水域であったようである。花粉化石の分析からは、保存状態が悪く周辺の植生を正確に反映していないとした上で、常緑高木であるマツ属が多産していたようである。これは極端な陽樹であることから、伐採後の二次林の代表的な種類である。草木類花粉化石では、燃料材や住居構築材、農業資材など生活資材として利用されることの多いイネ類以外では、メロン類(マクワ・シロウリ型)やナス近似種などの栽培種がみられ、祭祀に関与するとも考えられている桃の桃核が数百個単位で出土している。栽培種以外では、ススキ属やウシクサ属などマツ属同様に開けた場所に生育する種が主体をなすようである。総合すると、南東方向に広く開けた、日当たりの良い場所であったようである。

今回行なった金武青木遺跡の調査では、多くの新知見を得ることができた。その代表的な成果を列挙してみると ①交通の要となる峠道を見通せる高所(標高80m)の裏斜面にあたり、金武から吉武を貫いて室見川に流れ込む竜谷川の上流に位置している。②斜面に建てられた両面庇付建物と水場にまで及んでいた可能性のある掛け造り状の建物群の検出。③斜面を人力で掘削したもの、また、旧河道を利用して造ったと考えられる水場の検出。④所属郡内に留まらない広域行政区に関わる木簡の複数出土。⑤円面硯、転用硯をはじめとする多くの墨書き器の出土。⑥製作時から特定の使用目的を有し

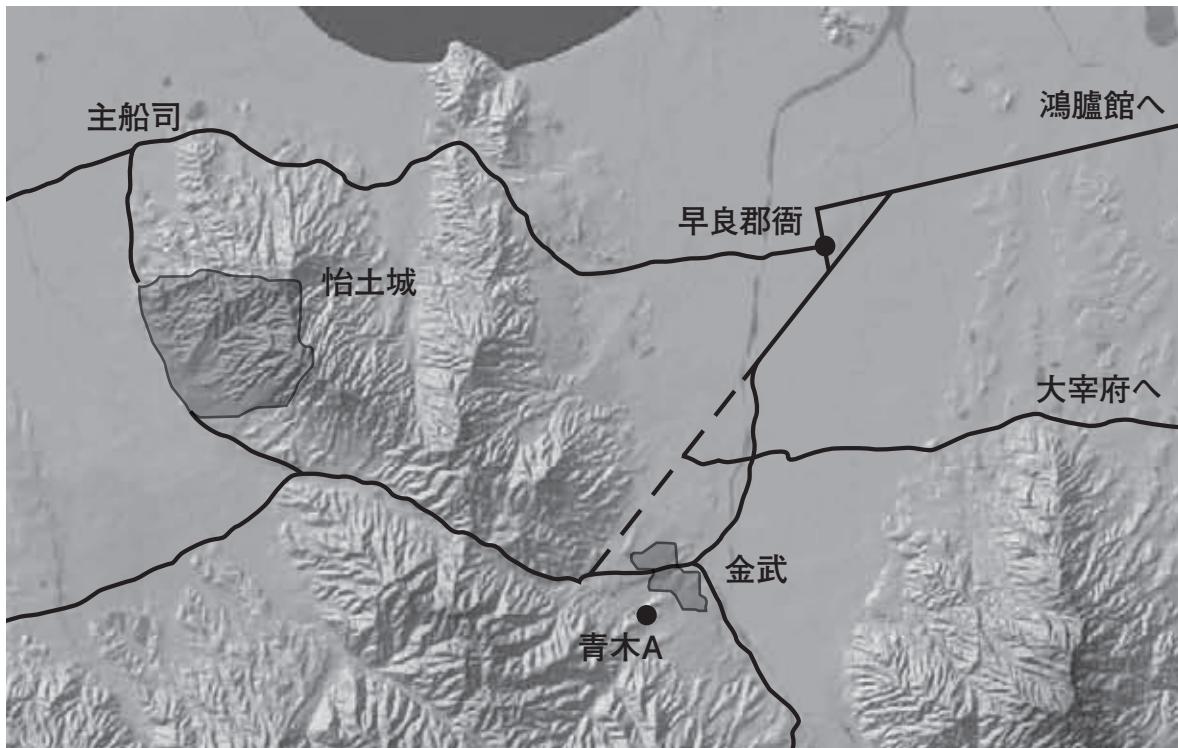


Fig.59 推定主要幹線道

ている刻書土器の出土。⑦人形、丸太弓、桃核など祭祀関連道具の出土。⑧円錐形のものを主体とする焼塩壺が数百個単位で出土。⑨建物群は7世紀後半から利用され、8世紀後半をピークに9世紀前半ごろには廃絶。などが上げられる。

今回金武青木遺跡から出土した木簡は、この地から怡土城の長官クラスに伝達する文書や、志麻郡と関係すると考えられる人名を書き連ねたものであり、早良郡域外の行政区に対するものであった。これらは、広域行政区と連携する必要があった状況の下、それを掌る施設であったことを示す良好な資料である。上述しているように、金武地区は弥生時代からつづく幹線道の要衝にあり、古墳時代からは、当時の先端技術である鉄生産をおこなうテクノポリスとして機能していた。

これまで奈良時代を中心として官衙的配置を呈する大型建物群が多く検出されていたが、それらがどのような性格を持っていたかは不明であった。しかし眺望が良く、日向峠とそこから下る道も監視できる金武青木遺跡から、このような意味を持つ遺物群が出土したことにより、既調査でみつかっている遺構群が怡土城と大宰府との関係に大きく関与していることが明らかになってきた。

つまり、今回の調査成果により、金武周辺で検出されている奈良時代の大型建物群を中心とする施設は、旧今津湾を見渡す主船司や大宰府防衛の前線基地である怡土城などが設置されている糸島平野側に、人や物資を供給する後方中継の拠点基地であり、また製鉄、鍛冶関連施設の中心地の一つでもあった可能性が考えられるようになったのである。雷山神籠石や水城が造られた時代から約百年を経て、再び緊張する国際情勢の中にあって金武一帯は、交通の要衝という地の利と、鉄に関わる工人集団の存在により、大きく変貌を遂げていったと思われる。そして、幸いにも軍事的機能は行使されず、その緊張が解けるとともに金武が担っていた役割も徐々に失われていったのである。

第IV章 出土遺物の科学分析

1. 金武青木遺跡出土木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

金武青木遺跡は、天丸山と西山の間を流れる竜谷川の上流部に位置する。今回の発掘調査により、7世紀末～9世紀前半の掘立柱建物跡、溜井、炭焼窯、鍛冶炉跡、池などが検出され、土器類と共に木簡、人形、曲物等の木製品も多数出土している。

今回の分析調査では、これらの木製品を対象として、木材利用を明らかにするために樹種同定を実施する。

試料

当社技師1名が1日間遺物整理室に赴き、観察と試料採取を実施した。7世紀末～9世紀前半と考えられる木製品60点W001-017,019-030,032-047,049-054,056-064である。このうち、W025は本体に別部材の栓がはめられている。また、W054,061は、側板と底板で構成されている。この3試料については、部材別に樹種同定を実施する。したがって、分析点数は合計63点である。

分析方法

各試料の木取りを観察した上で、破損部などをを利用して、剃刀で木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹9分類群（マツ属複維管束亜属・マツ属・モミ属・スギ・ヒノキ・ヒノキ科・マキ属・イヌガヤ・カヤ）と広葉樹6分類群（コナラ属アカガシ亜属・クリ・ケヤキ・シキミ・ノリウツギ・カエデ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみで構成される。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・マツ属 (*Pinus*) マツ科

試料は保存状態が悪い。軸方向組織は、仮道管と樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急～緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁における鋸歯の有無は保存状態が悪く観察できない。放射組織は単列、1-15細胞高。

樹脂道を持ち、分野壁孔が窓状となることから、マツ属であることは明らかである。マツ属は、放

射仮道管内壁に鋸歯がある複維管束亜属と、鋸歯が無い単維管束亜属に分けられるが、保存が悪く、鋸歯の有無が不明であるため、マツ属としている。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

上記ヒノキを含むヒノキ科のいずれかであるが、保存が悪く、分野壁孔も観察できないために区別できず、ヒノキ科としている。

・マキ属 (*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は、仮道管と樹脂細胞で構成される。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には2-3本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では橢円形、単独で放射方向に配列する。道管は单穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は单穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帶状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は单穿孔を有し、壁孔は交互状

に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・シキミ (*Illicium anisatum* L.) シキミ科シキミ属

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形、単独または2-4個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列、道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

・ノリウツギ (*Hydrangea paniculata* Sieb. et Zucc.) ユキノシタ科アジサイ属

散孔材で、道管は小径、単独または2-3個が複合して年輪界にほぼ均一に散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-30細胞高で、単列部が上下に長く伸び、時に連結する。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-6細胞幅、1-70細胞高。木纖維が木口面において不規則な紋様をなす。

考察

樹種同定を実施した木製品は、木簡、工具(横槌・工具柄)、農具(鋤)、紡織具(編み錘)、武器(ゆはず)、容器(曲物・容器・蓋か?・不明容器?)、食事具(折敷)、調度(脚か?)、祭祀具(人形)、建築材(柱材)、その他(漆塗・部材・板材・板状製品・棒状製品・用途不明)に分けられている。これらの木製品には、合計15分類群が認められた。器種別の種類構成を表2に示す。

木簡は、9点の試料に4分類群が認められた。いずれも針葉樹で、木理が通直で割裂性が高く、板状の加工が容易な種類が利用されている。木簡は約半数が板目板であるが、柾目板と追柾板も各2点認められる。モミ属はいずれも板目板であるが、スギとヒノキ科は板目、柾目、追柾が各1点であり、樹種と木取りに関連性は認められない。なお、福岡市内では、下月隈C遺跡の古墳時代後期～奈良時代とされる木簡にスギとヒノキ、古代とされる荷札木簡にヒノキが確認された例がある(三村・高橋,2005;パリノ・サーヴェイ株式会社,2006)。

工具では、横槌にクリ、工具柄にスギが認められた。横槌のクリは、重硬で強度・耐朽性が高い材質を有しており、打撃に強い材質を有する木材を選択したことが推定される。工具柄については、強度よりも加工性を重視した可能性がある。福岡市内では、同時期の横槌について樹種を明らかにした例がほとんどない。福岡県内でみると、井上薬師堂遺跡から出土した奈良時代とされる横槌がシイノキとナツツバキに同定されている(林,1987)。シイノキとナツツバキは、比較的強度が高い材質を有しており、本遺跡におけるクリの利用と似ている。一方、柄については、下月隈C遺跡で古墳後期～奈良時代とされる木柄にサカキが確認された例があるが(三村・高橋,2005)、資料が少ないので今後の資料蓄積が必要である。

農具では、鋤がアカガシ亜属に同定された。アカガシ亜属も強度が高い材質を有し、農作業に耐える材質の木材が選択されたと考えられる。鋤は、時期・地域に関わらずアカガシ亜属の利用が多い傾向があり、今回の結果も調和的である。

紡織具では芯持丸木を利用した編み錘がシキミに同定された。シキミは比較的強度が高い材質を有する。編み錘は、井上薬師堂遺跡の奈良時代とされる木錘にシイノキとモミ属、長野A遺跡の古墳時代末～平安時代初頭の槌の子にシキミ、上清水遺跡の奈良時代とされる槌の子にアカガシ亜属、安

武・深田遺跡の古墳時代末～平安時代初頭とされる槌の子にツツジ、ヤブツバキ、リョウブ等の報告例がある(林,1987,1991;林・島地,1987;株式会社吉田生物研究所,1995)。比較的重硬な材質の木材が利用される傾向があり、シキミも長野A遺跡で確認された例がある。

武器では、ゆはずがイヌガヤに同定された。ゆはずは、芯持丸木で漆塗りの痕跡が見られないことから、白木の丸木弓と考えられる。イヌガヤは、強度・韌性・耐水性が高い材質を有しており、特に韌性などの材質が弓に選択された背景として考えられる。白木弓の調査事例は福岡県内ではほとんどないが、これまでに各地で行われた調査でもイヌガヤが多い結果が得られている。今回の結果から、福岡市内でも同様の木材利用が見られた可能性がある。

容器は、曲物、容器、蓋か?、不明容器?がある。曲物、容器、蓋か?はいずれも板状を呈している。全て針葉樹であり、モミ属、スギ、ヒノキが認められた。木筒と似た木材利用であるが、これも同じく板状加工が容易な樹種を選択した結果と考えられる。福岡市内では、井相田C遺跡や那珂遺跡群の古墳時代末～平安時代初頭とされる資料23点が部位に関わらず全てスギに同定されている(福岡市教育委員会,1987,1992)。一方、梅林遺跡では、1点のみであるが、ヒノキを利用した底板が確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2002)。また、下月隈C遺跡では、古墳時代後期～奈良時代とされる資料にスギを中心にヒノキが混じる組成、古代とされる資料ではスギ・ヒノキ・モミ属が混在する組成が確認されている(三村・高橋,2005;パリノ・サーヴェイ株式会社,2006)。今回の結果は、下月隈C遺跡の古代とされる資料と類似する。下月隈C遺跡の結果をみる限りでは、モミ属の利用が古代に始まるなど、時期によって木材利用が異なる傾向がある。この点については、今後の資料蓄積が課題とされる。

不明容器は、芯を外した分割材を利用した剖物で、本体の底あるいは上部と考えられる張り出しに節を利用した穴があり、そこに別材で作られた栓がはめられている。本体にはケヤキが利用され、栓はヒノキを削り出して作られている。ケヤキは重硬で強度・耐朽性が高く、挽物容器によく利用される樹種である。類似した製品について樹種を明らかにした例がないが、硬く細かな加工が可能であることから、ケヤキが利用された可能性がある。栓については、ヒノキの加工性を利用したことが推定される。なお、福岡市内では、ケヤキは下月隈C遺跡の古代とされる漆塗盤に確認された例が1例あるのみで、容器に確認された例は少ない(三村・高橋,2005)。

食事具では、折敷の底板がモミ属とヒノキ科に同定された。いずれも容器等と同様に板状の加工が容易な材質を利用したことが推定される。調度では、脚か?がスギに同定されており、加工が容易な樹種を選択したことが推定される。

祭祀具では人形があり、針葉樹のモミ属、スギ、広葉樹のクリ、シキミ、ノリウツギが確認され、少なくとも5種類の木材が利用されている。木取りをみると、モミ属とスギの人形はいずれも板目板

表2. 器種別種類構成

分類群＼器種	木筒	工具	農具	紡織	武器	容器			食事	調度	祭祀	建築	その他			合計			
	木筒	横槌	工具柄	鋸	編み鍤	ゆはず	曲物	容器	蓋か?	不明容器?	折敷	脚か?	人形	柱材	漆塗	部材	板材	棒状	用途不明
針葉樹																			
複維管束亜属																			
マツ属																			
モミ属	2																		
スギ	3	1					1	6	3	1		1	2						12
ヒノキ	1						1	2	1			1							19
ヒノキ科	3											1							8
マキ属																			4
イヌガヤ							1												1
カヤ																			1
広葉樹																			4
アカガシ亜属																			4
クリ		1																	2
ケヤキ																			3
シキミ				1															1
ノリウツギ																			4
カエデ属																			1
合計	9	1	1	1	1	1	3	11	4	1	1	1	2	1	10	1	1	7	63

1)部材には部材片、板材には板状製品が含まれる。

状を呈しているが、広葉樹の人形は芯持丸木、芯持材、半裁木が利用されており、針葉樹と広葉樹で形状が異なる。この結果から、それぞれの材質に合わせた加工が行われたことが推定される。

建築材では、柱材がマツ属に同定された。マツ属は、比較的強度や保存性が高いことから、建築・土木に有用であり、柱材もこうした材質を利用したと考えられる。

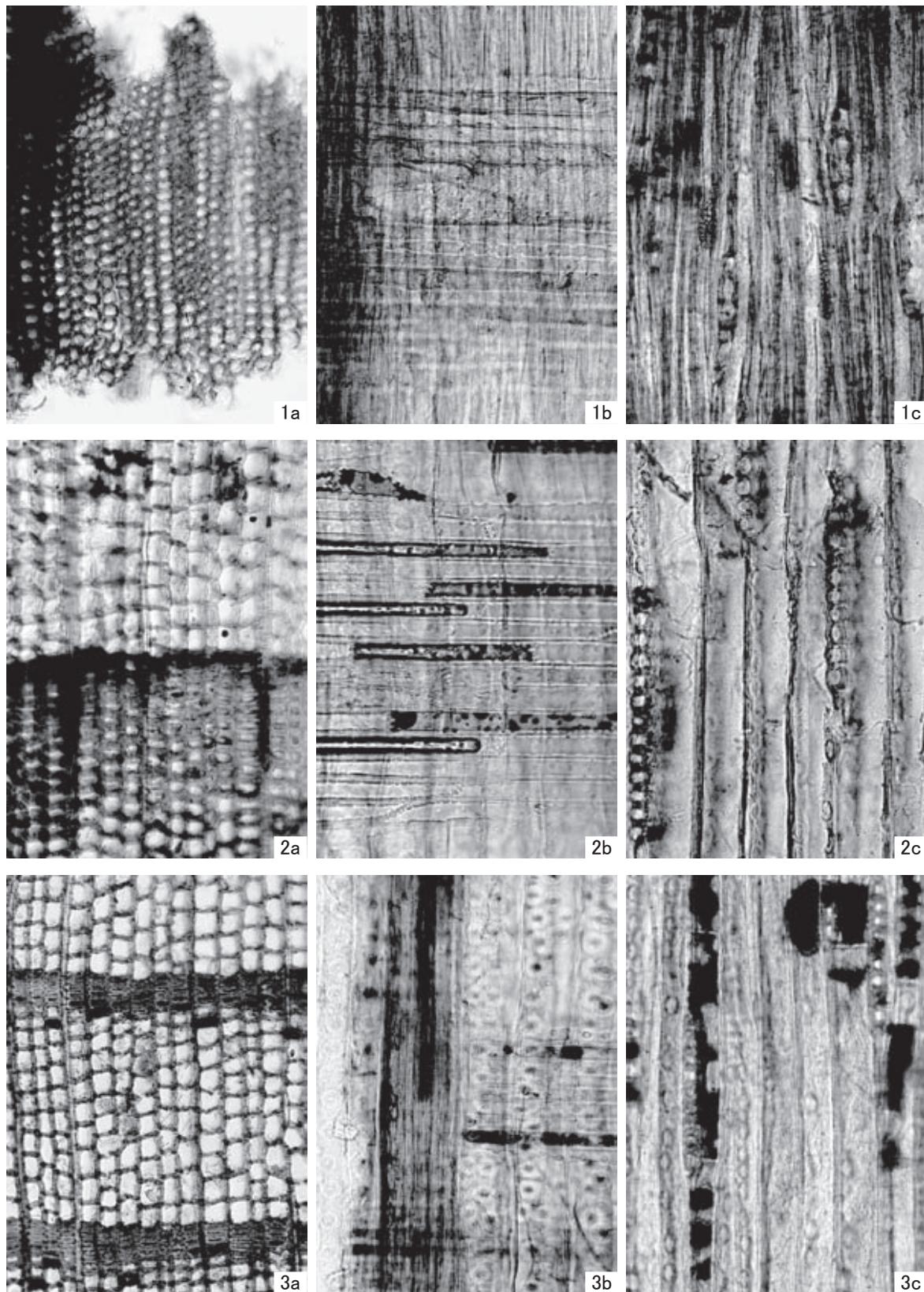
その他には、漆塗、部材、板材、棒状製品、用途不明がある。漆塗は、カブトの破片の可能性が考えられている。全体の形状が不明であるが、残っている部分は樹芯を外した分割材を加工している。カエデ属は、比較的強度が高い材質を有しており、カブトとすれば、強度の高い木材を選択したことが推定される。

部材、板材、棒状製品では、スギやヒノキを主体とした針葉樹が多く、広葉樹は棒状製品にアカガシ亜属が1点認められたのみである。部材や部材片とされる資料は、削出角棒が1点ある他は、全て板状を呈しており、こうした形状から板材と共に針葉樹が多く利用されていることが推定される。棒状製品については、削出角棒がヒノキ、半裁木がアカガシ亜属であり、樹種によって形状が異なる。形状や用途の違いが木材利用に反映されている可能性がある。

引用文献

- 福岡市教育委員会,1987,井相田C遺跡 I .福岡市埋蔵文化財調査報告書第152集,98p.
- 福岡市教育委員会,1992,那珂5 -第10・11・12・14・16・17・21次調査報告.福岡市埋蔵文化財調査報告書第291集,278p.
- 林 弘也,1987,出土木製遺物の樹種。「井上薬師堂遺跡 九州横断自動車関係埋蔵文化財調査報告-10-」,福岡県教育委員会,119-121.
- 林 弘也,1991,安武・深田遺跡出土木製遺物の樹種。「椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告4 一中巻 福岡県築上郡築城町所在安武・深田遺跡 安武・土井の内遺跡」,福岡県教育委員会,373-374.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 林 昭三・島地 謙,1987,長野A遺跡出土の木器などの樹種。「長野A遺跡2 (II・V・VI区の調査) 一九州縦貫自動車道関係文化財調査報告11」,北九州市埋蔵文化財調査報告書第54集,(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室,303-308.
- 伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I .木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載 II .木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載 III .木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV .木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V .木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 株式会社吉田生物研究所,1995,木製品の樹種同定。「上清水遺跡Ⅲ区 一九州縦貫自動車道関係文化財調査報告35」,北九州市埋蔵文化財調査報告書第160集,(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室,98-146.
- 三村 昌史・高橋 敦,2005,第6次調査出土材の樹種からみた木材利用。「下月隈C遺跡V 一福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第6次発掘調査報告一 本文編」,福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第839集,福岡市教育委員会,221-230.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2002,出土木材の年代と樹種。「梅林遺跡 第3次調査」,福岡市埋蔵文化財調査報告書第698集,福岡市教育委員会,131-136.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2006,第7次調査出土材の樹種。「下月隈C遺跡VI 一福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第7次発掘調査報告一 本文編」,福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第881集,福岡市教育委員会,257-268.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修),海青社,70p.
- [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

図版1 木材(1)



1.マツ属複維管束亜属(W011)

2.モミ属(W060)

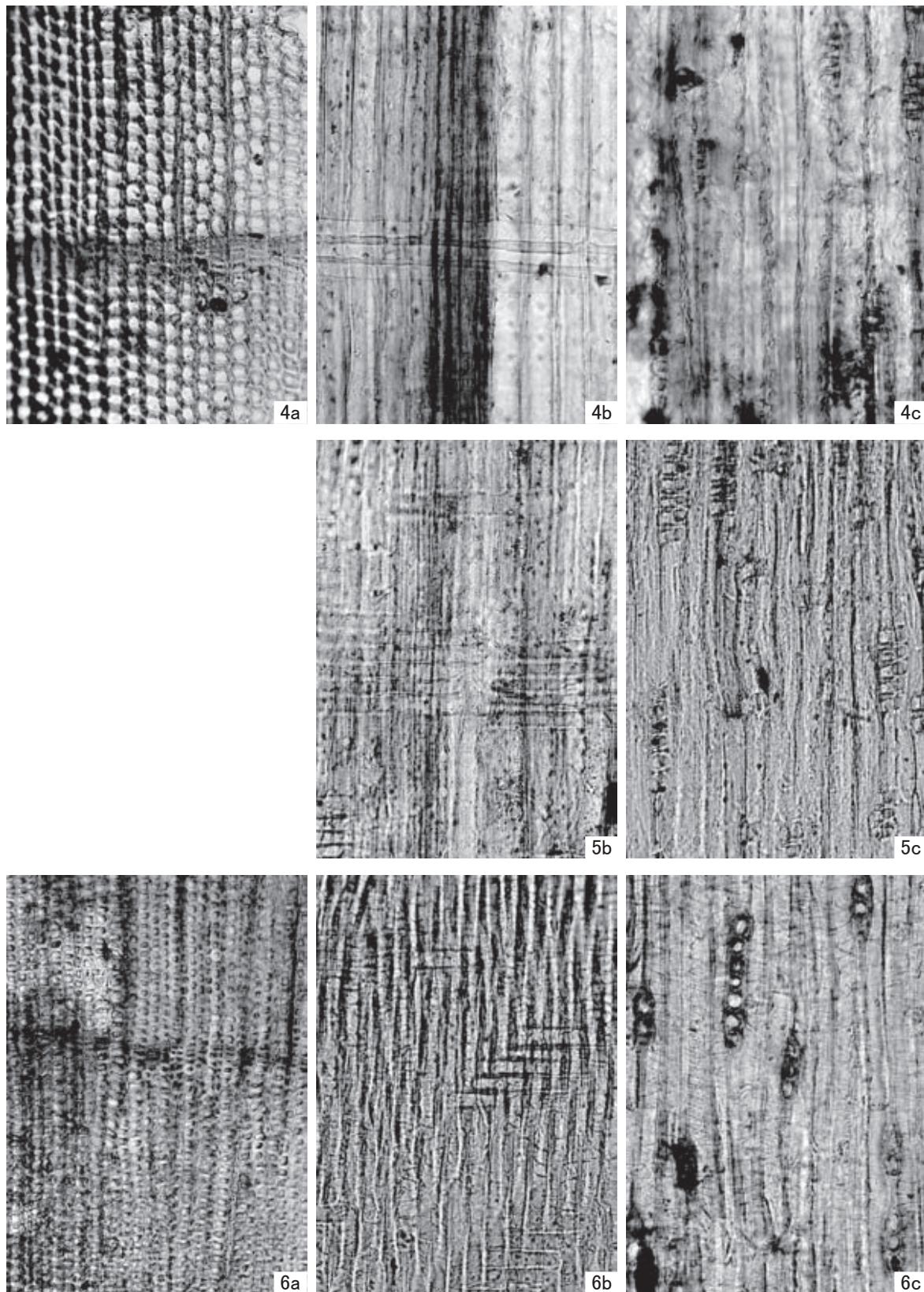
3.スギ(W057)

a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:a

100 μ m:b,c

図版2 木材(2)



4.ヒノキ(W025)

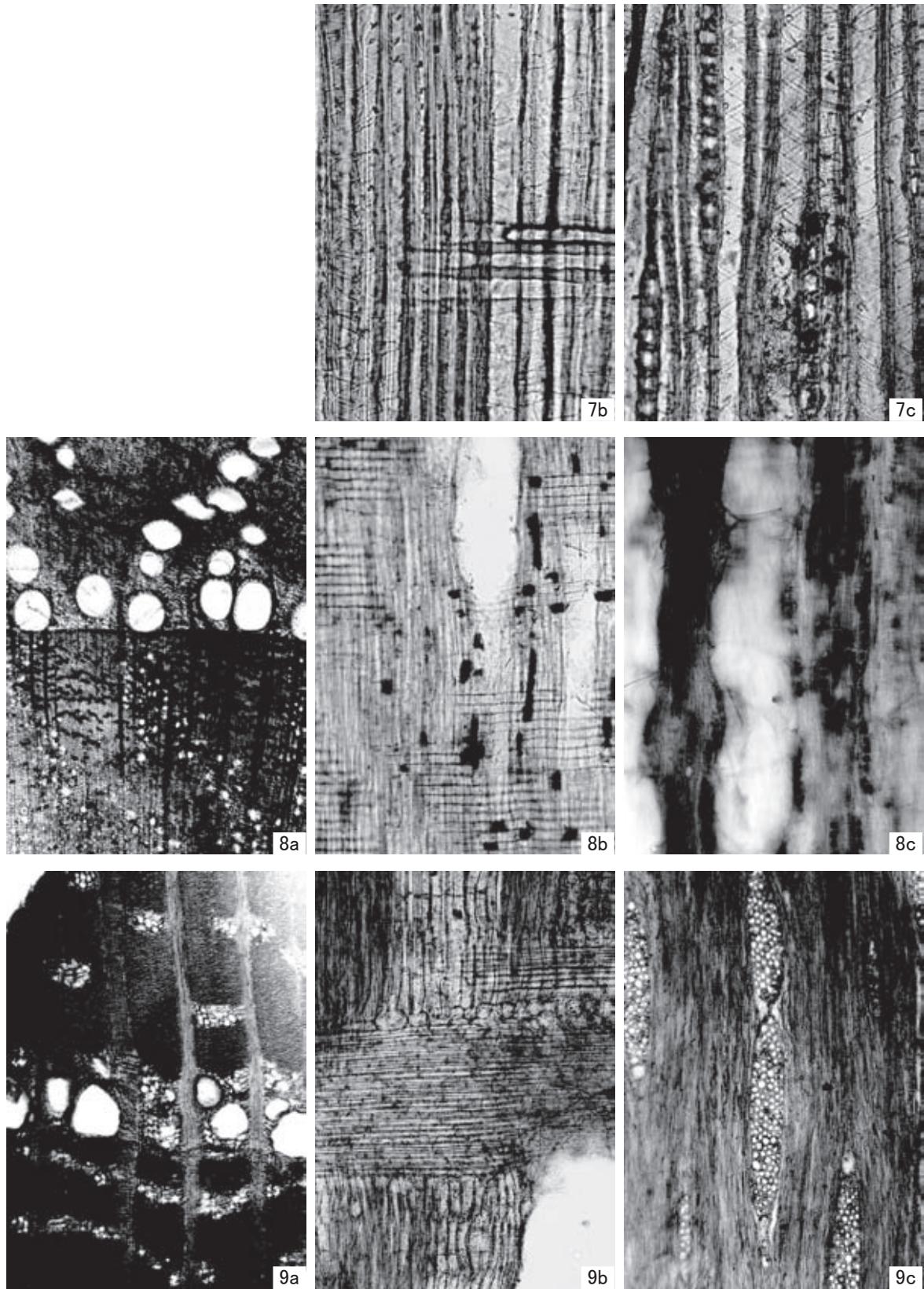
5.マキ属(W022)

6.イヌガヤ(W014)

a:木口, b:柾目, c:板目

200 μ m:a
100 μ m:b,c

図版3 木材(3)



7.カヤ(W052)

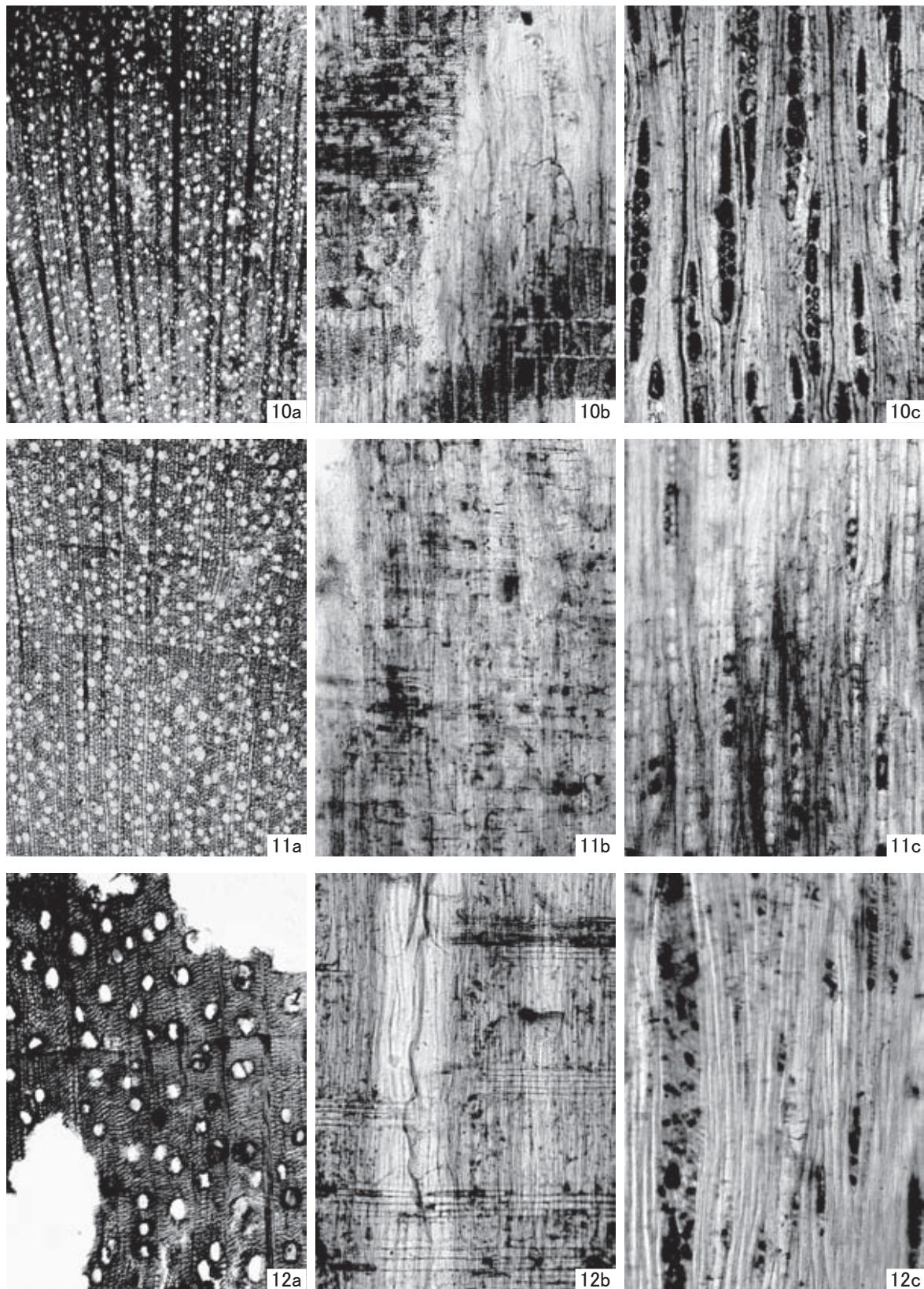
8.クリ(W013)

9.ケヤキ(W025)

a:木口, b:柾目, c:板目

300 μ m:8-9a
200 μ m:8-9b,c
100 μ m:7b,c

図版4 木材(4)



10. 桑(W012)

11. 楠(W013)

12. カエデ属(W029)

a:木口, b:柾目, c:板目

300 μ m:a

200 μ m:b,c

2. 金武青木遺跡の自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

金武青木遺跡は、福岡県福岡市西区大字金武に所在し、早良平野の西側に連なる王丸山と西山の間を流れる竜谷川の上流に位置する。調査地内には、北東側に金武青木A遺跡が、南西側に金武青木B遺跡が分布している。これらの遺跡からは、7世紀末～9世紀初頭にかけての遺物が出土しており、掘立柱建物跡、雨水を溜めたと考えられる溜井、炭焼き窯、鍛冶炉等が検出されている。

今回の分析調査では、溜井状遺構等の古環境検証を目的として珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、種実遺体分析を実施する。また、炭焼き窯の年代と用材の検証を目的として、放射性炭素年代測定と炭化材同定を実施する。

試料

土壤試料は、金武青木A遺跡の第1次B区より溜井状遺構内黒色土、谷部遺構内黒色土の2点、金武青木B遺跡の第1次A区より南側旧河道内黒色土下層の1点、計3点が採取されている。これら全3点について、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、種実遺体分析を実施する。

炭化材試料は、金武青木A遺跡第1次A区の焼土坑SK-01より1点、第1次B区の焼土坑SK-01より1点、計2点が採取されている。このうち、第1次B区SK-01の1点について放射性炭素年代測定を、全2点について炭化材同定を実施する。

分析方法

(1)珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法(4時間放置)の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釀した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではないが、全面を走査する)。種の同定は原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer & Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)、渡辺ほか(2005)、小林ほか(2006)などを参照し、分類基準はRound et al.(1990)に、壊れた珪藻殻の計数基準は柳沢(2000)に従う。

同定結果は、中心類(Centric diatoms;広義のコアミケイソウ綱Coscinodiscophyceae)と羽状類(Pennate diatoms)に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms;広義のオビケイソウ綱Fragilariphycaceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms;広義のクサリケイソウ綱Bacillariophycaceae)に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については、Vos & de Wolf(1993)を参考とするほか、塩分濃度に対する区分はLowe(1974)に従い、真塩性種(海水生種)、中塩性種(汽水生種)、貧塩性種(淡水生種)に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の種類について主要珪藻化石群集の散布図を作成するほか、淡水生種の生態性についても100個体以上の試料に

ついて図示する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種(貧塩性種)については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については渡辺ほか(2005)の環境指標種を参考とする。

(2)花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の散布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3)植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由來した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由來した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2004)の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、植物珪酸体含量などを図示する。

(4)種実遺体分析

土壤試料中から植物遺体を分離するために、一定容積(200cc、谷部内はイネ穎多量のため50cc)の土壤を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体をピンセットで拾い出す。谷部内で多量確認されたイネの穎の破片は、主に基部の果実序柄が残るものと径1mm以上を抽出する。

大型植物遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)等に掲載の写真と記載に基づいて行い、個数を集計して一覧表で示す。実体顕微鏡観察による区別が困難な複数種間は、ハイフロンで結んで表示する。一部、個数ではなくプラス表示のものもある。なお、分類群を同定できなかった植物遺体や植物以外の遺体は一覧表の下部に一括してまとめる。分析後は、大型植物遺体を70%程度のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。

(5)放射性炭素年代測定

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸1.2N、水酸化ナトリウム1N、塩酸1.2N)により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB

REV6.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

(6)炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)およびWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

(1)珪藻分析

結果を表1、図1に示す。珪藻化石の産出頻度は、谷部内黒色土、南側旧河道内黒色土下層とともに豊富に産出する。また、溜井状遺構内黒色土は、これらの試料と比較すると少ない傾向があるが、堆積環境を検討する上では有意な量の珪藻化石が産出する。完形殻の出現率は、南側旧河道内黒色土下層が約60%、それ以外の2試料は約90%と化石の保存状態が良い。産出分類群数は、合計で29属90分類群である。以下に、遺跡ごとの産状を述べる。

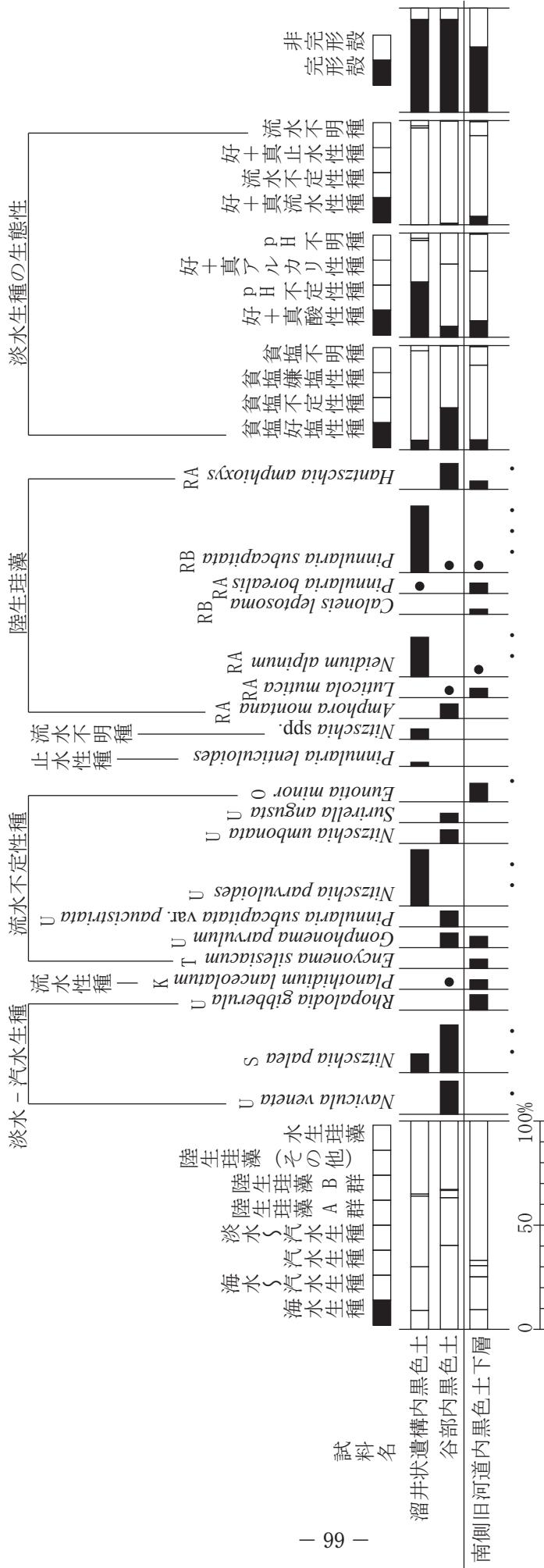
・金武青木A遺跡

第1次B区の溜井状遺構内黒色土は、陸上のコケや土壤表面など多少の湿り気を保持した好氣的環境に耐性のある陸生珪藻が全体の約60%を占める。これに次いで、淡水域に生育する淡水生種が約30%、淡水～汽水生種が約10%産出する。淡水生種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応性)の特徴は、貧塩不定性種、好+真酸性種、流水不定性種が優占あるいは多産する。水生珪藻の主要種は、流水にも止水にも普通に生息する流水不定性の*Nitzschia parvuloides*が30%産出し、有機汚濁の進んだ腐水域に生息する好汚濁性種の*Nitzschia palea*、止水域に好んで生息する好止水性種の*Pinnularia lenticuloides*などを伴う。陸生珪藻では、水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群の*Pinnularia subcapitata*が30%産出し、分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い陸生珪藻A群の*Neidium alpinum*が約20%産出する。なお、好汚濁性種の*Nitzschia palea*は、塩分や塩類の豊富な淡水～汽水域にも生息する。

谷部内黒色土は、淡水～汽水生種が約40%、水生珪藻が約30%、陸生珪藻A群が約25%産出する。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩不定性種と貧塩好塩性種、pH不定性種と好+真アルカリ性種、流水不定性種が優占あるいは多産する。主要種は、淡水～汽水生種で好汚濁性種の*Nitzschia palea*が約20%、*Navicula veneta*が約16%産出し、流水不定性種の*Gomphonema parvulum*、*Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata*、*Nitzschia umbonata*、*Surirella angusta*などが7～5%産出する。陸生珪藻は、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約10%、*Amphora montana*が約5%産出する。

・金武青木B遺跡

南側旧河道内黒色土下層は、水生珪藻が全体の約65%産出し、これに付随して陸生珪藻が約25%、淡水～汽水生種が約10%産出する。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩不定性種、pH不定性種と好+真アルカリ性種、流水不定性種が優占あるいは多産する。群集をみると特に多産する種類はものではなく、淡水～汽水生で付着性の*Rhopalodia gibberula*、好流水性で中～下流性河川指標種(河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、そのような環境を指標する種)の*Planothidium lanceolatum*、流水不定性で沼沢湿地付着生種(沼よりも浅



海水-汽水-淡水生種産出率・完形殻産出率は全個体数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基數として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の産出を示す。

図1. 主要珪藻化石群集

表1. 珪藻分析結果(1)

種類	生態性			環境指標種	金武青木A 第1次B区		金武青木B 第1次A区 南側旧河道内 黑色土下層
	塩分	pH	流水		溜井状遺構内 黑色土	谷部内 黑色土	
Bacillariophyta(珪藻植物門)					-	-	1
Centric Diatoms(中心型珪藻類)					-	-	1
<i>Aulacoseira crassipunctata</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	1
<i>Aulacoseira crenulata</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	1
<i>Melosira varians</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	1
Araphid Pennate Diatoms(無縱溝羽狀珪藻類)							
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1
<i>Ulnaria ulna</i> (Nitzsch) Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	3
Raphid Pennate Diatoms(有縱溝羽狀珪藻類)							
Monoraphid Pennate Diatoms(單縱溝羽狀珪藻類)							
<i>Karayevia clevei</i> (Grun.) Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1
<i>Planothidium lanceolatum</i> (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	2	9
<i>Cocconeis euglypta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	1
<i>Cocconeis neodiminuta</i> Krammer	Ogh-ind	al-bi	l-ph		-	-	1
<i>Cocconeis placenta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1
Biraphid Pennate Diatoms(双縱溝羽狀珪藻類)							
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.) Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	14	-
<i>Encyonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	1
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	9
<i>Placoneis elginiensis</i> (Greg.) E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	-	4
<i>Placoneis elginiensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krasske) H.Kobayashi	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	4
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	4	1
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	-	3
<i>Gomphonema lagena</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	14	11
<i>Gomphonema productum</i> (Grun.) Lange-B. & Reichardt	Ogh-ind	ind	ind	U	-	2	-
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	2
<i>Gomphonema pumilum</i> var. <i>rigidum</i> E.Reichardt et Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	2
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1
<i>Diploneis parma</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1
<i>Geissleria ignota</i> (Krasske) Lange-B. et Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind	RB,T	-	-	2
<i>Mayamaea atomus</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	RA,S	-	1	-
<i>Navicula gregaria</i> Donkin	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	3	-
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	32	-
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	3	1
<i>Navicula nipponica</i> (Skv.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	2
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1
<i>Navicula seposita</i> var. <i>lanceolata</i> Haragushi	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	3
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	2
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O,U	-	1	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> fo. <i>hattori</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	1
<i>Stauroneis tenera</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1
<i>Frustulia rhomboides</i> (Ehr.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P,U	-	-	1
<i>Frustulia saxonica</i> Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P,O	-	-	4
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	3
<i>Frustulia weinholdii</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1
<i>Diadesmis biceps</i> Arnott ex Grunow in Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	2	1
<i>Diadesmis contenta</i> (Grun.ex Van Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	-	1
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	-	3	9
<i>Luticola paramutica</i> (Bock) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-
<i>Luticola ventricosa</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	-	1	-
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	ind	RA	19	-	1
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	3
<i>Neidium bisulcatum</i> (Lagerst.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	-	-	4
<i>Neidium longiceps</i> (W.Greg.)R.Ross	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	2
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	ac-bi	ind	RA,S	-	1	-
<i>Caloneis hyalina</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	1
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	-	-	5
<i>Caloneis molaris</i> (Grun.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	2
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	-	2
<i>Pinnularia anglica</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	T	-	-	2
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	1	-	10
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	-	-	2
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>dissimilis</i> H.Kobayashi	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-
<i>Pinnularia lenticuloides</i> H.Kobayashi	Ogh-ind	ac-il	l-ph		2	-	-
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	1
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	2
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	1
<i>Pinnularia Schroederii</i> (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1
<i>Pinnularia similis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		-	-	2

表1. 珪藻分析結果(2)

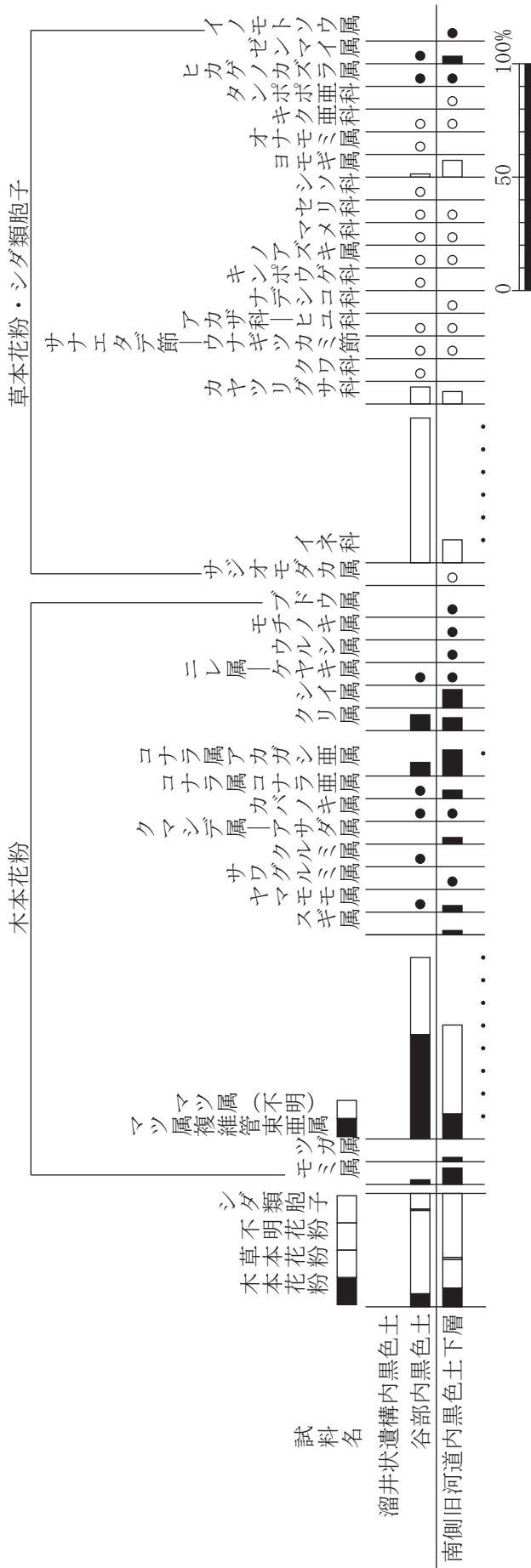
種類	生態性			環境指標種	金武青木A 第1次B区		金武青木B 第1次A区
	塩分	pH	流水		溜井状遺構内 黒色土	谷部内 黒色土	南側旧河道内 黒色土下層
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	-	2
<i>Pinnularia streptoraphe</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	32	4	2
<i>Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	U	-	15	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1
<i>Sellaphora laevissima</i> (Kuetz.) Mann	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	2
<i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	2
<i>Sellaphora seminulum</i> (Grun.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RB,S	-	1	-
管綫溝類							
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	-	25	8
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>vivax</i> (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	4
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	9	46	-
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1
<i>Nitzschia parvuloides</i> Cholnoky	Ogh-ind	ind	ind	U	27	-	-
<i>Nitzschia cf. permunita</i> (Grun.) Peragallo	Ogh-ind	al-il	ind	RI,U	1	-	-
<i>Nitzschia umbonata</i> (Ehr.) Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind	U	-	13	-
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		5	-	-
<i>Tryblionella debilis</i> Arnott	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	1	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	15
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	3
翼管綫溝類							
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	9	-
<i>Surirella tenera</i> Gregory	Ogh-hob	al-il	l-ph	U	-	-	1
<i>Surirella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1
短綫溝類							
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-bi	ind	U	-	-	4
<i>Eunotia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	1
<i>Eunotia minor</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	-	-	18
海水生種					0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0
汽水生種					0	0	0
淡水～汽水生種					9	81	19
淡水生種					91	120	183
珪藻化石総数					100	201	202

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R.: 流水に対する適応性
Ogh-Meh: 淡水～汽水生種	al-bi : 真アルカリ性種	I-bi : 真止水性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種	al-il : 好アルカリ性種	I-ph : 好止水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
Ogh-unk : 貧塩不明種	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
	unk : pH不明種	unk : 流水不明種

環境指標種群

K:中～下流性河川指標種, O:沼澤湿地付着生種, P:高層湿原指標種(以上は安藤,1990)
S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種(以上はAsai & Watanabe,1995)
R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内,1991)



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

図 2. 花粉化石群集

く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼澤や、更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られる事から、そのような環境を指標する種)のEunotia minor、流水不定性で付着性のGomphonema parvulum、Encyonema silesiacumなどが7~5%産出する。陸生珪藻では、A群のLuticola mutica、Pinnularia borealis、Hantzschia amphioxysなどが低率で産出する。

(2)花粉分析

結果を表2、図2に示す。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、

木本花粉総数が100個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。以下に、遺跡ごとの産状を述べる。

・金武青木A遺跡

第1次B区の溜井状遺構内黒色土では、花粉化石が全く検出されず、わずかにシダ類胞子が認められる。

一方、谷部内黒色土では、花粉化石は豊富に産出するものの、花粉の保存状態は悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められた。群集組成をみると草本花粉の割合が高く、木本花粉はからうじて定量解析ができる程度の産出状況であった。木本花粉ではマツ属が優占し、コナラ属アカガシ亜属、クリ属等を伴う。草本花粉ではイネ科が優占し、カヤツリグサ科、アカザ科ヒュウ科、ヨモギ属等を伴う。

表2. 花粉分析結果

種類	金武青木A 第1次B区		金武青木B 第1次A区 南側旧河道内 黒色土下層
	溜井状遺構内 黒色土	谷部内 黒色土	
木本花粉			
モミ属	-	2	15
ツガ属	-	-	4
マツ属複維管束亜属	-	46	23
マツ属(不明)	-	34	82
スギ属	-	-	4
ヤマモモ属	-	1	6
サワグルミ属	-	-	1
クルミ属	-	1	-
クマシデ属-アサダ属	-	-	6
カバノキ属	-	1	2
コナラ属コナラ亜属	-	1	8
コナラ属アカガシ亜属	-	6	24
クリ属	-	7	12
シイ属	-	-	17
ニレ属-ケヤキ属	-	1	1
ウルシ属	-	-	1
モチノキ属	-	-	1
ブドウ属	-	-	2
草本花粉			
サジオモダカ属	-	-	3
イネ科	-	545	124
カヤツリグサ科	-	64	67
クワ科	-	1	-
サンエタデ節-ウナギツカミ節	-	2	3
アカザ科ヒュウ科	-	4	1
ナデシコ科	-	-	1
キンポウゲ科	-	1	-
ノアズキ属	-	1	4
マメ科	-	1	4
セリ科	-	1	6
シソ科	-	1	-
ヨモギ属	-	12	91
オナモミ属	-	1	-
キク亜科	-	1	9
タンポポ亜科	-	-	1
不明花粉	-	11	26
シダ類胞子			
ヒカゲノカズラ属	-	1	3
ゼンマイ属	-	1	41
イノモトソウ属	-	-	5
他のシダ類胞子	12	117	654
合計			
木本花粉	0	100	209
草本花粉	0	635	314
不明花粉	0	11	26
シダ類胞子	12	119	703
総計(不明を除く)	12	854	1226
その他			
回虫卵	-	1	-
鞭虫卵	-	3	-

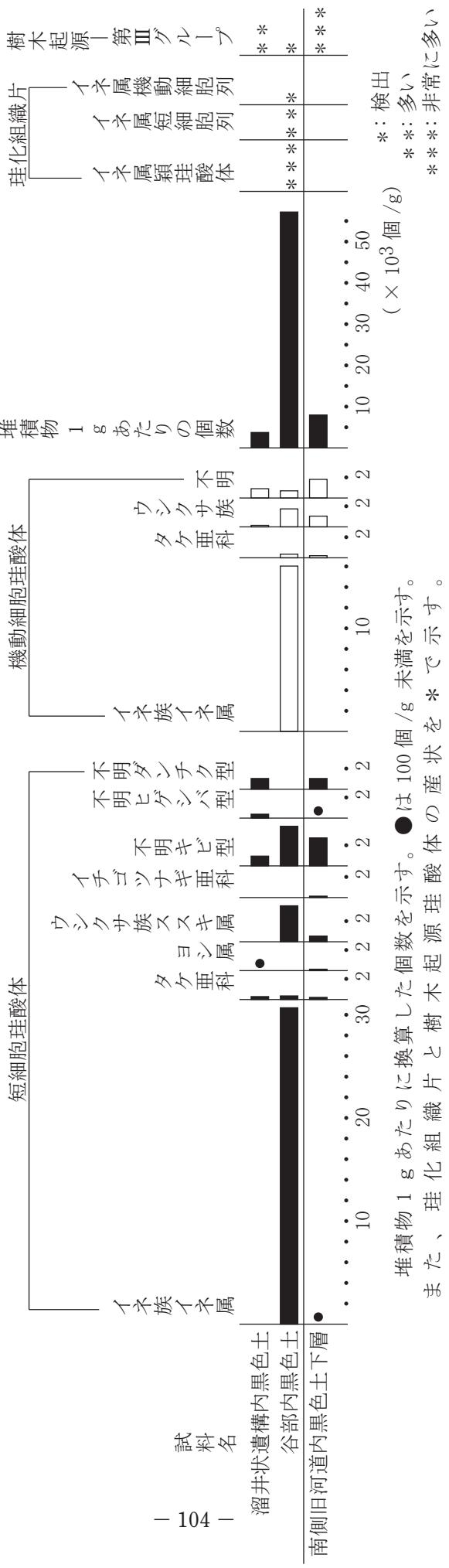


図3. 植物珪酸体含量と珪化組織片などの産状

・金武青木B遺跡

第1次A区の南側旧河道内黒色土下層では、花粉化石が豊富に産出するが、シダ類胞子も多産する。花粉化石の保存状態は、第1次B区の谷部内黒色土と比較すると良好である。木本花粉ではマツ属が最も多く産出し、モミ属、ヤマモモ属、クマシデ属—アサダ属、コナラ属コナラ亜属、アカガシ亜属、クリ属、シイ属等を伴う。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が多く産出し、サジオモダカ属、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ノアズキ属、マメ科、キク亜科等が認められる。

(3)植物珪酸体分析

結果を表3、図3に示す。以下に、遺跡ごとの産状を述べる。

・金武青木A遺跡

第1次B区の溜井状遺構内黒色土からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。検出される分類群は少なく、タケ亜科やヨシ属、ウシクサ族などであり、含量も少ない。イネ科起源の他に、樹木起源珪酸体の第Ⅲグループ(近藤・ピアスン, 1981)が認められる。

谷部内黒色土では、イネ属が多産する。この中で、短細胞珪酸体

が約3.1万個/g、機動細胞珪酸体が約1.6万個/gである。また珪化組織片として、糲(穎)に形成される穎珪酸体、葉部の短細胞列や機動細胞列が見られ、穎珪酸体の産出が目立つ。この他にタケ亜科、スキ属を含むウシクサ族、樹木起源珪酸体の第Ⅲグループなどが見られる。

・金武青木B遺跡

第1次A区の南側旧河道内黒色土下層では植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。この中には、イネ属、タケ亜科、スキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが見られる。また、樹木起源珪酸体の第Ⅲグループの産出が目立つ。

(4)種実遺体分析

結果を表4に示す。以下に、遺跡ごとの産状を述べる。

・金武青木A遺跡

1次B区の溜井状遺構内黒色土からは種実は検出されず、最大2.8mm程度の炭化材0.01gが検出され

表3. 植物珪酸体含量

種類	金武青木 A 第1次 B 区		(個/g)
	溜井状遺構内 黒色土	谷部内 黒色土	
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ族イネ属	-	30,700	,100
タケ亜科	,300	,300	,200
ヨシ属	<100	-	,100
ウシクサ族スキ属	-	3,500	,600
イチゴツナギ亜科	-	-	,100
不明キビ型	,900	3,800	2,700
不明ヒゲシバ型	,400	-	,100
不明ダンチク型	1,000	-	1,000
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ族イネ属	-	16,000	-
タケ亜科	-	,300	,200
ウシクサ族	,100	1,700	1,000
不明	,900	,700	1,800
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	2,700	38,400	4,900
イネ科葉身機動細胞珪酸体	1,000	18,800	3,100
総計	3,700	57,200	8,000
珪化組織片			
イネ属穎珪酸体	-	***	-
イネ属短細胞列	-	**	-
イネ属機動細胞列	-	*	-
樹木起源珪酸体			
第Ⅲグループ	**	*	***

1)含量は、10の位で丸めている(100単位にする)。

2)合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。

3)<100: 100個/g未満。

4)-:未検出,*:検出,**:多い,***:非常に多い。

る。

谷部内黒色土からは、裸子植物1分類群(針葉樹のクロマツ)の葉1個、被子植物19分類群(広葉樹のコナラ属、キイチゴ属、草本のイネ、エノコログサ属、イネ科、テンツキ属、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、ミズ属、イラクサ科、イヌタデ近似種、サンエタデ近似種、ヒュ科、カタバミ属、メロン類、イヌコウジュ属、ナス近似種、ナス科、タカサブロウ)1080個の種実が検出されたほか、不明種実2個、木材、最大11.1mm程度の炭化材0.08g、昆虫類が確認された。

大型植物遺体群は、栽培種のイネの穎(1037個、うち基部777個)が全体の96%を占める。その他に確認された栽培種は、メロン類(マクワ・シロウリ型)の種子1個、ナス近似種の種子1個である。

・金武青木B遺跡

第1次A区の南側旧河道内黒色土下層からは、被子植物23分類群(広葉樹のヒサカキ属、イイギリ、草本のサジオモダカ属、オモダカ科、ミズアオイ属、イネ、イネ科、テンツキ属、ホタルイ属、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アブラナ科、キジムシロ属 - ヘビイチゴ属 - オランダイチゴ属、スマレ属、ミズユキノシタ、チドメグサ属、サクラソウ科、イヌコウジュ属、タカサブロウ、キク科)173個の種実が検出されたほか、木材、最大5.5mm程度の炭化材0.13g、菌類の菌核、昆虫類が確認された。栽培種は、イネの穎5個(うち基部2個)が確認された。栽培種以外は、人里植物に属する草本主体の種類構成を示し、サジオモダカ属、オモダカ科、ミズアオイ属、テンツキ属、ホタルイ属、ミズユキノシタ、タカサブロウなどの水湿地生植物を多く含む。

以下に、両遺跡から検出された各分類群の形態的特徴等を記す。

<木本>

・クロマツ(*Pinus thunbergii* Parlatoore) マツ科マツ属複維管束亞属

針葉は灰褐色、長さ1.2cm以上、径1.5mm程度の針形で、短枝から2針葉が伸びる。葉横断面は半円形。中心部に2個の維管束がある。葉横断面を観察した結果、4-10個程度の樹脂道が葉肉内に点在する。

・コナラ属(*Quercus*) ブナ科コナラ属

果実は灰褐色、完形ならば径1-2cm程度の卵状橢円体または偏球体。破片は最大4.5mm程度。頂部を欠損するため、殻斗の圧痕である輪状紋は確認されない。基部は一部が確認され、淡灰褐色で円形、維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮外面は平滑で、浅く微細な筋が縦列する。

・ヒサカキ属(*Eurya*) ツバキ科

種子は灰～黒褐色、径1.3-1.8mm程度のやや偏平な不規則多角状広倒卵体。基部の臍に向かい薄くなる。種皮表面は臍を中心に橢円形や円形凹点による網目模様が指紋状に広がる。

現在の本地域に分布するヒサカキ属は、常緑広葉樹林内の林床に生育する低木～小高木のヒサカキ(*E. japonica* Thunb.)、海岸近くに生育する常緑小高木のハマヒサカキ(*E. emarginata* (Thunb.) Makino)の2種があるが、種子の実体顕微鏡下観察による区別は困難である。

・キイチゴ属(*Rubus*) バラ科

核(内果皮)は灰黄褐色、長さ2.2mm、幅1.5mm程度の偏平な半倒卵体。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなす。

・イイギリ(*Idesia polycarpa* Maxim.) イイギリ科イイギリ属

種子は灰黒褐色、長さ1.2mm以上、径1.5mm程度の広倒卵体で基部を欠損する。頂部に円形の孔がある。頂部から基部の臍にかけて1本の縦隆条がある。種皮は海綿状で表面には微細な網目模様がある。

表4. 種実遺体分析結果

分類群	部位	状態	金武青木 A 第1次 B 区	金武青木 B 第1次 A 区
			溜井状遺構内 黒色土	谷部内 黒色土
木本				
クロマツ	葉	破片	1	
コナラ属	果実	破片	7	
ヒサカキ属	種子	完形		1
		破片		6
キイチゴ属	核	完形	1	
イイギリ	種子	破片		1
草本				
サジオモダカ属	果実	完形		15
オモダカ科	果実	完形		14
ミズアオイ属	種子	完形		1
イネ	穎	破片	777	2
		破片	260	3
エノコログサ属	果実	完形	1	
イネ科	果実	完形	2	
		破片	2	2
テンツキ属	果実	完形	2	13
		破片	1	1
ホタルイ属	果実	完形		2
		破片		6
カヤツリグサ属	果実	完形	5	30
カヤツリグサ科	果実	完形	4	9
ミズ属	果実	完形	1	
イラクサ科	果実	完形	1	
イヌタデ近似種	果実	完形	1	1
		破片	1	1
サナエタデ近似種	果実	完形	1	
タデ属	果実	破片		1
ナデシコ科	種子	完形		3
ヒユ科	種子	完形	2	
		破片	2	
アブラナ科	種子	完形		4
キジムシロ類*	核	完形		2
		破片		1
カタバミ属	種子	完形	1	
スミレ属	種子	完形		1
		破片		5
メロン類(マクワ・シロウリ型)	種子	完形	1	
ミズユキノシタ	種子	完形		2
チドメグサ属	果実	完形		9
		破片		9
サクラソウ科	種子	完形		22
イヌコウジュ属	果実	完形	1	2
		破片	1	
ナス近似種	種子	破片	1	
ナス科	種子	完形	2	
タカサゴロウ	果実	完形	1	3
		破片	1	
キク科	果実	完形		1
不明種実		完形	2	
その他				
木材			+	+
炭化材			0.01g	0.08g
菌核				48
昆虫類				28
分析量			200cc	50cc
量			378.43g	68.87g
				200cc
				281.19g

1) *キジムシロ類：キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属

<草本>

・サジオモダカ属(*Alisma*) オモダカ科

果実は淡～灰褐色、長さ2.5mm、幅1.7mm、厚さ0.3mm程度のやや偏平な広卵体。基部は切形。背面に深い縦溝が1本走る。果皮は海綿状で中に入る1個の種子が透けて見える。種子は灰～黒褐色、径0.5mm程度の倒U字状に曲がった円柱状で偏平。種皮は薄く膜状で、表面には縦長の微細な網目模様が配列する。種子のみの検出をオモダカ科(*Alismataceae*)としている。

・ミズアオイ属(*Monochoria*) ミズアオイ科

種子は淡灰褐色、長さ1.1mm、径0.6mm程度の楕円体。種皮は薄く透き通り、柔らかい。表面には10本程度の太い縦隆条と、その間に細い横隆条が密に配列する。

・イネ(*Oryza sativa L.*) イネ科イネ属

穎は淡～灰褐色、完形ならば長さ6.0-7.5mm、幅3.0-4.0mm、厚さ2.0mm程度のやや偏平な長楕円体。破片は最大6.7mm程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎と言う場合もある)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲穂を構成する。穎は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・エノコログサ属(*Setaria*) イネ科

果実は灰黄褐色、長さ2.7mm、径1.4mm程度の半偏球体。背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面には横方向に目立つ網目模様が配列する。

・イネ科(*Gramineae*)

果実は灰褐色、長さ3.2mm、径1.7mm程度の半偏球体。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。果皮表面には縦長の網目模様が縦列する。

・テンツキ属(*Fimbristylis*) カヤツリグサ科

果実は淡～灰褐色、長さ1.0mm、幅0.8mm程度の広倒卵体で側面は両凸レンズ状。左右の縁は稜をなし、果皮表面には格子状の網目模様がある。

・ホタルイ属(*Scirpus*) カヤツリグサ科

果実は灰～黒褐色、長さ2.0mm、径1.8mm程度の片凸レンズ状広倒卵体。頂部は尖り、基部は切形で刺針状の花被片が伸びる個体がみられる。背面正中線上は鈍稜。果皮表面は光沢があり、不規則な波状横皺状模様が発達する。

・カヤツリグサ属(*Cyperus*) カヤツリグサ科

果実は淡灰～黒褐色、長さ1.2mm、径0.6mm程度の三稜状狭倒卵体。頂部は尖り、基部は切形。果皮表面には微小な疣状突起が密布する。

・カヤツリグサ科(*Cyperaceae*)

上記カヤツリグサ科以外の形態上差異のある複数種を一括している。果実は淡～黒褐色、径1.0-1.5mm程度のレンズ状または三稜状倒卵体。頂部の柱頭部分はやや伸び、基部は切形で花被片が伸びる個体がみられる。果皮表面は平滑～微細な網目模様がある。

・ミズ属(*Pilea*) イラクサ科

果実は淡灰褐色、長さ1.3mm、幅0.9mm程度の偏平な非対称狭倒卵体。両端は尖る。果皮表面は粗面で微細な疣状突起が散在する。なお、長さ1.6mm、幅1.0mm程度で果皮表面の突起が密生する果実をイラクサ科(*Urticaceae*)としている。

・イヌタデ近似種(*Polygonum cf. longisetum De Bruyn*) タデ科タデ属

果実は黒色、長さ2.0mm、径1.0mm程度の丸みのある三稜状卵体。頂部は尖り、基部は切形。果皮

表面は平滑で光沢がある。

・サナエタデ近似種(*Polygonum cf. lapathifolium* L.) タデ科タデ属

果実は黒褐色、長さ2.2mm、幅1.8mm程度の偏平な広卵状二面体。頂部はやや尖り、2花柱を欠損する。基部は切形で、花被脈を欠損する。両面中央はやや凹む。果皮表面は平滑で光沢がある。

・タデ属(*Polygonum*) タデ科

果実は黒褐色、長さ2.0mm以上、径2.2mm程度の広卵体で頂部を欠損する。基部は切形。腹面正中線は鈍稜状。果皮表面には微細な網目模様がある。

・ナデシコ科(*Caryophyllaceae*)

種子は灰褐色、径0.8mm程度のやや偏平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く表面には瘤～針状突起が臍から同心円状に配列する。

・ヒユ科(*Amaranthaceae*)

種子は黒色、径1.2mm程度の偏平な円盤状。縁は稜状で、基部は凹み臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が配列し、光沢がある。

・アブラナ科(*Cruciferae*)

種子は赤褐色、長さ1.3mm、幅0.7mm程度の偏平な橢円形。基部は切形で、両面の同一側には臍点から頂部へ伸びる1個の深い溝がある。種子表面には微細な網目模様がある。

・キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属(*Potentilla*-*Duchesnea*-*Fragaria*) バラ科

核(内果皮)は淡灰褐色、長さ1.2mm、幅0.7mm、厚さ0.3mm程度のやや偏平な腎体。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で数個の海綿状隆条が斜上する。

・カタバミ属(*Oxalis*) カタバミ科

種子は黒褐色、長さ1.3mm、幅1.0mm程度の偏平な倒卵体。基部はやや尖る。種皮は薄く、表面には4-7列の横隆条が配列する。

・スミレ属(*Viola*) スミレ科

種子は灰褐色、長さ1.3mm、径0.9mm程度の広倒卵体。基部は尖りやや湾曲する。頂部は円形の臍点がある。表面には縦方向に走る1本の縫合線がある。種皮は薄く、表面には縦長の微細な網目模様が配列する。

・メロン類(*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。灰褐色、長さ7.3mm、幅3.5mm、厚さ0.5mm程度の偏平な狭倒卵針形。藤下(1984)の基準による中粒のマクワ・シロウリ型(長さ6.1-8.0mm)に該当する種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・ミズユキノシタ(*Ludwigia ovalis* Miq.) アカバナ科チョウジタデ属

種子は淡褐色、長さ1.0mm、径0.7mm程度の広橢円体。基部の短い突起の先に臍がある。側面に、淡黄褐色、大きさ0.7mm程度の三角形で海綿状の付属体が付く。種皮表面には横長の凹点による微細な網目模様が配列する。

・チドメグサ属(*Hydrocotyle*) セリ科

果実は淡灰褐色、径1.2mm程度のやや偏平な半月形。一端には太い柄があり、合生面は平坦。果皮は厚く、やや弾力がある。表面には1本の明瞭な円弧状の稜がある。

・サクラソウ科(*Primulaceae*)

種子は黒灰褐色、径1.4mm程度の倒台形、背面は平らで橢円状、菱形状、円形状などの4-5角形。腹面は長軸方向に薄くなり稜状で、稜上の中央付近に広線形の臍がある。表面には5-6角形の凹みに

による微細な網目模様がある。

・イヌコウジュ属(Mosla) シソ科

果実は淡～灰褐色、径1.3mm程度の倒広卵体。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

・ナス近似種(*Solanum cf. melongena L.*) ナス科ナス属

種子は灰褐色、完形ならば径3-3.5mm程度の偏平で歪な腎臓形。破片は大きさ2.2mm程度。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。なお、長さ1.6mm、幅1.7mm程度の野生種に由来すると思われる小型種子をナス科(Solanaceae)と区別している。

・タカサブロウ(*Eclipta prostrata (L.) L.*) キク科タカサブロウ属

果実は灰～茶褐色、長さ2.7mm、径1.5mm程度のやや偏平な三角状倒狭卵体。両端は切形、果皮は海綿状で、両面には瘤状突起が分布する。両縁に翼があり、水に浮きやすい。

・キク科(Compositae)

果実は淡灰褐色、長さ3.2mm、幅0.7mm程度の広線状長楕円体で腹面方向に湾曲する。両端は尖り、果皮両面には5-6個の縦隆条が配列する。

(5)放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表5に、曆年較正結果を表6に示す。金武青木A遺跡第1次B区のSK-01は $1,235 \pm 20$ BPを示す。

曆年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正することである。曆年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に曆年較正プログラムや曆年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。曆年較正については、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。曆年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は

表5. 放射性炭素年代測定結果

調査区	遺構	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Code No.
第1次B区	SK-01	炭化材	$1,235 \pm 20$	-29.43 ± 0.19	PLD-16294

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差 σ （測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表6. 曆年較正結果

調査区 遺構名	補正年代 (BP)	曆年較正年代 (cal)								相対比	Code No.
第1次B区 SK-01	$1,236 \pm 18$	σ	cal AD 709	-	cal AD 747	cal BP 1,241	-	1,203	0.521	PLD-16294	
			cal AD 766	-	cal AD 782	cal BP 1,184	-	1,168	0.238		
			cal AD 789	-	cal AD 810	cal BP 1,161	-	1,140	0.216		
			cal AD 848	-	cal AD 852	cal BP 1,102	-	1,098	0.026		
		2σ	cal AD 690	-	cal AD 750	cal BP 1,260	-	1,200	0.453		
			cal AD 762	-	cal AD 832	cal BP 1,188	-	1,118	0.429		
			cal AD 836	-	cal AD 869	cal BP 1,114	-	1,081	0.118		

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。

2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3)1桁目を丸めるのが慣例だが、曆年較正曲線や曆年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

4)統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。

5)相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差を σ として計算させた結果、第1次B区のSK-01はcalAD 709-852である。

(6)炭化材同定

樹種同定結果を表7に示す。炭化材は、第1次A区及びB区のSK-01の2点とも、常緑広葉樹のスダジイに同定された。解剖学的特徴等を記す。

表7. 炭化材同定結果

遺跡	地区	遺構	樹種
金武青木A遺跡	第1次A区	SK-01(焼土坑)	スダジイ
金武青木A遺跡	第1次B区	SK-01(焼土坑)	スダジイ

- ・スダジイ(*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

考察

(1)金武青木A遺跡第1次B区の溜井状遺構

溜井状遺構内黒色土をみると、珪藻化石では陸生珪藻の産出が高いが、分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い陸生珪藻A群とされるものは全体の約20%程度で、主体は水生珪藻や水域にも陸域にも生息する陸生珪藻B群であった。これらのことから、本遺構から産出した陸生珪藻B群の*Pinnularia subcapitata*は、水生珪藻として水域に生育した種と判断される。よって、溜井状遺構内の黒色土は、遺構内に水が存在した時期に堆積した可能性がある。その水質については、優占種の*Nitzschia parvuloides*が汚濁に対しては広域適応性種であること、有機汚濁の進んだ腐水域に多産する好汚濁性種の*Nitzschia palea*が比較的に多く産出すること、陸生珪藻B群の*Pinnularia subcapitata*が水域に生息する場合は好汚濁性種とされることなどから、有機汚濁の進んだ富栄養な水質であったと考えられる。また銀集組成の水素イオン濃度についてみると、好+真酸性種とpH不定性種の多産が特徴的であることから、水質は酸性であったと考えられる。なお、前述のように陸生珪藻A群が約20%産出することを考慮すると、遺構内は一時的に乾燥することもあったことが想定される。以上のように、今回の分析結果は雨水を溜めていたとされる発掘調査所見と調和的といえる。

一方、花粉化石と種実遺体は、1個体も検出されなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。珪藻分析結果から遺構内の水域の存在は推定されたが、時に干上がって好気的環境になったこともあることが示唆された。これより、黒色土内に取り込まれた花粉・シダ類胞子は、その後の経年変化により分解・消失した可能性があり、同様に種実遺体も、好気的環境下で消失した可能性がある。

一方植物珪酸体分析で検出された分類群を見ると、タケ亜科やヨシ属、ウシクサ族などのイネ科が周辺に生育していたことが推定される。また、樹木起源珪酸体の第Ⅲグループが多く認められた。九州地方や沖縄地方では、樹木起源珪酸体の第Ⅲグループが表層あるいは埋没土壤中に特徴的に認められ、その給源としてイスノキ属が想定されている(近藤,1976)。これより、周辺にはイスノキ属の樹木も生育していたことが示唆される。

(2)金武青木A遺跡第1次B区の谷部

谷部内黒色土は、淡水～汽水生種と水生珪藻が特徴的に検出されたことから、遺構内には塩類を豊富に含む電気伝導度の高い水域が存在したことが推定される。本遺構は池状とされているが、浮遊性種とされる種類はほとんど産出しなかったことから、池沼や湖沼のような水深のある水域ではなく、その水深は浅かったと考えられる。また遺構内の水質は、主要種の多くが広域適応性種であり好汚濁性種の*Nitzschia palea*が多産したことから、中栄養～富栄養であったと考えられる。また水素イオン濃度については、pH不定性種と好+真アルカリ性種が特徴的に認められたことから、その水域は中性～アルカリ性であったと思われる。

花粉化石は検出されるものの保存状態が比較的悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められた。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている(中村,1967; 徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。よって、得られた花粉化石群集は分解に強い花粉が選択的に多く残されている可能性があり、当時の周辺植生を正確に反映していない可能性がある。このことを考慮した上で、古植生の検討を行う。

化石群集のうち、木本類ではマツ属が多産する。このうち亜属まで同定できたものは、全て複維管束亜属であり、種実遺体分析結果でも常緑高木であるクロマツ(マツ属複維管束亜属)の葉が検出されている。マツ属複維管束亜属(いわゆるニヨウマツ類)は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺、海岸砂丘上など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能であり、極端な陽樹であることから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。よって、当時の本遺跡周辺には、代償植生としてのマツ属が生育していた可能性がある。その他では、常緑広葉樹林の構成要素であるコナラ属アカガシ亜属やヤマモモ属、モミ属等の針葉樹、コナラ属コナラ亜属、クリ属、ニレ属、ケヤキ属等の落葉広葉樹等の花粉や、イスノキ属に由来する可能性のある樹木珪酸体、常緑または落葉高木のコナラ属、常緑または落葉低木のキイチゴ属等の種実が認められる。これらの分類群は、周辺の森林などに生育していたものに由来すると考えられる。

九州地域における既存の調査事例をみると、縄文海進以降、アカガシ亜属、シイ属は、マキ属、ヤマモモ属等を随伴して高率に出現していたが、約1,500年前以降はアカガシ亜属、シイ属の衰退、マツ属、イネ科の急増へと変化し、人類文化の影響に起因する森林植生の破壊を反映しているとされている(畠中ほか,1998など)。今回の分析結果におけるマツ属の多産も、このような状況を反映している可能性がある。

草本類についてみると、花粉化石ではイネ科が多産する。植物珪酸体ではイネ属短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体、短細胞列、機動細胞列が多く検出される。種実遺体でも栽培種であるイネの穎が多量検出され、大型植物遺体群全体の96%を占める。このことから、谷部内黒色土に、糊殻や稻藁などイネ属の植物体の混入が窺える。イネの花粉は、生成された花粉の1/4が糊殻内に残留するとされることから(中村,1980)、多産するイネ科花粉にも糊殻に由来するイネ属が含まれている可能性がある。イネ属の植物体は、コメの収穫後に燃料材や住居構築材、農業資材など生活資材として利用されることが多い。発掘調査所見によると、出土する遺物の多くは谷部から出土しており、木簡なども池に投げ込まれた状態で出土するとされており、これらに加え糊殻や稻藁などの植物体も覆土中に混入していたと考えられる。なお、イネ以外に確認されたメロン類(マクワ・シロウリ型)やナス近似種などの栽培種も、当時イネとともに食用に利用されていたことが窺える。

栽培種を除いた草本類では、ススキ属、ウシクサ族、エノコログサ属、イネ科、テンツキ属、カヤ

ツリグサ属、カヤツリグサ科、ミズ属、イラクサ科、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、ヒュ科、カタバミ属、イヌコウジュ属、ナス科、タカサブロウ、ヨモギ属等が認められる。これらの多くは開けた場所に生育する種を含むことから、調査地周辺域の草地環境や林縁部等に生育していたと推測される。

(3)金武青木A遺跡第1次A区及びB区のSK-01

炭焼き窯とされる第1次B区のSK-01から出土した炭化材は、年代測定により $1,235 \pm 20$ BPの値が得られており、古代に属することが推定される。第1次A区及びB区のSK-01から出土した炭化材は、いずれも常緑広葉樹のスダジイに同定された。スダジイは、暖温帶性常緑広葉樹林を構成する常緑高木であり、木材は比較的重硬である。同時に実施した花粉分析結果からも、周辺にアカガシ亜属、シイ属等の常緑広葉樹林の存在が指摘されている。以上の結果から、焼土坑の燃料材等として、周囲に生育するスダジイを利用したことが推定される。

本遺跡周辺では、古代の木材利用に関する資料が少ない。福岡県内の資料をみると、水城跡(太宰府市)の飛鳥時代とされる瓦窯跡出土炭化材3点が全てスダジイに同定された例があり(パリノ・サーヴェイ株式会社,2003)、スダジイが瓦焼成時の燃料材としても利用されていたことが推定される。

(4)金武青木B遺跡第1次A区の南側旧河道

南側旧河道内黒色土下層では、特に多産する珪藻の種類はなく、中～下流性河川指標種や沼沢湿地付着生種、陸生珪藻A群など、複数の生態性を示す種群が混在して産出した。このような群集は、河川の氾濫などによって短期間に堆積した一過性の堆積物中にみられる「混合群集」に近似する(堀内ほか,1996)。また完形殻の産出割合は、他の2試料と比較するとかなり低い。よって、第1次A区南側旧河道内の黒色土下層は、流水域やその背後に形成された後背湿地、集水域の乾いた好気的環境などの堆積物が、河川影響により削剥され、本地点の河道内で再堆積したと推定される。

検出された木本類の花粉化石をみると、金武青木A遺跡第1次B区の谷部内黒色土と同様マツ属が多く産出するものの、より後背の森林植生を反映すると思われるモミ属、ツガ属、スギ属等の針葉樹や、アカガシ亜属、シイ属、ヤマモモ属等の常緑広葉樹、クマシデ属ーアサダ属、コナラ亜属、クリ属等の落葉広葉樹などが多く認められる。また植物珪酸体ではイスノキ属に由来する可能性がある樹木珪酸体、種実遺体では常緑低木または小高木のヒサカキ属、落葉高木のイイギリ等が認められており、これら豊富な樹種構成からなる森林が、周辺丘陵や集水域に成立していたと想定される。

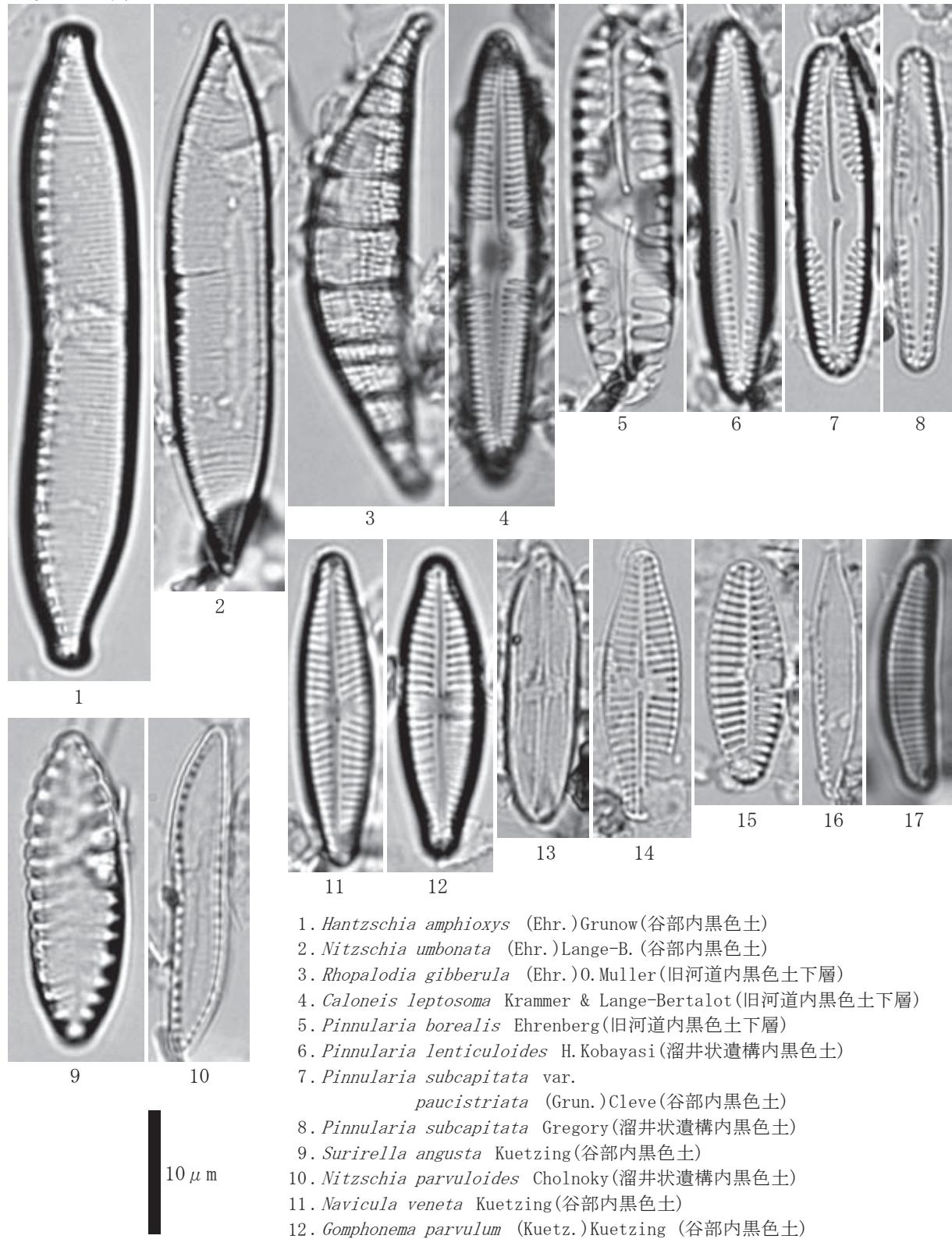
一方草本類では、ススキ属・イチゴツナギ亜科などのイネ科、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、イヌタデ近似種、サナエタデ節ーウナギツカミ節、タデ属、ナデシコ科、アブラナ科、キジムシロ属ーヘビイチゴ属ーオランダイチゴ属、ノアズキ属、マメ科、スミレ属、チドメグサ属、サクラソウ科、イヌコウジュ属、ヨモギ属、キク科が確認され、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する草本主体の種類構成を示す。よって、これらの草本類は、旧河道周辺や集水域などの開けた場所に生育していたと考えられる。また、サジオモダカ属、オモダカ科、ミズアオイ属、ヨシ属、テンツキ属、ホタルイ属、ミズユキノシタ、タカサブロウなどの水湿地生植物は、旧河道内やその周囲、集水域の湿地等に生育していたものに由来すると思われる。

なお、栽培種としては、イネ属の短細胞珪酸体、イネの穎が確認された。金武青木遺跡A第1次B区の谷部内黒色土ほどの産出量ではなかったが、当時の食料利用が推定される。

引用文献

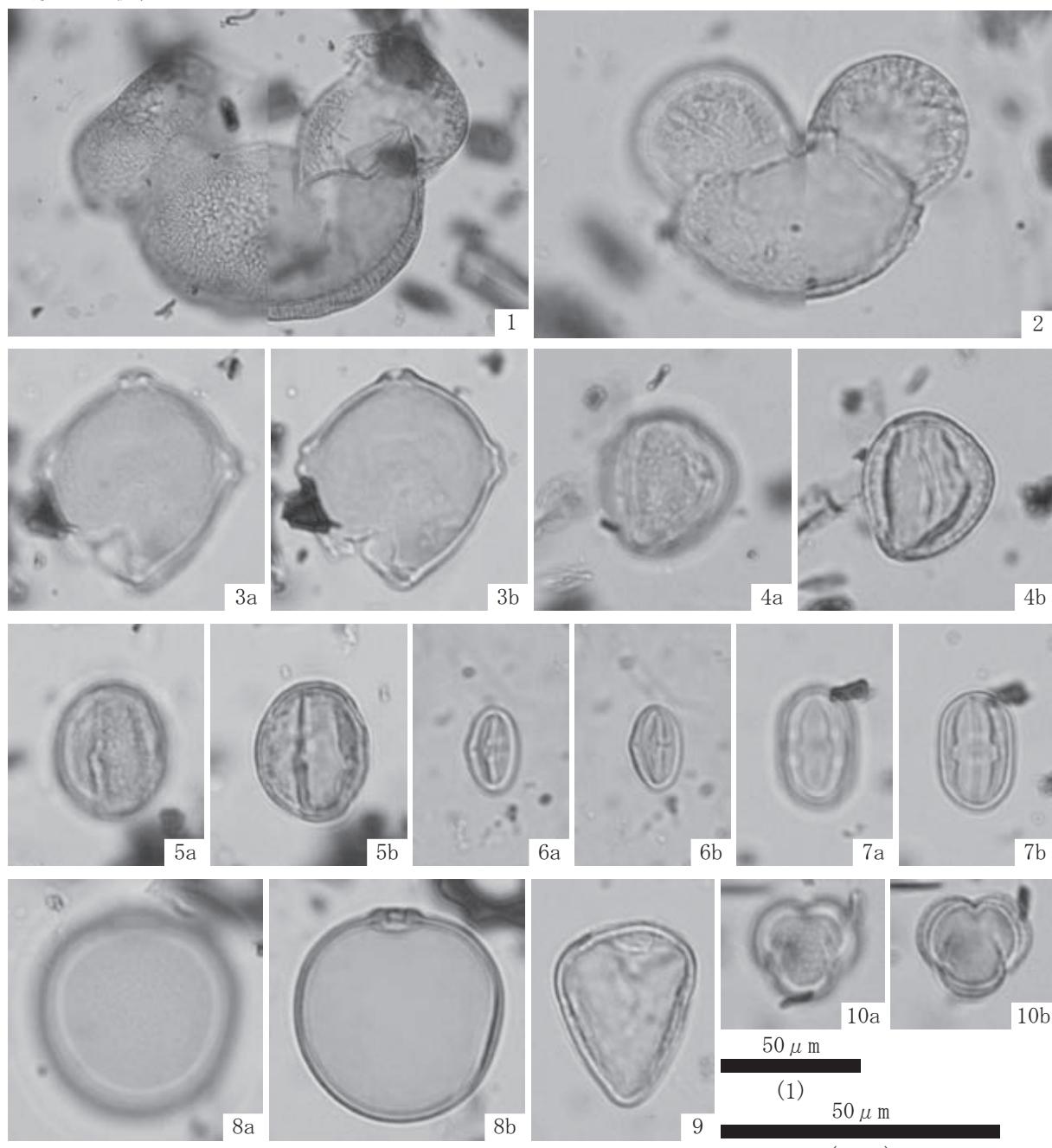
- 安藤 一男 ,1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用 . 東北地理 ,42,73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10, 35-47.
- 藤下 典之 ,1984, 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法 . 古文化財の自然科学的研究 , 古文化財編集委員会編 , 同朋舎 ,638-654.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘 ,1998, 埼玉の藻類 珪藻類 . 埼玉県植物誌 , 埼玉県教育委員会 ,527-600.
- 畠中 健一・野井 英明・岩内 明子 ,1998, 九州地方の植生史 . 安田 喜憲・三好 教夫 (編著), 図説 日本列島植生史 , 朝倉書店 ,151-161.
- 林 昭三 ,1991, 日本産木材 顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .
- 堀内 誠示・高橋 敦・橋本 真紀夫 ,1996, 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について . -混合群集の認定と堆積環境の解釈-, 日本文化財科学会 , 第 13 回大会研究発表要旨集 ,p.62-63.
- 石川 茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.
- 伊東 隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.
- 伊東 隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 ,66-176.
- 伊東 隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.
- 伊東 隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.
- 伊東 隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.
- 伊藤 良永・堀内 誠示 ,1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 . 珪藻学会誌 ,6,23-45.
- 小林 弘・出井 雅彦・真山 茂樹・南雲 保・長田 啓五 ,2006, 小林弘珪藻図鑑 . 第 1 卷 , (株)内田老鶴園 ,531p.
- 近藤 鍾三 ,1976, 樹木起源の珪酸体について . ペドロジスト ,20,176-189.
- 近藤 鍾三 ,2004, 植物ケイ酸体研究 . ペドロジスト ,48,46-64.
- 近藤 鍾三・ピアソン 友子 ,1981, 樹木葉のケイ酸体に関する研究 (第 2 報) 双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について . 帯広畜産大学研究報告 ,12,217-229.
- Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Suriellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaeae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.
- Lowe, R.L,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms.334p. In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/4-74-005.Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 三宅 尚・中越 信和 ,1998, 森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態 . 植生史研究 ,6,15-30.
- 中村 純 ,1967, 花粉分析 . 古今書院 ,232p.
- 中村 純 ,1980, 花粉分析による稻作史の研究 . 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究—総括報告書— , 文部省科学研究費 特定研究「古文化財」総括班 ,185-204.
- 中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2003, 炭化材樹種同定 . 水城跡 2 第 28・30・31・34 次調査 , 太宰府市の文化財第 67 集 , 太宰府市教育委員会 ,56-57.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 島地 謙・伊東 隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.
- 徳永 重元・山内 輝子 ,1971, 花粉・胞子 . 化石の研究法 , 共立出版株式会社 ,50-73.
- Vos, P.C. & H. de Wolf,1993,Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects.Hydrobiologica,269/270,285-296.
- 渡辺 仁治・浅井 一視・大塚 泰介・辻 彰洋・伯耆 晶子 ,2005, 淡水珪藻生態図鑑 . 内田老鶴園 ,666p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社 ,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .
- 柳沢 幸夫 ,2000, II -1-3-2-(5) 計数・同定 . 化石の研究法—採集から最新の解析法まで— , 化石研究会 , 共立出版株式会社 ,49-50.

図版1 珪藻化石



1. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (谷部内黒色土)
2. *Nitzschia umbonata* (Ehr.) Lange-B. (谷部内黒色土)
3. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (旧河道内黒色土下層)
4. *Caloneis leptosoma* Krammer & Lange-Bertalot (旧河道内黒色土下層)
5. *Pinnularia borealis* Ehrenberg (旧河道内黒色土下層)
6. *Pinnularia lenticuloides* H. Kobayasi (溜井状遺構内黒色土)
7. *Pinnularia subcapitata* var.
paucistriata (Grun.) Cleve (谷部内黒色土)
8. *Pinnularia subcapitata* Gregory (溜井状遺構内黒色土)
9. *Surirella angusta* Kuetzing (谷部内黒色土)
10. *Nitzschia parvuloides* Cholnoky (溜井状遺構内黒色土)
11. *Navicula veneta* Kuetzing (谷部内黒色土)
12. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (谷部内黒色土)
13. *Neidium alpinum* Hustedt (溜井状遺構内黒色土)
14. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.)
Lange-Bertalot (縦溝殻: 旧河道内黒色土下層)
15. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.)
Lange-Bertalot (非縦溝殻: 旧河道内黒色土下層)
16. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W. Smith (溜井状遺構内黒色土)
17. *Eunotia minor* (Kuetz.) Grunow (旧河道内黒色土下層)

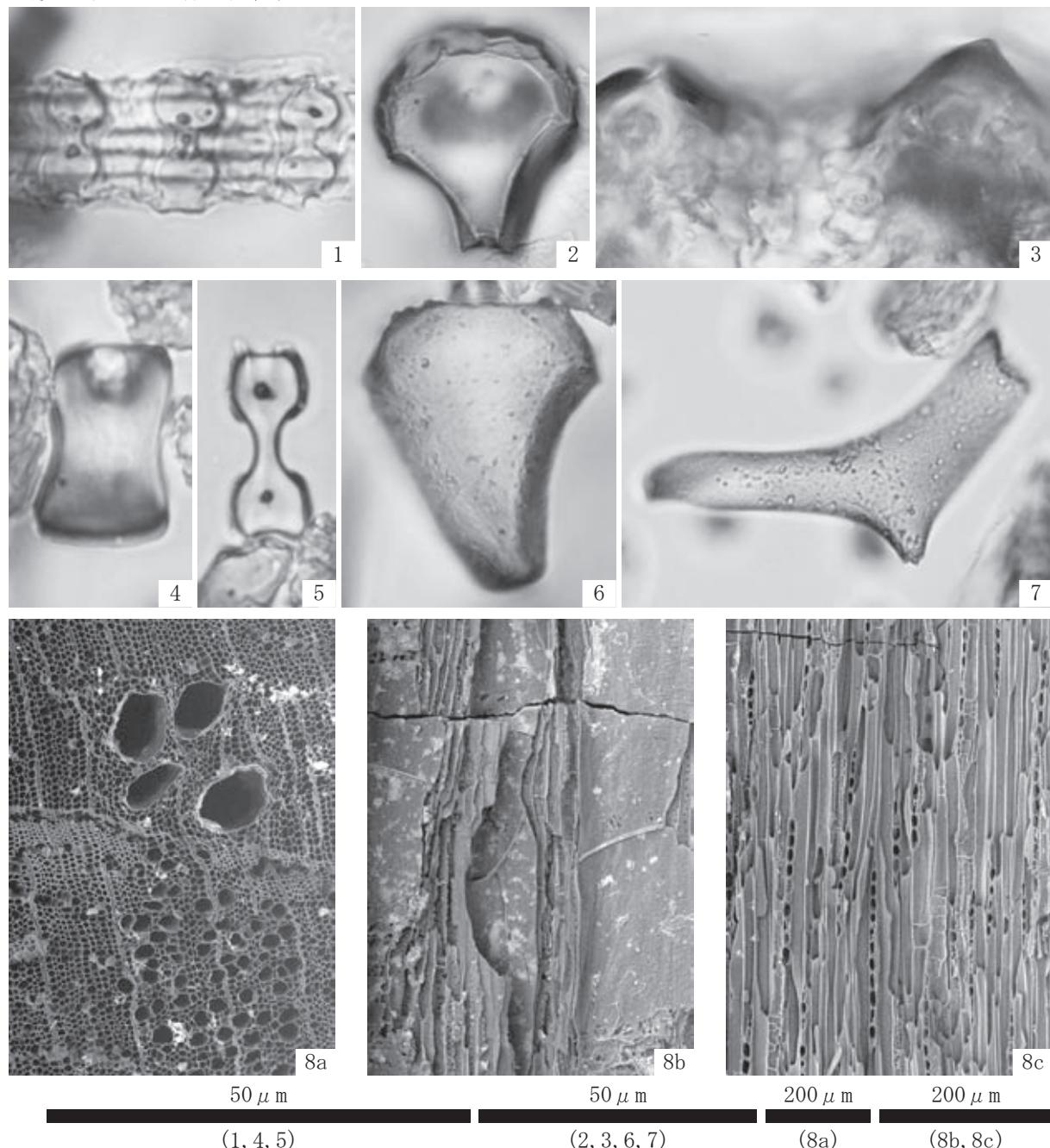
図版2 花粉化石



1. モミ属(谷部内黒色土)
3. クマシデ属ーアサダ属(谷部内黒色土)
5. コナラ属アカガシ亜属(谷部内黒色土)
7. シイ属(谷部内黒色土)
9. カヤツリグサ科(谷部内黒色土)

2. マツ属(谷部内黒色土)
4. コナラ属コナラ亜属(谷部内黒色土)
6. クリ属(南側旧河道内黒色土下層)
8. イネ科(谷部内黒色土)
10. ヨモギ属(谷部内黒色土)

図版3 植物珪酸体・炭化材



1. イネ属短細胞列(谷部内黒色土)
2. イネ属機動細胞珪酸体(谷部内黒色土)
3. イネ属穎珪酸体(谷部内黒色土)
4. タケ亜科短細胞珪酸体(溜井状遺構内黒色土)
5. ススキ属短細胞珪酸体(南側旧河道内黒色土下層)
6. ウシクサ族機動細胞珪酸体(谷部内黒色土)
7. 樹木起源珪酸体第IIIグループ(南側旧河道内黒色土下層)
8. スダジイ(第1次B区;SK-01)a:木口, b:柾目, c:板目

図版4 大型植物遺体



- | | |
|---|-----------------------------|
| 1. クロマツ 葉(谷部内黒色土) | 2. コナラ属 果実(谷部内黒色土) |
| 3. コナラ属 果実(谷部内黒色土) | 4. ヒサカキ属 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 5. キイチゴ属 核(谷部内黒色土) | 6. イイギリ 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 7. サジオモダカ属 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 8. オモダカ科 果実(南側旧河道内黒色土下層) |
| 9. ミズアオイ属 種子(南側旧河道内黒色土下層) | 10. イネ 穎(谷部内黒色土) |
| 11. エノコログサ属 果実(谷部内黒色土) | 11. イネ科 果実(谷部内黒色土) |
| 12. テンツキ属 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 14. ホタルイ属 果実(南側旧河道内黒色土下層) |
| 13. カヤツリグサ属 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 15. カヤツリグサ科 果実(南側旧河道内黒色土下層) |
| 17. カヤツリグサ科 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 18. カヤツリグサ科 果実(南側旧河道内黒色土下層) |
| 19. ミズ属 果実(谷部内黒色土) | 20. イラクサ科 果実(谷部内黒色土) |
| 21. イヌタデ近似種 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 22. サナエタデ近似種 果実(谷部内黒色土) |
| 23. タデ属 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 24. ナデシコ科 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 25. ヒユ科 種子(谷部内黒色土) | 26. アブラナ科 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 27. キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属 核(南側旧河道内黒色土下層) | 29. スミレ属 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 28. カタバミ属 種子(谷部内黒色土) | 31. ミズユキノシタ 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 30. メロン類(マクワ・シロウリ型) 種子(谷部内黒色土) | 33. サクラソウ科 種子(南側旧河道内黒色土下層) |
| 32. チドメグサ属 果実(南側旧河道内黒色土下層) | 35. ナス近似種 種子(谷部内黒色土) |
| 34. イヌコウジュ属 果実(谷部内黒色土) | 37. タカサゴロウ 果実(南側旧河道内黒色土下層) |
| 36. ナス科 種子(谷部内黒色土) | |
| 38. キク科 果実(南側旧河道内黒色土下層) | |

PLATS

(図 版)





1) A区調査前風景（南東から）



2) 金武青木 A 遺跡 A 区全景（南東から）



3) A区表土剥ぎ風景（南東から）



4) A区作業風景（南東から）



5) A区遺構検出状況（南西から）



6) A区 SK-01 検出状況（南西から）



7) A区 SK-01 掘削状況（南から）



8) A区地山断ち割り状況（南西から）



1) 金武青木 A 遺跡 A 区全景（南東から）



2) 金武青木 A 遺跡 A 区全景（東から）



1) A区 SB-01、SK-01 (東から)



2) 金武青木 A 遺跡 A 区全景 (東から)



1) B区調査前風景（東から）



2) B区表土剥ぎ風景（東から）



3) B区遺構掘削状況（南から）



4) B区遺構掘削状況（北から）



5) B区遺構集中部（東から）



1) SC-01 掘削状況（東から）



2) SC-01 掘削状況（南から）



3) SC-01 掘削状況（東から）



4) SB-01 掘削状況（南から）



5) SB-01 掘削状況（西から）



1) SB-01(SP-001) 挖削状況 (南から)



2) SB-01(SP-002) 挖削状況 (南から)



3) SB-01(SP-003) 完掘状況 (南から)



4) SB-01(SP-004) 挖削状況 (南から)



5) SB-01(SP-005) 挖削状況 (西から)



6) SB-01(SP-006) 挖削状況 (東から)



7) SB-01(SP-008) 挖削状況 (東から)



8) SB-01(SP-009) 挖削状況 (東から)



1) SB-01(SP-010) 挖削状況 (東から)



2) SB-01(SP-013) 挖削状況 (西から)



3) SB-01(SP-014) 挖削状況 (西から)



4) SB-01(SP-015) 挖削状況 (西から)



5) SB-01(SP-016) 挖削状況 (西から)



6) SB-01(SP-017) 挖削状況 (北から)



7) SB-01(SP-044) 挖削状況 (東から)



8) SB-01(SP-048) 挖削状況 (東から)



1) SB-01(SP-153) 挖削状況 (東から)



2) SB-01(SP-154) 挖削状況 (東から)



3) SB-01(拡張前) 検出状況 (東から)



4) SB-01 拡張作業状況 (北東から)



5) SB-01 精査状況 (南から)



1) SB-01(拡張後)検出状況（南から）



2) SB-02 検出状況（東から）



2) SB-03(SP-165) 掘削状況（西から）



3) SB-03 掘削状況（南から）



4) SB-06(SP-021) 半截状況（西から）



5) SB-06(SP-021) 柱痕跡掘削状況（西から）



1) SB-06、SK-01 掘削状況（東から）



2) SB-08、09 完掘状況（東から）



1) SP-012 掘削状況（東から）



2) SP-19 掘削状況（東から）



3) SP-020 掘削状況（東から）



4) SP-022 掘削状況（東から）



5) SP-023 調査状況（北から）



6) SP-045 調査状況（南から）



7) SK-01 半裁状況（東から）



8) SK-01 完掘状況（西から）



1) SK-01 炭化物出土状況（南から）



2) 溜井状遺構完掘状況（東から）



3) 溜井状遺構掘削状況（南から）



4) 溜井状遺構完掘状況（北から）



5) 溜井状遺構調査状況（南東から）



1) 炉跡集中部状況（東から）



2) SR-02 検出状況（北から）



3) SR-02 半裁状況（北から）



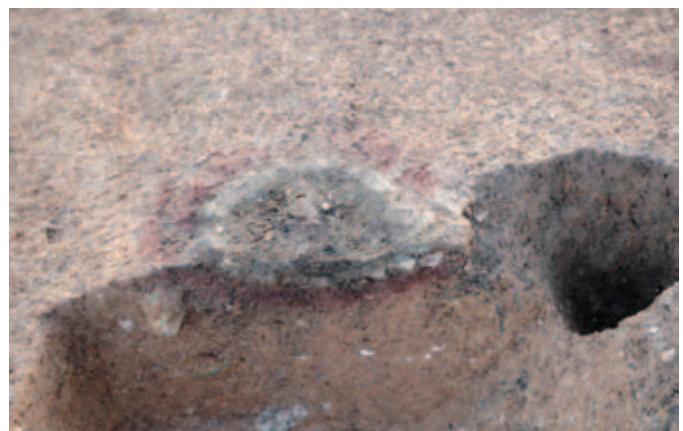
4) SR-03 検出状況（東から）



5) SR-03 半裁状況（東から）



1) SR-04 検出状況（南から）



2) SR - 04 半裁状況（南から）



3) SR-05 検出状況（南から）



4) SR-05 半裁状況（東から）



5) 南谷部調査状況（東から）



1) 南谷部(北側)掘削作業風景 (南西から)



2) 南谷部(北側)掘削作業風景 (西から)



3) 南谷部(北側)掘削作業風景 (西から)



4) 南谷部(北側)掘削作業風景 (北西から)



5) 南谷部(北側)掘削作業風景 (北東から)



6) 南谷部(北側)掘削作業風景 (北東から)



7) 南谷部(北側)掘削作業風景 (北東から)



8) 南谷部(北側)掘削作業風景 (東から)



1) 南谷部ベルト土層堆積状況（北から）



2) 南谷部ベルト土層堆積状況（北東から）



3) 南谷部ベルト土層堆積状況（北東から）



4) 南谷部ベルト土層堆積状況（北東から）



5) 現地説明会会場風景



6) 現地説明会風景（南から）



7) 現地説明会風景（南から）



8) 金武遺跡積雪風景（南東から）



1) 金武青木 B 遺跡モザイク全景写真（南から）



1) B遺跡調査前風景（南東から）



2) 調査作業状況（南西から）



3) 流路掘削作業風景（西から）



4) 谷掘削作業風景（西から）



5) 流路掘削状況（西から）



6) 谷掘削状況（西から）



7) 第1次調査掘削状況（南西から）



8) 調査区積雪状況（南西から）



1) 第1次調査区全景（西から）



2) 谷部拡張状況（西から）



3) 谷部土層堆積状況（西から）



1) 第2次調査反転前全景（南西から）



2) 地山遺存状況（東から）



3) 谷土層堆積状況（西から）



4) 谷部調査状況（南から）



5) 谷部完掘状況（東から）



1) 第2次調査反転後全景（東から）



2) 谷部調査状況（南西から）



3) 谷部完掘状況（西から）



4) 遺構検出状況（南から）



5) 遺構掘削状況（南から）



001



002



003



004



005



006



007



008



009



010



011



012



013



014



015



016



017



018



019



020



021



022



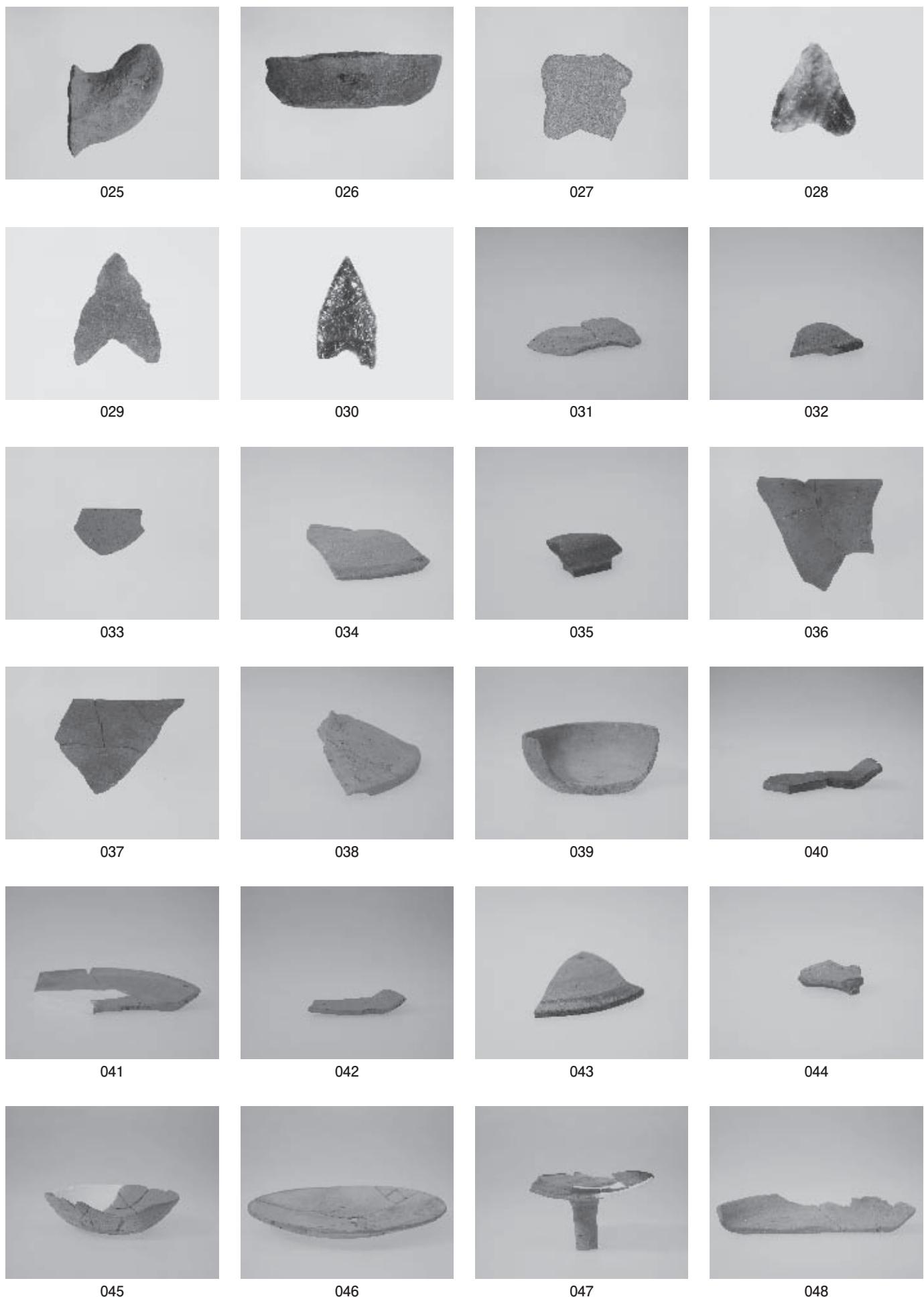
023



024

出土遺物（縮尺不同）

PL. 24



出土遺物（縮尺不同）



049



050



051



052



053



054



055



056-1



056-2



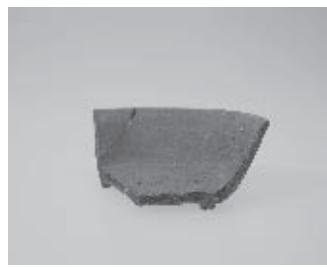
057



058



059



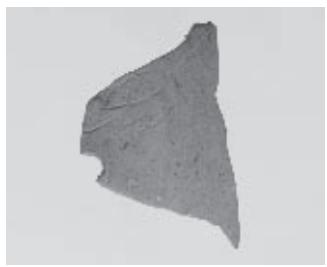
060



061



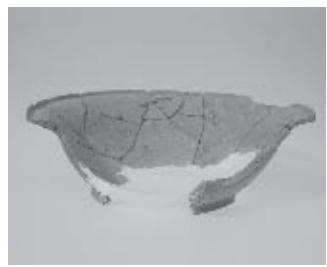
062



063



064



065



066



067



068



069



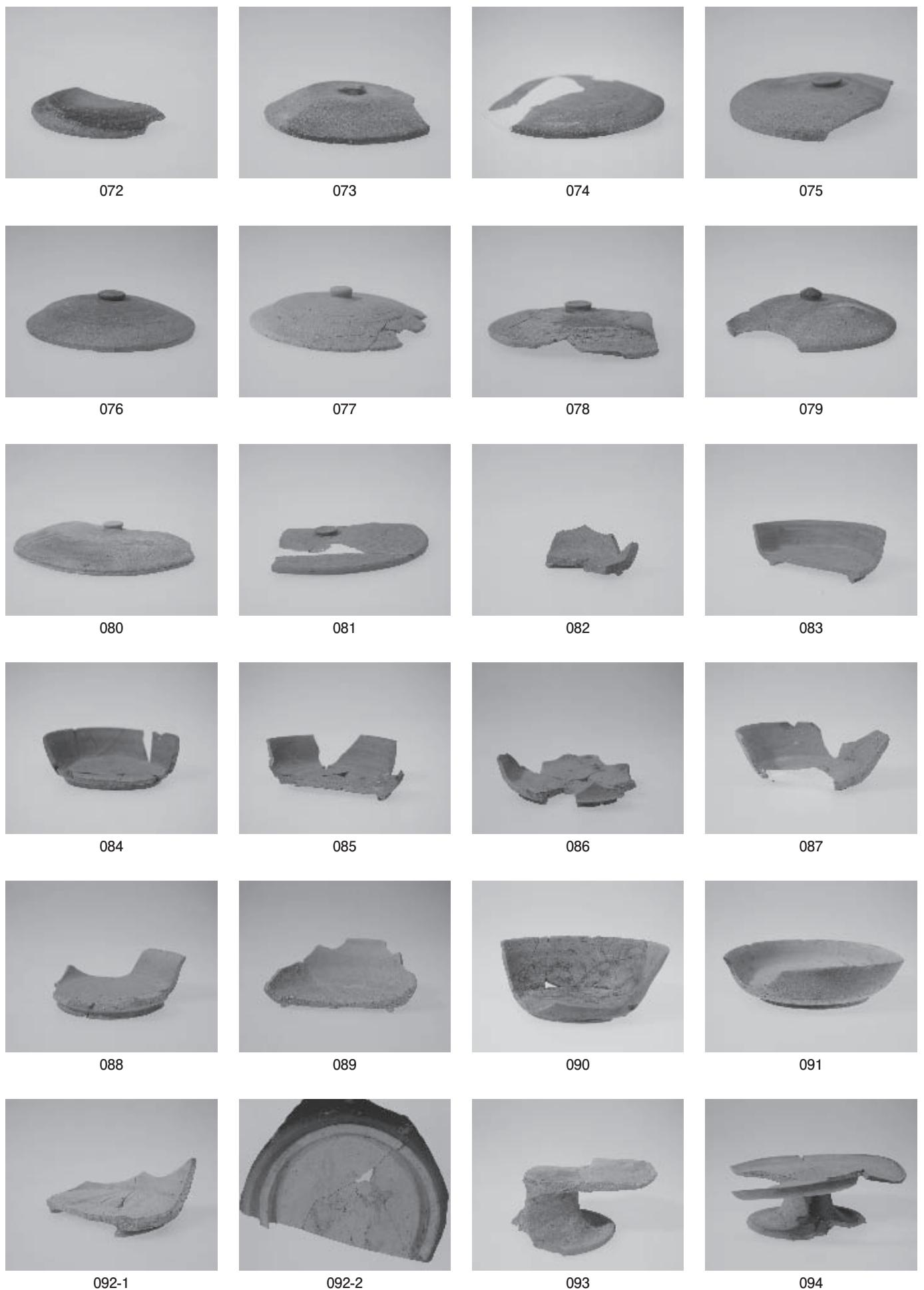
070



071

出土遺物（縮尺不同）

PL. 26



出土遺物（縮尺不同）



095



096



097



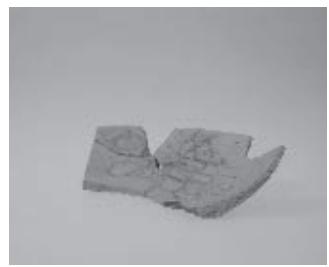
098



099



100



101



102



103



104



105



106



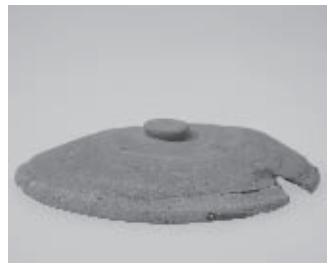
107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118

出土遺物（縮尺不同）

PL. 28



119



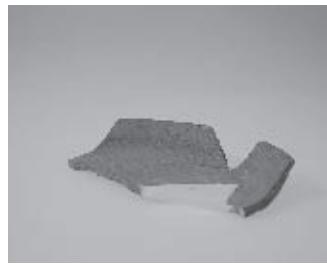
120



121



122



123



124



125



125+349



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138-1



138-2



-

139

出土遺物 (縮尺不同)



140



141



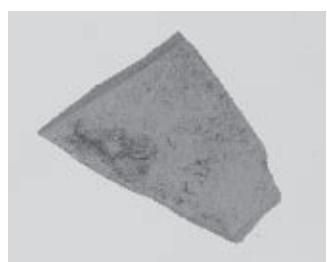
142



143



144



145



146



147-1



147-2



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



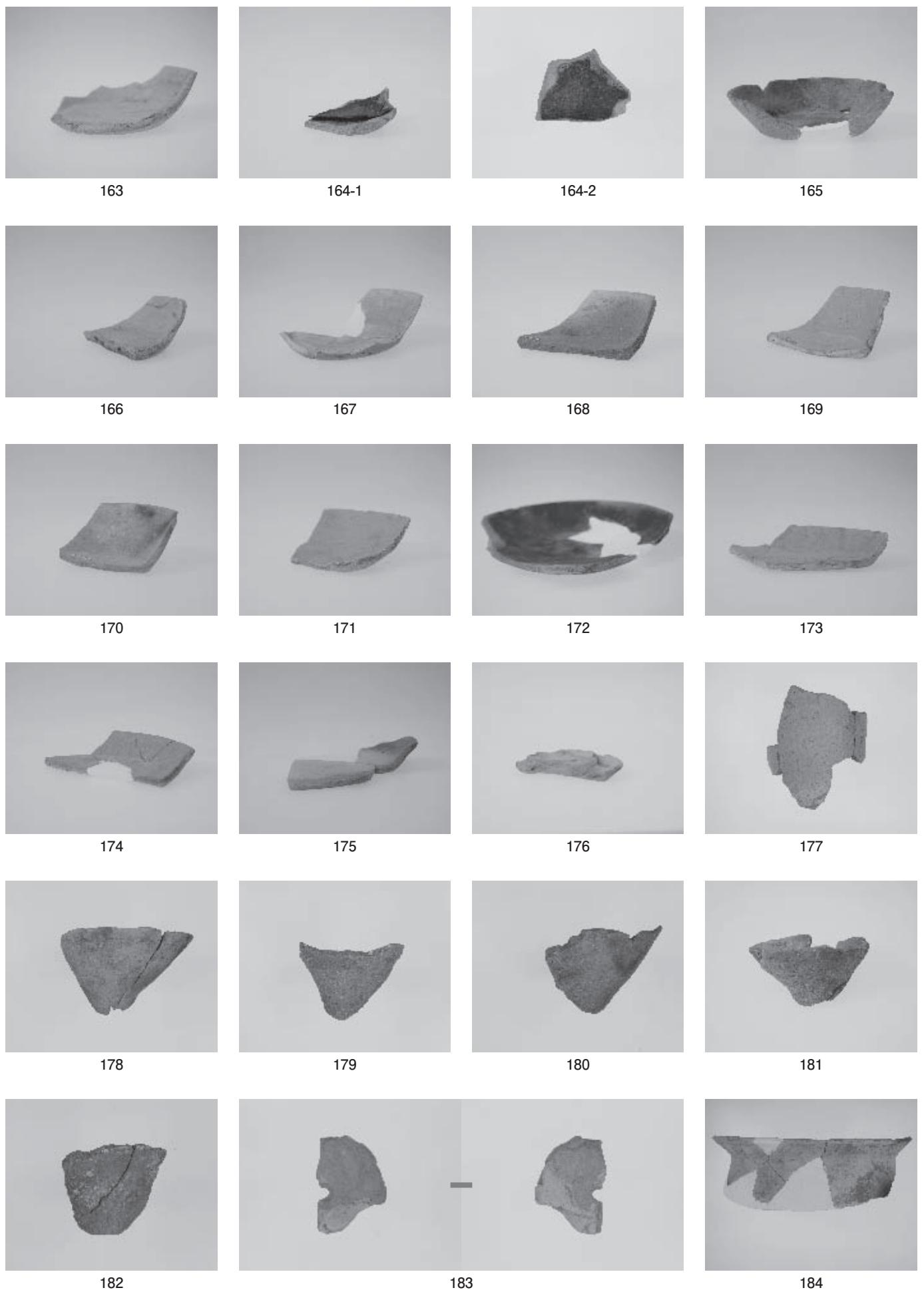
161



162

出土遺物 (縮尺不同)

PL. 30



出土遺物（縮尺不同）



185



186



187



188



189



190



191



192



193



194



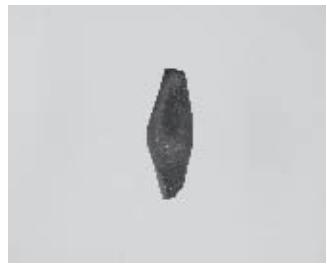
195



196



197



198



199-1



199-2



199-3



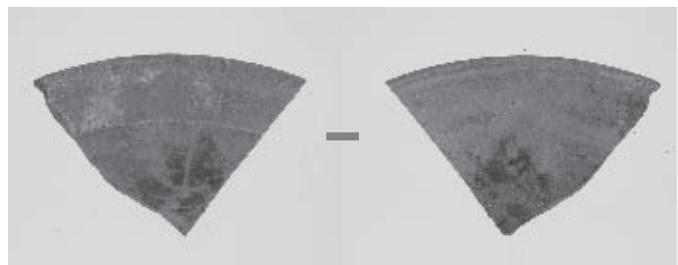
199-4



200-1



200-2



201



202-1



202-2

PL. 32



203



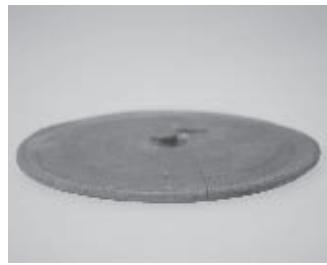
204



205



206



207



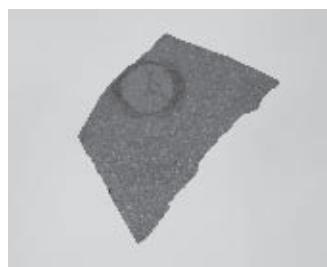
208



209



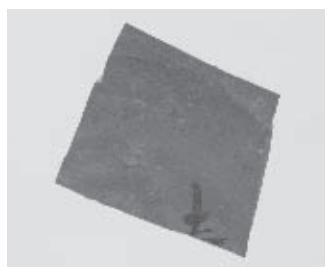
210-1



210-2



211



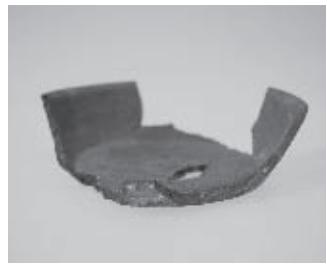
212



213



214



215



216



217



218



219



220-1



220-2



221



222

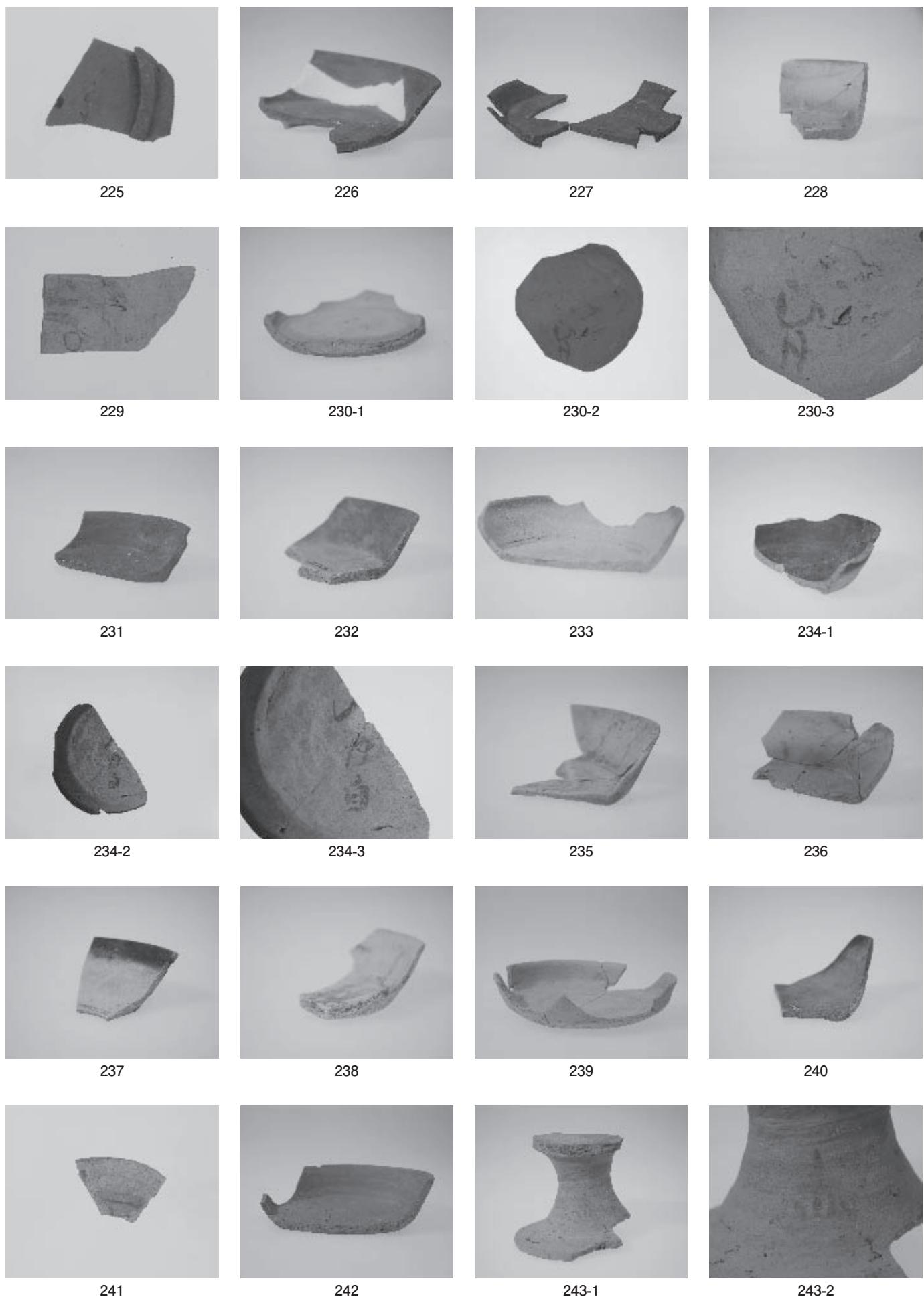


223



224

出土遺物（縮尺不同）



出土遺物（縮尺不同）

PL. 34



244



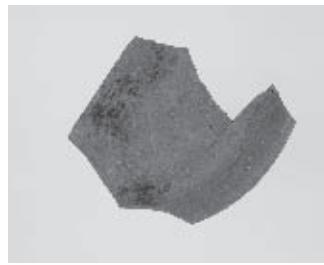
245



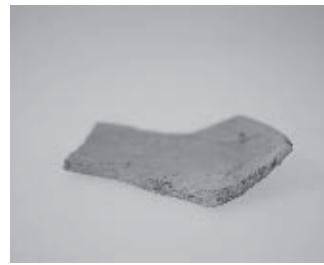
246



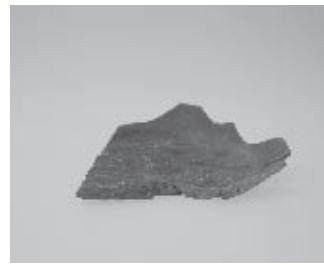
247-1



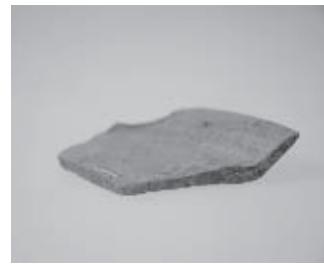
247-2



248



249



250



251



252



253



254



255



256



257-1



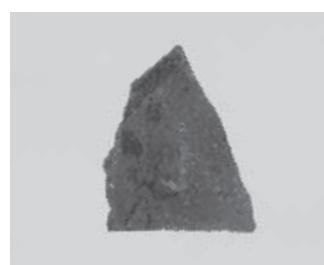
257-2



258



259



260



261



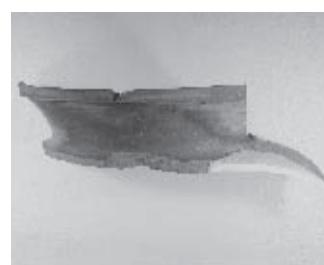
262



263



264



265

出土遺物 (縮尺不同)



266



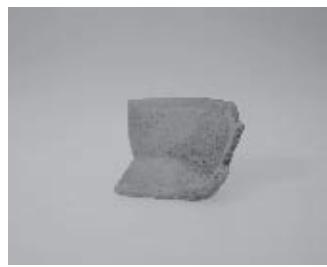
267



268



269



270



271



272



273-1



273-2



274



275



276



277



278



279



280



281



282



283



284



285



286



287



288

出土遺物（縮尺不同）

PL. 36



289



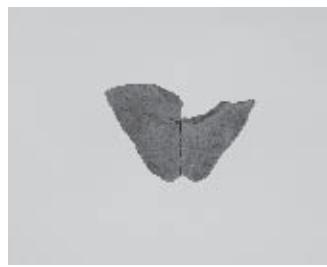
290



291



292



293



294



295



296



297



298



299



300



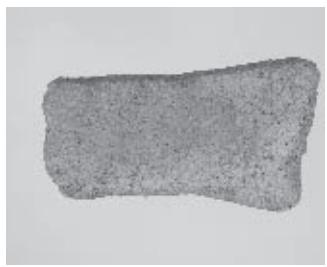
301



302



303



304



305



306



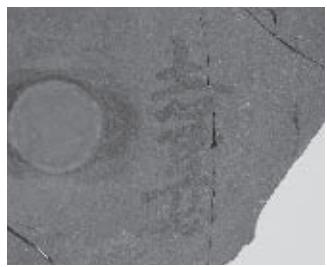
307



308-1



308-2



308-3



309

出土遺物 (縮尺不同)



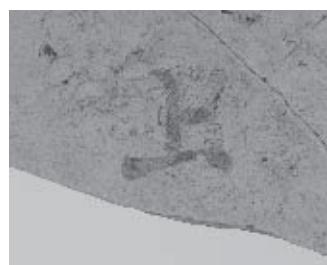
310



311-1



311-2



311-3



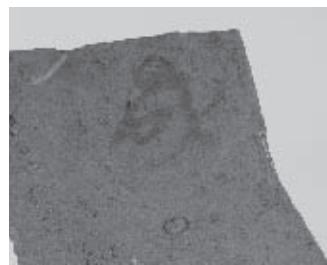
312



313



314-1



314-2



315



316



317



318



319



320



321-1



321-2



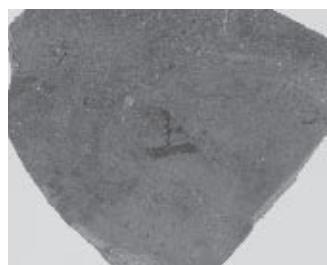
322



323



324-1



324-2



325



326



327

出土遺物 (縮尺不同)

PL. 38



328



329



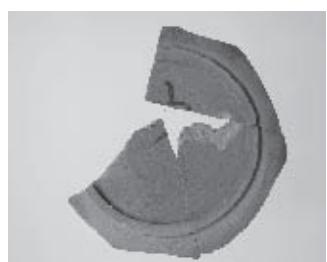
330-1



330-2



331-1



331-2



331-3



332



333



334



335



336



337-1



337-2



337-3



338



339



340-1



340-2



340-3



341



342-1



342-2



342-3

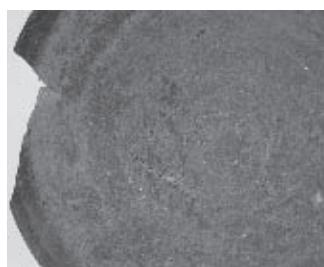
出土遺物 (縮尺不同)



343-1



343-2



343-3



344



345



346



347



348-1



348-2



349



349+125



350



351



352



353



354



355



356



357



358



359



360



361

出土遺物（縮尺不同）

PL. 40



362



363



364



365



366



367



368



369



370



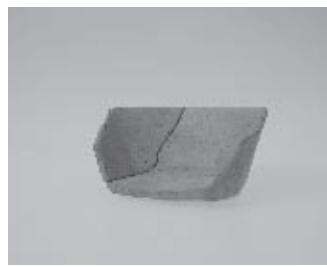
371



372



373



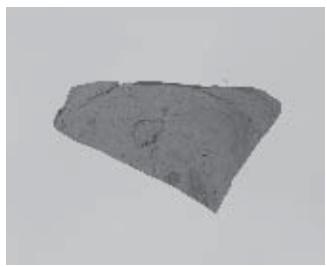
374



375-1



375-2



376



377



378



379



380



381



382



383



384

出土遺物 (縮尺不同)



385



386



387



388



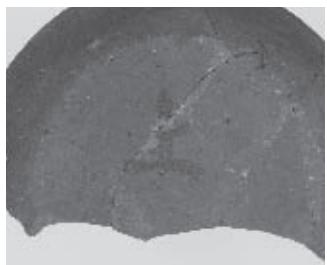
389



390



391-1



391-2



392



393-1



393-2



394



395



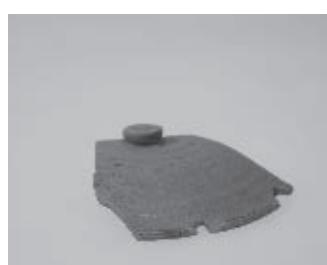
396



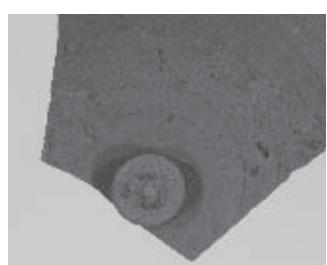
397



398



399-1



399-2



400



401



402



403



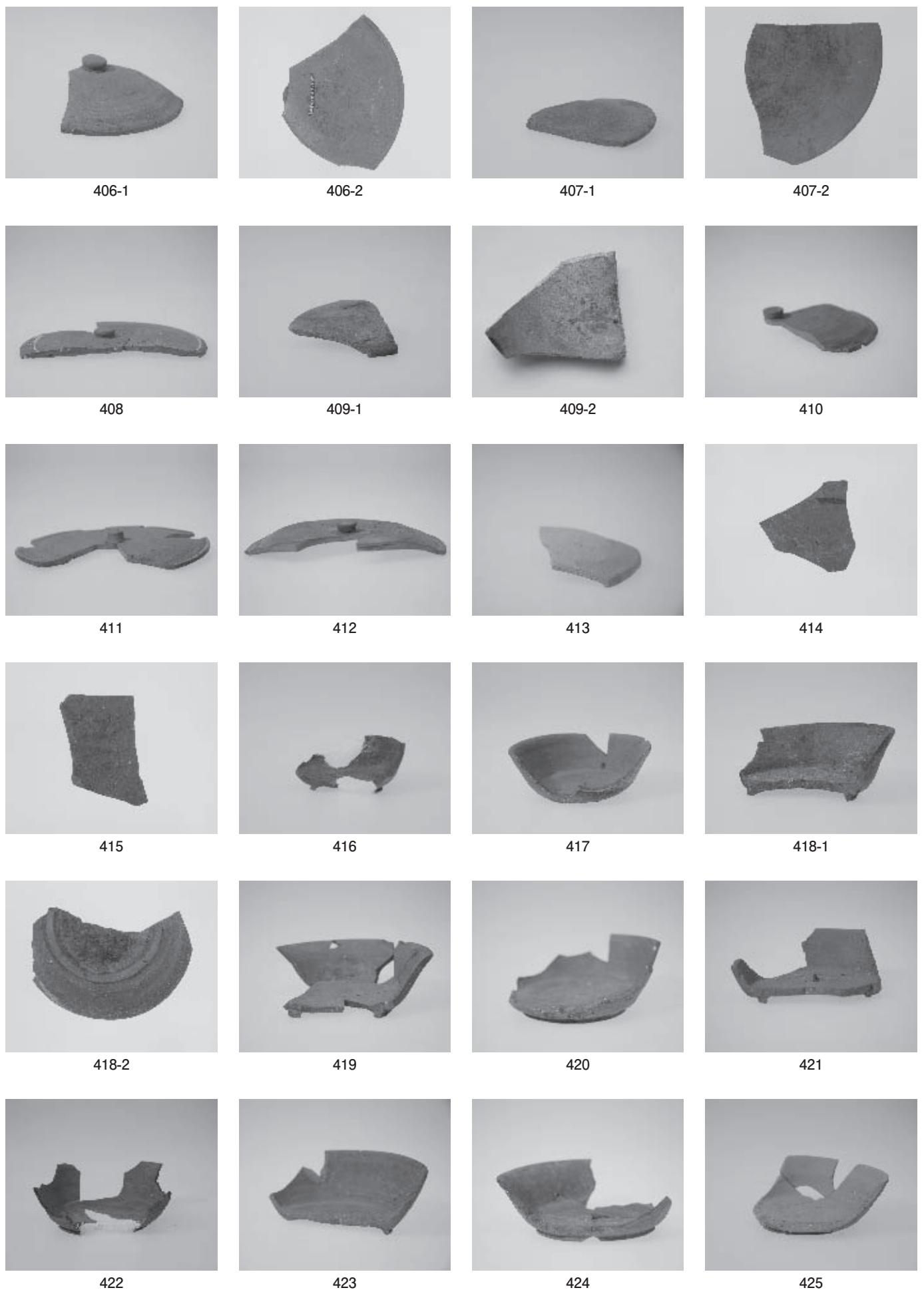
404



405

出土遺物 (縮尺不同)

PL. 42



出土遺物（縮尺不同）



426



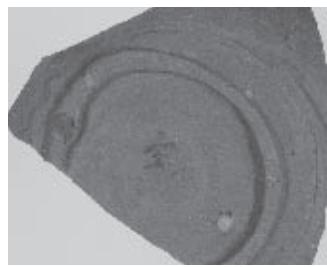
427-1



427-2



428-1



428-2



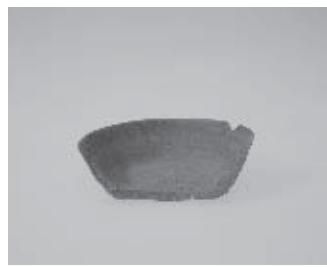
429



430-1



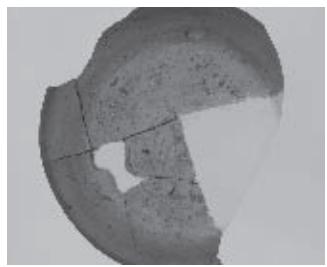
430-2



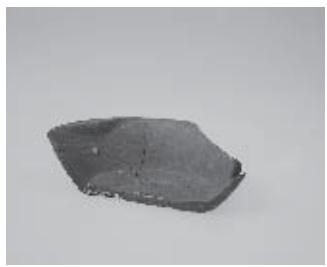
431



432-1



432-2



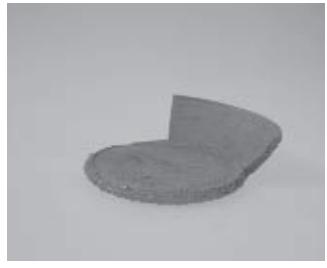
433



434



435



436



437-1



437-2



438



439



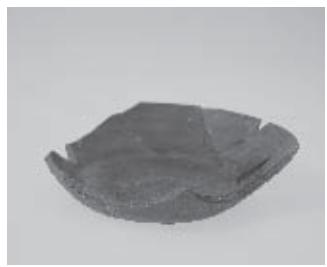
440



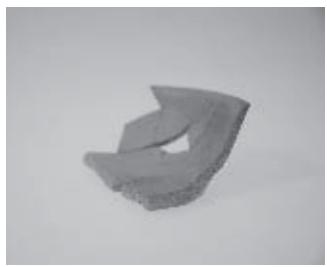
441



442



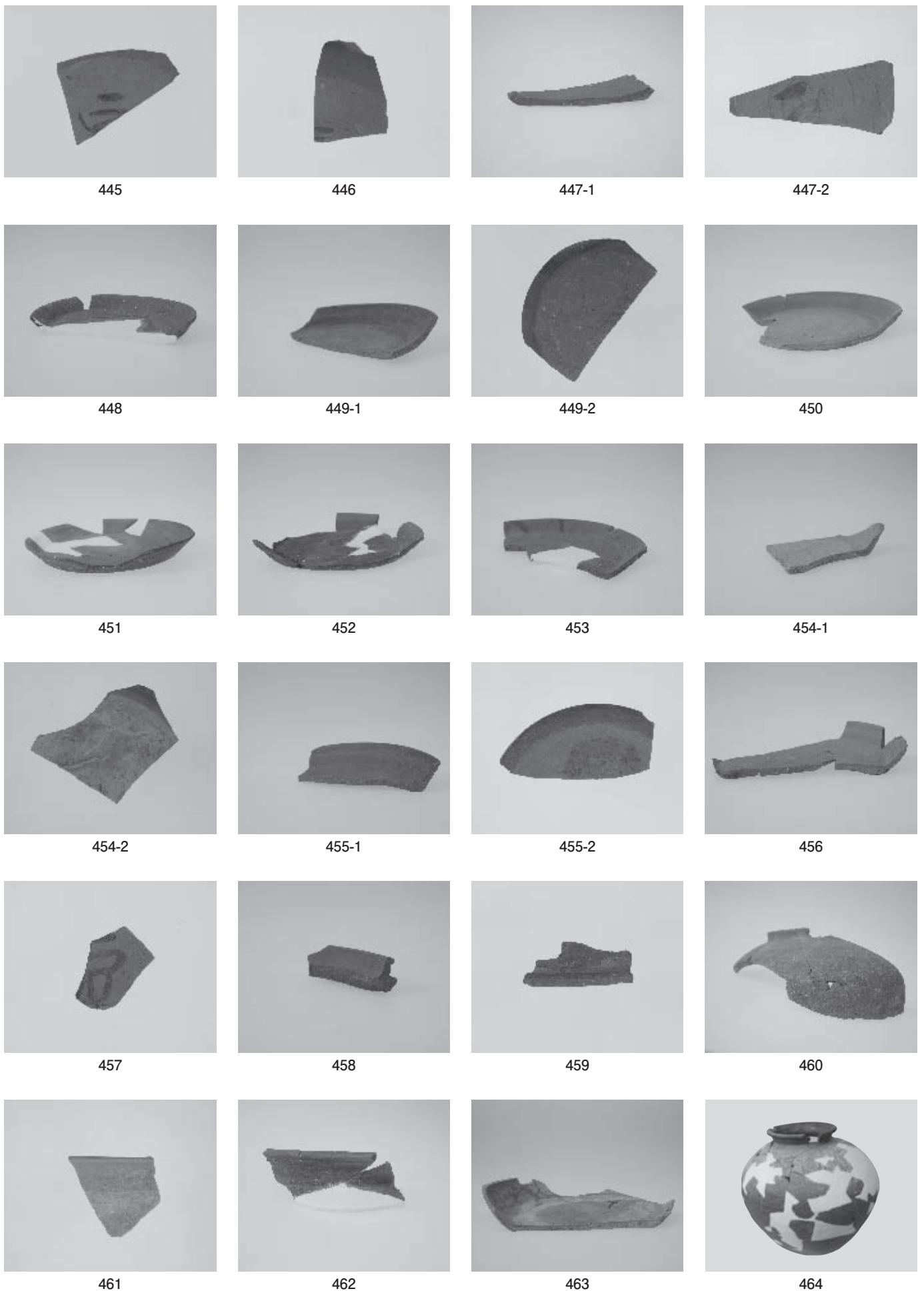
443



444

出土遺物（縮尺不同）

PL. 44



出土遺物（縮尺不同）



465



466



467



468



469-1



469-2



470



471



472



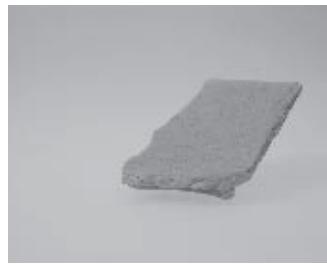
473



474



475



476



477



478



479



480



481



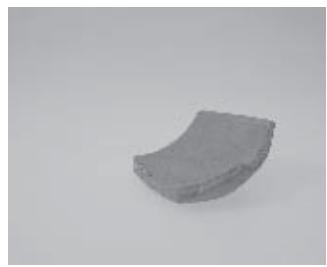
482



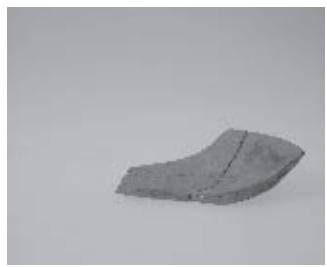
483



484



485



486



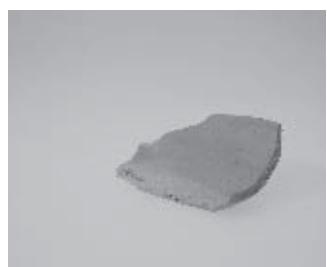
487

出土遺物（縮尺不同）

PL. 46



488



489



490



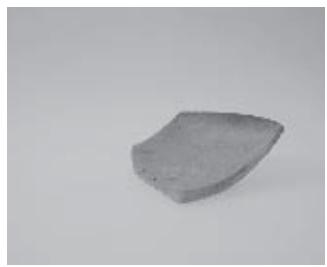
491



492



493



494



495



496



497



498



499



500



501



502



503



504



505



506



507



508



509



510



511

出土遺物 (縮尺不同)



512



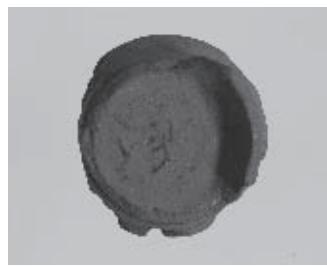
513



514



515-1



515-2



516



517



518



519



520



521



522



523



524



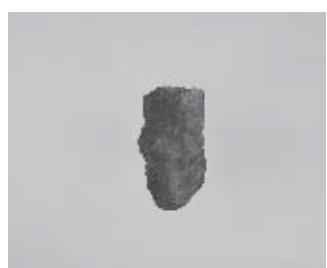
525



526



527



528



529



530



531



532



533



534

出土遺物（縮尺不同）

PL. 48



535



536



537



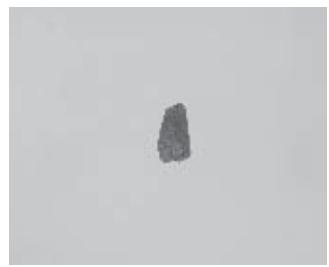
538



539



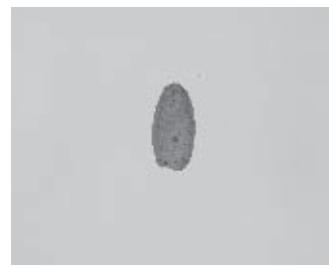
540



541



542



543



544



545



546



547



548



549



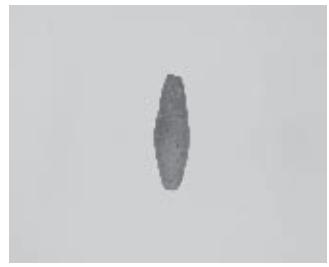
550



551-1



551-2



552



553



554



555

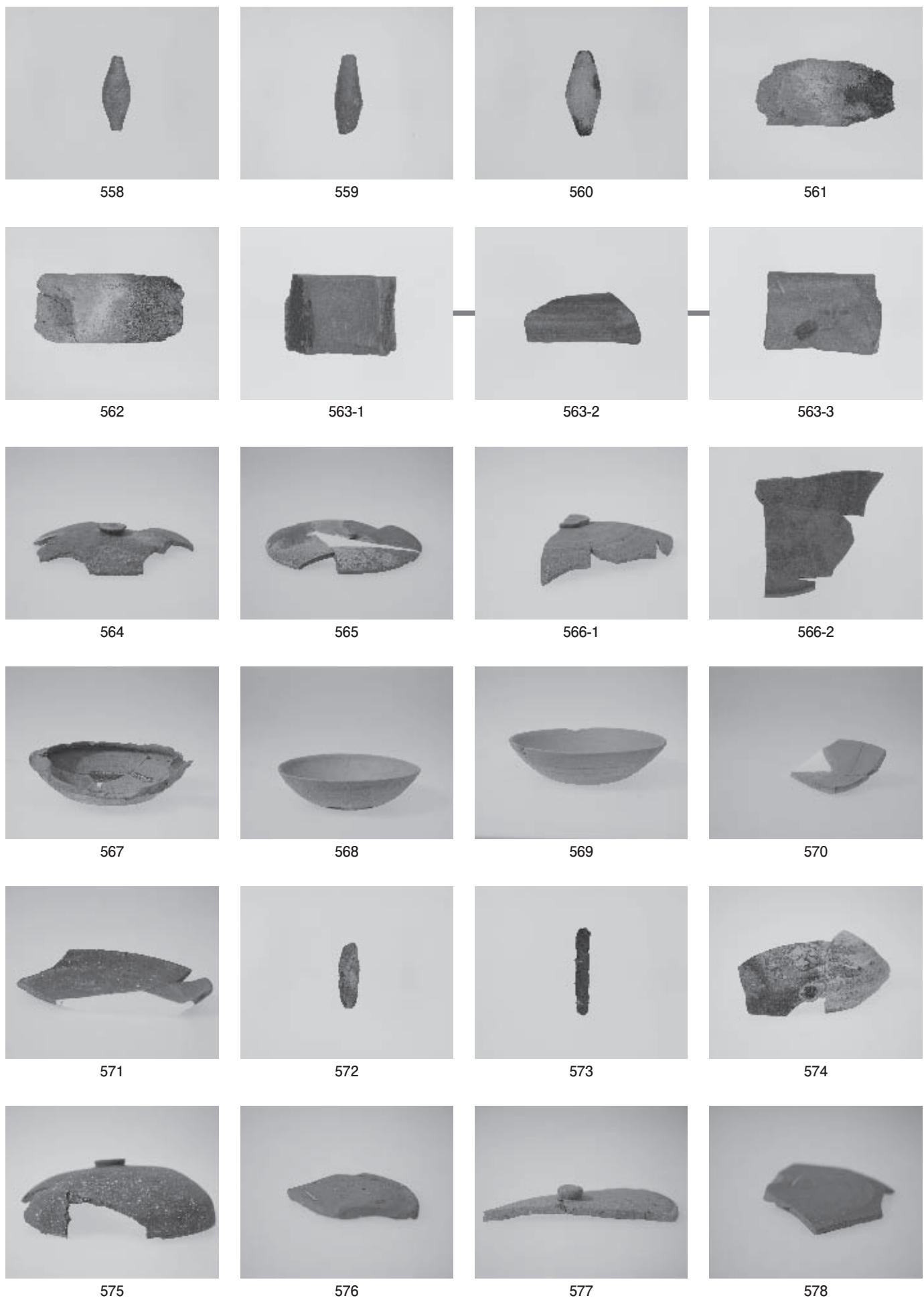


556



557

出土遺物 (縮尺不同)



出土遺物（縮尺不同）

PL. 50



579



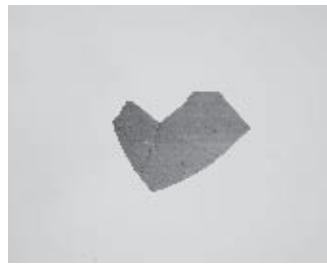
580



581



582



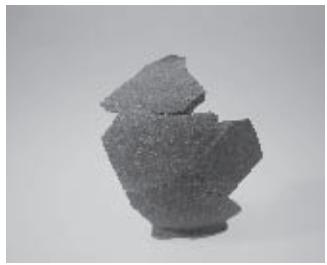
583



584



585



586



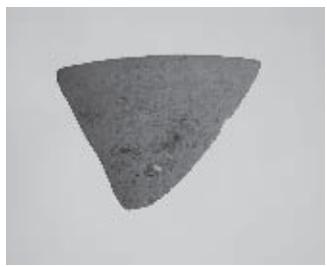
587



588



589



590



591



592



593



594



595



596



597



598



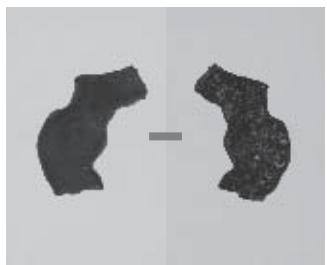
599



600



601



602

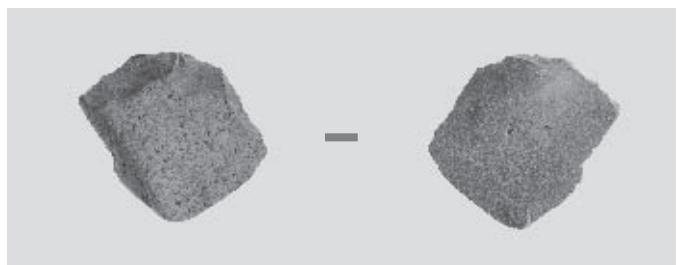
出土遺物 (縮尺不同)



1-001



1-002



1-003



2-001



2-002



2-003



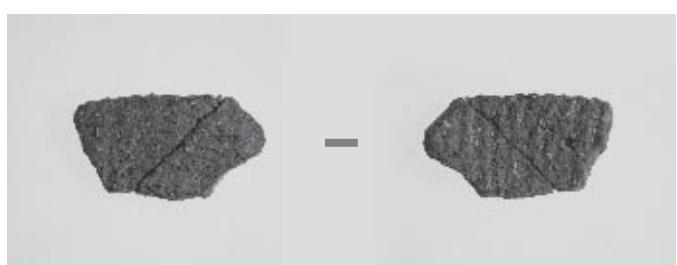
2-004



2-005



2-006



2-007



2-008



2-009



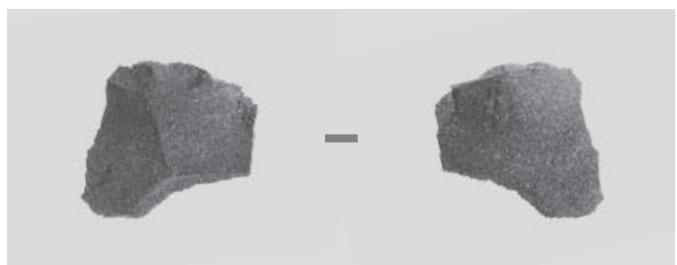
2-011



2-010



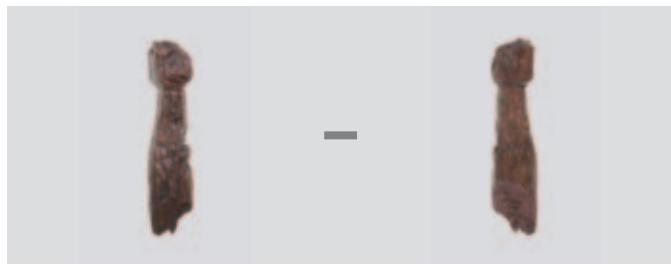
2-012



2-013

出土遺物 (縮尺不同)

PL. 52



W010



W011



W012



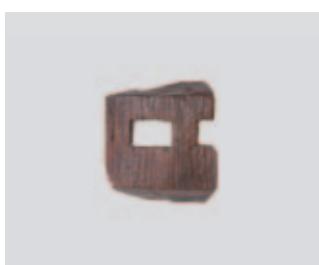
W013



W015



W014



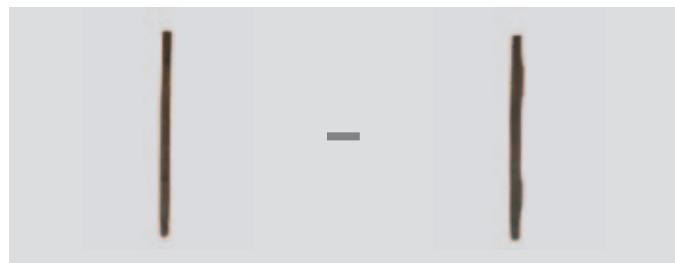
W017



W016



W018



W019

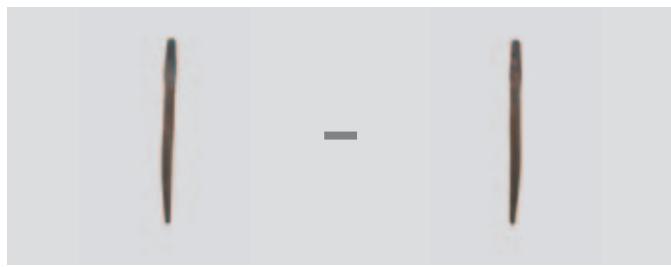
出土遺物 (縮尺不同)



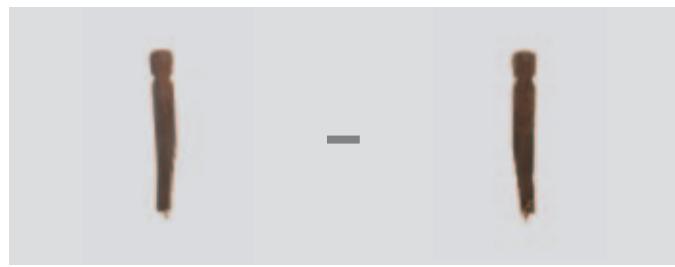
W020



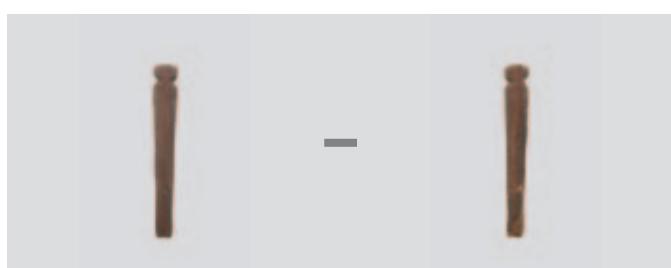
W021



W022



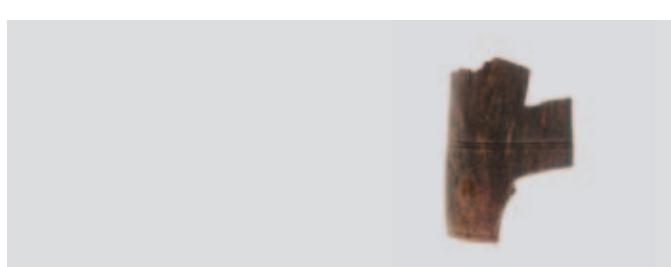
W023



W024



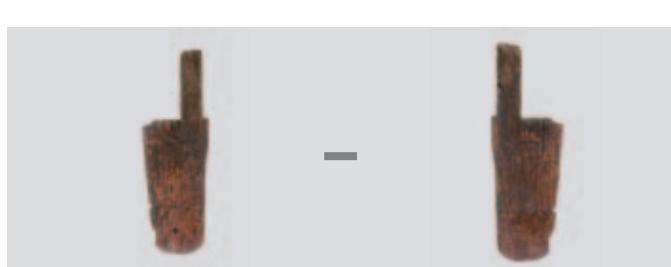
W025



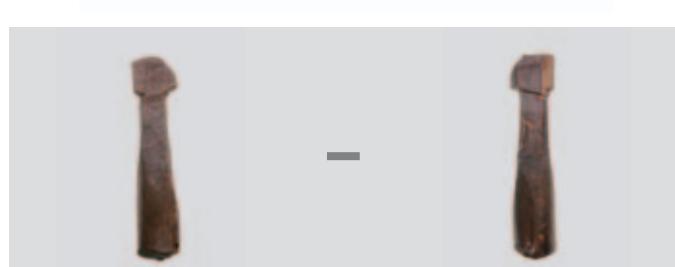
W026



W027



W028



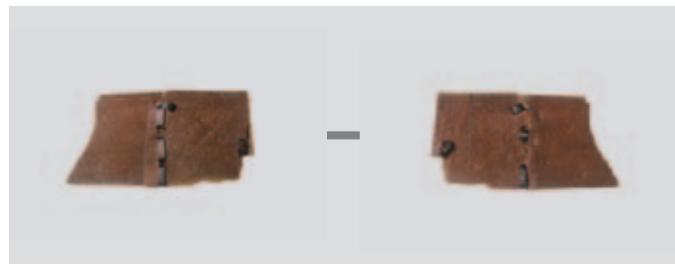
W029

出土遺物 (縮尺不同)

PL. 54



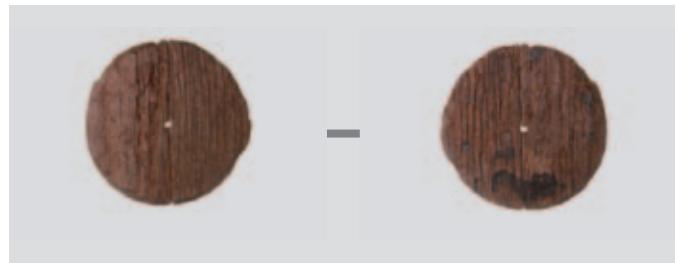
W030



W031



W032



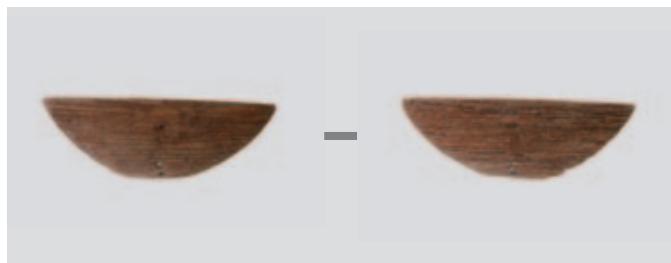
W033



W034



W035



W036



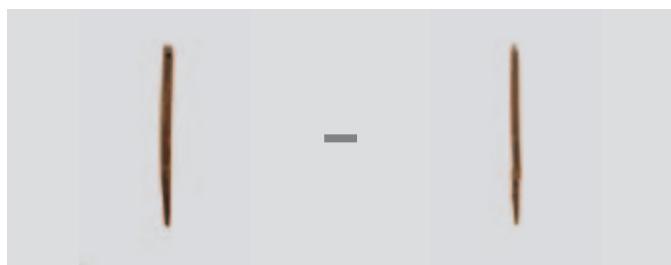
W037



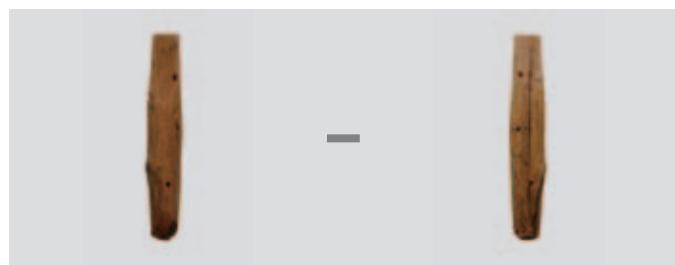
W038



W039



W040

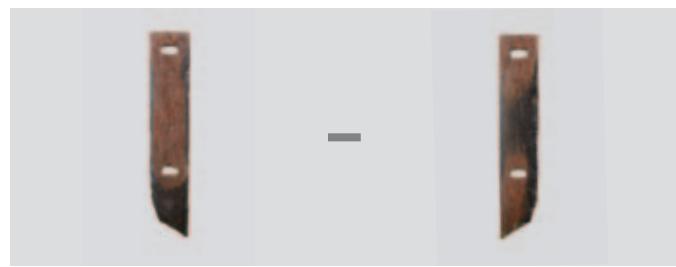


W041

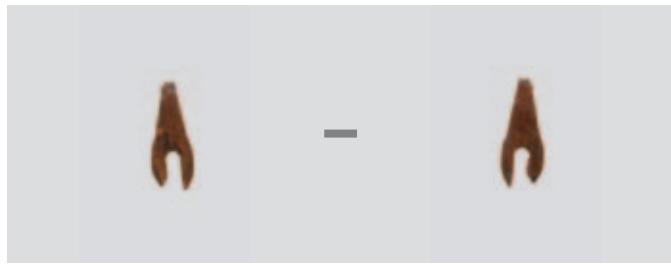
出土遺物 (縮尺不同)



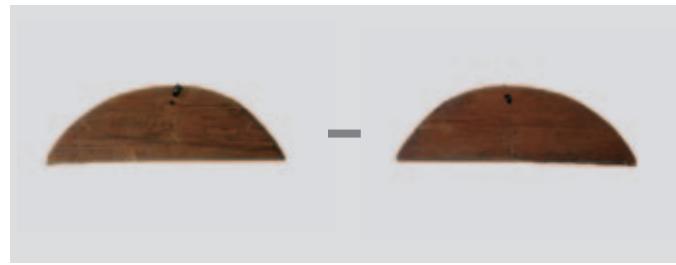
W042



W043



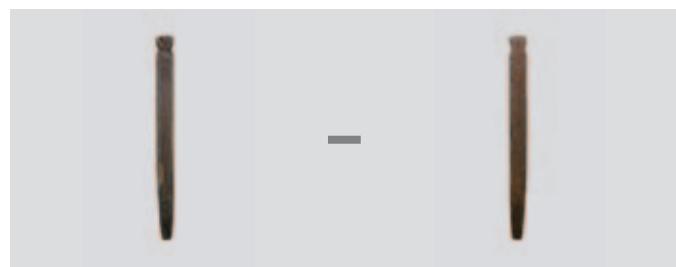
W044



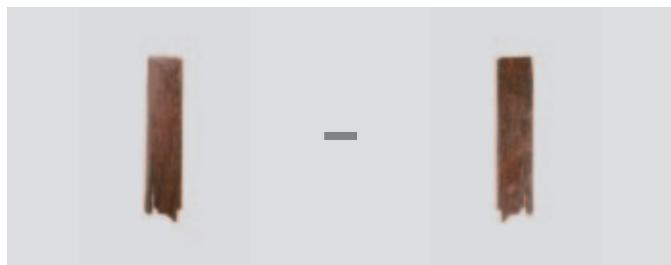
W045



W046



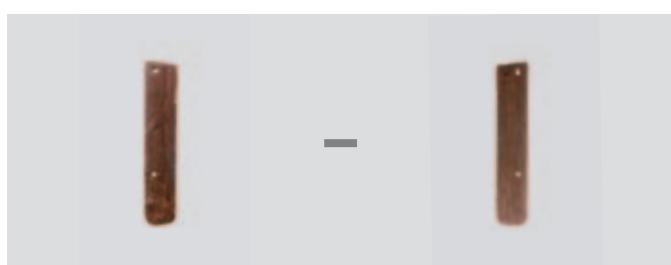
W047



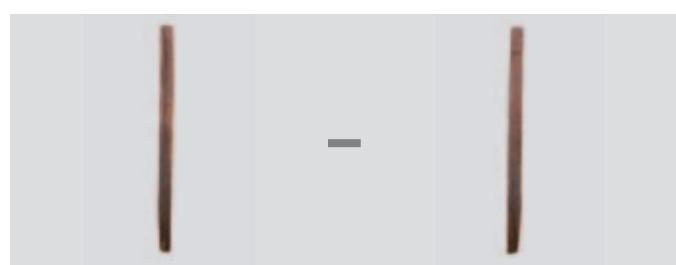
W048



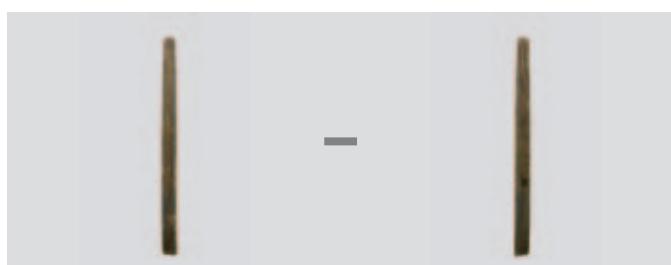
W049



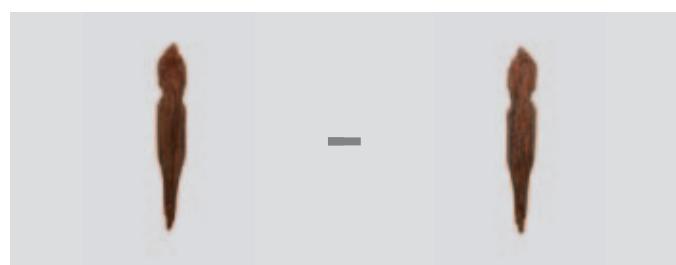
W050



W051



W052



W053

出土遺物 (縮尺不同)

PL. 56



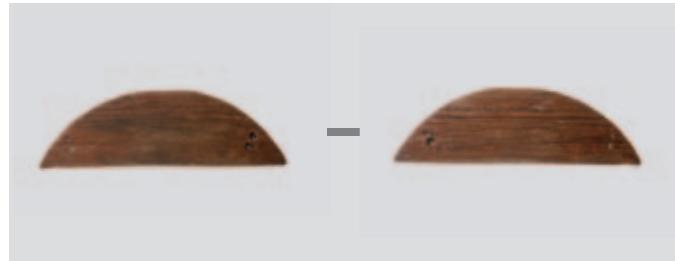
W054



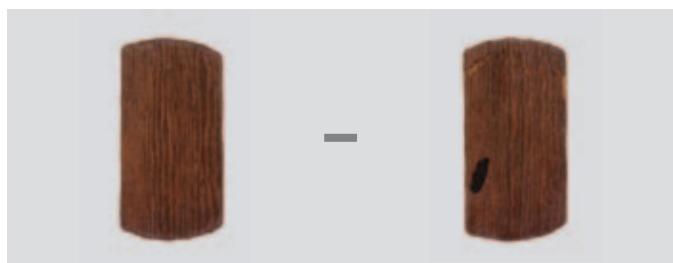
W055



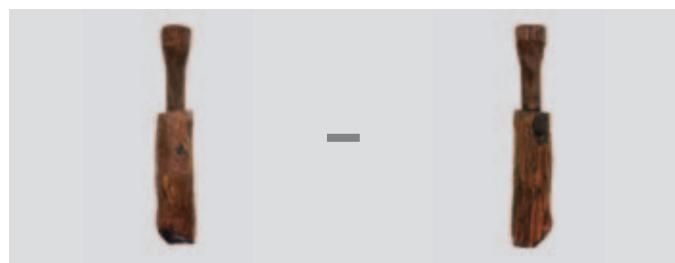
W056



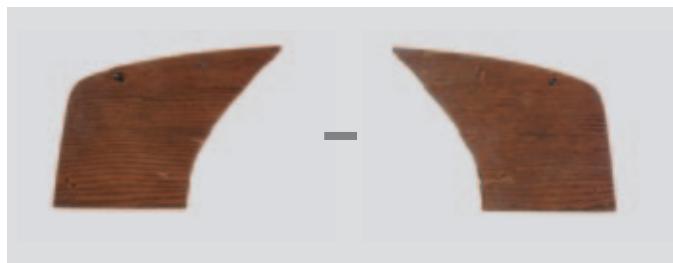
W057



W058



W059



W060



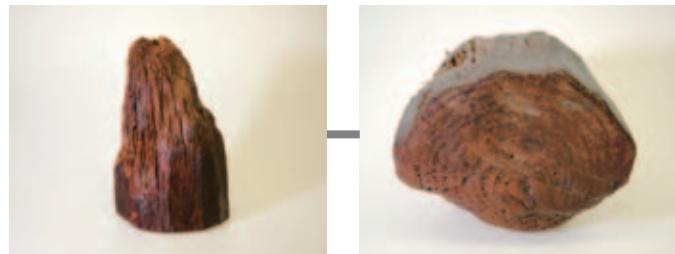
W061



W063



W062



W064

出土遺物 (縮尺不同)

－ 報告書抄録 －

書名 金武青木
ふりがな かなたけあおき
副書名 ー金武西地区基盤整備促進事業関係調査報告ー¹
卷次
シリーズ名 福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号 第1146集
編著者名 加藤隆也
編集機関 福岡市教育委員会
発行機関 福岡市教育委員会
発行年月日 2012年3月16日
作成法人ID 40135
郵便番号 810-8621
所在地 福岡市中央区天神1-8-1
遺跡名 金武青木A遺跡 金武青木B遺跡
ふりがな かなたけあおきAいせき かなたけあおきBいせき
遺跡所在地 福岡市西区金武地内
市町村コード 40130 遺跡番号 0688
北緯 33° 31' 16"
東経 130° 18' 39"
調査期間 20090601～20100716
調査面積 6,340 m²
発掘原因 記録保存調査
種別 官衙関連施設
主な時代 古墳時代後期～平安時代
遺跡概要 竪穴住居1、掘立柱建物10、土坑2、
特記事項 谷内から墨書き、線刻を有する土器と共に、木簡が出土



工事終了後風景

表紙 写真：調査区遠景（北東から）

裏表紙写真：調査地と博多湾を望む（南西から）

図版表紙：事業対象地全景

平成 21 年 8 月 8 日撮影

金武青木

－ 金武西地区基盤整備促進事業関係調査報告 －

金武青木 A 遺跡 第 1 次調査

金武青木 B 遺跡 第 1 ・ 2 次調査

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第 1146 集

2012 (平成 24) 年 3 月 16 日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神 1 丁目 8-1

印刷 大野印刷株式会社

福岡市博多区榎田 2-2-65

福岡市

Kanatake Aoki

Results of the 1st excavation of Kanatake Aoki A sites

Results of the 1st and 2nd excavation of Kanatake Aoki B sites

Report of Archaeological Investigations of Fukuoka city, Vol.1146

2012

FUKUOKA CITY BOARD OF EDUCATION

JAPAN